

1(1) 日本列島及び周辺域の長期広域地殻活動(松澤委員)

…査読無しと判断した論文
 …同一項目内の重複、レビュー対象期間外の論文など削除が妥当と思われる論文
 …査読の有り・無しの判断が難しいもの

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	2番目に関連の深い建議の項目	3番目に関連の深い建議の項目	主要成果の場合、*印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ghimire, S., K. Katsumata, and M. Kasahara	2005	Temporal changes in state of stress in the Tokachi-Oki area after the 2003 Tokachi-Oki earthquake	Earth Planets Space	57	88-91	○	1(1)ア					北海道大学
Katsumata, K., M. Kasahara, M. Ichianagi, M. Kikuchi, R. Sen, C. Kim, A. Ivashchenko and R. Tatevossian	2004	The 27 May 1995 Ms7.6 northern Sakhalin earthquake: an earthquake on an uncertain plate boundary	Bull. Seism. Soc. Am	94	117-130	○	1(1)ア					北海道大学
Katsumata, K., N. Wada, and M. Kasahara	2003	Newly imaged shape of the deep seismic zone within the subducting Pacific plate beneath the Hokkaido corner, Japan-Kurile arc-arc junction	J. Geophys. Res	108	doi:10.1029/2002JB002175	○	1(1)ア	1(1)ウ			1999～2001年に実施した北海道日高衝突帯での臨時地震観測により、太平洋プレートの沈み込みに伴う深発地震面の形状がより鮮明になった。東北日本弧側では沈み込み角度が20～30度であるが、東経143～144度付近を境にして10から20度傾斜が急になり、千島弧側では角度が40～50度になっている。この角度が急変する領域では太平洋プレート内部を断ち切るような震源メカニズム解を持つ地震が多数発生していることが明らかとなった。	北海道大学
勝俣啓・和田直人・笠原稔・他61名	2002	大学合同臨時地震観測によって決定された島弧-島弧型日高衝突帯付近の震源分布と震源メカニズム解	地震研究所彙報	77	199-223	○	1(1)ア					北海道大学
Beavan, J., P. Tregoning, M. Bevis, T. Kato, and C. Meertens	2002	Motion and rigidity of the Pacific plate and implications for plate boundary deformation	J. Geophys. Res.	107	2261, doi:10.1029/2001JB000282	○	1(1)ア					東京大学地震研究所
Iwakuni, M.	2004	Tectonics in east Asia as seen from GPS data	D.Sc. Dissertation		1-73		1(1)ア			*	東アジアの多くのGPS結果を統合して同地域の地殻変動場を明らかにすると共に、そのテクトニクス解明のため剛体ブロック-断層固着-ブロック内変形モデルを適用した。また、アムールプレートの独立性について統計的検定を行った。	東京大学地震研究所
Iwakuni, M., T. Kato, H. Takiguchi, T. Nakaegawa, and M. Satomura	2004	Crustal deformation in Thailand and tectonics of Indochina peninsula as seen from GPS observations	Geophys. Res. Lett	31	L11612, doi:10.1029/2004GL020347	○	1(1)ア					東京大学地震研究所
Kato, T.	2003	Tectonics of the eastern Asia and the western Pacific as seen by GPS observations	Geosci. J.		71-8	○	1(1)ア					東京大学地震研究所
Kato, T., J. Beavan, T. Matsushima, Y. Kotake, J. T. Camacho, and S. Nakao	2003	Geodetic evidence of back-arc spreading in the Mariana Trough	Geophys. Res. Lett.	30	1625, doi:10.1029/2002GL016757	○	1(1)ア					東京大学地震研究所
Takahashi H., M. Kasahara, F. Kimata, S. Miura, T. Seno, T. Kato, K. Heki, N. Vasilenko, A. Ivashchenko, V. Levin, V. Batiarov, E. Gordeev, F. Korchagin and M. Gerasimenko	1999	Velocity field of around the Sea of Okhotsk and Sea of Japan Regions determined from a continuous GPS network data	Geophys. Res. Lett	26	2533-2537	○	1(1)ア					東京大学地震研究所
加藤照之	1999	WINGの現状と今後の展開	月刊地球	号外25	132-135		1(1)ア					東京大学地震研究所
加藤照之・小竹美子	2003	西太平洋地域の地殻変動-プレート運動と背弧拡大-	月刊地球	25	31-35		1(1)ア					東京大学地震研究所
小竹美子・加藤照之・中尾茂・松島健	2003	西太平洋～東アジアのGPS連続観測点座標の時系列(1995年7月16日-2000年12月31日)	地震研究所彙報	78	19-56		1(1)ア					東京大学地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
田部井隆雄・木股文昭・大倉敬宏・加藤照之・小竹美子	2001	GPS観測から見たフィリピン-インドネシア東部の地殻変動	月刊地球	23	70-75		1(1) ア					東京大学 地震研 究所
伊藤武男, 橋本学	2003	日本列島の移動性地殻変動	月刊地球	25-2	114-118		1(1) ア					名古屋大 学
Kato, T., J. Beavan, T. Matsushima, Y. Kotake, J. T. Camacho and S. Nakao	2003	Geodetic evidence of back-arc spreading in the Mariana Trough	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2002GL016757	○	1(1) ア					鹿児島大 学
Hiroshi Mune Kane and Y. Fukuzaki	2005	A plate motion model around Japan	国土地理院報告	53	35-39		1(1)ア					国土地理 院
Mikio Tobita, H. Suito, T. Imakiire, M. Kato, S. Fujiwara and M. Murakami	2006	Outline of vertical displacement of the 2004 and 2005 Sumatra earthquakes revealed by satellite radar imagery (衛星レーダー画像解析による2004年・2005年スマトラ地震に伴う隆起・沈降)	Earth, Planets and Space	58-1	e1-e4	○	1(1)ア	1(2)ア	3(4)			国土地理 院
熊木洋太	2005	スマトラ沖大地震及びインド洋津波被害政府調査団員としての調査	国土地理院時報	109	15-20		1(1)ア	1(2)ア				国土地理 院
佐藤秀幸・湯通堂享・門脇俊弘・石原操・藤原智	2002	広帯域MT連続観測システムを用いた地殻比抵抗モニタリング	国土地理院時報	101	23, 32		1(1) ア	3(3)				国土地理 院
村上亮・小沢慎三郎	2004	GPS連続観測による日本列島上下地殻変動とその意義	地震	57	209-231	○	1(1)ア	1(1)イ	2(2)ア	*	GPSは1990年代から固定点観測が開始され、近年では水平変動のみならず上下変動の精度も向上している。本論では国土地理院のGPS連続観測結果を用いて上下変動速度を解析し、その信頼度を評価した。また、GPSと水準測量結果等との詳細な比較を試みている。その結果に基づき、西南日本と東北日本のカップリングの深さの差異を指摘し、それぞれに沈み込むフィリピン海プレートと太平洋プレートの古さや温度との関連性の可能性を指摘した。また特に北海道東部について千島スリパー仮説により地殻変動が説明できることを示した。	国土地理 院
飛田幹男・今給黎哲郎・水藤尚・加藤敏・林文・村上亮・藤原智	2005	衛星SAR画像分析による2004・2005年スマトラ沖地震に伴う隆起沈降域の把握	国土地理院時報	109	21-32		1(1)ア	1(2)ア	3(4)			国土地理 院
久保良雄 他	2002	新・測地系変換ソフトウェアMGC2000A	海洋情報部技報	20	58-70		1(1) ア					海上保安 庁
佐藤まりこ 他	2004	SLR観測により求めた島嶼等の水平運動	海洋情報部研究報告	40	73-84	○	1(1) ア			*	下里水路観測所及び離島等において、人工衛星レーザ測距観測を行った。その結果、離島等の正確な位置を決定するなど世界測地系への移行に大きく貢献した。また、1996年以降は、異なるプレート上に位置する父島、石垣島、稚内、対馬においてキャンペーン観測を行い、各観測点の水平運動とGPSやVLBIといった他の観測技術により求めた水平運動が調和的であることを示した。	海上保安 庁
松下優 他	2005	SLRデータ解析におけるモデルの更新とその評価	海洋情報部技報	23	73-77		1(1) ア					海上保安 庁
村井芳夫・秋山 諭・山品匡史・桑野亜佐子	2005	海底地震計と制御震源を用いた散乱体分布の推定	北海道大学地球物理学研究報告	68	219-231		1(1) イ	1(1) ア				北海道大 学
Nakajima, J., and A. Hasegawa	2006	Anomalous low-velocity zone and linear alignment of seismicity along it in the subducted Pacific slab beneath Kanto, Japan: Reactivation of subducted fracture zone?	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026773	○	1(1) イ	1(2) イ				東北大学
Okada T., and A. Hasegawa	2003	The M7.1 May 26, 2003 off-shore Miyagi Prefecture Earthquake in northeast Japan: Source process and aftershock distribution of an intra-slab	Earth, Planet. Space	55	731-739	○	1(1) イ	1(3) ア	1(2) ア	*	2003年宮城県沖地震の本震・余震および地震発生前の地震(背景の地震)について、均質観測点法にて震源再決定を行った。また、地震波形インヴァージョンにより、地震時すべり量分布を求めた。破壊域の広がりはスラブ地殻のみならずスラブマントルまで達していること、2003年宮城県沖地震は、背景の地震が活発な領域で発生したことがわかった。	東北大学
菅ノ又淳一, 岡田知己, 長谷川昭, Hagiang Zhang, Clifford Thurber	in press	2001年芸予地震(M6.7)震源域およびその周辺における三次元地震波速度構造	地震, 第2輯			○	1(1) イ	1(2) ア		*	2001年芸予地震の震源域およびその周辺について、ダブルディファレンストモグラフィ法にて詳細な余震分布・3次元地震波速度構造を求めた。2001年芸予地震の震源域がスラブマントルまで及んでいること、2001年芸予地震の震源周辺では周囲に比べ低速度域が分布していることが分かった。また地震時すべり域は高速度域におよそ対応していることが分かった。	東北大学
菅ノ又淳一, 岡田知己, 迫田浩司, 長谷川昭, Stephen H.Kirby	2006	Double-difference location 法による東北日本弧下の稍深発地震の震源再決定	地震, 第2輯	59	1-18	○	1(1) イ	1(2) ア				東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
迫田浩司, 岡田知己, 菅ノ又淳一, 長谷川昭	2004	2003年5月26日宮城県沖地震(M7.1)と二重深発地震面上面の地震活動—スラブ内大地震震源域における地震活動の特徴抽出—	地震, 第2輯	57	187-198	○	1(1) イ	1(2) ア				東北大学
北佐枝子, 岡田知己, 中島淳一, 松澤暢, 菅ノ又淳一, 長谷川昭, S.H. Kirby	2006	DD法により推定された北海道下スラブ内地震にみられる特異的活動	月刊地球	28	487-494		1(1) イ	1(2) ア				東北大学
Iinuma, T.	2005	Application of the inversion methods of stress and constitutive relation to the Japanese Islands	D.Sc. Dissertation		1-119		1(1) イ	2(1)ウ				東京大学 地震研 究所
Iinuma, T., T. Kato and M. Hori	2005	Inversion of GPS velocity and seismicity data to yield changes in stress in the Japanese Islands	Geophys. J. Int.	160	417-434	○	1(1)イ	2(1)ウ	*	GPS変位速度ベクトル場から、地殻応力を推定する手法を開発し、GEONETデータに適用した。この際、構成関係を推定することが重要であることから、GPSデータから地殻のボアソン比を推定する手法も開発した。		東京大学 地震研 究所
Sun, W. and S. Okubo	2006	Determining Dislocation Love Numbers Using Satellite Gravity Mission Observations	Earth Planets Space	58	497-503	○	1(1)イ	3(4)				東京大学 地震研 究所
Tabei, T., M. Hashimoto, S. Miyazaki, K. Hirahara, F. Kimata, T. Matsushima, T. Tanaka, Y. Eguchi, T. Takaya, Y. Hoso, F. Ohya, and T. Kato	2002	Substructure and faulting of the Median Tectonic Line, southwest Japan inferred from GPS velocity field	Earth Planets Space	54	1065-1070	○	1(1) イ					東京大学 地震研 究所
矢沼 隆・都司嘉宣	in press	駿潮記録を用いた1938年11月5日福島県東方沖地震の断層モデル決定	地震	2	DOI	○	1(1)イ	2(3)ア				東京大学 地震研 究所
鷺谷威	2004	測地学的歪み速度と地質学的歪み速度の矛盾は解消可能か？	月刊地球号外	46	183-189		1(1) イ					名古屋大 学
鷺谷威・井上政明	2003	測地測量データで見る中部日本の地殻変動	月刊地球	25	918-928		1(1) イ					名古屋大 学
Aizawa, K., R. Yoshimura, and N. Oshiman	2004	Splitting of the Philippine Sea Plate and a magma chamber beneath Mt. Fuji	Geophys. Res. Lett.	31	doi:10.1029/2004GL019477	○	1(1) イ	1(2) イ	*	富士山を含めた北東-南西方向の長さ70kmの測線に沿った23観測点で広帯域MT観測を実施し50kmまでの深さの比抵抗構造を推定した。比抵抗構造ではフィリピン海プレートが高比抵抗体として検出され、その上面付近で地震が発生している様子が明らかになった。比抵抗構造としてみたプレート構造で重要な点はほぼ富士山の直下で非対称に沈み込むプレートが裂けた構造をしていると推定される点である。		京大防災 研
Iio, Y., T. Sagiya, Y. Kobayashi	2004	Origin of the concentrated deformation zone in the Japanese Islands and stress accumulation process of intraplate earthquakes	Earth Planets and Space	56	831-842	○	1(1) イ	1(2) イ	*	大規模歪集中帯の変形過程のモデル化を行った。観測されている不均質な歪速度場は、歪集中帯直下の下部地殻における、周囲に比べて強度が弱く変形しやすい領域(Weak zone)の存在を反映していると考えられる。大きな歪速度は、大地震が起こる地域では下部地殻における余効変動により、大地震の無い領域では、下部地殻に加えて上部地殻においても非弾性変形が進行していることによると考えられる。		京大防災 研
K. Yamazaki and N. Oshiman, A method for representing geomagnetic total force field in a small region with special attention to discontinuities of data.	2006, in press	A method for representing geomagnetic total force field in a small region with special attention to discontinuities of data	Earth, Planets and Space			○	1(1) イ					京大防災 研
Kasaya, T. and N. Oshiman	2004	Lateral inhomogeneity deduced from 3-D magnetotelluric modeling around the hypocentral area of the 1984 Western Nagano Prefecture earthquake, central Japan	Earth, Planets and Space	56	547-552	○	1(1) イ	1(2) イ	*	1984年長野県西部地震の震源域で実施された広帯域MT観測のデータに基づき深さ10kmまでの3次元比抵抗構造を推定した。この構造を震源分布と比較し震源域周辺の比抵抗構造の不均質性との相関を調べた。震源分布の中に非常に低比抵抗を示す一辺が約4kmの四角形領域が存在し、この領域は地震学的に推定された水の飽和度の高い領域とほぼ一致していることがわかった。最近の地震活動はこの領域を取り囲むように発生していることもわかり、地震発生と水とのかわりが深いことを示した。		京大防災 研
Nakamura, M., and H. Kato	2003	Microearthquakes and faulting in the southern Okinawa trough	Tectonophysics	372	167-177	○	1(1) イ					京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の 有無	最も関連の 深い 建議の項目	2番目に 関連の 深い 建議の項目	3番目に 関連の 深い 建議の項目	主要成果 の場合、* 印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Nakamura,M., Y.Yoshida, D.Zhao, H.Katao, and S.Nishimura	2003	Three-dimensional P- and S-wave velocity structures beneath the Ryukyu arc	Tectonophysics	369	121-143	○	1(1) イ					京大防災研
Nishimura, S., and M.Hashimoto	2004	A simultaneous estimation of rigid block rotations and slip deficit rates from the GPS-derived velocity field in and around the Kinki district	International Workshop Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas Program and Abstracts		113-116		1(1) イ					京大防災研
Nishimura, S., and M.Hashimoto	2006(in press)	A Model with Rigid Rotations and Slip Deficits for the GPS-Derived Velocity Field in Southwest Japan	Tectonophysics			○	1(1) イ					京大防災研
Nishimura, S., M.Hashimoto, and M. Ando	2004	A rigid block rotation model for the GPS derived velocity field along the Ryukyu arc	Phys. Earth Planet. Inter.	142	185-203	○	1(1) イ					京大防災研
Segawa, K., M.Hashimoto, and T.Kobayashi	2004	GPS velocity field and tectonics from the Ryukyu arc to Taiwan	APRU/AEARU Resaerch Symposium Earthquake Hazards around the Pacific Rim - Prediction and Disaster Prevention -		98		1(1) イ					京大防災研
Tabei, T., M.Hashimoto, S.Miyazaki, and Y.Ohta	2003	Present-day deformation across the southwest Japan arc: oblique subduction of the Philippine Sea plate and lateral slip of the Nankai forearc	Earth, Planet. Space	55	643-647	○	1(1) イ	1(2) ア				京大防災研
Yoshimura, R. and N. Oshiman	2002	Edge-based finite element approach to the simulation of geoelectromagnetic induction in a 3-D sphere	Geophys. Res. Lett.	29, No.3	9-1-9-4	○	1(1) イ					京大防災研
渋谷拓郎・前田好晃	2002	2000年鳥取県西部地震の震源域を含むやや広域の3次元地震波速度構造	月刊地球	号外38	203-208		1(1) イ					京大防災研
瀬川紘平	2006	琉球弧から台湾にかけてのGPS速度場とテクトニクス	京都大学大学院理学研究科修士学位論文				1(1) イ					京大防災研
西村宗	2003	Kinematic features of tectonics of southwest Japan and the Ryukyu arcs revealed from the GPS derived velocity field	京都大学大学院理学研究科修士学位論文				1(1) イ					京大防災研
行竹洋平	2005	Spatial change in the stress field around large earthquake faults	京都大学大学院理学研究科修士学位論文				1(1) イ	1(2) イ				京大防災研
山崎健一	2006	Study on methods for regional geomagnetic field modeling to detect tectonomagnetic signals	京都大学大学院理学研究科修士学位論文				1(1) イ					京大防災研
相澤広記	2004	Structure beneath Mt. Fuji imaged by Electric Self-potential and Magnetotellurics and Its Implications for Fluids in the Volcano	京都大学大学院理学研究科修士学位論文				1(1) イ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
飯尾能久	2005	内陸地震は応力の大きなところで起こるのか？	月刊地球	27	537-541		1(1) イ	1(2) イ				京大防災研
飯尾能久	2004	地殻応力測定の意義	月刊地球	26	2-12		1(1) イ	1(2) イ				京大防災研
飯尾能久・笠原 稔・加藤照之・平田直・宮崎真一	2003	日本列島及び周辺域の長期広域地殻活動	月刊地球	25	743-748		1(1) イ	1(2) イ				京大防災研
飯尾能久・小林洋二	2003	内陸大地震の発生の仕組み	科学	73	1012-1019		1(1) イ	1(2) イ				京大防災研
飯尾能久・小林洋二	2004	内陸地震発生の仕組み-応力蓄積過程を中心に-	月刊地球	号外 46	31-51		1(1) イ	1(2) イ				京大防災研
Iio, Y. et al	2002	Water-weakened lower crust and its role in the concentrated deformation in the Japanese Islands	Earth and Planetary Science Letters	203	245-253	○	1(1)イ	1(2)イ		※	日本海沿岸部に沿う歪み集中帯(NKTZ: Niigata-Kobe tectonic zone)の特質と起源を、注意深くGPSデータを解析し、NKTZの下部地殻の定性的なモデリングにより調べた。その結果、この集中帯はアムールプレートと北米プレートのプレート境界というよりむしろ、アムールプレートの東縁近くの内部変動帯であると結論づけた。鳥取大学は、主に中国、四国地方と他地域の比抵抗構造との差異およびそれをもたらした背景についての議論に参加した。	鳥取大学
Uyeshima, M. et al	2002	Network-MT survey in Japan to determine nation-wide deep electrical conductivity structure	In Seismotectonics at the Convergent (Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida), Terra Science Publishing Company, Tokyo		107-121	○	1(1)イ	1(2)イ				鳥取大学
山口覚 他	2003	紀伊半島地域におけるネットワークMT観測	Conductivity Anomaly2003年論文集		57-65		1(1)イ	1(2)イ				鳥取大学
蔵下英次・徳永雅子・平田直・岩崎貴哉・小平秀一・金田義行・伊藤潔・西田良平・木村昌三・井川猛	2002	四国東部地域における地殻及び最上部マントルの地震波速度構造と沈み込むフィリピン海プレートの形状	地震、第2輯	54	489-505	○	1(1)イ					高知大学
M. Nakada, M. Tahara, H. Shimizu, S. Nagaoka, K. Uehira and S. Suzuki	2002	Late Pleistocene crustal uplift and gravity anomaly in eastern part of Kyushu, Japan, and its geophysical implications	Tectonophisics	351	263-283	○	1(1) イ	1(2) ア				九州大学
安藤 誠・森谷武男・岩崎貴哉・武田哲也・朴 成実・酒井慎一・飯高 隆・久保篤規・宮町宏樹・田代勝也・松島 健・鈴木貞臣	2002	九州東部の人工地震から推定された地殻構造	地震研究所彙報	77	277-285		1(1) イ					九州大学
中東和夫・篠原雅尚・鈴木貞臣・竹中博士・亀 伸樹・植平賢司・塩原 肇・金沢敏彦・日野亮太・西野 実・佐藤 荘・米島慎二	2004	海底地震計を用いた九州西方沖・沖縄トラフにおける地殻・上部マントルの地震波速度構造調査	九州大学理学部研究報告	21	69-107		1(1) イ					九州大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kobayashi, R.	2002	Polarization anomalies of Love waves observed in and around Japan	Earth, Planet. Space	54	357-365	○	1(1) イ					鹿児島大学
Lin,C.H., M.Ando, N.Fujii,K.Yamaoka,K.Tadokoro,A.Jin,K.Obara, and M.Ishida	2003	Anomalous seismograms generated by an intermediate-depth earthquake: Unusual scattering sources in the upper mantle of central Japan	Geophys. Res. Lett.	30	401-404	○	1(1) イ					防災科研
Matsubara, M., Hayashi, H., Obara,K., and Kasahara, K.	2005	Low-velocity oceanic crust at the top the Philippine Sea and Pacific plates beneath Kanto region central Japan imaged by seismic tomography	J. Geophys. Res	110	doi:10.1029/2005JB003673	○	1(1) イ					防災科研
Matsubara, M., Hirata, N., and Sato, H.	2004	Lower crustal fluid distribution in the northeastern Japan arc revealed by high resolution 3D seismic tomography	Tectonophysics	388	33-45	○	1(1) イ					防災科研
Nakagawa, S., Hirata, N., and Sato, H.	2005	Imaging of the crust using aftershocks of the 2000 western Tottori prefecture earthquake	Geophys.Res.Lett	32	L10310	○	1(1) イ					防災科研
Okada, Y., Kasahara, K., Hori, S., Obara, K., Sekiguchi, S., Fujiwara, H., and Yamamoto, A.	2004	Recent progress of seismic observation networks in Japan-Hi-net,F-net,K-NET,and KiK-net.Earth Planets Space	Earth Planet Space	56	xv-xxviii	○	1(1) イ					防災科研
Saito, T., Sato, H., Ohtake, M., and Obara, K.	2005	Unified explanation of envelope broadening and maximum-amplitude of high-frequency seismograms based on the envelope simulation using the Markov approximation:Forearc side of the volcanic front in northeastern Honshu Japan	J.Geophys.Res	110	doi:10.1029/2004JB003225	○	1(1) イ					防災科研
Sato, H., Hirata, N., Iwasaki, T., Matsubara, M., and Ikawa, T.	2002	Deep seismic reflection profiling across the Ou Backbone range, northern Honshu Island, Japan	Tectonophysics	355	41-52	○	1(1) イ					防災科研
Sato, H., Hirata, N., Koketsu, K., Okaya, D., Abe, S., Kobayashi, R., Matsubara, T., Iwasaki, T., Ito, T., Ikawa, T., Kawanaka, T., Kasahara, K., and Harder, S.	2005	Earthquake source fault beneath Tokyo	Science	309	462-464	○	1(1) イ					防災科研
Shiomi, K., Sato, H., Obara, K., and Ohtake, M	2004	Configuration of subducting Philippine Sea plate beneath southwest Japan revealed from receiver function analysis based the multivariate autoregressive model	Journal of Geophysical Research-Solid Earth	109	B04308 doi:10.1029/2003JB002774	○	1(1) イ					防災科研
Shiomi,K., K.Obara and H.,Sato	2006	Moho Depth Variation beneath Southwestern Japan Revealed From the Velocity Structure Based on Receiver Function Inversion	Tectonophysics	420	205-221	○	1(1) イ					防災科研
Takahashi, T., Sato, H., Ohtake, M., and Obara, K.	2005	Scale dependence of apparent stress for earthquakes along the subducting Pacific plate in northeastern Honshu Japan	Bull. Seismol.Soc.Am	95	1334-1345	○	1(1) イ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Yoshimoto,K., H.Fujisawa, T.Okada,N.Umino, A.Hasegawa, K.Obara, K.Shiomi, H.Tsukahara, S.Okamoto, T.Kawanaka, H.Satoh, T.Nishimura, H.Sato, and M.Ohtake	2004	Moho and Philippine Sea plate structure beneath central Honshu island Japan, from teleseismic receiver functions	Earth, Planets and Space	56	1271-1277	○	1(1) イ					防災科研
Zhao,D, O.P.Mishra and R.Sanda,K.Obara,N.Umino,A.Hasegawa	2002	Seismological Evidence for the Influence of Fluids and Magma on Earthquakes	地震研究所業報	76	271-289		1(1) イ					防災科研
関根秀太郎・松原誠	2006	2004年新潟県中越地震広域的発生場における三次元 地震波速度・減衰構造	月刊地球	53	27-33		1(1) イ					防災科研
汐見勝彦・小原一成	2006	中越地方のモホ面深度と地震発生場	月刊地球	53	21-26		1(1) イ					防災科研
汐見勝彦・小原一成	2006	レシーバ関数から推定される新潟県中越地方の地下構 造の特徴	地震	58	345-357	○	1(1) イ					防災科研
小原一成	2003	高感度・高密度地震観測で明らかになる近地・遠地地 震波動伝播の特徴—防災科研Hi-netの果たす役割	月刊地球	290	587-593		1(1) イ					防災科研
小菅正裕・小原一成	2003	新・地震波形解剖学—序説—	月刊地球	290	575-577		1(1) イ					防災科研
松原誠・関根秀太郎・小原一成・笠原敬 司	2003	防災科研Hi-netのデータを用いた日本列島下の地殻・ 上部マントルの三次元P波・S波速度構造	月刊地球	290	583-586		1(1) イ					防災科研
清水淳平・中島淳一・長谷川昭・小原一 成	2006	北海道および東北日本沈み込み帯におけるS波偏向異 方性とマントルウェッジ内の二次対流	地震	58	153-164	○	1(1) イ					防災科研
斉藤竜彦・佐藤春夫・大竹正和・小原一 成	2003	東北地方前弧側における高周波数地震波の主要動継 続時間と最大振幅の距離依存性	月刊地球	290	616-621		1(1) イ					防災科研
趙大鵬・平田直・小原一成	2002	2001年芸予地震—フィリピン海スラブ脱水の影響—	月刊地球	38	247-252		1(1) イ					防災科研
Shinzaburo Ozawa, T. Nishimura, M. Kaizu, M. Murakami, T. Imakiire and S. Miyazaki (ERI)	2004	Creep, dike intrusion and magma chamber deflation model for the 2000 Miyake eruption and the Izu islands earthquakes.	Journal of Geophysical Research	109	B02410	○	1(1)イ	2(2)エ	1(2)ア			国土地理 院
今給黎哲郎・小沢慎三郎・矢来博司・西 村卓也・水藤尚	2006(in press)	2004年9月5日の紀伊半島南東沖地震に関連した地殻 変動について	地震	(in press)	(in press)	○	1(1)イ	2(2)ウ	1(2)ア			国土地理 院
鷺谷 威	2003	1918年大町地震の震源断層モデル—水準測量データの 再検討と関連データの総合的解釈に基づく新たなモデ ル—	地震	56	199-211	○	1(1)イ	1(2)イ				国土地理 院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 建 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
西村 卓也・鷺谷 威(名古屋大大学院)・ 三浦 哲(東北大大学院)	2004	GPS連続観測による長町-利府断層帯の地殻変動	月刊地球	号外 50	75-82		1(1)イ	1(2)イ				国土地理 院
西村 卓也・鷺谷 威(名古屋大大学院)・ 三浦 哲(東北大大学院)	2003	GPS連続観測による長町-利府断層帯およびその周辺 (東北地方中部)の地殻変動	地震	56	497-510	○	1(1)イ	1(2)イ	1(2)イ			国土地理 院
海上保安庁海洋情報部	2004	宮城沖の断層分布	地震予知連絡会 会報	71	332-338		1(1) イ			*	プレート境界域の海底変動地形と地殻構造を明らかにするため宮城沖でマルチビーム測 深及びシングルチャンネル反射法探査を行った。大陸斜面上に堆積盆があり、深海平坦 面を形成している。陸側海溝斜面にベンチが、大洋側海溝斜面には地溝状凹地が認め られる。断層は海溝軸に平行な走向を持ち、東落ちで海底面まで変位を与えている。変 位の累積性がある断層も多く認められた。	海上保安 庁
海上保安庁海洋情報部	2004	仙台湾の断層分布	地震予知連絡会 会報	71	339-344		1(1) イ			*	仙台湾に存在する断層の検出を目的としてスーパーカー及びチャープソナーを用いて活断 層調査を行った。堆積層は音響的層相から7層に分類され、陸上地層層序との対比を 行った。地質構造は北北西-南南東方向へと連続する背斜構造と撓曲を含む6条の断 層群に特徴付けられ、断層群の長さは約33kmに達している。南東端にある逆断層は変 位量1~10mで下位層ほど変位量大きく、活断層と考えられる。	海上保安 庁
海上保安庁海洋情報部	2004	十勝沖の海底地形	地震予知連絡会 会報	72	127-128		1(1) イ					海上保安 庁
海上保安庁海洋情報部	2005	加賀-福井沖の断層分布	地震予知連絡会 会報	73	422-425		1(1) イ			*	加賀-福井沖に存在する断層の検出を目的とし、調査を行った。音響的層相から堆積層 は7層に分けられ、陸上地層区分との対比を行った。断層は大陸棚沿岸部及び大陸斜 面に見られ、北西-南東方向が卓越している。断層の長さは2~6km程度であり、福井港 西方大陸斜面や大グリ北西方では第II層以深に変位を、沿岸部の断層は第III層以深に 変位を与えているが、最上位層には変位が見られない。	海上保安 庁
海上保安庁海洋情報部	2005	紀伊・東海沖の海底地形・地質構造・重力異常	地震予知連絡会 会報	73	537-540		1(1) イ					海上保安 庁
海上保安庁海洋情報部	2005	島根沖の海底地形・地質構造・重力異常	地震予知連絡会 会報	73	581-585		1(1) イ					海上保安 庁
海上保安庁海洋情報部	2005	周防灘東部におけるマルチチャンネル音波探査	地震予知連絡会 会報	73	586-588		1(1) イ					海上保安 庁

1(2)地震発生に至る準備・直前過程における地殻活動(松澤委員)

... 査読無しと判断したもの
 ... 同一項目内の重複、レビュー対象期間外の論文など削除が妥当と思われるもの
 ... 査読の有り・無しの判断が難しいもの

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	2番目に関連の深い建議の項目	3番目に関連の深い建議の項目	主要成果の場合、*印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Hirata K, H. Takahashi, E. Geist, K. Satake, Y. Tanioka, H. Sugioka, H. Mikada and K. Suyehiro	2003	Modelling of micro-tsunami detected with ocean-bottom pressure gauges offshore, south of Hokkaido, Japan, - the January 28, 2000 Kuril earthquake (Mw6.8)-	Earth Planet. Sci. Lett	208	305-318	○	1(2) ア					北海道大学
Murai, Y, S. Akiyama, K. Katsumata, T. Takanami, T. Yamashina, T. Watanabe, I. Cho, M. Tanaka, A. Kuwano, N. Wada, H. Shimamura, I. Furuya, D. Zhao, and R. Sanda	2003	Delamination structure imaged in the source area of the 1982 Urakawa-oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2002GL016459	○	1(2) ア	1(1) イ		*	北海道南部では千島弧と東北日本弧が衝突している。大学合同による陸上稠密地震観測と海底地震計から得られたデータにより、日高山脈の東側から1982年浦河沖地震の震源域にかけて低速度の物質が緩やかに沈み込んでいることがわかった。これは衝突によってデラミネートしている千島弧の下部地殻と解釈され、1982年浦河沖地震発生前の地震断層深部延長部における非地震性のすべりは、島弧間の衝突により生じたと考えられる。	北海道大学
Shinohara, M., T. Yamada, T. Kanazawa, N. Hirata, Y. Kaneda, T. Takanami, H. Mikada, K. Suyehiro, S. Sakai, T. Watanabe, K. Uehira, Y. Murai, N. Takahashi, M. Nishino, K. Mochizuki, T. Sato, E., Arai, R. Hino, K. Uhira, H. Shiobara, and H. Shimizu	2004	Aftershock observation of the 2003 Tokachi-oki earthquake by using dense ocean bottom seismometer network	Earth, Planets. Space	56	295-300	○	1(2) ア					北海道大学
Takahashi H. and K. Hirata	2003	The 2000 Nemuro-Hanto-Oki earthquake, off eastern Hokkaido, Japan, and high intra-slab seismic activity in southwestern Kuril trench	J. Geophys. Res	108	10.1029/2002JB001813	○	1(2) ア					北海道大学
Takahashi H., S. Nakao, N. Okazaki, J. Koyama, T. Sagiya, T. Ito, F. Ohya, K. Sato, Y. Fujita, M. Hashimoto, Y. Hoso, T. Kato, T. Inuma, J. Fukuda, T. Matsushima, Y. Kohno, and M. Kasahara	2004	GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (MJMA8.0), off southeastern Hokkaido, Japan	Earth Planets Space	56	377-382	○	1(2) ア					北海道大学
勝俣啓	2004	応力テンソルインバージョン法により推定された2003年十勝沖地震震源域付近の太平洋プレート内部の主応力パターン	地震	57	131-133	○	1(2) ア					北海道大学
高波鐵夫、村井芳夫、町田祐弥、斎藤市輔、牧野由美、勝俣啓、山口照寛、西野 実	2005	海底地震観測が明示した2003年十勝沖地震直前の顕著な現象	地震、第2輯	57	291-303	○	1(2) ア	1(2) ウ				北海道大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sato, T., K. Imanishi, N. Kato, and T. Sagiya	2004	Detection of a slow slip event from small signal in GPS data	Geophys. Res. Lett.	31	L05606, doi:10.1029/2004GL019514	○	1(2) ア			*	上記と同様な解析をGPSデータに含まれる季節変動を取り除くようにして行った。結論は上記論文とほぼ同じであるが、プレート境界での余効すべりがM6クラスの地震でも見られることを示した。	弘前大学
佐藤魂夫・今西和俊・加藤尚之・鷺谷威	2003	1968年十勝沖地震の北側アスペリティ近傍に発生した地震(2001年8月14日, Mw6.4の余効すべり)	地震研究所彙報	78	227-243		1(2) ア			*	2001年8月14日に青森県東方沖のプレート境界で発生したMw6.4の地震は、1968年十勝沖地震の北側アスペリティ近傍に位置しているため、GPSデータの解析から余効すべりの範囲と大きさを推定した。その結果、余効すべりは北側アスペリティの周辺で発生し、アスペリティへの応力集中が進んだと見なされる。	弘前大学
Fujie G., J. Kasahara, R. Hino, T. Sato, and M. Shinohara and K. Suyehiro	2002	A significant relation between seismic activities and reflection intensities in the Japan Trench region	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2001GL013764	○	1(2) ア					東北大学
Hasegawa, A., N. Uchida, T. Igarashi, T. Matsuzawa, T. Okada, S. Miura, and Y. Suwa	in press	Asperities and quasi-static slips on the subducting plate boundary east off Tohoku, NE Japan, Margins Theoretical Institute	SEIZE volume, Columbia University Press				1(2) ア					東北大学
Hayakawa, T., J. Kasahara, R. Hino, T. Sato, M. Shinohara, A. Kamimura, M. Nishino, T. Sato, and T. Kanazawa	2002	Heterogeneous structure across the source regions of the 1968 Tokachi-oki and the 1994 Sanriku-Haruka-Oki earthquakes at the Japan Trench revealed by an ocean bottom seismic survey	Phys. Earth. Planet. Inter.	132	89-104	○	1(2) ア					東北大学
Hino, R.	2003	Relation between seismic velocity structure of subducting oceanic crust and interplate micro-seismicity	Bull. Earthq. Res. Inst.	78	113-120		1(2) ア					東北大学
Igarashi T., T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2003	Repeating earthquakes and interplate aseismic slip in the northeastern Japan subduction zone	J. Geophys. Res.	108	10.1029/2002JB001920	○	1(2) ア	1(2) エ				東北大学
Kamimura, A., J. Kasahara, M. Shinohara, R. Hino, H. Shiobara, G. Fujie, and T. Kanazawa	2002	Crustal structure study at the Izu-Bonin subduction zone around 31N: Implication of serpentinized materials along the subduction plate boundary	Phys. Earth. Planet. Inter.	132	105-129	○	1(2) ア					東北大学
Kido, Y., M. Kido, and K. Fujioka	2004	Magnetic dipole anomalies as indicators of mantle wedge serpentinization	Geochemistry Geophysics Geosystems	5	10.1029/2004GC000697	○	1(2) ア					東北大学
Mishra O. P., D. Zhao, N. Umino, and A. Hasegawa	2003	Tomography of northeast Japan forearc and its implications for interplate seismic coupling	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2003GL017736	○	1(2) ア					東北大学
Miura, S., Y. Suwa, and A. Hasegawa	2004	The 2003 M8.0 Tokachi-Oki earthquake - How much has the great event paid back slip debts?	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2003GL01902	○	1(2) ア			*	GPSにより観測された2003年十勝沖地震(M8.0)の地震時地殻変動から、地震時すべり分布を推定した結果、地震波形インバージョンの結果と調和的であり、Suwa et al. (2006, JGR)により推定されたすべり欠損プレートの大きな領域に相当することがわかった。簡単なすべり取支の検討からこの領域はほぼ100%カップリングの状態であったと推定される。また地震後変動の解析から余効すべり分布を推定した。	東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Mochizuki, K., M. Nakamura, J. Kasahara, R. Hino, M. Nishino, A. Kuwano, Y. Nakamura, T. Yamada, and M. Shinohara, T. Sato, P. P. Moghaddam, T. Kanazawa	2005	Intense PP reflection beneath the aseismic forearc slope of the Japan Trench subduction zone and its implication of aseismic slip subduction	J. Geophys. Res.	110	10.1029/2003JB002892	○	1(2) ア					東北大学
Nakahigashi K., M. Shinohara, S. Suzuki, R. Hino, H. Shiobara, H. Takenaka, M. Nishino, T. Sato, S. Yoneshima, and T. Kanazawa	2004	Seismic structure of the crust and uppermost mantle in the incipient stage of back arc rifting ? northernmost Okinawa Trough	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2003GL018928	○	1(2) ア					東北大学
Nakanishi A., H. Shiobara, R. Hino, J. Kasahara, K. Suyehiro, and H. Shimamura	2002	Crustal structure around the eastern end of coseismic rupture zone of the 1944 Tonankai earthquake	Tectonophysics	354	257-275	○	1(2) ア					東北大学
Nakanishi A., H. Shiobara, R. Hino, K. Mochizuki, T. Sato, J. Kasahara, N. Takahashi, K. Suyehiro, and H. Tokuyama, J. Segawa, M. Shinohara, H. Shimamura	2002	Deep crustal structure of the eastern Nankai Trough and Zenisu Ridge by dense airgun-OBS seismic profiling	Marine Geology	187	47-62	○	1(2) ア					東北大学
Nishimura, T., T. Hirasawa, S. Miyazaki, T. Sagiya, T. Tada, S. Miura, and K. Tanaka	2004	Temporal change of interplate coupling in northeastern Japan during 1995-2002 estimated from continuous GPS observations	Geophys. J. Int.	157	901-916	○	1(2) ア					東北大学
Shinohara M., T. Yamada, T. Kanazawa, N. Hirata, Y. Kaneda, T. Takanami, H. Mikada, K. Suyehiro, and S. Sakai, T. Watanabe, K. Uehira, Y. Murai, N. Takahashi, M. Nishino, K. Mochizuki, T. Sato, E. Araki, R. Hino, K. Uhira, H. Shiobara, H. Shimizu	2004	Aftershock observation of the 2003 Tokachi-oki earthquake by using dense bottom seismometer network	Earth, Planet. Space	56	295-300	○	1(2) ア					東北大学
Shinohara, M., R. Hino, T. Yoshizawa, M. Nishino, T. Sato, and K. Suyehiro	2005	Hypocenter distribution of plate boundary zone off Fukushima, Japan, derived from ocean bottom seismometer data	Earth, Planet. Space	57	93-105	○	1(2) ア					東北大学
Suwa, Y., S. Miura, A. Hasegawa, T. Sato, and K. Tachibana	2006	Interplate coupling beneath NE Japan inferred from three dimensional displacement field	J. Geophys. Res.	111	101029/2004JB003203	○	1(2) ア			*	1997年から5年間のGPS連続観測データを用いて東北日本弧下のプレート境界におけるすべり欠損レートの推定を行った。既往の研究では測定精度の問題から重要視されていなかった上下変動成分をインバージョン解析に用いることにより、より信頼性の高い推定結果が得られた。宮城県沖、青森県東方沖、十勝沖では大きなすべり欠損レートが推定され、特に十勝沖では2003年にM8.0の巨大地震が発生した。	東北大学
Takahashi, N., S. Kodaira, T. Tsuru, J. Park, Y. Kaneda, K. Suyehiro, H. Kinoshita, S. Abe, and M. Nishino, R. Hino	2004	Seismic structure and seismogenesis off Sanriku region, northeastern Japan	Geophys. J. Int.	159	129-145	○	1(2) ア					東北大学
Tanioka Y., K. Hirata, R. Hino, and T. Kanazawa	2004	Slip distribution of the 2003 Tokachi-oki earthquake estimated from tsunami waveform inversion	Earth, Planet. Space	56	373-376	○	1(2) ア					東北大学
Uchida, N., A. Hasegawa, T. Matsuzawa, and T. Igarashi	2004	Pre- and post-seismic slip on the plate boundary off Sanriku, NE Japan associated with three interplate earthquakes as estimated from small repeating earthquake data	Tectonophysics	385	1-15	○	1(2) ア	1(2) エ				東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番 目 に 関 連 の 深い 議論 の 項目	3番 目 に 関 連 の 深い 議論 の 項目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Uchida, N., T. Igarashi, T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2003	Interplate quasi-static slip estimated from repeating earthquake analyses in the Northeastern Japan subduction zone	Tohoku Geophys. Journ.	36	531-534		1(2) ア	1(2) エ				東北大学
Uchida, N., T. Matsuzawa, T. Igarashi, and A. Hasegawa	2003	Interplate quasistatic slip off Sanriku, NE Japan, estimated from repeating earthquakes	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2003GL017452	○	1(2) ア	1(2) エ		*	相似地震(小繰り返し地震)の解析から、プレート境界の準静的滑りの時空間分布をGPSと独立に推定する事に成功した。その結果、海岸線に近い領域では、ほぼプレート間相対速度で定常的に滑っているのに対して海溝付近ではエピソード的に滑っていること、M6以上のプレート境界型地震のほとんどは余効すべりを伴っている事等を明らかにした。	東北大学
Zhang, H. C. H. Thurber, D. Shelly, S. Ide, G. C. Beroza, and A. Hasegawa	2004	High-resolution subducting-slab structure beneath northern Honshu, Japan, revealed by double-difference tomography	Geology	32	361-364	○	1(2) ア	1(1) イ				東北大学
伊藤亜妃, 日野亮太, 西野実, 藤本博巳, 三浦誠一, 小平秀一, 長谷見昌子	2002	エアガン人工地震探査による東北日本前弧域の地殻深部構造	地震, 第2輯	54	507-520	○	1(2) ア					東北大学
笠原順三, 望月公廣, 上村彩, 中村美加子, 日野亮太, 山田知朗, 佐藤利典, ベイマンブルモグハダム, 西野実, 中村恭之, 金沢敏彦	2003	沈み込み帯の非アスペリティとそれを生じる物質	地学雑誌	112	814-827	○	1(2) ア					東北大学
五十嵐俊博, 松澤暢, 長谷川昭	2002	東北日本弧下の太平洋プレート内部に発生する稍深発地震活動の時空間変化	地震, 第2輯	54	465-474	○	1(2) ア	1(1) イ				東北大学
弘瀬冬樹, 中村綾子, 長谷川 昭	2002	アスペリティの破壊に伴うb 値の変化—東北日本太平洋下のb値の時空間分布—	地震, 第2輯	55	249-260	○	1(2) ア					東北大学
山下哲央, 岡田知己, 松澤暢, 長谷川昭	2004	東北日本太平洋下のプレート境界近傍で発生する地震のスケーリング則	地震, 第2輯	56	457-469	○	1(2) ア					東北大学
山田知朗, 篠原雅尚, 金沢敏彦, 平田直, 金田義行, 高波鐵夫, 三ヶ田均, 末廣深, 酒井慎一, 渡邊智毅, 植平賢司, 村井芳夫, 高橋成美, 西野実, 望月公廣, 佐藤壮, 荒木英一郎, 日野亮太, 宇平幸一, 塩原肇, 清水洋	2005	稠密海底地震観測による2003年十勝沖地震の余震分布	地震, 第2輯	57	281-290	○	1(2) ア					東北大学
松澤暢, 内田直希	2003	地震観測から見た東北地方太平洋下における津波地震発生の可能性	月刊地球	No.25	368-373		1(2) ア					東北大学
諏訪謡子, 三浦哲, 長谷川昭, 佐藤俊也, 立花憲司	2004	東北日本沈み込み帯におけるプレート境界の固着状況	地震, 第2輯	56	471-484	○	1(2) ア					東北大学
谷岡勇市郎, 平田賢治, 日野亮太, 金沢敏彦	2004	津波波形から推定した詳細な2003年十勝沖地震のすべり量分布	地震, 第2輯	57	75-81	○	1(2) ア					東北大学
長谷川昭	2004	アスペリティの繰り返しすべりと地震発生予測	月刊地球	46	13-19		1(2) ア					東北大学
長谷川昭	2005	2003年宮城県沖地震(M7.1)	月刊地球	27	3-7		1(2) ア					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
長谷川昭	2004	アスペリティ	高压ガス	41	42-43		1(2) ア					東北大学
長谷川昭	2005	パークフィールド地震から学ぶもの	地震ジャーナル	39	1-11		1(2) ア					東北大学
長谷川昭	2005	2004年 Parkfield地震の特徴と意味、残された問題	地震予連会報	73	652-653		1(2) ア					東北大学
内田直希, 松澤暢, 平原聡, 長谷川昭, 笠原稔	2006	小繰り返し地震による千島・日本海溝沿いプレート境界の準静的すべりモニタリング	月刊地球	28	463-469		1(2) ア					東北大学
日野亮太	2005	三陸沖におけるプレート境界微小地震の震源分布と反射法地震探査イメージ	月刊地球	51	43-48		1(2) ア					東北大学
日野亮太	2005	海底地震計を用いた海底下深部構造探査	日本音響学会誌	61	647-652		1(2) ア					東北大学
日野亮太, 鶴哲郎	2005	繰り返す大地震発生のしくみ	科学	75	940-947		1(2) ア					東北大学
日野亮太, 藤本博己, 桑野亜佐子, 西野実, 金沢敏彦, 酒井慎一, 中尾茂	2005	三陸沖光ケーブル式海底地震・津波観測システムによる津波計測リアルタイム・沖合観測の有効性一	月刊地球	37	190-196		1(2) ア					東北大学
迫田浩司, 岡田知己, 菅ノ又淳一, 長谷川昭	2005	二重深発地震面上面の活動と2003年宮城県沖地震	月刊地球	27	49-55		1(2) ア	1(1) イ				東北大学
油井智史, 諏訪諤子, 三浦哲, 長谷川昭	2005	測地インバージョンによる2003年5月26日宮城県沖地震(M7.1)の断層モデルの推定	月刊地球	27	35-38		1(2) ア	1(1) イ				東北大学
Araki, E., M. Shinohara, K. Obana, T. Yamada, Y. Kaneda, T. Kanazawa, and K. Suyehiro	2006	Aftershock distribution of the 26 December 2004 Sumatra-Andaman earthquake from ocean bottom seismographic observation	Earth Planets Space	58	113-119	○	1(2) ア					東京大学 地震研 究所
EI-Fiky, G. S., and T. Kato	1999	Interplate coupling in the Tohoku district, Japan, deduced from geodetic data inversion	J. Geophys. Res.	104	20361-20377	○	1(2) ア					東京大学 地震研 究所
EI-Fiky, G. S., T. Kato, and E. N. Oware	1999	Crustal deformation and interplate coupling in the Shikoku district, Japan, as seen from continuous GPS observation	Tectonophysics	314	387-399	○	1(2) ア					東京大学 地震研 究所
EI-Fiky, G.S., and T. Kato	1999	Continuous distribution of the horizontal strain in the Tohoku district, Japan, predicted by least-squares collocation	Geodynamics	27	213-236	○	1(2) ア					東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Fu, G. and W. Sun	2006	Global co-seismic displacements caused by the 2004 Sumatra-Andaman Earthquake	Earth Planets Space	58	149-152	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Fu, G. and W. Sun	2004	Effects of Spatial Distribution of Fault Slip on Calculating Co-seismic Displacements - Case Studies of the Chi-Chi Earthquake (m=7.6) and the Kunlun Earthquake (m=7.8)	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2004GL020841	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Fujie, G., J. Kasahara, R. Hino, T. Sato, M. Shinohara and K. Suyehiro	2002	A significant relation between seismic activities and reflection intensities in the Japan Trench region	Geophys. Res. Lett.	29, 7	doi: 10.1029/2001GL013764	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Hayakawa, T., J. Kasahara, R. Hino, T. Sato, M. Shinohara, A. Kamimura, M. Nishino, T. Sato, and T. Kanazawa	2002	Heterogeneous structures across the source regions of the 1968 Tokachi-Oki and the 1994 Sanriku-Haruka-Oki earthquakes at the Japan Trench revealed by an ocean bottom seismic survey	Phys. Earth Planet. Inter.	132	89-104	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Hino, R., Ito, S., Shiobara, H., Shimamura, H., Sato, T., Kanazawa, T., Kasahara, J., and Hasegawa, A	2000	Aftershock distribution of the 1994 Sanriku-oki earthquake (Mw7.7) revealed by ocean bottom seismographic observation	J. Geophys. Res.	105, B9	21697-21710	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Hino, R., Tanioka, Y., Kanazawa, T., Sakai, S., Nishino, M., Suyehiro, K	2001	Micro-tsunami from a local interplate earthquake detected by cabled offshore tsunami observation in northeastern Japan	Geophys. Res. Lett.	28, 18	3533-3536	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Hino, R., Y. Yamamoto, A. Kuwano, M. Nishino, T. Kanazawa, T. Yamada, K. Nakahigashi, K. Mochizuki, M. Shinohara, K. Minato, G. Aoki, N. Okawara, M. Tanaka, M. Abe, E. Araki, S. Kodaira, G. Fujie and Y. Kaneda	in press	Hypocenter distribution of the main- and aftershocks of the 2005 Off Miyagi Prefecture Earthquake located by ocean bottom seismographic data	Earth Planets Space			○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Iidaka, T., T. Iwasaki, T. Takeda, T. Moriya, I. Kumakawa, E. Kurashimo, T. Kawamura, F. Yamazaki, K. Koike, and G. Aoki	2003	Configuration of subducting Philippine Sea plate and crustal structure in the central Japan region	Geophys. Res. Lett.	30	23-1 - 23-4	○	1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研究所
Iidaka, T., T. Takeda, E. Kurashimo, T. Kawamura, Y. Kaneda, and T. Iwasaki	2004	Configuration of subducting Philippine Sea plate and crustal structure in the central Japan region	Tectonophysics	388	7 - 20	○	1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研究所
Imanishi, Y., T. Sato, T. Higashi, W. Sun and S. Okubo	2004	A Network of Superconducting Gravimeters Detects Submicrorgal Coseismic Gravity Changes	Science	306	476-478	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
Ito, S., Hino, R., Shiobara, H., Shimamura, H., Kanazawa, T., Sato, T., Kasahara, J., and Hasegawa	2000	Deep seismic structure of the seismogenic plate boundary in the off-Sanriku region, northeastern Japan	Tectonophysics	319	261-274	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番目 に 関連 の深い 議論の 項目	3番目 に 関連 の深い 議論の 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kamimura, A., J. Kasahara, M. Shinohara, R. Hino, H. Shiobara, G. Fujie and T. Kanazawa	2002	Crustal structure study at the Izu-Bonin subduction zone around 31° N: Implications of serpentinized materials along the subduction plate boundary	Phys. Earth Planet. Inter.	132	105-129	○	1(2)ア					東京大学 地震研究 所
Kimura, H., K. Kasahara, T. Igarashi, and N. Hirata	2006	Repeating earthquake activities associated with the Philippine Sea plate subduction in the Kanto district, central Japan: a new plate configuration revealed by interplate aseismic slips	Tectonophysics	417	(101-118)	○	1(2)ア	1(2)エ				東京大学 地震研究 所
Kodaira, S., N. Takahashi, J.-O. Park, K. Mochizuki, M. Shinohara and S. Kimura	1999	Western Nankai Trough Seismogenic zone: Results from a wide-angle ocean bottom seismic survey	J. Geophys. Res.	105, B3	5887-4905	○	1(2)ア					東京大学 地震研究 所
Kodaira, S., T. Iidaka, A. Kato, J. O. Park, T. Iwasaki and Y. Kaneda	2004	Structural evidences for a cause of silent slip in the rupture zone of the great Tokai earthquake, central Japan	Science	304	1295-1298	○	1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研究 所
Kurashimo, E. and N. Hirata	2004	Low Vp and Vp/Vs zone beneath the northern Fossa Magna basin, central Japan, derived from a dense array observation	Earth Planets Space	56	1301-1308	○	1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研究 所
Miura, S., K. Suyehiro, M. Shinohara, N. Takahashi, E. Araki, and A. Taira	2004	Seismological structure and implications of collision of the Ontong Java Plateau and Solomon Island Arc from ocean bottom seismometer-airgun data	Tectonophysics	389	191-220	○	1(2)ア					東京大学 地震研究 所
Mochizuki, K., M. Nakamura, J. Kasahara, R. Hino, M. Nishino, A. Kuwano, Y. Nakamura, T. Yamada, M. Shinohara, T. Sato, P. P. Moghaddam, and T. Kanazawa	2005	Intense PP reflection beneath the aseismic forearc slope of the Japan Trench subduction zone and its implication of aseismic slip subduction	J. Geophys. Res.	110, B01302	doi:10.1029/2003JB002892	○	1(2)ア			*	1996年に宮城沖日本海溝陸側斜面の微小地震発生・非発生境界域において、海底地震計とエアガンを用いた構造探査実験を行った。プレート境界からの振幅の大きい反射波から、プレート境界に低速度の薄い層が存在していることが推定された。さらに、プレート境界からの反射波の振幅の大きい領域では、微小地震活動が活発であり、反射波の振幅が小さいところでは地震活動が低調である事を明らかにした。	東京大学 地震研究 所
Nakahigashi, K., M. Shinohara, S. Suzuki, R. Hino, H. Shiobara, H. Takenaka, M. Nishino, T. Sato, S. Yoneshima, and T. Kanazawa	2004	Seismic structure of the crust and uppermost mantle in the incipient stage of back arc rifting - northernmost Okinawa Trough	Geophys. Res. Lett.	31, L02614	doi:10.1029/2003GL018928	○	1(2)ア					東京大学 地震研究 所
Nakanishi, A., H. Shiobara, R. Hino, K. Mochizuki, T. Sato, J. Kasahara, N. Takahashi, K. Suyehiro, H. Tokuyama, J. Segawa, M. Shinohara and H. Shimamura	2002	Deep crustal structure of the eastern Nankai Trough and Zenisu Ridge by dense airgun-OBS seismic profiling	Marine Geology	187	47-62	○	1(2)ア					東京大学 地震研究 所
Obana, K. S. Kodaira, K. Mochizuki and M. Shinohara	2001	Micro-seismicity around the seaward updip limit of the 1946 Nankai earthquake dislocation area	Geophys. Res. Lett.	28	2333-2336	○	1(2)ア	2(2)ウ				東京大学 地震研究 所
Obana, K., S. Kodaira, Y. Kaneda, K. Mochizuki, M. Shinohara, and K. Suyehiro	2003	Micro-seismicity at the seaward updip limit of the western Nankai Trough seismogenic zone	J. Geophys. Res.	108, B10	doi:10.1029/2002JB002370	○	1(2)ア	2(2)ウ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Okada, T., K. Sakoda, T. Matsuzawa, R. Hino, A. Hasegawa, S. Sakai, and T. Kanazawa	2004	Characteristic seismic activity in the subducting plate boundary zone off Kamaishi, northeastern Japan, revealed by precise hypocenter distribution analysis using ocean-bottom seismometers	Geophys. Res. Lett.	31, L19604	doi:10.1029/2004GL020366	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sakai, S., T. Yamada, M. Shinohara, H. Hagiwara, T. Kanazawa, K. Obana, S. Kodaira and Y. Kaneda	2005	Urgent aftershock observation of the 2004 off the Kii Peninsula earthquake using ocean bottom seismometers	Earth Planets Space	57	1-6	○	1(2)ア			*	2004年に発生した紀伊半島南東沖の地震の緊急余震観測を5台の海底地震計で行った。その結果、余震が深さ5kmから25kmに発生していることが分かった。さらに、これらから、本震がプレート内地震であることを推定した。また、余震は深さ10kmと20kmを中心とする2つのグループに別れ、層状に分布しており、これらの分布は本震のメカニズムと調和しないこともわかった。	東京大学地震研究所
Shinohara, M., K. Suyehiro, and T. Murayama	2003	Microearthquake seismicity in relation to double convergence around Solomon Islands arc by ocean bottom seismometer observation	Geophys. J. Int.	153	691-698	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Shinohara, M., R. Hino, T. Yoshizawa, M. Nishino, T. Sato, and K. Suyehiro	2005	Hypocenter distribution of plate boundary zone off Fukushima, Japan, derived from ocean bottom seismometer data	Earth Planets Space	57	93-105	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Shinohara, M., T. Yamada, T. Kanazawa, N. Hirata, Y. Kaneda, T. Takanami, H. Mikada, K. Suyehiro, S. Sakai, T. Watanabe, K. Uehira, Y. Murai, N. Takahashi, M. Nishino, K. Mochizuki, T. Sato, E. Araki, R. Hino, K. Uehira, H. Shiobara, and H. Shimizu	2004	Aftershock observation of the 2003 Tokachi-oki earthquake by using dense ocean bottom seismometer network	Earth Planets Space	56	295-300	○	1(2)ア			*	2003年十勝沖地震の余震観測を本震発生4日後から、総計47台の空間的に高密度な海底地震計観測網で行った。観測期間は約2ヶ月後である。本震付近の9台の海底地震計は、緊急解析のために観測開始後3週間で回収された。そのデータを用いた解析の結果、本震震源付近の余震は、深さ15kmから20kmで陸側に傾き下がる面状に分布し、本震の深さが15kmから20km程度で、プレート境界地震であることが確かめられた。	東京大学地震研究所
Sun W., and S. Okubo	2004	Truncated co-seismic geoid and gravity changes in the domain of spherical harmonic degree	Earth Planets Space	56	881-892	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sun W., and S. Okubo	2002	Effects of earth's spherical curvature and radial heterogeneity in dislocation studies - for a point dislocation	Geophys. Res. Lett.	29	doi:10.1029/2001GL014497	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sun W., and S. Okubo	2004	Coseismic deformations detectable by satellite gravity missions: A case study of Alaska (1964, 2002) and Hokkaido (2003) earthquakes in the spectral domain	J. Geophys. Res.	109	doi:10.1029/2003JB02554	○	1(2)ア	3(4)				東京大学地震研究所
Sun, W.	2004	Asymptotic Solution of Static Displacements Caused by Dislocations in a Spherically Symmetric Earth	J. Geophys. Res.	109	doi:10.1029/2003JB002793	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sun, W.	2003	Asymptotic Theory for Calculating Deformations Caused by Dislocations Buried in a Spherical Earth - Geoid Change	Journal of Geodesy	77	381-387	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sun, W.	2004	Short Note: Asymptotic Theory for Calculating Deformations Caused by Dislocations Buried in a Spherical Earth - Gravity Change	Journal of Geodesy	78	DOI 10.1007/s00190-004-0384-3	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sun, W. and S. Okubo	2002	Effects of the Earth's curvature and Radial heterogeneity in Dislocation Studies - For a point dislocation	Geophys. Res. Lett.	29	46-14	○	1(2)ア					東京大学地震研究所
Sun, W. and S. Okubo	2005	Methods to Study Co-seismic Deformations Detectable by Satellite Gravity Mission GRACE	International Association of Geodesy Symposia	129	346-351	○	1(2)ア	3(4)				東京大学地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番 目 に 関 連 の 深い 議論 の 項目	3番 目 に 関 連 の 深い 議論 の 項目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sun, W. and S. Okubo	2005	Asymptotic Dislocation Theory of a Spherical Earth for Calculating Co-Seismic Displacement	International Association of Geodesy Symposia	128	488-493	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
Sun, W., S. Okubo and G. Fu	in press	New Theory for Calculating Strains Changes Caused by Dislocations in a Spherically Symmetric Earth	International Association of Geodesy Symposia			○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
Tanaka, Y., J. Okuno and S. Okubo	2006	A new method for the computation of global viscoelastic post-seismic deformation in a realistic earth model (1)—vertical displacement and gravity variation	Geophys. J. Int.	164	273-289	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
Tsuru, T., J. -O. Park, Y. Kido, A. Ito, Y. Kaneda, T. Yamada, M. Shinohara, and T. Kanazawa	2005	Did expanded porous patches guide rupture propagation in 2003 Tokachi-oki earthquake?	Geophys. Res. Lett.	32, 20, L203 10	doi:10.1029/2005GL023753	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
Yamamoto, Y., R. Hino, M. Nishino, T. Yamada, T. Kanazawa, T. Hashimoto, and G. Aoki	2006	Three-dimensional seismic velocity structure around the focal area of the 1978 Miyagi-Oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	33, L103 08	doi:10.1029/2005GL025619	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
Yoneshima, S., K. Mochizuki, E. Araki, R. Hino, M. Shinohara, and K. Suyehiro	2005	Subduction of the Woodlark Basin at New Britain Trench, Solomon Islands region	Tectonophysics	397	225-239	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
山田知朗、篠原雅尚、金沢敏彦、平田直、金田義行、高波鐵夫、三ヶ田均、末廣 潔、酒井慎一、渡辺智毅、植平賢司、村井芳夫、高橋成美、西野 実、望月公廣、佐藤 壮、荒木英一郎、日野亮太、宇平幸一、塩原 肇、清水 洋	2005	稠密海底地震観測による2003年十勝沖地震の余震分布	地震、第2輯	57	281-290	○	1(2)ア			*	2003年十勝沖地震の余震観測に用いた総計47台の海底地震計の全データを用いて、震源域全域にわたる余震分布を求めた。その結果、本震時に大きな滑りを起こした領域では余震活動が低調であることがわかった。また、余震分布を用いて、震源域でのプレート境界の形状を求め、海溝に平行な方向にも変化していることを明らかにした。	東京大学 地震研 究所
笠原順三・望月公廣・上村彩・中村美加子・日野亮太・山田知朗、佐藤利典・ベイマン・ブール・モグハダム・西野実・中村恭之・金澤敏彦	2003	沈み込み帯の非アスペリティとそれを生じる物質	地学雑誌	112, 6	814-827	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
金田義行・朴進午・尾鼻浩一郎・木下正高・堀高峰・小平秀一・金沢敏彦・篠原雅尚・酒井慎一・山田知朗	in press	2004年紀伊半島南東沖地震震源域の地殻構造と余震分布について	地震2			○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所
山口覚、上嶋誠、村上英記、大志万直人、塩崎一郎	2004	紀伊半島地域におけるネットワークMT観測	CA研究会2003年論文集		57-65		1(2)ア	1(1)イ				東京大学 地震研 究所
篠原雅尚・日野亮太・吉沢隆史・西野実・佐藤利典・末廣潔	2005	海底地震観測による福島沖プレート境界の地震活動	月刊地球号外	51	60-65		1(2)ア					東京大学 地震研 究所
小平秀一、飯高隆、加藤愛太郎、朴進午、岩崎貴哉、金田義行	2004	プレート境界高間隙水圧帯によって引き起こされる東海スロースリップ—中部日本海陸統合探査の結果—	月刊地球	126	696-701		1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研 究所
上村彩・笠原順三・日野亮太・篠原雅尚・塩原肇・金沢敏彦	2000	プレート沈み込みにおける水の意義と伊豆・小笠原海溝のserpentineダイアピルを横切る速度構造	地学雑誌	109, 4	506-516	○	1(2)ア					東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番目 に 関連 の深い 議論の 項目	3番目 に 関連 の深い 議論の 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
西坂弘正・篠原雅尚・佐藤利典・日野亮太・望月公廣・笠原順三	2001	海底地震計と制御震源を用いた北部大和海域、秋田沖日本海東縁部海陸境界域の地震波速度構造	地震2	54	365-379	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
大久保修平・高木朗充・新谷昌人・松本滋夫・福井敬一・孫文科	2004	富士山頂における絶対重力測定	月刊地球	号外 48	56-62		1(2) ア					東京大学 地震研究所
大久保修平ほか9名	2005	ハイブリッド重力観測による、2003年十勝沖地震の解析	月刊地球	号外 49	112-117		1(2)ア					東京大学 地震研究所
藤江剛・笠原順三・日野亮太・佐藤利典・篠原雅尚	2000	三陸沖プレート沈み込み帯における不均質地殻構造と地震活動度 -地震波反射強度分布と地震活動度との関係-	地学雑誌	109, 4	497-505	○	1(2)ア					東京大学 地震研究所
飯高隆、武田哲也、蔵下英司、河村知徳、金田義行、岩崎貴哉	2005	東海地域における地下深部の反射面	月刊地球	号外 No.51	81-85		1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研究所
飯尾能久・松澤 暢・吉田真吾・加藤照之・平田 直	2003	非地震性すべりの時空間変化と大地震の発生予測 -三陸沖における近年の進展を中心に-	地震	56	213-229	○	1(2)ア	1(2)イ				東京大学 地震研究所
Pinar A, Kuge K, Honkura Y	2003	Moment tensor inversion of recent small to moderate sized earthquakes: implications for seismic hazard and active tectonics beneath the Sea of Marmara	Geophys. J. Int.	153	133-145	○	1(2)ア					東京工業 大学
Iidaka, T. Yamazaki Fet al.	2003	Configuration of subducting Philippine Sea plate and crustal structure in the central Japan region	Geophys. Res. Letters	30	1219-1222	○	1(2)ア					名古屋大 学
M. Irwan, Y. Ohta, D. Darmawan, H. Andreas, H. Z. Abidin, M. A. Kusuma, D. Sugiyanto, Agustan, T. Ito, T. Tabei and F. Kimata	2006	GPS measurement of coseismic displacement in Aceh province after the 2004 Aceh-Andaman earthquake Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes (part 2)	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University,				1(2)ア					名古屋大 学
Murase, M., M. Irwan, S. Kariya, T. Tabei, T. Okuda, R. Miyajima, J. Oikawa, H. Watanabe, T.Kato, S. Nakao, M. Ukawa	2006	Time Dependent Model of Magma Intrusion in and around Miyake and Kozu Islands, Central Japan in June-August, 2000	Jour. Volcanology and Geothermal Research, 150,	150	213-231	○	1(2)ア			*	2000年6月の三宅・神津島間で発生した大規模な群発地震について、本論文では、神津島や新島などの近場のGPS観測データからダイク貫入過程を推定し、3枚のダイク貫入とその間にM6クラスの地震発生モデルを考察した。ダイクはすべて三宅島から流出しただけでないことが明らかになった。	名古屋大 学
Nishimura, T., T. Hirasawa, S. Miyazaki, T. Sagiya, T. Tada, S. Miura, and K. Tanaka	2004	Temporal change of interplate coupling in northeastern Japan during 1995-2002 estimated from continuous GPS observations	Geophys. J. Int.,	157	901-916	○	1(2)ア					名古屋大 学
Sagiya, T.	2004	Interplate coupling in the Kanto District, central Japan, and the Boso Silent earthquake in May 1996	PAGEOPH	161	2601-2616	○	1(2)ア					名古屋大 学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番 目 に 関 連 の 深い 議論 の 項目	3番 目 に 関 連 の 深い 議論 の 項目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
T. Ito and M. Hashimoto	2004	Spatiotemporal distribution of Interplate coupling in southwest Japan from inversion of geodetic data	J. Geophys. Res.	109	B02315, doi:10.1029/2002JB002358,	○	1(2)ア	1(2)エ				名古屋大学
T. Ito, S. Kawamoto, Y. Ohota, I. Meilano and F. Kimata	2006	Evaluation of visco-elastic and poro-elastic deformations following 2004 Sumatra-Andaman earthquake Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes (part 2)	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University				1(2)ア					名古屋大学
Tonegawa, T., K. Hirahara, T. Shibutani, and Fujii N	2006	Lower slab boundary in the Japan subduction zone	Earth Planet. Sci. Lett.	247	101-107	○	1(2)ア					名古屋大学
Wang, K., R. Wells, S. Mazzotti, R. D. Hyndman, and T. Sagiya	2003	A revised dislocation model of interseismic deformation of the Cascadia subduction zone	J. Geophys. Res.	108	10.1029/2001JB001227	○	1(2)ア					名古屋大学
Y. Ohota, M. Irwan, T. Ito, F. Kimata, T. Tabei and D. Sugiyanto	2006	Crustal deformation following the 2004 Sumatra-Andaman earthquake in the northern Sumatra region (Preliminary Report) Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes (part 2)	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University				1(2)ア					名古屋大学
伊藤武男・木股文昭・イルワン・メイラノ・太田雄策・田部井隆雄	2005	スマトラ沖地震のGPS観測	地震学会ニュースレター	5月号	15-17		1(2)ア					名古屋大学
笠原稔, 高橋浩克, 岡崎紀俊, 中尾茂, 鷺谷威, 伊藤武男, 大谷文夫, 佐藤一敏, 藤田安良, 橋本学, 細善信, 加藤照之, 飯沼卓史, 福田淳一, 松島健, 河野裕希	2005	稠密GPS観測による2003年十勝沖地震の余効変動観測	月刊地球, 号外	49	105-111		1(2)ア					名古屋大学
鷺谷威	2003	GPSによるゆっくり地震の解析	科学	73	1006-1011		1(2)ア					名古屋大学
鷺谷威	2003	1918年大町地震の震源断層モデル-水準測量データの再検討と関連データの総合的解釈に基づく新たなモデル-	地震	56	199-211	○	1(2)ア					名古屋大学
山崎文人	2002	中部地方下におけるフィリピン海スラブの応力場	京都大学防災研究所 研究集会13K-7報告書		138-143		1(2)ア					名古屋大学
山田功夫・大井田徹・山崎文人	2003	2000年東海スローイベントと微小地震活動	月刊地球号外	41	88-93		1(2)ア					名古屋大学
太田雄策・Meilano Irwan・伊藤武男・木股文昭・田部井隆雄・Didik Sugiyant	2005	GPSデータに基づくスマトラ沖地震の余効変動	地震学会ニュースレター	7月号	21-22		1(2)ア					名古屋大学
木股文昭・伊藤武男・太田雄策・メイラノ・イルワン・田部井隆雄	2005	スマトラのGPS観測から見えてきた滑り分布:スマトラアチェでのGPS観測から見えてきた2004年アチェ・アンダマン地震の滑り分布	月刊地球スマトラ地震特集号				1(2)ア					名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Doi, I.	2005	Study on the Subduction of the Philippine Sea Plate in the Chugoku and Shikoku Regions, Southwest Japan – Imaging by Reflection and Forward Scattering Analyses –	京都大学大学院 理学研究科 地球惑星科学専 攻 修士論文	41			1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
Hashimoto, M., F. Ohya, K. Onoue, Y. Hoso, S. Nishimura, K. Sato, and Y. Fujita	2004	Interplate Coupling Derived From The GPS Traverse Across the Hinge-Line in Kii Peninsula and its Tectonic Implication	2004 Western Pacific Geophysical Meeting	G32A-01			1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
Hashimoto, M., H. Takahashi, M. Kasahara, T. Kato, T. Sagiya, K. Sato, and T. Matsushima	2004	Postseismic deformations associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake derived from dense GPS observation	Eos Trnas. AGU, 85(28), West. Pac. Geophys. Suppl., Abstract	G32A-02			1(2) ア					京大防災 研
Hashimoto, M., K. Onoue, F. Ohya, Y. Hoso, K. Segawa, K. Sato, and Y. Fujita	2005	Crustal deformations in Kii peninsula associated with the SE off Kii peninsula earthquake sequence of September 5, 2004 derived from dense GPS observations	Earth Planets Space	57	185-190	○	1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
Hashimoto, M., K. Onoue, F. Ohya, Y. Hoso, K. Sato, K. Segawa, and Y. Fujita	2004	Recent Crustal Deformations In Kii Peninsula, Southwest Japan Derived From Dense GPS Observations	Interplate Coupling And 2004 Earthquake Sequence SE Off Kii Peninsula, 2004 AGU Fall Meeting	G11A0770			1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
Hashimoto, M., N.Choosakul, M.Hashizume, S.Takemoto, H.Takiguchi, Y.Fukuda, and K.Fujimori	2005	A geodetic model for the 2004 Sumatra-Andaman earthquake derived from CGPS data	2nd International Workshop Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas Program and Abstracts	51-56			1(2) ア					京大防災 研
Hashimoto, M., N.Choosakul, M.Hashizume, S.Takemoto, H.Takiguchi, Y.Fukuda, and K.Fujimori	2004	Crustal deformations associated with the great Sumatra-Andaman earthquake deduced from continous GPS observation	APRU/AEARU Resaerch Symposium Earthquake Hazards around the Pacific Rim – Prediction and Disaster Prevention –	72			1(2) ア					京大防災 研
Hashimoto, M., N.Choosakul, M.Hashizume, S.Takemoto, H.Takiguchi, Y.Fukuda, and K.Fujimori	2006	Crustal deformations associated with the great Sumatra-Andaman earthquake deduced from continous GPS observation	Earth, Planet. Space	58	127-139	○	1(2) ア					京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 深い 議論 の項目	2番目 に 関連 深い 議論 の項目	3番目 に 関連 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Hashimoto, M., Y.Umeda, K.Onoue, F.Ohya, Y.Hoso, and K.Sato	2003	Interplate coupling derived from the GPS surveys in Kii peninsula and its implication to groundwater changes before the 1946 Nankai earthquake	2nd Taiwan-Japan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction		21-26		1(2) ア					京大防災研
Hashimoto, M., Y.Umeda, K.Onoue, F.Ohya, Y.Hoso, and K.Sato	2003	Interplate coupling derived from the GPS traverse across the hinge-line in Kii peninsula and its implication to preseismic changes in groundwater level before the 1946 Nankai earthquake	IUGG2003		JSG01/07P/A01-007		1(2) ア					京大防災研
Ito, T., and M.Hashimoto	2004	Spatiotemporal distribution of interplate coupling in southwest Japan from inversion of geodetic data	J. Geophys. Res.	109	10.1029/2002JB02358	○	1(2) ア	1(1) イ				京大防災研
Kobayashi, T., and M.Hashimoto	2004	Change of strain rate in the Kinki and Tokai districts induced by the Tokai slow slip event	APRU/AEARU Resaerch Symposium Earthquake Hazards around the Pacific Rim - Prediction and Disaster Prevention -		100		1(2) ア					京大防災研
Nishimura, S., and M. Hashimoto	2005	A simultaneous estimation of rigid block rotations and slip deficit rates from the GPS-derived velocity field in and around the Kinki district	Program and Abstracts: International Workshop Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas		113-116		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研
Takahashi, H., S.Nakao, N.Okazaki, J.Koyama, T.Sagiya, T.Ito, F.Ohya, K.Sato, Y.Fujita, M.Hashimoto, Y.Hoso, T.Kato, T.Iinuma, J.Fukuda, T.Matsushima, Y.Kono, and M.Kasahara	2004	GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (MJMA8.0), off southeastern Hokkaido, Japan	Earth, Planet. Space	56	377-382	○	1(2) ア					京大防災研
Takahashi, H., T. Kato, T. Sagiya, M. Hashimoto, T. Matsushima, and M. Kasahara	2004	Postseismic deformations following the 2003 Tokachi-oki earthquake detected by dense GPS observation	Eos Trnas. AGU, 85(47), Fall Meet. Suppl., Abstract		G12A-08		1(2) ア					京大防災研
伊藤武男	2003	Spatio-temporal distribution of interplate coupling in southwest Japan	京都大学大学院理学研究科博士学位論文				1(2) ア	1(1) イ				京大防災研
伊藤武男・橋本学	2003	日本列島の移動性地殻変動	月刊地球	25	114-119		1(2) ア					京大防災研
梅田康弘	2003	南海地震の前の井戸水の減少について	地震予知連絡会会報	70	423-428		1(2) ア					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論 の項目	2番 目 に 関 連 の 深い 議論 の項目	3番 目 に 関 連 の 深い 議論 の項目	主要 成 果 の 場 合、* 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
笠原稔・高橋浩晃・岡崎紀俊・中尾茂・鷺谷威・伊藤武男・大谷文夫・佐藤一敏・藤田安良・橋本学・細善信・加藤照之・飯沼卓史・福田淳一・松島健・河野祐希	2005	稠密GPS観測による2003年十勝沖地震の余効変動観測	月刊地球	号外 49	105-111		1(2) ア					京大防災研
重富國宏	2003	安政南海地震前の井水の減少	地震予知連絡会 会報	70	421-422		1(2) ア					京大防災研
渋谷拓郎	2002	レシーバ関数解析による紀伊半島南部の地殻およびスラブ構造	京都大学防災研 究所・研究集会1 3K-7報告書		271-277		1(2) ア					京大防災研
橋本学	2003	1980年代における東海地方の異常歪変化	月刊地球	号外 41	20-26		1(2) ア					京大防災研
橋本学	2003	地下水変化に対する前駆的すべりの断層モデル	地震予知連絡会 会報	70	402-403		1(2) ア					京大防災研
橋本学・N.Choosakul・橋爪道郎・竹本修三・瀧口博士・福田洋一・藤森邦夫	2005	GPS連続観測で得られたスマトラ地震に伴う地殻変動	東濃地震科学研 究所報告	16	93-105		1(2) ア					京大防災研
橋本学・大谷文夫・細善信・藤田安良・佐藤一敏	2004	十勝沖地震に伴う余効変動GPS観測暫定結果	地震予知連絡会 会報	71	188-190		1(2) ア					京大防災研
橋本学・尾上謙介・大谷文夫・細善信・藤田安良・佐藤一敏・瀬川紘平	2005	紀伊半島ヒンジラインGPS観測: プレート間カップリングと2004年紀伊半島南沖地震	京都大学防災研 究所年報	48B	157-166		1(2) ア					京大防災研
橋本学・尾上謙介・大谷文夫・細善信・藤田安良・瀬川紘平・佐藤一敏	2005	紀伊半島南東沖の地震GPS観測結果	地震予知連絡会 会報	73	543-548		1(2) ア					京大防災研
山口覚・谷川大政・上嶋誠・小河勉・村上英紀・大志万直人・塩崎一郎	2003	紀伊半島におけるネットワークMT観測(3)	第114回地球電磁 気・地球惑星圏学 会講演会予稿集		D31-P011		1(2) ア					京大防災研
伊藤武男・橋本学	2005	粘弾性媒質を仮定した西日本の測地データのインバージョンによるプレート境界におけるすべり/すべり欠損の時間変化の推定	大都市圏大震災 軽減化 特別プロジェクト I 地震動(強い揺 れ)の予測 「大都市圏地殻構 造調査研究」 (平成15年度成果 報告書)		655-662		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研
橋本学・Nithiwatthn Choosakul・橋爪道郎・竹本修三・瀧口博士・福田洋一・藤森邦夫	2006	GPS連続観測で得られたスマトラ地震に伴う地殻変動	地震予知連絡会 会報	75	625-636		1(2) ア					京大防災研
橋本学・大谷文夫・尾上謙介・細善信・佐藤一敏・藤田安良	2004	紀伊半島ヒンジラインGPSトラバース結果から推定されるプレート間カップリング	日本地震学会 2004年秋季大会 講演予稿集		42		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
橋本学・大谷文夫・小林知勝・佐藤一敏	2005	GPS観測データを用いた活断層等の 準静的パラメータの推定	大都市大震災軽 減化 特別プロジェクト I 地震動(強い揺 れ)の予測 「大都市圏地殻構 造調査研究」 (平成16年度成果 報告書)		576-585		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
橋本学・大谷文夫・尾上謙介・細善信・ 佐藤一敏・藤田安良	2005	紀伊半島ヒンジラインGPSトラバース結果から 推定されるプレート間カップリング	日本測地学会 第102回講演会要 旨		119-120		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
橋本学・尾上謙介・大谷文夫・細善信・ 藤田安良・佐藤一敏・瀬川紘平	2005	紀伊半島ヒンジラインGPS観測: プレート間カップリングと2004年紀伊半島南東沖地震	京都大学防災研 究所年報	48	157-166		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
橋本学・尾上謙介・大谷文夫・細善信・藤 田安良・佐藤一敏	2002	紀伊半島ヒンジラインGPS観測結果	地震予知連絡会 会報	68	408-410		1(2) ア	1(1) イ				京大防災 研
山口覚・上嶋誠・谷川大致・小河勉・ 村上英記・大志万直人・塩崎一郎	2005	紀伊半島の広域的な地下電気伝導度分布	2005年地球惑星 科学合同大会講 演予稿集		E011		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
山口覚・上嶋誠・谷川大致・小河勉・ 村上英記・大志万直人・塩崎一郎	2005	紀伊半島の広域的な地下電気伝導度構造(その1)	地球電磁気・地球 惑星圏学会 秋季大会講演予 稿集		D22-15		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
芝崎文一郎・飯尾能久・田中秀実	2003	断層深部で発生するゆっくり地震の物理機構について— 不安定—安定遷移領域の構成則—	月刊地球	25	803-808		1(2) ア	1(1) イ				京大防災 研
上嶋誠・山口覚・谷川大致・小河勉・村上 英記・大志万直人・塩崎一郎・藤田安良・ 小山茂	2004	紀伊半島におけるネットワークMT観測(続報)	平成15年度京都 大学防災研究所 研究発表講演会		D-31		1(2) ア					京大防災 研
上野友岳・澁谷拓郎・ 伊藤 潔	2006	西南日本におけるモホ不連続面と フィリピン海プレートの形状について	京都大学防災研 究所年報	49	323-330		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
上野友岳・澁谷拓郎・伊藤 潔	2005	レシーバ関数解析による西南日本の地下構造	京都大学防災研 究所年報	48	235-242		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
上野友岳・澁谷拓郎・土井一生・伊藤潔	2005	西南日本におけるモホ不連続面と フィリピン海プレートの形状について	2005年地球惑星 科学 関連学会合同学 会講演予稿集		S053-P015		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
西村宗・橋本学・大谷文夫・佐藤一敏	2005	西日本のGPS観測データ等を用いた活断層等の準静的パラメータの推定	大都市圏大震災軽減化特別プロジェクトⅠ地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」(平成15年度成果報告書)		627-636		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研
西村和浩・中尾節郎・三浦勉・辰己賢一・山崎友也・平野憲雄・澁谷拓郎・大見士朗・伊藤潔	2005	大大特による紀伊半島自然地震観測～観測システムとデータ処理の概要～	2005年地球惑星科学関連学会合同学会講演予稿集		S053-P014		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研
西村和浩・中尾節郎・辰己賢一・三浦勉・平野憲雄・山崎友也・富阪和秀・福嶋麻沙代・吉田義則・細善信・松浦秀起・澁谷拓郎・伊藤潔・大見士朗・廣瀬一聖・森下可奈子	2005	大大特:紀伊半島における自然地震観測～観測システムとデータ処理の概要～	京都大学防災研究所年報	48	269-277		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研
川崎一朗	2002	スロー地震とサイレント地震	AREA Mook 地震がわかる		64-66		1(2) ア	2(2) ウ	1(3) ア			京大防災研
川崎一朗	2002	サイレント地震 大地震の前に繰り返起こる	Science and Technology Journal	11	14-15		1(2) ア	2(2) ウ	1(3) ア			京大防災研
竹内文朗・大谷文夫・森井 互・尾上謙介・細 善信・和田安男・園田保美	2006	北陸観測所トンネルの伸縮計設置	京都大学防災研究所年報	49B	239-243		1(2) ア					京大防災研
長野 雄大・山口 寛・吉村 令慧・岡田 靖章・畑 真紀・小山 茂・上嶋 誠・大志万 直人	2006	紀伊半島の深部低周波微動発生域周辺の比抵抗構造(2)	日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集		E134		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
長野雄大・山口覚・吉村令慧・宇都智史・笠谷貴史・谷川大致・大志万直人	2005	紀伊半島低周波微動発生域周辺の比抵抗構造	地球電磁気・地球惑星圏学会 秋季大会講演予 稿集		D22-16		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
飯尾能久・松澤 暢・吉田真吾・加藤照之・平田 直	2003	非地震性すべりの時空間変化と大地震の発生予測—三陸沖における近年の進展を中心に—	地震2	56	213-229	○	1(2) ア					京大防災 研
澁谷拓郎・伊藤潔・大見士朗・西村和浩・中尾節郎・山崎友也・平野憲雄	2006	レシーバ関数解析による紀伊半島下のフィリピン海プレートのイメージング	平成17年度京大 防災研 研究発表講演会 予稿集		10		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
澁谷拓郎・伊藤潔・大見士朗・西村和浩・中尾節郎・平野憲雄・山崎友也・辰己賢一・三浦勉	2005	大大特:紀伊半島における自然地震観測—観測の目的と概要—	平成16年度 京大防災研 研究発表講演会 予稿		29		1(2) ア	2(1) イ	2(2) ウ			京大防災 研
澁谷拓郎・上野友岳・平原和朗	2006	時間拡張マルチテーパレシーバ関数推定法の改良	日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集		S118-002		1(2) ア					京大防災 研
岡野健之助・木村昌三・中村正夫	2002	1946年南海地震の震源の位置	高知大学学術研究報告	51	13-22		1(2) ア			*	昭和の南海地震の震源域である紀伊半島中部から四国中央部の震源分布を再決定して広範囲の震源分布を求め、その多重震源位置と現在の震源分布と比較から、多重震源位置は地殻地震とマントル最上部地震の震源分布が接するようになる付近である。高速度破壊域は四国西部まで及ぶことを提唱する。	高知大学
木村昌三・川谷和夫	2002	四国付近における地震活動と起震応力場	月刊地球号外	38	71-76		1(2) ア			*	四国付近に発生する地震の応力場と地震活動の経年変化を最近のデータを追加して調べた。P軸は地殻上部では東西方向が、マントル最上部では南北方向が卓越し、両者の方向が直交している傾向に変化はない。地殻地震の活動には低下が認められるものの南海地震前の極端な低下には至っていない。	高知大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番目 に 関連 の深い 議論の 項目	3番目 に 関連 の深い 議論の 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
久保篤規	2005	地震のメカニズム解からみたフィリピン海プレートの応力場	月刊地球	27	503-509		1(2) ア				広域に亘る沈み込むフィリピン海プレートには南北の水平最大圧縮、東西の水平最小圧縮の特徴的な応力場の可能性があり、南海道のプレート間地震断層近傍の応力場としては、固着等による地震サイクルの応力場変動以外に広域応力場も影響する可能性を指摘した。	高知大学
Shinohara, M., T. Yamada, T. Kanazawa, N. Hirata, Y. Kaneda, T. Takanami, H. Mikada, K. Suyehiro, S. Sakai, T. Watanabe, K. Uehira, Y. Murai, N. Takahashi, M. Nishino, K. Mochizuki, T. Sato, E. Araki, R. Hino, K. Uehira, H. Shiobara, and H. Shimizu	2004	Aftershock observation of the 2003 Tokachi-oki earthquake by using dense ocean bottom seismometer network	Earth Planets Space	56	295-300	○	1(2) ア					九州大学
Tahara, M., Shimizu, H., Nakada, M. and Y. Ito	2006	Focal depth distribution using sP depth phase and implications for plate coupling in the Hyuganada region, Japan	Phys. Earth Planet. Int.	155	219-235	○	1(2) ア			*	日向灘で発生する地震の震源と発震機構を depth phase (sP)を用いて再決定した。その結果、日向灘中央部では逆断層型(プレート境界型)の地震と正断層型の地震が空間的に住み分けて発生していることが示された。正断層型の地震は上盤側で発生している可能性が示唆され、その発生域は負の重力異常域(隆起域)の中心部に一致することから、これらの地震はマントルウェッジまたは地殻下部の浮力によって発生している可能性があると考えられる。	九州大学
Takahashi, H., S. Nakao, N. Okazaki, J. Koyama, T. Sagiya, T. Ito, F. Ohya, K. Sato, Y. Fujita, M. Hashimoto, Y. Hoso, T. Kato, T. Iinuma, J. Fukuda, T. Matsushima, Y. Kohno, M. Kasahara	2004	GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (M JMA 8.0), off southeastern Hokkaido, Japan	Earth Planets Space	56	377-382	○	1(2) ア					九州大学
山田知朗・篠原雅尚・金沢敏彦・平田直・金田義行・高波鉄夫・三ヶ田均・末広 潔・酒井慎一・渡辺智毅・植平賢司・村井芳夫・高橋成実・西野 実・望月公広・佐藤 壮・荒木英一郎・日野亮太・宇平幸一・塩原 肇・清水 洋	2005	稠密海底地震観測による2003年十勝沖地震の余震分布	地震	57	281-290	○	1(2) ア					九州大学
Takahashi, H., S. Nakao, N. Okazaki, J. Koyama, T. Sagiya, T. Ito, F. Ohya, K. Sato, Y. Fujita, M. Hashimoto, Y. Hoso, T. Kato, T. Iinuma, J. Fukuda, T. Matsushima, Y. Kono and M. Kasahara	2004	GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (Mjma8.0), off southeastern Hokkaido, Japan	Earth Planets Space	56	377-382	○	1(2) ア					鹿児島大学
角田寿喜・後藤和彦	2002	九州-南西諸島北部域の地震活動とテクトニクス	地震、第2輯	55	317-336	○	1(2) ア	1(1) ア				鹿児島大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合 、* 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
角田寿喜・後藤和彦 ・八木原寛・宮町宏樹	2003	沖縄トラフ北部域の浅発地震から見た伸張テクトニクス	東京大学地震研 究所特定共同研 究(B)報告書「九 州・琉球背弧の深 部構造とテクトニ クスの研究」		45-56		1(2) ア					鹿児島大 学
後藤和彦	2003	南西諸島域におけるカップリング研究の重要性	京都大学防災研 究所研究集会 14K-04		45-57		1(2) ア					鹿児島大 学
Hirose, H., and Obara, K.	2005	Repeating short-and long-term slow slip events with deep tremor activity around Bungo channel region southwest Japan	Earth Planes and Space	57	961-972	○	1(2) ア					防災科研
Hirose, H., K. Obara	2006	Short-term slow slip and correlated tremor episodes in the Tokai region, central Japan	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026579	○	1(2) ア					防災科研
M. Imoto	2004	Enhancement of the short-term probability of large earthquakes with a foreshock model and verification test	Earthq Planets Space	56	741-748	○	1(2) ア	2(3) ア				防災科研
M. Imoto	2004	Probability gains expected for renewal process models	Earthq Planets Space	56	563-571	○	1(2) ア	2(3) ア				防災科研
M. Imoto	2002	A testable model of earthquake probability based on changes in mean event size	J. Geophys. Res.	108	ESE7-1-ESE7-12	○	1(2) ア	2(3) ア				防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 議論の 項目	2番目 に 関連 の深い 議論の 項目	3番目 に 関連 の深い 議論の 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
M. Imoto	2005	Use of potential foreshocks to estimate the short-term probability of large earthquakes, Tohoku Japan	Pure and Applied Geophysics	162	1309-1318	○	1(2) ア	2(3) ア				防災科研
M. Imoto & N. Yamamoto	2006	Verification test of the event size model for moderate earthquakes in the Kanto region, central Japan	Tectonophysics	417	131-140	○	1(2) ア	2(3) ア			関東地域で起きるM5~6の中規模地震の前には、震源域を囲むエリアでの微小地震の発生様式が変化する。特に、マグニチュード分布を規定するb値の変化をモニターすることで、中規模地震の発生確率が有意に増大することをつきとめた。	防災科研
M. Imoto, S. Wiemer & T. Matsuzawa	2006	Asperity, repeating earthquakes and probabilistic prediction: New aspects of seismic activity in Kanto Tokai, Japan	Tectonophysics	417	1-3	○	1(2) ア	2(2) イ				防災科研
M. M. Slim, M. Imoto & N. Hurukawa	2002	Statistical investigation of reservoir-induced seismicity in Aswan area	Egypt Earth Planets Space	54	349-356	○	1(2) ア					防災科研
Obara, K.	2002	Nonvolcanic deep tremor associated with subduction in southwest Japan	Science	296	1679-1681	○	1(2) ア			*	西南日本の地下深部約30kmにおいて、通常の地震とは異なり、振幅が微弱で継続時間の非常に長い振動現象が発生していることが発見された。この現象は深部低周波微動と呼ばれ、沈み込むフィリピン海プレートの形状と平行に長野県から豊後水道までの約600kmの範囲に分布し、その発生には流体が関与すると考えられる。この発見は、全国的に稠密に展開された高感度地震観測網Hi-netによるものである。	防災科研
Obara, K., Hirose, H., Yamamizu, F., and Kasahara, K.	2004	Episodic slow slip events accompanied with non-volcanic tremors in southwest Japan subduction zone	Geophysical research Letters	31	L23602 doi:10.1029/2004GL020848	○	1(2) ア				四国西部に発生する深部低周波微動に伴い、プレート境界深部において上盤側がトラフの方向にゆっくりすべるスロースリップが同時に発生していることが、Hi-netに併設されている傾斜計記録から明らかになった。すべりの継続時間は数日程度と東海地域で発生しているスロースリップに比べると非常に短い。また、活動期間中、微動やスロースリップ源は、沈み込むプレートの等深線に沿って水平方向に移動する現象が見られた。	防災科研
Obara, K. and H. Hirose	2006	Non-volcanic deep low-frequency tremors accompanying slow slips in the southwest Japan subduction zone	Tectonophysics	417	33-51	○	1(2) ア					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ohmi,S. and K.Obara	2002	Deep low-frequency earthquakes beneath the focal region of the Mw 6.7 2000 Western Tottori earthquake	Geophysical Research Letters	29	541-544	○	1(2) ア					防災科研
S. Nishimura, M. Ando & K. Tadokoro	2005	An application of numerical simulation techniques to improve the resolution of offshore fault kinematics using seafloor geodetic methods	Phys. Earth Planet. Inter.	151	181-193	○	1(2) ア	2(3) ア				防災科研
S. Nishimura, M. Hashimoto & M. Ando	2004	A rigid block rotation model for GPS derived velocity field along the Ryukyu arc	Phys. Earth Planet. Inter.	142	185-203	○	1(2) ア	2(3) ア				防災科研
岡田義光	2003	断層モデルによる地表上下変動のパラドックス	測地学会誌	49	99-119	○	1(2) ア					防災科研
小原一成	2004	西南日本沈み込み帯に発生する深部低周波微動	物理探査	56	415-425	○	1(2) ア					防災科研
関口涉次・飯尾能久・大見士朗・伊藤久男・堀内茂木	2004	稠密地震観測データを用いた長野県西部地域の3次元速度構造とその時間変化の可能性	地震2	57	55-61	○	1(2) ア					防災科研
小原一成	2002	深部低周波微動の発見	サイスモ	62	5-7		1(2) ア					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
小原一成	2002	深部低周波微動—地球科学の新たな謎—	なみふる	30	1-2		1(2) ア					防災科研
小原一成	2002	西南日本で発見された深部微動	科学	834	229-232		1(2) ア					防災科研
小原一成	2003	西南日本における深部低周波微動の時空間的特徴	月刊地球	290	788-794		1(2) ア					防災科研
小原一成	2005	西南日本の沈み込み帯で発生する低周波イベント	月刊地球	313	547-552		1(2) ア					防災科研
小原一成	2004	深部低周波微動の時系列的特徴—トリガー現象と周期性—	地学雑誌	112	837-849	○	1(2) ア					防災科研
小原一成	2002	西南日本で発見された深部低周波微動	地震ジャーナル	33	18-26		1(2) ア					防災科研
松村正三	2005	前兆としての地震活動変化は何故、静穏化なのか？	地震2	57	441-444	○	1(2) ア	2(2) イ				防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Baba, T., Cummins, P. R.	2005	Contiguous rupture areas of two Nankai Trough earthquakes revealed by high-resolution tsunami waveform inversion	Geophysical Research Letter	32	doi:1029/2004/GL022320	○	1(2) ア			*	南海・東南海地震による津波データの解析から、破壊域の詳細な分布を求めた。その結果、二つの地震の破壊域は明瞭に別れており、破壊域境界は潮岬から南東方向に伸びることを明らかにした。	海洋機構
Baba, T., P.R. Cummins, and T. Hori	2005	Compound fault rupture during the 2004 off the Kii Peninsula earthquake (Mjma 7.4) inferred from highly resolved coseismic sea-surface deformation	Earth Planets Space	7	167-172	○	1(2) ア					海洋機構
Hori, T.	2006	Mechanisms of separation of rupture area and variation in time interval and size of great earthquakes along the Nankai Trough, southwest Japan	J. Earth Simulator	5	8-19	○	1(2) ア				南海トラフ沿いのプレート境界巨大地震の破壊開始位置、発生間隔や規模の変化のメカニズムを、プレート形状やプレート速度、構造不均質の影響を取り込んだ大規模シミュレーションで明らかにした。	海洋機構
Hori, T., H. Sakaguchi, N. Yoshioka, Y. Kaneda	in press	Shear resistance reduction due to vibration in simulated fault gouge	AGU Monograph, Radiated Energy and the Physics of Earthquake Faulting			○	1(2) ア				地震波による断層すべりの誘発現象のメカニズムを調べるため、模擬断層ガウジの剪断中に弾性波を入れる実験を行った。その結果わずかなエネルギーでも剪断抵抗が低下し、すべり速度が加速することが明らかになるとともに、そのメカニズムが単純なクーロン摩擦では説明できないこともわかった。	海洋機構
Hori, T., N. Kato, K. Hirahara, T. Baba and Y. Kaneda	2004	A numerical simulation of earthquake cycles along the Nankai trough, southwest Japan: Lateral variation in frictional property due to the slab geometry controls the nucleation position	Earth and Planetary Science Letters	228	215-226	○	1(2) ア				南海トラフ全域を対象とした大規模地震発生サイクルシミュレーションを始めて実現し、プレート形状と沈み込み速度の不均質によって、紀伊半島沖から破壊が始まり易いことを示した。	海洋機構
Kodaira, S., Iidaka, T., Kato, A., Park, J.-O., Iwasaki, T., Kaneda, Y.	2004	High pore fluid pressure may cause silent slip in the Nankai Trough	Science	304	1295-1298	○	1(2) ア			*	地下構造探査の結果から東海スロースリップ域には高間隙水圧帯があることを明らかにし、その結果からスロースリップ域のプレート境界面摩擦特性を推定した。	海洋機構
Kodaira, S., Iidaka, T., Nakanishi, A., Park, J.-O., Iwasaki, T., Kaneda, Y.	2005	Onshore-offshore seismic transect from the eastern Nankai Trough to central Japan crossing a zone of the Tokai slow slip event	Earth Planets Space	57	943-959	○	1(2) ア				東海沖から能登半島にいたる海陸統合地震探査データの解析を行った。その結果、東海沖には沈み込んだ海嶺が存在することを明らかにした。さらに、東海スロースリップ域では海洋地殻上面が非常に強い反射面とした確認され、その直下では高いポアソン比を示すことを明らかにした。	海洋機構

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 建論の項目	2番目に 関連の深い 建論の項目	3番目に 関連の深い 建論の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kodaria, S., Hori, T., Ito, A., Miura, S., Fujie, G., Park, J.-O. Baba, T., Sakaguchi, H., Kaneda, Y.	in press	A cause of rupture segmentation and synchronization in the Nankai trough revealed from seismic imaging and numerical simulation	Journal of Geophysical Research			○	1(2)ア			*	南海トラフ沿いの巨大地震のセグメント境界の中でもっとも主要な紀伊半島付近の構造不均質を明らかにするとともに、その不均質を摩擦特性に置き換えて地震サイクルシミュレーションをすることで過去の地震発生パターンを再現した。	海洋機構
Obana, K., Kodaira, S., Kaneda, Y	2005	Seismicity in the incoming/subducting Philippine Sea plate off the Kii Peninsula, central Nankai trough	Journal of Geophysical Research	110	doi:10.1029/2004/JB003487	○	1(2)ア				東南海地震破壊域での高密度地震計アレー観測により、破壊域周辺で起きる微小地震の震源メカニズムを明らかにした。この結果、トラフ軸付近では沈み込み方向に直行するテンション軸を示し、紀伊半島のしたでは沈み込み方向に対して圧縮軸を持つメカニズムを得た。	海洋機構
Obana, K., Kodaira, S., Kaneda, Y.	2004	Microseismicity around rupture area of the 1944 Tonankai earthquake from ocean bottom seismograph observations	Earth and Planetary Science Letters	222	561-572	○	1(2)ア				東南海地震破壊域での微小地震観測の結果から、トラフ軸付近では地震活動比較的高いが、主破壊域付近の定常的微小地震活動はきわめて低いことを明らかにした。	海洋機構
堀 高峰・兵藤 守・平原和朗	2004	3次元不均質粘弾性媒質中の断層系における大規模地震 サイクルシミュレーション実現に向けて	物理探査	57	639-649	○	1(2)ア					海洋機構
Toda S, Matsumura S	2006	Spatio-temporal stress states estimated from seismicity rate changes in the Tokai region, central Japan	Tectonophysics	417	53-68	○	1(2)ア	1(2)エ		*	微小地震から応力状態を推定する方法を東海地域に適用し、プレート境界周辺の微妙な応力蓄積・解放過程を定量的に時空間解析した。その結果、2000年以降進行しているスロースリップに伴う応力変動を検出し、東海地震発生域で応力集中が進行していることを明らかにした。また、同じパターンの応力変動の検出から1980年代に2回小規模なスロースリップが発生していたことがわかった。	産業技術総合研究所
Makoto Murakami, H. Suito, S. Ozawa and M. Kaizu	2006	Earthquake triggering by migrating slow slip initiated by M8 earthquake along Kuril Trench, Japan	Geophys. Res. Lett	33-9	10.1029/2006GL025967 11 May 2006L09306	○	1(2)ア	1(1)ア		*	北海道東方沖で2004年11月、12月に発生したM7前後の2つの地震に先行したスロースリップが、GPS連続観測で記録された。GPSデータは、来るべき地震の破壊域周辺でのスロースリップが上記の2つの地震をトリガーしたことを支持する。このエピソード的なスロースリップは、2003年9月の十勝沖地震(M8)によってトリガーされた。これは、大地震の後に続く地震のトリガリングメカニズムの測地学的証拠である。測地データは、コサイスマックな静的応力増加にのみ依存する大地震後の地震発生予測についての信頼度を高めることができるだろう。	国土地理院
Takuya Nishimura, T. Hirasawa (ADEP), S. Miyazaki (ERI), T. Sagiya (Nagoya Univ.), T. Tada, S. Miura (Tohoku Univ.) and K. Tanaka (Hiroaki Univ.)	2003	Temporal change of interplate coupling in northeastern Japan during 1995-2002 estimated from continuous GPS observations (1995-2002年におけるGPS連続観測より明らかになった東北日本のプレート間カップリングの時間変化)	Geophysical Journal International	157	901-916	○	1(2)ア	2(2)エ				国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
国土地理院	2003	地球磁気観測報告	国土地理院技術資料	B4-23			1(2)ア					国土地理院
宇津木充・白井宏樹・渡辺政幸・紀小麗・何金欄・錦輝明・濱崎英夫・藤原智	2003	日本及びその周辺における磁場経年変化のRegional Model	国土地理院時報	102	11, 19		1(2)ア					国土地理院
関口辰夫・佐藤浩	2006(in press)	新潟県中越地震における斜面崩壊と分布	地すべり学会誌	(in press)	(in press)	○	1(2)ア					国土地理院
紀小麗・白井宏樹・渡辺政幸・何金欄・中川弘之・宇津木充	2003	連続観測データによる日本周辺域の地磁気モデルの構築	国土地理院時報	103	89, 97		1(2)ア					国土地理院
西村 卓也	2006	測地データによる1952年十勝沖地震の断層モデル	月刊地球	28-7	441-447		1(2)ア	1(1)ア				国土地理院
A. Yoshida, K. Hosono, T. Tsukakoshi, A. Kobayashi, H. Takayama and S. Wiemer	2006	Change in seismic activity in the Tokai region related to weakening and strengthening of the interplate coupling	Tectonophysics	417	17-31	○	1(2)ア					気象庁
Yoshihiro Matsumoto 他	in press	Undersea co-seismic crustal movements associated with the 2005 Off Miyagi Prefecture Earthquake detected by GPS/Acoustic seafloor geodetic observation	Earth, Planet. Space			○	1(2)ア	3(1)		*	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測により2005年宮城沖の地震に伴う変位を捉えた。この観測により得られた変位は、矩形断層モデルによる計算値と調和的である。	海上保安庁
藤田雅之	2006	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測～海上保安庁の取り組み(レビュー)～	海洋情報部研究報告	42	1月14日	○	1(2)ア	3(1)		*	海上保安庁のGPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測の取り組みについて、2000年以降の進捗状況を、特にデータ解析手法の開発及び観測成果に重点を置き、まとめた。観測精度についてはそれぞれの要素技術の改良により数cmの海底局位置決定精度が達成されている。また、観測結果については宮城県沖における太平洋プレート沈み込みの影響によるプレート内変動などが捉えられている。	海上保安庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Nakao, S., H. Takahashi, T. Matsushima, Y. Kohno and M. Ichiyanagi	In press	Postseismic deformation following the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (M7.0) derived by GPS observation	Earth Planets Space			○	1(2)イ					北海道大学
Takahashi, H., T. Matsushima, T. Kato, A. Takeuchi, T. Yamaguchi, Y. Kohno, T. Katagi, J. Fukuda, K. Hatamoto, R. Doke, Y. Matsu'ura, and M. Kasahara	2005	A dense GPS observation immediately after the 2004 mid-Niigata prefecture earthquake	Earth Planets Space	57	661-665	○	1(2)イ					北海道大学
Uyeshima, M., Y. Ogawa, Y. Honkura, S. Koyama, N. Ujihara, T. Mogi, Y. Yamaya, M. Harada, S. Yamaguchi, I. Shiozaki, T. Noguchi, Y. Kuwaba, Y. Tanaka, Y. Mochido, N. Manabe, M. Nishihara, M. Saka and M. Serizawa,	2005	Resistivity imaging across the source region of the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan	Earth Planets Space,	57	441-446	○	1(2)イ	1(3)ア				北海道大学
市原 寛、茂木 透、山谷祐介、神山裕幸、小川康雄	2006	北海道東部弟子屈地域における広帯域MT観測および重力測定	北海道大学地球物理学研究報告	69	233-255		1(2)イ	1(2)ウ				北海道大学
上田満治・高橋浩晃	2005	2003年十勝沖地震による北海道東部火山フロントに沿った誘発地震活動と静的応力変化との関連性	地震Ⅱ	58	115-119	○	1(2)イ					北海道大学
大志万直人, 吉村令慧, 上嶋誠, 藤浩明, 兼崎弘憲, 望戸裕司, 中尾節郎, 小山茂, 相澤広記, 西谷忠師, 宇都智史, 桑波吉弘, 田中嘉一, 和田安男, 藤田安良, 坂中伸也, 小川康雄, 本藏義守, 氏原直人, 三品正明, 後藤忠徳, 笠谷貴史, 佐藤秀幸, 山口寛, 長野雄大, 村上英記, 塩崎一郎, 茂木透, 山谷裕介, 原田誠, 松浦有紀, 森谷辰輝, 笠見弘昌, 畑真紀	2005	歪集中帯周辺(跡津川断層)での広帯域MT観測による深部比抵抗構造(序報)	京都大学防災研究所年報	48	125-132		1(2)イ	1(3)ア				北海道大学
Kosuga, M. and Y. Senda	2004	Scattering characteristics beneath the Iwate Volcano, northeast Japan, estimated from array analyses of seismic waves from active sources	Proceedings of the International Workshop on Active Monitoring in the Solid Earth Geophysics		285-289		1(2)イ					弘前大学
Kumar, S. and T. Sato	2003	Compressional and shear wave velocities in the crust beneath the Garhwal Himalaya, North India	Himalayan Geology	24	77-85	○	1(2)イ					弘前大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Negishi, H., J. Mori, T. Sato, R. Singh, S. Kumar, N. Hirata	2002	Size and orientation of the fault plane for the 2001 Gujarat, India earthquake (Mw 7.7) from aftershock observations: A high stress drop event	Geophys. Res. Lett.	29	1949, doi:10.1029/2002GL015280	○	1(2) イ					弘前大学
Negishi, H., S. Kumar, J. Mori, T. Sato, P. Bodin, and B.K. Rastogi	2002	Tomographic velocity model for the aftershock region of the 2001 Gujarat, India earthquake	Proceedings of 12th Symposium on Earthquake Engineering	1	29-37	○	1(2) イ					弘前大学
Rao, P., T. Tsukuda, M. Kosuga, S. C. Bhatia and G. Suresh	2002	Deep lower crustal earthquakes in central India: inferences from analysis of regional broadband data of the 1997 May 21, Jabalpur earthquake	Geophys. J. Int.	148	132-138	○	1(2) イ					弘前大学
三浦英俊・長谷見晶子・小菅正裕・海野徳仁・長谷川昭	2003	鬼首地域(宮城・秋田県境付近)におけるコーダ波減衰-近接する観測点間にみられる違い-	地震2	55	351-359	○	1(2) イ					弘前大学
Asano, Y., K. Obara, J. Nakajima, and A. Hasegawa	2004	Inhomogeneous crustal structure beneath northern Miyagi prefecture, northeastern Japan, imaged by coda envelope inversion: Implication for fluid distribution	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2004GL021261	○	1(2) イ					東北大学
Asano, Y., A. Hasegawa, and K. Obara	2004	Imaging inhomogeneous crustal structure based on coda envelope inversion	Proceedings of the 1st International Workshop on Active Monitoring in the Solid Earth Geophysics		S6-P01		1(2) イ					東北大学
Asano, Y., and A. Hasegawa	2004	Imaging the fault zones of the 2000 Western Tottori earthquake by a new inversion method to estimate 3-D distribution of scattering coefficient	J. Geophys. Res.	109	10.1029/2003JB002761	○	1(2) イ					東北大学
Baris, S., J. Nakajima, A. Hasegawa, Y. Honkura, A. Ito, and S. B. Ucer	2005	Three-dimensional structure of Vp, Vs and Vp/Vs in the upper crust of the Marmara region, NW Turkey	Earth, Planet. Space	57	1019-1038	○	1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Hasegawa, A	2004	Deep structure of northeastern Japan and its implications for shallow seismic and volcanic activity	Proceedings of the 7th SEGJ International Symposium		39-44		1 (2) イ					東北大学
Hasegawa, A., J. Nakajima, N. Umino, and S. Miura	2005	Deep structure of the northeastern Japan arc and its implications for crustal deformation and shallow seismic activity	Tectonophysics	403/ 1-4	59-75	○	1 (2) イ			*	東北地方の詳細な三次元地震波速度構造の推定により、火山フロントに沿ってモホ面直下に部分溶融域が存在することが明らかになった。その分布は、GPSデータの解析によって推定された東西短縮の歪速度が周囲に比べ大きい領域とほぼ一致する。これらの観測事実に基づき、モホ面直下の部分溶融域周辺で非弾性変形が卓越し、結果としてその直上の脆性領域に応力が集中するという島弧変形概念モデルを提唱した。	東北大学
Hasegawa, A., and J. Nakajima	2004	Geophysical constraints on slab subduction and arc magmatism	AGU Geophys. Monograph	150	81-94		1 (2) イ					東北大学
Ito A., B. Ucer, S. Baris, A. Nakamura, Y. Honkura, T. Kono, S. Hori, A. Hasegawa, R. Pektas, and A. M. Isikara	2002	Aftershock activity of 1999 Izmit earthquake, Turkey, revealed from microearthquake observations	Bull. Seismol. Soc. Am.	92	418-427	○	1 (2) イ					東北大学
King, C.-Y., and G. Igarashi	2002	Earthquake-related Hydrologic and Geochemical Changes	International Handbook of earthquake and engineering seismology		637-646		1 (2) イ					東北大学
Komazawa, M., and M. Mishina	2002	Caldera structure from gravity anomalies west of Nagamachi-rifu Fault, Northeast Japan	Earth, Planet. Space	54	1049-1053	○	1 (2) イ					東北大学
Miura, S., T. Sato, K. Tachibana, Y. Satake, and A. Hasegawa	2002	Strain accumulation in and around Ou Backbone range, northeastern Japan as observed by a dense GPS network	Earth, Planet. Space	54	1071-1076	○	1 (2) イ					東北大学
Miura, S., T. Sato, A. Hasegawa, Y. Suwa, K. Tachibana, and S. Yui	2004	Strain concentration zone along the volcanic front derived by GPS observations in NE Japan arc	Earth, Planet. Space	56	1347-1355	○	1 (2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 議論の項目	2番目に 関連の深い 議論の項目	3番目に 関連の深い 議論の項目	主要 成果の 場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Miura, S., Y. Suwa, T. Sato, K. Tachibana, and A. Hasegawa	2004	Slip distribution of the 2003 northern Miyagi earthquake (M6.4) as deduced by geodetic inversion	Earth, Planet. Space	56	95-101	○	1(2) イ					東北大学
Nakajima J., and A. Hasegawa	2003	Tomographic imaging of seismic velocity structure in and around the Onikobe volcanic area, northeastern Japan: implications for fluid distribution	J. Volcanol. Geotherm. Res.	127	1-18	○	1(2) イ					東北大学
Nakajima, J., A. Hasegawa, S. Horiuchi, K. Yoshimoto, T. Yoshida, and N. Umino	2006	Crustal heterogeneity around the Nagamachi-Rifu fault, northeastern Japan, as inferred from travel-time tomography	Earth, Planet. Space	58	843-853	○	1(2) イ					東北大学
Nakajima, J., and A. Hasegawa	2004	Shear-wave polarization anisotropy and subduction-induced flow in the mantle wedge of northeastern Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	225	365-377	○	1(2) イ	1(1) イ				東北大学
Nakajima, J., and A. Hasegawa	2003	Estimation of thermal structure in the mantle wedge of northeastern Japan from seismic attenuation data	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2003GL017185	○	1(2) イ	1(1) イ				東北大学
Nakajima, J., J. Shimizu, S. Hori, and A. Hasegawa	2006	Shear-wave splitting beneath the southwestern Kurile arc and northeastern Japan arc: A new insight into mantle return flow	Geophys. Res. Lett.	33	10.1029/2005GL025053	○	1(2) イ	1(2) ア		*	東北・北海道においてS波スプリッティング解析を行い、速いS波の振動方向の空間変化を明らかにした。得られた速いS波の振動方向は、プレートの最大傾斜の方向にほぼ並行であり、プレートの運動方向とは一致しない。この結果は、異方向性がマントルウエッジ内の対流(上昇流)によるオリビンの選択配向で生じているならば、上昇流はプレートの最大傾斜方向に平行に形成されることを示唆している。	東北大学
Nakajima, J., T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2002	Moho depth variation in the central part of northeastern Japan estimated from reflected and converted waves	Phys. Earth. Planet. Inter.	130	31-47	○	1(2) イ					東北大学
Nakajima, J., Y. Takei, and A. Hasegawa	2005	Quantitative analysis of the inclined low-velocity zone in the mantle wedge of northeastern Japan: A systematic change of melt-filled pore shapes with depth and its implications for melt migration	Earth Planet. Sci. Lett.	234	59-70	○	1(2) イ	1(1) イ		*	東北地方のマントルウエッジに見出された沈み込む太平洋スラブにほぼ平行な低速度域について、定量的な解釈を行い流体の体積分率を推定した。その結果、低速度域内に0.1-数vol%のメルトが存在し、深さ90km付近ではメルトは粒界に、深さ40km付近ではメルトはクラックまたはダイクとして分布していることが明らかになった。マントルウエッジの低速度域は島弧マグマ活動と密接に関係していることを示唆している。	東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Nakamura A., A. Hasegawa, A. Ito, B. Ucer, S. Baris, Y. Honkura, T. Kono, S. Hori, and R. Pektaş, T. Komut, C. Celik, and A. M. Isikara	2002	P-wave velocity structure of the crust and its relations to the occurrences of the 1999 Izmit, Turkey earthquake and aftershocks	Bull. Seismol. Soc. Am.	92	330-338	○	1(2) イ					東北大学
Nakamura A., Y. Asano, and A. Hasegawa	2002	Estimation of deep fault geometry of the Nagamachi-Rifu fault from seismic array observations	Earth, Planet. Space	54	1027-1031	○	1(2) イ					東北大学
Nakamura, A., A. Hasegawa, N. Hirata, T. Iwasaki, and H. Hamaguchi	2002	Temporal variations of seismic wave velocity associated with 1998 M6.1 Shizuikuishi earthquake	Pure Appl. Geophys.	159	1183-1204	○	1(2) イ					東北大学
Nishida, Y., Y. Sugisaki, K. Takahashi, M. Utsugi, and H. Oshima	2004	Tectonomagnetic study in the eastern part of Hokkaido, NE Japan: Discrepancy between observed and calculated results	Earth, Planet. Space	56	1049-1058	○	1(2) イ					東北大学
Okada, T., N. Umino, T. Matsuzawa, J. Nakajima, N. Uchida, T. Nakayama, S. Hirahara, T. Sato, and S. Hori, T. Kono, Y. Yabe, K. Ariyoshi, S. Gamage, J. Shimizu, J. Suganomata, S. Kita, S. Yui, M. Arao, S. Hondo, T. Mizukami, H. Tsushima, T. Yaginuma, A. Hasegawa, Y. Asano	2005	Aftershock distribution and 3D seismic velocity structure in and around the focal area of the 2004 mid Niigata prefecture earthquake obtained by applying double-difference tomography to dense temporary seismic network data	Earth, Planet. Space	57	435-440	○	1(2) イ	1(2) イ				東北大学
Research Group for Explosion Seismology	2002	Seismic Refraction/Wide-angle Reflection Experiment across the Hidaka Collision Zone, Hokkaido (Ohtaki-Urahoro Profile)	Bull. Earthq. Res. Inst.	77	139-172		1(2) イ					東北大学
Research Group for Explosion Seismology	2002	Seismic Refraction/Wide-angle Reflection Experiment across the Foreland Area of the Hidaka Collision Zone, Hokkaido, Japan (Ohtaki-Biratori Profile)	Bull. Earthq. Res. Inst.	77	173-198		1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sato H., T. Imaizumi, T. Yoshida, H. Ito, and A. Hasegawa	2002	Tectonic evolution and deep to shallow geometry of Nagamachi-Rifu Active Fault System, NE Japan	Earth, Planet. Space	54	1039-1043	○	1(2) イ					東北大学
Sato, H., T. Yoshida, T. Iwasaki, T. Sato, Y. Ikeda, and N. Umino	2004	Late Cenozoic tectonic development of the back arc region of central northern Honshu, Japan, revealed by recent deep seismic profiling	石油技術協会誌	69	145-154		1(2) イ					東北大学
Smaglichenko T. A., A. V. Nikolaev, S. Horiuchi, and A. Hasegawa	2003	The method of consecutive subtraction of selected anomalies and its application to the study of 3-D velocity structure in the Onikobe (M 5.9) earthquake area (1996), northeastern Japan	Geophys. J. Int.	153	627-644	○	1(2) イ					東北大学
Umino N., T. Okada, and A. Hasegawa	2002	Foreshock and aftershock sequence of 1998 M5.0 Sendai, northeastern Japan, earthquake and Its Implications for earthquake nucleation	Bull. Seismol. Soc. Am.	92	2465-2477	○	1(2) イ					東北大学
Umino, N. T. Okada, J. Nakajima, S. Hori, T. Kono, T. Nakayama, N. Uchida, J. Shimizu, and J. Suganomata, S. S. N. Gamage, A. Hasegawa, Y. Asano	2003	Hypocenter and focal mechanism distributions of aftershocks of July 26 2003 M6.4 northern Miyagi, NE Japan, earthquake revealed by temporary seismic observation	Earth, Planet. Space	55	719-730	○	1(2) イ					東北大学
Umino, N., and A. Hasegawa	2002	Inhomogeneous structure of the crust and its relationship to earthquake occurrence, in Seismotectonics in Convergent Plate Boundary (eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida)	Terrapub		225-235		1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Umino, N., H. Ujikawa, S. Hori, and A. Hasegawa	2002	Distinct S-wave reflectors (bright spots) detected beneath the Nagamachi-Rifu fault, NE Japan	Earth, Planet. Space	54	1021-1026	○	1(2) イ					東北大学
Yoshimoto, K., H. Fujisawa, T. Okada, N. Umino, A. Hasegawa, K. Obara, K. Shiomi, H. Tsukahara, and S. Okamoto, T. Kawanaka, H. Sato, T. Nishimura, H. Sato, M. Ohtake	2004	Moho and Philippine Sea plate structure beneath central Honshu Island, Japan, from teleseismic receiver functions	Earth, Planet. Space	56	1271-1277	○	1(2) イ	1(1) イ				東北大学
岡田知己, 海野徳仁, 松澤暢, 中島淳一, 内田直希, 中山貴史, 平原聡, 佐藤俊也, 堀修一郎, 河野俊夫, 柳沼直, 長谷川昭, 浅野陽一, H. Zhang, C. H. Thurber	2005	稠密余震観測データを用いたダブル・ディファレンス・トモグラフィー法による2004年新潟県中越地震の震源断層のイメージング	地震, 第2輯	58	283-295	○	1(2) イ					東北大学
岡田知己, 海野徳仁, 松澤暢, 中島淳一, 内田直希, 中山貴史, 平原聡, 柳沼直, 長谷川昭・Zhang Haijiang・Thurber Clifford H.	2005	DDトモグラフィによって推定された2004年新潟県中越地震の断層の微細構造	月刊地球	53	2-10		1(2) イ					東北大学
海野徳仁, 岡田知己, 中島淳一, 堀修一郎, 河野俊夫, 中山貴史, 内田直希, 迫田浩司, 清水淳平・菅ノ又淳一・N.G.Sunil Shantha・長谷川昭・浅野陽一	2005	稠密地震観測に基づく2003年宮城県北部地震の余震分布とメカニズム解分析	月刊地球	27	81-85		1(2) イ					東北大学
海野徳仁, 岡田知己, 中島淳一, 堀修一郎, 河野俊夫, 中山貴史, 内田直希, 清水淳平, 菅ノ又淳一・ガマゲシヤンタ・仁田交市・矢部康男・迫田浩司・佐藤凡子・伊藤実・長谷川昭・浅野陽一・長谷見晶子・出町知嗣・矢島良紀	2004	余震観測から推定した2003年7月26日宮城県北部地震(M6.4)の余震の震源とメカニズム解の分布	地震, 第2輯	56	425-434	○	1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
海野徳仁, 中島淳一, 岡田知己, 長谷川昭, 吉本和生, 井川猛	2005	長町-利府断層およびその周辺域の地震学的構造について	月刊地球	50	58-64		1(2) イ					東北大学
吉田武義, 中島淳一, 長谷川昭, 佐藤比呂志, 長橋良隆, 木村純一, 田中明子, Prima, O.D.A., 大口健志	2005	後期新生代, 東北本州弧における火成活動史と地殻・マントル構造	第四紀研究	44	195-216		1(2) イ					東北大学
弘瀬冬樹, 中村綾子, 中島淳一, 長谷川昭	2002	東北日本弧下のマグマ供給源の分布-b値とS波速度から推定される島弧走向方向の変化-	火山	47	475-480	○	1(2) イ					東北大学
佐藤俊也, 三浦 哲, 立花憲司, 佐竹義美, 長谷川 昭	2002	稠密GPS観測網により観測された東北奥羽脊梁山地の地殻変動	地震, 第2輯	55	181-191	○	1(2) イ					東北大学
佐藤凡子, 矢部康男, 山本清彦, 伊藤久男	2003	変形率変化法により推定された野島断層近傍の地殻応力	地震, 第2輯	56	157-169	○	1(2) イ					東北大学
三浦 哲, 佐藤俊也, 諏訪諺子, 長谷川昭, 立花憲司	2005	GPS連続観測網により得られた東北日本弧の歪分布-火山フロントに沿う歪集中帯-	月刊地球	S50	83-88		1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
三浦英俊, 長谷見晶子, 小菅正裕, 海野徳仁, 長谷川昭	2003	鬼首地域(宮城・秋田県境付近)におけるコーダ波減衰—近接する観測点間に見られる違い—	地震, 第2輯	55	351-359	○	1(2) イ					東北大学
三浦哲, 諏訪諛子, 佐藤俊也, 立花憲司, 長谷川昭	2005	測地インバージョンによる2003年宮城県北部地震のすべり分布	月刊地球	27	116-120		1(2) イ					東北大学
三浦哲, 諏訪諛子, 佐藤俊也, 立花憲司, 長谷川昭	2004	測地的データに基づいて推定された2003年宮城県北部地震の断層モデル	東北災害研究	40	65-70		1(2) イ					東北大学
山本清彦, 佐藤凡子, 矢部康男	2004	北上山地東部の応力測定と応力からみた内陸地殻の駆動源	地震, 第2輯	56	511-527	○	1(2) イ	1(1) イ	1(1) ア			東北大学
勝俣啓, 和田直人, 笠原稔, 岡山宗夫, 一柳昌義, 石川春義, 高田真秀, 長郁夫, 海野徳仁, 岡田知己, 中村綾子, 堀修一郎, 立花憲司, 河野俊夫, 仁田交市, 橋本恵一, 伊藤喜宏, 五十嵐俊博, 中島淳一, 浅野陽一, 伊藤亜妃, 内田直希, 宗田靖恵, 氏川尚子, 長谷見晶子 他	2002	大学合同臨時地震観測によって決定された島弧-島弧型日高衝突帯付近の震源分布と震源メカニズム解	Bull. Earthq. Res. Inst.	77	199-223		1(2) イ					東北大学
小川康雄, 三品正明, 本蔵義守	2005	長町利府断層の深部比抵抗構造—地殻変形と地震発生との関連—	月刊地球	50	71-74		1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
清水淳平, 中島淳一, 長谷川昭, 小原一成	2005	北海道および東北日本沈み込み帯におけるS波偏向異方性とマントルウエッジ内の二次対流	地震, 第2輯	58	153-164	○	1(2) イ	1(2) ア				東北大学
西村卓也, 鷲谷 威, 三浦 哲	2005	GPS連続観測網による長町-利府線断層帯の地殻変動	月刊地球	S50	75-82		1(2) イ					東北大学
西村卓也, 鷲谷 威, 三浦 哲	2004	GPS連続観測による長町-利府断層帯およびその周辺(東北地方中部)の地殻変動	地震, 第2輯	56	497-509	○	1(2) イ					東北大学
浅野陽一, 小原一成, 中島淳一, 長谷川昭	2005	宮城県北部およびその周辺域の地殻不均質構造と地震活動	月刊地球	27	144-149		1(2) イ					東北大学
中島淳一, 長谷川昭, 堀内茂木, 吉本和生, 吉田武義, 海野徳仁	2005	長町-利府断層周辺の3次元地震波速度構造	月刊地球	50	65-70		1(2) イ					東北大学
長谷見晶子, 瀧澤薫, 堀修一郎, 海野徳仁, 長谷川昭	2004	1999年2月26日秋田県沿岸南部で発生した地震(M5.1)の断層面について	地震, 第2輯	56	541-545	○	1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
長谷見晶子, 由田恵美, 金幸隆, 中村洋介, 出町知嗣, 下山みを, 富樫博義, 佐藤丈春, 堀修一郎, 河野俊夫, 稲盛隆穂, 長谷川昭	2003	掛け矢打ち振源と12/24チャンネル収録システムによる活断層の反射法探査	活断層研究	23	19-28		1(2) イ					東北大学
長谷川昭	2005	2003年宮城県北部地震(M6.4)	月刊地球	27	75-80		1(2) イ					東北大学
長谷川昭	2006	兵庫県南部地震以降の地震・地殻変動観測	月刊地球	28	163-170		1(2) イ					東北大学
長谷川昭	2002	東北日本の地殻構造と地震活動	日本海東縁の活断層と地震テクトニクス		27-43		1(2) イ					東北大学
長谷川昭	2004	東北地方の地震と火山ー沈み込み帯における地震発生と火山生成のモデルー	理科教室	47	8-17		1(2) イ					東北大学
長谷川昭, 中島淳一, 海野徳仁, 三浦哲, 諏訪謡子	2004	東北日本弧における地殻の変形と内陸地震の発生様式	地震, 第2輯	56	413-424	○	1(2) イ					東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
内田直希, 西村太志, 吉本和生, 中原恒, 佐藤春夫, 大竹政和, 田中聡, 浜口博之	2002	1998年岩手県内陸北部地震前後の地震波速度変化	地震, 第2輯	55	193-206	○	1(2) イ					東北大学
堀修一郎, 海野徳仁, 河野俊夫, 長谷川昭	2004	東北日本弧の地殻内S波反射面の分布	地震, 第2輯	56	435-446	○	1(2) イ					東北大学
堀内茂木, 根岸弘明, 内田 淳, 口石雅弘, 海野徳仁, 松澤 暢, 岡田知己, 長谷川 昭	2002	高サンプリング地震観測システムの開発	地震2, 第2輯	55	217-222	○	1(2) イ					東北大学
古川勇也, 西谷忠師, 坂中伸也	2004	ループ・ループ法による浅部比抵抗構造	Conductivity Anomaly研究会論文集	2004	120-127		1(2) イ	1(4) イ		*	浅部比抵抗構造を明らかにした	秋田大学
山下幹也・佐藤久美子・筒井智樹・松本聡	2005	太田断層周辺における浅部地震波反射面	活断層研究	25	47-55	○	1(2) イ	1(4) イ				秋田大学
西谷忠師, 坂中伸也	2006	今城塚古墳のVLF-MT探査再検討	文化財と探査	7	29-33	○	1(2) イ	1(4) イ		*	浅部付近の比抵抗構造を正確に捕らえる方法を述べた	秋田大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
西谷忠師, 坂中伸也, 根 典子	2005	標準電波を用いた地下構造探査	文化財と探査	5	18-23	○	1(2) イ	1(4) イ				秋田大学
大志万直人, 吉村令慧, 上嶋誠, 藤浩明, 兼崎弘憲, 望戸裕司, 西谷忠師, 他27名	2005	歪集中帯周辺(跡津川断層)での広帯域MT観測による 深部比抵抗構造(序報)	京都大学防災研 究所年報	48B	125-132		1(2) イ	1(4) イ	*	歪み集中帯の比抵抗構造の特徴を明らかにした		秋田大学
Elouai, D., H. Sato, N. Hirata, S. Kawasaki, T. Takeshita, N. Kato, and T. Takeda	2004	Deep seismic reflection profiling across the Northern Fossa Magna: The ERI 1997 and the JNOC 1996 seismic lines, active faults and geological structures	Earth Planets Space	56	1331-1338	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Hirata, N.	2004	Introduction to the special section for the 2004 Mid- Niigata Prefecture Earthquake	Earth Planets Space	57	i-i	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Hirata, N., Sato, H., Sakai, S., Kato, A., Kurashimo, E.,	2005	Fault system of the 2004 Mid Niigata Prefecture Earthquake and its aftershocks.	Landslides		153-157 DOI 10.1007/s1034 6-005-0050-8	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Iidaka, T.	2003	Shear-wave splitting analysis of later phases in southwest Japan. - A lineament structure detector inside crust-	Earth, Planets and Space	55	277-282	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Iidaka, T., T. Iwasaki, and K. Yoshimoto	2006	Nontransparent uppermost mantle in the island-arc Japan	Tectonophysics	420	189-204	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Iwasaki, T., T. Yoshii, N. Hirata and H. Sato	2002	New features of island arc crust inferred from seismic refraction/wideangle reflection expeditions in Japan	"Seismotectonics, Convergent Plate Boundary", edited by Y. Fujinawa and A. Yoshida, TERRAPUB		57-70		1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Iwasaki, T., T. Yoshii, T. Ito, H. Sato and N. Hirata	2002	Seismological features of island arc as inferred from recent seismic expeditions in Japan	Tectonophysics	355	53-66	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Kato N. et al.	2005	Geologic fault model based on the high-resolution seismic reflection profile and aftershock distribution associated with the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan	Earth Planets, Space	57	447-452	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Kato, A. S. Sakai, N. Hirata, E. Kurashimo, T. Iidaka, T. Iwasaki, T. Kanazawa	2006	Imaging the seismic structure and stress field in the source region of the 2004 mid-Niigata Prefecture Earthquake: Structural zones of weakness, seismogenic stress concentration by ductile flow	J.Geophys.Res.	111	B08308, doi:10.1029/2005JB004016	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Kato, A. et al.	2005	Short-term spatiotemporal variation in the aftershock sequence of the 2004 mid-Niigata prefecture earthquake	Earth Planets, Space	57	551-556	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kato, A., E. Kurashimo, N. Hirata, T. Iwasaki, and T. Iidaka	2006	Imaging crustal structure around the western segment of the Atotsugawa fault system, central Japan	Geophys. Res. Lett.		L09307, 33 doi:10.1029/2006GL025841	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Kato, A., Kurashimo, E., Hirata, N., Sakai, S., Iwasaki, T. & Kanazawa, T.	2005	Imaging the source region of the 2004 Mid-Niigata prefecture earthquake and the evolution of a seismogenic thrust-related fold	Geophys. Res. Letters		L07307, 52 doi:10.1029/2005GL022366	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Kato, T., and G. S. El-Fiky	2000	Strain rate distribution in Taiwan before the 1999 Chi-Chi, Taiwan earthquake derived from GPS observations	Bull. Earthq. Res. Inst	75	93-104		1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Li, Gang, Yoshiaki Mizuta, Tsuyoshi Ishida and Osam Sano	2004	An experimental and numerical study of an innovative probe for rock stress measurement	Proc.Int. Symp.3rd ARMS		1123-1128		1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Matsubara, M., N. Hirata, H. Sato, and S. Sakai	2004	Lower crustal fluid distribution in the northeastern Japan arc revealed by high-resolution 3D seismic tomography	Tectonophysics	388	33-45	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Nakagawa, S., N. Hirata, and H. Sato	2005	Imaging of the crust usig aftershocks of the 2000 Western Tottori prefecture earthquake	Geophys. Res. Lett.		L10310, 32 doi:10.1029/2004GL022332.	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sakai, S., Hirata, N., Kato, A., Kurashimo, E., Iwasaki, T. & Kanazawami T.	2005	Multi-fault system of the 2004 Mid-Niigata Prefecture Earthquake and its aftershocks	Earth Planets Space	57	417-422	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Sato, H. and N. Kato	2005	Relationship between the geologic structure and source fault of the 2004 Mid-Niigata prefecture earthquake, central Japan	Earth Planet Space	57	453-457	○	1(2)イ					東京大学 地震研究 所
Sato, H., N. Hirata and T. Iwasaki	2002	Deep geometry and evolution of active reverse faults in northern Japan	"Seismotectonics, Convergent Plate Boundary", edited by Y. Fujinawa and A. Yoshida, TERRAPUB		201-207		1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Sato, H., N. Hirata, T. Iwasaki, M. Matsubara and T. Ikawa	2002	Deep seismic reflection profiling across the Ou Backbone range, northern Honshu Island, Japan	Tectonophysics	355	41-52	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Sato, H., T. Iwasaki, S. Kawasaki, Y. Ikeda, N. Matsuta, T. Takeda, N. Hirata and T. Kawanaka	2004	Formation and shortening deformation of a back-arc rift basin revealed by deep seismic profiling, central Japan	Tectonophysics	388	47-58	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所
Sato, H., T. Iwasaki, Y. Ikeda, T. Takeda, N. Matsuta, T. Imai, E. Kurashimo, N. Hirata, S. Sakai, D. Elouai, T. Kawanaka, S. Kawasaki, S. Abe, T. Kozawa, T. Ikawa, Y. Arai, and N. Kato	2004	Seismological and geological characterization of the crust in the southern part of northern Fossa Magna, central Japan	Earth Planets Space	56	1253-1259	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Siripunvaraporn, W., Egbert, G. and Uyeshima, M.	2005	Interpretation of two-dimensional magnetotelluric profile data with three-dimensional inversion: synthetic examples	Geophys. J. Int.	160	804-814	○	1(2)イ					東京大学 地震研究所
Siripunvaraporn, W., Egbert, G. and Uyeshima, M.	2005	Interpretation of two-dimensional magnetotelluric profile data with three-dimensional inversion: synthetic examples	Geophys. J. Int.	160	804-814	○	1(2)イ					東京大学 地震研究所
Siripunvaraporn, W., Egbert, G., Lenbury, Y. and Uyeshima, M.	2005	Three-dimensional magnetotelluric inversion: data space method	Phys. Earth Planet. Int.	150	3-14	○	1(2)イ				広帯域MT観測データより詳細な地下3次元電気伝導度構造を決定するためのデータベースでのinversion手法を確立した	東京大学 地震研究所
Siripunvaraporn, W., Uyeshima M. and Egbert, G.	2004	Three-dimensional inversion for Network-Magnetotelluric data	Earth Planets Space	56	893-902	○	1(2)イ					東京大学 地震研究所
Siripunvaraporn, W., Uyeshima M. and Egbert, G.	2004	Three-dimensional inversion for Network-Magnetotelluric data	Earth, Planet. Space	56	893-902	○	1(2)イ	1(1)イ	1(2)ア		Network-MT観測データより広域深部地下3次元電気伝導度構造を決定するためのデータベースでのinversion手法を確立した	東京大学 地震研究所
Takeda, T., H. Sato, T. Iwasaki, N. Matsuta, S. Sakai, T. Iidaka, A. Kato,	2004	Crustal structure in the northern Fossa Magna region, central Japan, modeled from	Earth Planets Space	56	1293-1299	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Uehira, K., T. Yamada, M. Shinohara, K. Nakahigashi, H. Miyamachi, Y. Iio, T. Okada, H. Takahashi, N. Matsuwo, K. Uchida, T. Kanazawa, and H. Shimizu	in press	Precise aftershock distribution of the 2005 West off Fukuoka Prefecture Earthquake (Mj=7.0) using a dense onshore and offshore seismic network	Earth Planets Space			○	1(2)イ					東京大学 地震研 究所
Uyeshima, M. et al.	2005	Resistivity imaging across the source region of the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan	Earth Planets Space	57	441-446	○	1(2)イ					東京大学 地震研 究所
Uyeshima, M., Ogawa, Y., Honkura, Y., Koyama, S., Ujihara, N., Mogi, T., Yamaya, Y., Harada, M., Yamaguchi, S., Shiozaki, I., Noguchi, T., Kuwaba, Y., Tanaka, Y., Mochido, Y., Manabe, N., Nishihara, M., Saka, M. and Serizawa, M.	2005	Resistivity imaging across the source region of the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan	Earth, Planet. Space	57	441-446	○	1(2)イ	1(4)イ			中越地震震源域(南測線)での広帯域MT観測より震源南側の2次元電気伝導度構造を決定した。震源域および東側の下部地殻に電気が流れやすい層が検知され、粘土鉱物や地下流体の存在を示唆した。いずれも地殻の強度を低下させる要因となり、それが広角逆断層型地震を引き起こし、また新潟-神戸歪集中帯を生成せしめたと推定した。	東京大学 地震研 究所
加藤愛太郎・他	2006	2004年新潟県中越地震震源域の地震波速度構造イメージング	月刊地球	53	55-60		1(2)イ					東京大学 地震研 究所
加藤直子・他	2006	庄内平野東縁断層系松山断層における反射法地震探査	活断層研究(印刷中)	26			1(2)イ					東京大学 地震研 究所
加藤直子・越後智雄・佐藤比呂志	2006	浅層反射法地震探査から見た2004年新潟県中越地震の断層モデル	月刊地球	53	103-109		1(2)イ					東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い議論 の項目	2番目 に関 連の深 い議論 の項目	3番目 に関 連の深 い議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
高橋直季、平松良浩、古本宗充、三宅学、平田直	2003	白山火山近傍での微小地震観測	地震	56	89-94	○	1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究所
佐藤比呂志・加藤直子・須田茂幸・川中卓	2006	反射法地震探査による中越地震震源域周辺の地質構造	月刊地球	53	117-124		1(2)イ					東京大学 地震研究所
佐藤比呂志他	2005	2004年新潟中越地震・地震断層出現域の浅層反射法地震探査: データ取得と処理について	東京大学地震研究所集報	80	1-9		1(2)イ					東京大学 地震研究所
佐野修、横山幸也、松永隆昌、中山芳樹、平田篤夫、水田義明	2004	ポアホールジャッキ式乾式破砕法による応力測定、地殻応力の絶対量計測に関する研究会資料					1(2)イ					東京大学 地震研究所
上嶋誠	2005	電気伝導度構造から探る地殻の水の存在	地学雑誌	114	862-870	○	1(2)イ	1(4)イ			電気伝導度構造と地震波速度構造とを同時に解釈することで、地下の流体の存在率やつながり方に対する情報を引き出そうと試みた。	東京大学 地震研究所
上嶋誠・小川康雄・中越地震震源域電気伝導度構造研究グループ	2006	2004年新潟県中越地震震源域における比抵抗構造イメージング	月刊地球	53	70-74		1(2)イ					東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 項目	2番目 に 関連 の深い 項目	3番目 に 関連 の深い 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
上嶋誠・小川康雄・中越地震震源域電気伝導度構造研究グループ	2005	2004年新潟県中越地震震源域における比抵抗構造イメージング	月刊地球(号外)	53	70-74		1(2)イ	1(4)イ			中越地震震源域(南+北測線)での広帯域MT観測より震源南側及び北側の2次元電気伝導度構造を決定した。両測線に共通して震源域および東側の下部地殻に電気が流れやすい層が検知され、粘土鉱物や地下流体の存在を示唆した。いずれも地殻の強度を低下させる要因となり、それが広角逆断層型地震を引き起こし、また新潟-神戸歪集中帯を生成せしめたと推定した。	東京大学 地震研究所
大志万直人・吉村令慧・上嶋誠・藤浩明・兼崎弘憲・望戸裕司・中尾節郎・小山茂・相澤広記・西谷忠師・宇都智史・桑波吉雄・田中嘉一・和田安男・藤田安良・坂中伸也・小川康雄・本蔵義守・氏原直人・三品正明・後藤忠徳・笠谷貴史・佐藤秀幸・山口寛・長野雄大・村上英記・塩崎一郎・茂木透・山谷祐介・原田誠・松浦友紀・森谷辰輝・笠見弘昌・畑真紀	2005	歪集中帯(跡津川断層)での広帯域MT観測による深部比抵抗構造(序報)	京大防災研年報	48B	125-132		1(2)イ	1(4)イ				東京大学 地震研究所
大志万直人他	2005	歪集中帯周辺(跡津川断層)での広帯域MT観測による深部比抵抗構造(序報)	京大防災研究所年報	48B	125-132		1(2)イ					東京大学 地震研究所
武田哲也、佐藤比呂志、岩崎貴哉、松多信尚、酒井慎一、飯高隆、加藤愛太郎	2005	北部フォッサマグナ周辺の屈折法探査データの再解析による地殻構造の解明	月刊地球	号外 No. 50	145-150		1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究所
平田直	2006	2004年新潟県中越地震(M6.8)の地震予知研究計画における意義	号外地球「2004年新潟県中越地震」特集	53	233-238		1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究所
歪集中帯大学合同地震観測グループ	2005	歪集中帯を中心とする大学合同地震観測—跡津川断層域を中心として—	地震研究所彙報	80	133-147		1(2)イ	1(2)ア				東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Y. Iio, S. Horiuchi, S. Baris, C. Celik, J. Kyomen, B. Ucer, Y. Honkura, and A. M. Isikara,	2002	Aftershock distribution in the eastern part of the aftershock region of the 1999 Izmit, Turkey, earthquake	Bull. Seismol. Soc. Am..	92	411-417	○	1(2)イ					東京工業 大学
A. Ito, B. Ucer, S. Baris, A. Nakamura, Y. Honkura, T. Kono, S. Hori, A. Hasegawa, R. Pektas, and A. M. Isikara	2002	Aftershock activity of the 1999 Izmit, Turkey, earthquake revealed from microearthquake observations.	Bull. Seismol. Soc. Am..	92	418-427	○	1(2)イ					東京工業 大学
A. Nakamura, A. Hasegawa, A. Ito, B. Ucer, S. Baris, Y. Honkura, T. Kono, S. Hori, R. Pektas, T. Komut, C. Celik, and A. M. Isikara,	2002	P-wave velocity structure of the crust and its relationship to the occurrences of the 1999 Izmit, Turkey, earthquake and aftershocks	Bull. Seismol. Soc. Am..	92	330-338	○	1(2)イ					東京工業 大学
Baris S, Nakajima J, Hasegawa A, Honkura Y, Ito A, Ucer SB	2005	Three-dimensional structure of Vp, Vs and Vp/Vs in the upper crust of the Marmara region, NW Turkey	Earth, Planet. Space	57	1019-1038	○	1(2)イ					東京工業 大学
N. Oshiman, Y. Honkura, M. Matsushima, S. Baris, C. Celik, M. K. Tuncer, and A. M. Isikara	2002	Deep resistivity structure around the fault associated with the 1999 Kocaeli earthquake, Turkey	In Seismotectonics at the Convergent Plate Boundary (Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida), Terra Science Publishing Company, Tokyo		293-303	○	1(2)イ					東京工業 大学
Ogawa Y.	2002	On two-dimensional modeling of magnetotelluric field data	Surveys in Geophysics	23 (2-3)	251-273	○	1(2)イ					東京工業 大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ogawa Y. and Y. Honkura	2004	Mid-crustal electrical conductors and their correlations to seismicity and deformation at Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, Central Japan	Earth, Planet. Space	56	1285-1291	○	1(2)イ			*	糸魚川静岡構造線北部地域において、地殻中深部の流体の分布を明らかにし、その分布域がGPSの面積歪変動が大きい地域に対応すること、低比抵抗異常の上面が地震発生層の下限となり、低比抵抗層の上方に微小地震が多発することを明らかにした。	東京工業大学
Ogawa, Y., M. Mishina, and Y. Mitsuhashi	2002	Magnetotelluric soundings over seismically active regions, NE Japan	Technical note of the National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention	24	166-171		1(2)イ					東京工業大学
Ogawa, Y., S. Takakura, and Y. Honkura	2002	Resistivity structure across Itoigawa-Shizuoka tectonic line and its implications for concentrated deformation	Earth, Planet. Space	54	1115-1120	○	1(2)イ					東京工業大学
S. Baris, A. Ito, S. Ucer, Y. Honkura, N. Kafadar, R. Pektas, T. Komut, and A. M. Isikara,	2002	Microearthquake activity before the Izmit earthquake in the eastern Marmara region, Turkey (1 January 1993 - 17 August 1999), Turkey, Bull. Seismol. Soc. Am., 92, 394-405, 2002.	Bull. Seismol. Soc. Am.	92	394-405	○	1(2)イ					東京工業大学
S.B.Tank*Y.Honkura*Y.Ogawa* N.Oshiman*M.K.Tuncer*M.Matsushima* C.Celik*E.Tolak*A.M. Isikara	2003	Magnetotelluric imaging of the western part of 1999 Izmit earthquake fault rupture zone and its seismogenic implication	Conductivity anomaly研究会 2002年論文集		16-23		1(2)イ					東京工業大学
Tank, S. B., Y. Honkura, Y. Ogawa, N. Oshiman, M. K.Tuncer, C. Celik, E. Tolak, and A. M. Isikara	2003	Resistivity structure in the western part of the fault rupture zone associated with the 1999 Izmit earthquake and its seismogenic implication	Earth, Planet. Space	55	437-442	○	1(2)イ					東京工業大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Tank, S.B., Y. Honkura, Y. Ogawa, M. Matsushima, N. Oshiman, M. K. Tuncer, C. Celik, E. Tolak, and A. M. Isikara	2005	Magnetotelluric imaging of the fault rupture area of the 1999 Izmit (Turkey) earthquake	Phys. Earth Planet. Inter	150	213-225	○	1(2)イ			*	Izmit地震の本震が、地殻中深部の比抵抗構造側方境界の高比抵抗側に存在することを明らかにした。また、これらの地域の上部マントルには低比抵抗異常が広がり、上部マントルでの脱水作用が地殻中深部の流体のソースになると考えられるモデルを提示した。	東京工業大学
Umeda, K., Y. Ogawa, K. Asamori, and T. Oikawa, . . .	2006	Aqueous fluids derived from a subducting slab: observed high 3He emanation and conductive anomaly in a non-volcanic region, Kii Peninsula southwest Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	149	47-61	○	1(2)イ					東京工業大学
Uyeshima, M., Y. Ogawa, Y. Honkura, S. Koyama, N. Ujihara, T. Mogi, Y. Yamaya, M., Harada, S. Yamaguchi, IShiozaki, T. Noguchi, Y. Kuwaba, Y. Tanaka, Y. Mochido, N. Manabe, M. Nishihara, M. Saka and M. Serizawa	2005	Resistivity imaging across the source region of the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan	Earth, Planet. Space	57	441-446	○	1(2)イ					東京工業大学
市原寛・茂木透・山谷祐介・神山裕幸・小川康雄	2006	広帯域MT観測および重力測定による北海道東部弟子屈地域の地殻構造	北海道大学地球物理学研究報告	69	233-255		1(2)イ					東京工業大学
小川康雄	2002	小川康雄、電磁波で地殻構造と水の動きを見る、出羽丘陵から脊梁山地の地殻比抵抗断面	科学	72	204-208		1(2)イ					東京工業大学
小川康雄	2002	広帯域MT法による内陸地震地域のイメージング	地震学会ニュースレター	14	16-18		1(2)イ					東京工業大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
小川康雄・三品正明・本蔵義守	2005	長町利府断層の深部比抵抗構造—地殻変形と地震発生との関連	月刊地球	号外 50	71-74		1(2)イ					東京工業 大学
小川康雄・三品正明・本蔵義守・高橋幸祐・タンクプレント	2003	内陸地震地域の深部比抵抗構造探査—長町利府断層	Conductivity anomaly研究会 2002年論文集		1-7		1(2)イ					東京工業 大学
上嶋誠・小川康雄・中越地震震源域電気伝導度構造研究グループ	2006	2004年新潟県中越地震震源域における比抵抗イメージング	月刊地球	号外 53	70-75		1(2)イ					東京工業 大学
Hirahara, K., Y. Ooi, M. Ando, Y. Hoso, Y. Wada, and T. Ohkura	2003	Dense GPS Array observations across the Atotsugawa fault, central Japan	Geophys. Res. Lett.	30	doi:10.1029/2002GL015035	○	1(2)イ					名古屋大 学
Iio, Y., T. Sagiya, and Y. Kobayashi	2004	Origin of the concentrated deformation zone in the Japanese Islands and stress accumulation process of intraplate earthquakes	Earth Planets Space	56	831-842	○	1(2)イ					名古屋大 学
Iio, Y., T. Sagiya, N. Umino, T. Nishimura, K. Takahashi, and T. Homma	2004	A comprehensive model of the deformation in the Nagamachi-Rifu Fault Zone	Earth Planets Space	56	1339-1345	○	1(2)イ					名古屋大 学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 深い 議論 の項目	2番目 に 関連 深い 議論 の項目	3番目 に 関連 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Iio, Y., T. Sagiya, Y. Kobayashi, and I. Shiozaki	2002	Water-weakened lower crust and its role in the concentrated deformation in the Japanese islands, Earth Planet	Sci. Lett.	203	245-253	○	1(2)イ					名古屋大学
Sagiya T., T. Nishimura, and Y. Iio	2004	Heterogeneous crustal deformation along the Central-Northern Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line Fault System, central Japan	Earth Planets Space	56	1247-1252	○	1(2)イ					名古屋大学
Sagiya, T., T. Nishimura, Y. Iio and T. Tada	2002	Crustal deformation around the northern and central Itoigawa-Shizuoka Tectonic	Earth, Planets, and Space Line	54	1059-1063	○	1(2)イ					名古屋大学
T.Tabei, M.Hashimoto, S.Miyazaki, K.Hirahara, F.Kimata, T.Matsushima, T.Tanaka, Y.Eguchi, T.Takaya, Y.Hoso, F.Ohya, and T.Kato	2002	Subsurface structure and faulting of the Median Tectnic Line, southwest Japan inferred from GPS velocity field	Earth Planets Space	54,	1065-1070	○	1(2)イ			*	四国東部の中央構造線において、フィリピン海プレートの収束運動に伴う地殻変動が消滅していることに注目し、中央構造線を横断するGPS観測網を設け、中央構造線周辺域におけるひずみ蓄積を明らかにした。	名古屋大学
Tadokoro, K.,	2003	Structure and Physical Properties of Fracture Zone Derived From Seismic Observations at the Nojima Fault and the Western Tottori Earthquake Fault, Japan	Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo	78	67-74	○	1(2)イ					名古屋大学
Yamauchi M, K. Hirahara, and T. Shibutani	2003	High resolution receiver function imaging of the seismic discontinuities in the crust and the uppermost mantle beneath southwest Japan	Earth Planets Space	55	59-64	○	1(2)イ	1(1)イ				名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
及川純・山崎文人他	2004	人工地震を用いた富士山における構造探査	月刊地球号外	48	23-26		1(2)イ					名古屋大学
橋本学・鷺谷威	2003	日本列島周辺で発生した大地震の静的断層モデル—多田堯先生の業績と1918年大町地震の断層モデル—	月刊地球	25	51-58		1(2)イ					名古屋大学
高田圭太・中田高・野原壮・原口強・池田安隆・伊藤潔・今泉俊文・大槻憲四郎・鷺谷威・堤浩之	2003	震源断層となりうる活断層とリニア面との検討—中国地方を事例として—	活断層研究	23	77-91	○	1(2)イ			*	従来の石英管歪計はノイズが大きく、良い記録を得ることができない。レーザー干渉による歪計によりより良好的観測が可能になった。	名古屋大学
鷺谷威	2005	糸魚川—静岡構造線断層帯北部における変形過程の有限要素モデル	月刊地球 号外	50	116-122		1(2)イ					名古屋大学
鷺谷威	2006	中越地震と歪み集中帯	月刊地球 号外	53	82-89		1(2)イ					名古屋大学
西上欽也・田所敬一・永井 悟・水野高志・加納靖之・平松良浩	2002	注水に伴う誘発地震の発生特性、野島断層注水実験を中心として	地学雑誌	111	268-276	○	1(2)イ	1(2)エ				名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
西村卓也, 鷺谷威, 三浦哲	2004	GPS連続観測による長町-利府断層帯およびその周辺(東北地方中部)の地殻変動	地震	56	497-510	○	1(2)イ					名古屋大学
大井田徹・山崎文人	2004	気象庁震源の地域性を考慮した再計算	東濃地震科学研究所報告書	14	65-74		1(2)イ					名古屋大学
田所敬一・下川明子・西上欽也・水野高志・土井一生	2003	稠密地震観測による鳥取県西部地震の震源断層破砕帯内のフラクチャ分布	月刊地球	25	632-636		1(2)イ	1(2)イ		*	S波偏光異方性の時間変化を観測し、野島断層の固着が3年ほどで完了したことを示した	名古屋大学
渡辺満久・鈴木康弘・伊藤武男	2005	変動地形に基づく2004年中越地震の断層モデル	地震, 第2輯	58	297-307	○	1(2)イ					名古屋大学
土井一生・西上欽也・田所敬一・下川明子	2003	2000年鳥取県西部地震の震源域およびその周辺におけるS波反射体の三次元分布	月刊地球	25	647-651		1(2)イ	1(2)エ				名古屋大学
木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之・Meilano Irwan・Dudy Darmawan・David Solim・太田雄策	2003	御嶽山群発地震域における精密水準測量による地殻上下変動(1999-2003年)-屋敷野地区における隆起の上下変動-	東濃地震科学研究所報告書	12	103-108		1(2)イ					名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之・太田雄策・柏木雅生・大園真子・仮屋新一・山室友生	2005	御嶽山群発地震域において精密水準測量より検出された地盤の隆起変動 2002年4月-2005年4月	東濃地震科学研究所報告	16	71-76		1(2)イ					名古屋大学
2001年地殻比抵抗研究グループ	2002	鳥取県西部地震震源域周辺での深部比抵抗構造探査の概要	京都大学防災研究所年報	第45号, B	489-497		1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
2001年地殻比抵抗研究グループ	2002	鳥取県西部地震震源域周辺での深部比抵抗構造探査の概要	京都大学防災研究所年報	45B	489-497		1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
A. Okubo and N. Oshiman	2004	Piezomagnetic Field in a Non-Uniform Elastic Medium -- Piezomagnetic Field Associated with a Numerical Solution of the Mogi Model in a Non-Uniform Elastic Medium --	<i>Geophys. J. Int.</i>	159	509-520	○	1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
Aizawa, K. R. Yoshimura, N. Oshiman, K. Yamazaki, T. Uto, Y. Ogawa, S.B. Tank, W. Kanda, S. Sakanaka, Y. Furukawa, T. Hashimoto, M. Uyeshima, T. Ogawa, I. Shiozaki, A.W. Hurst	2005	Hydrothermal system beneath Mt. Fuji volcano inferred from magnetotellurics and electric self-potential	Earth and Planetary Science Letters	235	343-355, doi:10.1016/j.epsl.2005.03.023	○	1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
Enescu, B. and K. Ito	2002	Spatial analysis of the frequency-magnitude distribution and decay rate of aftershock activity of the 2000 Western Tottori earthquake	Earth, Planets and Space	54	847-859	○	1(2)イ	1(1)イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 建議 の項目	2番目 に関 連の 深い 建議 の項目	3番目 に関 連の 深い 建議 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Enescu,B., K. Ito	2005	The 1998 Hida Mountain, central Honshu , Japan earthquake swarm, , Double-difference event relocation, frequency-magnitude distribution and Coulomb stress changes	Tectonophysics	409	147-157	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Fukuchi, T.	2003	Strong ferrimagnetic resonance signal and magnetic susceptibility of the Nojima pseudotachylyte in Japan and their implication for coseismic electromagnetic changes	J. Geophys. Res.	108	14-1-14-8	○	1(2) イ					京大防災研
Goto, T., Y. Wada, N. Oshiman and N. Sumitomo	2005	Resistivity structure of a seismic gap along the Atotsugawa Fault, Japan	Physics of The Earth and Planetary Interiors	148	55-72	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Hiramatsu, Y., H. Yamanaka, K. Tadokoro, K. Nishigami, and S. Ohmi	2002	Scaling law between corner frequency and seismic moment of microearthquakes: Is the breakdown of the cube law a nature of earthquakes?	Geophys. Res. Lett.	29 (8)	10.1029/2001GL013849	○	1(2) イ					京大防災研
Hiramatsu, Y., M. Furumoto, K. Nishigami and S. Ohmi	2002	Initial rupture process of microearthquakes recorded by high sampling borehole seismographs at the Nojima fault, central Japan	Phys. Earth Planet. Int.	132/4	269-279	○	1(2) イ					京大防災研
Horiuchi,S., Y.,Iio	2003	Stress drop distribution of microearthquakes at Outaki, Nagano prefecture, Japan. obtained from waveform data, Seismotectonics in convergent plate boundary, Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida	TERRAPUB		383-391		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Iio, Y., S. Horiuchi, S. Baris, C. Celik, J. Kyomen, B. Ucer, Y. Honkura, and A. M. Isikara	2002	Aftershock distribution in the eastern part of the aftershock region of the 1999 Izmit, Turkey earthquake	Bull.Seism.Soc.Am	92	411-417	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Ikuta, R., and K. Yamaoka	2004	Temporal variation in the shear wave anisotropy detected using the Accurately Controlled Routinely Operated Signal System (ACROSS)	J. Geophys. Res.	109	10.1029/2003JB002901	○	1(2) イ					京大防災研
Imanishi,K., M.Takeo, W. L. Ellsworth, H. Ito, T.Matsuzawa, Y.Kuwahara, Y.Iio, S. Horiuchi and S.Ohmi	2004	Source Parameters and Rupture Velocities of Microearthquakes in Western Nagano, Japan, Determined Using Stopping Phases	Bull. Seism. Soc. Am.	94	1762-1780	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Ito K., T. Ueno, H. Wada and K. Matsumura	印刷中	Crustal structure from seismic surveys and seismicity in the northern Chubu district with special reference to the Atotsugawa fault area	Geodynamics of Atotsugawa Fault Sysytem (Terra Pub.)			○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Ito S., H. Ito, S. Horiuchi, Y. Iio	2004	Local attenuation in western Nagano, central Japan, estimated from seismograms recorded in three boreholes	Geophys. Res. Lett.	31	L20604, doi:10.1029/2004GL020745	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Ito, K., H. Wada, S. Ohmi, N. Hirano and T. Ueno	印刷中	Seismic activity from routine and temporary observations of earthquakes in the northwest Chubu district, central Honshu, Japan	Geodynamics of Atotsugawa Fault Sysytem (Terra Pub.)			○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ito,K, and B.Enescu	2001	Heterogeneous structure and b and p values relating to the rupture of the 2000 Tottori-ken Seibu earthquake	Proc. Int. Symp. Slip and Flow Processes in and below the seismogenic region		491-496		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Kasaya, T., N. Oshiman and I. Shiozaki	2002	Resistivity structure around the hypocentral area of the 1984 Western Nagano Prefecture earthquake in the central Japan	Earth Planets Space,	54	107-118	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Kitagawa, Y., K. Fujimori, and N. Koizumi	2002	Temporal change in permeability of the rock estimated from repeated water injection experiments near the Nojima Fault in Awaji Island, Japan	Geophys. Res. Lett.	29	121-1-121-4	○	1(2) イ					京大防災研
Kitagawa, Y., K. Fujimori, and N. Koizumi	in press	Temporal change in permeability of the Nojima fault zone by repeated water injection experiments	Tectonophysics			○	1(2) イ					京大防災研
Lin, A., N. Tanaka, S. Uda, and M. Satisch-kumar	2003	Repeated coseismic infiltration of meteoric and sea water into deep fault zones: a case study of the Nojima fault zone, Japan	Chemical Geology	202	139-153	○	1(2) イ					京大防災研
Matsuzawa, T., M. Takeo, S. Ide, Y. Iio, H. Ito, K. Imanishi and S. Horiuchi	2004	S-wave energy estimation of small-earthquakes in the western Nagano region, Japan	Geophysical Research Letters	31	L03602, doi:10.1029/2003GL018445	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Mizuno, T., and K. Nishigami	in press	Deep structure of the Nojima Fault, southwest Japan, estimated from borehole observations of fault-zone trapped waves	Tectonophysics			○	1(2) イ			*	野島断層の南西端付近(富島)における1800m孔地震データを系統的に解析して8例の断層トラップ波を検出した。波形モデリングにより、断層破砕帯の平均的な構造を幅150-300m、S波速度2.6-3.0 km/s、 $Q_s=40-60$ と推定し、破砕帯は深さ方向に速度低下率を減少しつつ深さ10km付近まで達することを示した。1800m深度でのトラップ波検出は、今後の破砕帯構造変化を追跡する上で意義が大きい。	京大防災研
Murakami, M. and Tagami, T.	2004	Dating pseudotachylyte of the Nojima fault using the zircon fission-track method	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2004GL020211	○	1(2) イ					京大防災研
Nishigami, K.	2006	Crustal heterogeneity in the source region of the 2004 Mid Niigata Prefecture earthquake: Inversion analysis of coda envelopes	Pure Appl. Geophys.	163	601-616	○	1(2) イ					京大防災研
Nishigami, K.	2002	Seismological investigation of deep structure of active faults using scattered waves and trapped waves	Seismogenic Process Monitoring, Ed. by Ogasawara, H., T. Yanagidani, and M. Ando, Rotterdam, Balkema		245-256		1(2) イ					京大防災研
Ohmi, S., Watanabe, K., Shibutani, T., Hirano, N., and Nakao, S.	2002	The 2000 Western Tottori Earthquake - Seismic Activity Revealed by the Regional Seismic Networks -	Earth, Planet. Space	54	819-830	○	1(2) イ					京大防災研
Oshiman, N.	2002	Investigations on geo-electromagnetic structure of active faults and monitoring their activities	<i>In Proc. the First China-Japan Workshop on Earthquake Disaster Mitigation (Eds. T. Kato and Zheng Sihua)</i>		155-170		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Rydelek, PA., S. Horiuchi, Y. Iio	2002	Spatial and temporal characteristics of low-magnitude seismicity from a dense array in western Nagano Prefecture, Japan	Earth Planets Space	54	81-89	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Shibutani, T., Iio, Y., Matstunoto, S.他16名	2005	Aftershock distribution of the 2004 Mid Niigata Prefecture Earthquake derived from a combined analysis of temporary online observations and permanent observations	Earth Planets Space,	57	545-549	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Shibutani, T., Katao, H. and Group for the dense aftershock observations of the 2000 Western Tottori Earthquake	2005	Very dense aftershock observations of the 2000 Western Tottori Earthquake (Mj = 7.3) in southwestern Honshu, Japan: high resolution aftershock distribution, focal mechanisms and 3-D velocity structure in the source region	Earth Planets Space,	57	825-838	○	1(2) イ	1(1) イ		*	2000年鳥取県西部地震の発生直後に行った稠密余震観測のデータを用いて、震源域の地震波速度不均質構造を求めた。震源断層面にP波速度とS波速度の両方において4%以上の高速度異常域(HVA)がバッチ状に分布しているのが検出された。これらのHVAは、地質分布との対比から中生代の変成岩に対応すると考えられる。地震時の大きなすべりはHVAを避けるように分布しているので、HVAは強度が大きく、バリアとして働いたと考えられる。	京大防災研
Tadokoro, K.	2003	Structure and physical properties of fracture zone derived from seismic observations at the Nojima fault and the western Tottori earthquake fault, Japan	Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo	78	67-74	○	1(2) イ					京大防災研
Tadokoro, K., and M. Ando	2002	Evidence for rapid fault healing derived from temporal changes in S wave splitting	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2001GL013644	○	1(2) イ					京大防災研
Tadokoro, K., and M. Ando	2002	Evidence for rapid fault healing at the Nojima fault, Japan	Seismogenic Process Monitoring, Ed. by Ogasawara, H., T. Yanagidani, and M. Ando, Rotterdam, Balkema		201-220		1(2) イ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Tagami, T., and M. Murakami	2005	Zircon fission-track thermochronology of the Nojima fault zone, Japan	Amer. Assoc. Petrol. Geol. Memoir	85	269-285	○	1(2) イ					京大防災研
Venkataraman A., G. C. Beroza, S. Ide, K. Imanishi, H. Ito, Y. Iio	2006	Measurements of spectral similarity for microearthquakes in western Nagano, Japan	J. Geophys. Res.	111	B03303, doi:10.1029/2005JB003834	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
Yamano, M., and S. Goto	2005	Long-term monitoring of the temperature profile in a deep borehole: temperature variations associated with water injection experiments and natural groundwater discharge	Phys. Earth Planet. Int.	152	326-334	○	1(2) イ					京大防災研
伊藤 潔	2006	地震発生層の深さ分布と活断層のセグメンテーションとの関係	京都大学防災研究所年報	49B	227-238		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
伊藤 潔	2002	地殻内地震発生層	月刊地球	号外 38	114-121		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
伊藤 潔	2003	跡津川断層の地震活動と断層クリープ	月刊地球	25	143-148		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
伊藤 潔・エネスク, ボグダン	2002	2000年鳥取県西部地震と不均質構造	月刊地球	号外 38	167-173		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
伊藤 潔・上野友岳・和田博夫・大見士 朗・吉井弘治	2003	跡津川断層系付近における詳細な震源分布と地下構造	京都大学防災研 究所年報	46B	681-690		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
伊藤 潔・上野友岳・和田博夫・大見士 朗・吉井弘治	2003	跡津川断層系付近における詳細な震源分布と地下構造	京都大学防災研 究所年報	46B	681-690		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
伊藤 潔・和田博夫	2003	跡津川断層の地震活動と断層クリーブ	月刊地球	25	143-148		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
笠谷貴史・大志万直人・塩崎一郎・中尾 節郎・矢部征・近藤和男・藤田安良・宇都 智史・吉田賢一	2002	兵庫県北部域での地殻比抵抗構造	京都大学防災研 究所年報	第45 号, B	571-576		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
関口渉次・飯尾能久・大見士朗・伊藤久 男・堀内茂木	2004	稠密地震観測データを用いた長野県西部地域の3次元 速度構造とその時間変化の可能性	地震2	57	55-61	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
吉村令慧・宇都智史・大志万直人	2005	花折・琵琶湖西岸断層系周辺の電気比抵抗構造(序報)	京都大学防災研究所年報	48B	143-148		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
向井厚志・藤森邦夫	2003	注水試験に伴うひずみ変化から推定される野島断層近傍の破砕帯の透水性	地震 第2輯	56	171-179	○	1(2) イ					京大防災研
向井厚志・藤森邦夫	2005	地磁気擾乱を用いた淡路島800m孔歪計の測定方向の検定	地震 第2輯	58	225-228	○	1(2) イ					京大防災研
向井厚志・藤森邦夫	2005	歪潮汐を用いた淡路島800m孔周辺の弾性定数の推定	東濃地震科学研究所報告	16	77-80		1(2) イ					京大防災研
松澤孝紀・武尾 実・井出 哲・飯尾能久・伊藤久男・今西和俊・堀内茂木	2003	長野県西部地域における二重スペクトル比によるS波減衰の推定	地震2	56	75-88	○	1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
上野友岳・伊藤 潔・吉井弘治・松村一男・和田博夫	2006	跡津川断層周辺における地殻構造と地震活動	地震2	58	143-152	○	1(2) イ	1(1) イ		*	跡津川断層帯付近で実施された人工地震により、反射面が地震発生層の下限付近の深さ12kmおよび25km付近にあることを見いだした。また、断層を横切る方向では断層の北西側では上記の反射面が深くなるとともに、地震発生の下限も深くなるのが分かった。	京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
上野友岳・伊藤 潔・和田博夫・吉井弘治・松村一男	2002	跡津川断層系における人工地震による地殻構造調査(続)	京都大学防災研究所年報	45B	577-590		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
西上欽也	2002	野島断層における繰り返し注水実験	月刊地球	号外 No.38	95-101		1(2) イ					京大防災研
西上欽也・田所敬一・永井 悟・水野高志・加納靖之・平松良浩	2002	注水に伴う誘発地震の発生特性—野島断層注水実験を中心として—	地学雑誌	111	268-276	○	1(2) イ					京大防災研
大見士朗	2002	西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震	京都大学防災研究所年報	45	545-553		1(2) イ					京大防災研
大見士朗	2002	平成12年鳥取県西部地震の余震分布～震源座標の関数としての観測点補正値を用いた震源決定～	地震2	54	575-580	○	1(2) イ					京大防災研
大見士朗	2003	西南日本内陸の活断層に発生する深部低周波地震～鳥取県西部地域を中心として～	地震予知連絡会会報	70	538-543		1(2) イ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
大見士朗	2003	鳥取県西部の深部低周波地震の現状	地震予知連絡会 会報	69	593-596		1(2) イ					京大防災 研
大見士朗・和田博夫・伊藤 潔	2003	焼岳火山の深部地震活動	京都大学防災研 究所年報	46	691-699		1(2) イ	2(2) ア				京大防災 研
大見士朗・和田博夫・伊藤 潔	2003	焼岳火山の深部地震活動	京都大学防災研 究所年報	46B	691-699		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
大見士朗・廣瀬一聖・James J. Mori	2004	鳥取県西部に発生する深部低周波地震の現状	京都大学防災研 究所年報	47	691-696		1(2) イ					京大防災 研
大志万直人	2002	西日本の電気伝導度構造	月刊地球	号外, No.38	82-90		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
大志万直人・吉村令慧・上嶋誠・他31名	2005	歪集中帯周辺(跡津川断層)での広帯域MT観測による 深部比抵抗構造(序報)	京都大学防災研 究所年報	48B	125-132		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
竹内文朗・中村佳重郎・松村一男・渡辺邦彦	2005	山崎断層系における岩石密度の測定	京都大学防災研究所年報	48B	175-184		1(2)イ					京大防災研
竹本修三・和田安男・伊藤 潔・福田洋一・森井 互・百瀬秀夫・中村光邦		地殻ひずみの観測に及ぼす局所的日照変化の影響、一花山と立山観測室のデータ比較一	京都大学防災研究所年報	47B	725-734		1(2)イ	1(1)イ				
中尾節郎・片尾 浩・J.J.Mori・他4名	2003	鳥取県中西部の地震(2002年9月16日, Mj5.3)と山陰の地震活動について	京都大学防災研究所年報	46B	701-708		1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
飯尾能久・松本 聡・松島 健・植平賢司・片尾 浩・大見士朗・澁谷拓郎・竹内文朗・西上欽也・Bogdan Enescu・廣瀬一聖・加納靖之・儘田 豊・宮澤理絵・辰己賢一・和田博夫・河野裕希・是永将宏・上野友岳・行竹洋平	2006	2004年新潟県中越地震の発生過程一オンライン合同余震観測結果から一	地震2	58	463-475	○	1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
飯尾能久・松本 聡・片尾 浩・松島 健・大見士朗・澁谷拓郎・竹内文朗・植平賢司・西上欽也・Bogdan Enescu・廣瀬一聖・加納靖之・河野裕希・是永将宏・儘田 豊・宮澤理絵・辰己賢一・上野友岳・和田博夫・行竹洋平	2005	2004年新潟県中越地震の発生過程	京都大学防災研究所年報	48A	165-170		1(2)イ	1(1)イ				京大防災研
飯尾能久・松本 聡・片尾 浩・松島 健・大見士朗・澁谷拓郎・竹内文朗・植平賢司・西上欽也・宮澤理絵・Bogdan Enescu・廣瀬一聖・加納靖之・河野裕希・辰己賢一・上野友岳・和田博夫・行竹洋平	2006	2004年新潟県中越地震の発生過程	月刊地球	号外53	217-222		1(2)イ	1(1)イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
片尾 浩・飯尾能久	2004	丹波山地の微小地震の発震機構	京都大学防災研 究所年報	47B	673-677		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
北川有一・藤森邦夫・小泉尚嗣	2004	大地震発生後の断層帯の透水性の時間変化ー繰り返し 注水実験による測定ー	地質ニュース	596	29-34		1(2) イ					京大防災 研
和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄	2004	白山火山周辺の微小地震活動	京都大学防災研 究所年報	47B	705-711		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄	2003	飛騨地域周辺の極微小地震活動	京都大学防災研 究所年報	46B	671-680		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲 雄・小泉 誠	2002	飛騨地域における地震の線状配列	京都大学防災研 究所年報	45B	555-559		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研
和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲 雄・森下可奈子	2005	立山カルデラにおける微小地震臨時観測	京都大学防災研 究所年報	48B	223-229		1(2) イ	1(1) イ				京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 近い 査読 項目	2番 目 に 関 連 の 査 読 項目	3番 目 に 関 連 の 査 読 項目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄・平松良浩*・中山和正	2006	白山火山付近の顕著な群発地震活動	京都大学防災研究所年報	49B	289-295		1(2) イ	1(1) イ				京大防災研
2001年地殻比抵抗研究グループ	2002	鳥取県西部地震震源域周辺での深部比抵抗構造探査の概要	京都大学防災研究所年報	45	489-497		1(2)イ	1(1)イ		※	鳥取県西部地震震源域直下の深部比抵抗構造を調べる目的で、2001年秋に震源域周辺で広帯域MT観測が行われた。観測期間中に大きな地磁気擾乱を捉えることができ、この地域としては比較的S/N比の良い時系列データを取得することができた。得られた12観測点の探査曲線から震央周辺の比較的深部にある程度の水平方向の広がりを持つ低比抵抗領域が存在することが示唆された。	鳥取大学
Aizawa, K. et al	2005	Hydrothermal System beneath Mt. Fuji volcano inferred from Magnetotellurics and Electric Self-potential	EARTH AND PLANETARY SCIENCE LETTERS	235	343-355	○	1(2)イ	1(1)イ				鳥取大学
Uyeshima, M. et al	2005	Resistivity imaging across the source region of the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan	EARTH PLANETS AND SPACE	57	441-446	○	1(2)イ	1(1)イ				鳥取大学
大志万直人 他	2005	歪集中帯周辺(跡津川断層)での広帯域MT観測による深部比抵抗構造(序報)	京都大学防災研究所年報	48	125-132		1(2)イ	1(1)イ				鳥取大学
塩崎一郎(研究代表者)	2002	鳥取県西部地震震源域と隣接する鳥根県東部地震空白域の内陸地震空白域の地殻深部比抵抗構造とその対比に関する研究	京都大学防災研究所一般共同研究13G-03報告書		CD-ROM版		1(2)イ	1(1)イ				鳥取大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 近い 査読 項目	2番 目 に 関 連 の 査 読 項目	3番 目 に 関 連 の 査 読 項目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
塩崎 一郎(研究代表者)	2004	内陸地震空白域の地殻深部比抵抗構造に関する研究	京都大学防災研究所一般共同研究15G-01報告書		CD-ROM版		1(2)イ	1(1)イ		※	鳥根県東部地震空白域の地殻深部比抵抗構造を求めるために、2003年秋、鳥根県東部の松江市～新見市測線を設定して広帯域 MT観測を実施した。幸いなことに、観測期間中、全世界的に大規模な二つの磁気嵐が発生し、ほぼ全点において良好な記録を得ることができた。空白域周辺の深部比抵抗構造が3つに大別できた。北から述べると(1)表層を除き全般的に高比抵抗構造(鳥根半島)、(2)宍道湖直南の2地点下は低比抵抗、(3)高比抵抗層下に低比抵抗層がある地域	鳥取大学
笠谷 貴史 他	2002	兵庫県北部域での地殻比抵抗構造	京都大学防災研究所年報	45	571-576		1(2)イ	1(1)イ				鳥取大学
相澤 広記 他	2003	富士山地下の地殻深部比抵抗構造(序報)	京都大学防災研究所年報	46	729-737		1(2)イ	1(1)イ				鳥取大学
Korenaga, M., S. Matsumoto, Y. Iio, T. Matsushima, K. Uehira, and T. Shibutani	2005	Three dimensional velocity structure around aftershock area of the 2004 mid Niigata prefecture earthquake (M6.8) by the Double-Difference tomography	Earth Planets Space	57	429-433	○	1(2)イ					九州大学
Matsumoto, S	2005	Scatterer density estimation in the crust by seismic array processing	Geophys. J. Int.	163	622-628	○	1(2)イ			*	地殻内の不均質を表すパラメータとして、散乱微分断面積があるが、これは散乱強度と散乱体分布密度によって定義されている。従来、散乱強度についてはいくつかの推定があるが本論文では、地震計アレイデータを使った散乱体分布密度の推定方法を開発するとともに、鳥取県西部地震震源域での推定を行った。	九州大学
Matsumoto, S., A. Watanabe, T. Matsushima, H. Miyamachi, and S. Hirano	in press	Imaging S-wave scatterer distribution in south-east part of the focal area of the 2005 West off Fukuoka Prefecture Earthquake (MJMA7.0) by dense seismic array	Earth Planets Space			○	1(2)イ	1(3)ア		*	福岡県西方沖震源域の南東部でアレイ観測を行った。その結果、本震の震源域南東部で強い不均質が深さ10kmに見出された。これは本震の破壊の停止に寄与する可能性が考えられる。	九州大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 議論の項目	2番目 に 関連の 深い 議論の 項目	3番目 に 関連の 深い 議論の 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Matsumoto, S., Y. Iio, T. Matsushima, K. Uehira, and T. Shibutani	2005	Imaging of S-wave reflectors in and around the hypocentral area of the 2004 mid Niigata Prefecture Earthquake (M6.8)	Earth Planets Space	57	557-561	○	1(2) イ	1(3) ア		*	2004年中越地震震源域における、オンラインおよびオフライン臨時観測データから、地殻中深部のS波反射面を検出した。これらは深さ15km-25kmに分布し、震源分布と同様に北西に向かって深くなり、かつ、北部と南部ではその震度に差が見られた。多くのM6級地震が発生したこの地震のメカニズムと反射面には幾何学的な類似性があり、これらの関連が示唆されることを見いだした。	九州大学
Miyazawa, M., J. Mori, Y. Iio, T. Shibutani, S. Matsumoto, H. Katao, S. Ohmi, and K. Nishigami	2005	Triggering sequence of large aftershocks of the Mid Niigata prefecture, Japan Earthquake in 2004 by static stress changes	Earth Planets Space	57	1109-1113	○	1(2) イ					九州大学
Nakamura, T., S. Suzuki, H. Sadeghi, S. Fatemi Aghda, T. Matsushima, Y. Ito, S. Hosseini, A. Jafar Gandomi, and M. Maleki	2005	Source fault structure of the 2003 Bam earthquake, southeastern Iran, inferred from the aftershock distribution and its relation to the heavily damaged area: Existence of the Arg-e-Bam fault proposed	Geophysical Research Letters	32	L09308, doi:10.1029/2005GL022631	○	1(2) イ	4(6)				九州大学
Shibutani, T., Y. Iio, S. Matsumoto, H. Katao, T. Matsushima, S. Ohmi, F. Takeuchi, K. Uehira, K. Nishigami, B. Enescu, I. Hirose, Y. Kano, Y. Kohno, M. Korenaga, Y. Mamada, M. Miyazawa, K. Tatsumi, T. Ueno, H. Wada, and Y. Yukutake	2005	Aftershock distribution of the 2004 Mid Niigata Prefecture Earthquake derived from a combined analysis of temporary online observations and permanent observations	Earth Planets Space	57	545-549	○	1(2) イ					九州大学
Suzuki, S., Sayyed Mahmoud Fatemi Aghda, T. Nakamura, T. Matsushima, Y. Ito, Hossein Sadeghi, Mehdi Maleki, Arash Jafar Gandomi and Sayyed Keivan Hosseini	2004	Temporal Seismic Observation and Preliminary Hypo-center Determination of Aftershocks of the 2003 Bam Earthquake, Southeastern Iran	Bulletin of the Earthquake Research Institute	79	37-45		1(2) イ	4(6)				九州大学
Watanabe, A., S. Matsumoto, T. Matsushima, K. Uehira, N. Matsuo and H. Shimizu	in press	Shear wave polarization anisotropy in and around the focal region of the 2005 West off Fukuoka Earthquake	Earth Planets Space			○	1(2) イ					九州大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
山下幹也・佐藤久美子・筒井智樹・松本聡	2005	太田断層周辺における浅部地震波反射面	活断層研究	25	47-55	○	1(2) イ					九州大学
清水 洋・植平賢司・松本 聡・松島 健・松尾のり道	2002	布田川-日奈久断層系における地震活動	月刊地球	38	128-133		1(2) イ					九州大学
飯尾能久・松本 聡・片尾 浩・松島 健・大見士朗・澁谷拓郎・竹内文朗・植平賢司・西上欽也・Bogdan Enescu・廣瀬一望・加納靖之・河野裕希・是永将宏・徳田 豊・宮澤理稔・辰巳賢一・上野友岳・和田博夫・行竹洋平	2005	2004年新潟県中越地震の発生過程	京都大学防災研究所年報	48	165-170		1(2) イ					九州大学
Nakao, S., H. Takahashi, T. Matsushima, Y. Kohno, and M. Ichianagi	in press	Postseismic deformation following the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (M7.0) derived by GPS observation	Earth Planets Space	58		○	1(2) イ					鹿児島大学
T. Iwasaki, K. Adachi, T. Moriya, H. Miyamachi, T. Matsushima, K. Miyashita, T. Takeda, T. Taira, T. Yamada, and K. Ohtake	2004	Upper and middle crustal deformation of an arc-arc collision across Hokkaido, Japan, inferred from seismic refraction/wide-angle reflection experiments	Tectonophysics	388	59-73	○	1(2) イ					鹿児島大学
後藤和彦	2002	1997年鹿児島県北西部地震に伴う応力変化と地震活動	京都大学防災研究所研究集会 13K-04		30-42		1(2) イ					鹿児島大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
安藤誠・森谷武男・岩崎貴哉・武田哲也・ 朴成実・酒井慎一・飯高隆・久保篤規・宮 町宏樹・田代勝也・松島健・鈴木貞臣	2002	九州東部の人工地震観測から推定された地殻構造	東京大学 地震研究所彙報	77	277-285		1(2) イ					鹿児島大 学
宮町宏樹・中野伸也 ・平野舟一郎・後藤和彦	2004	1997年鹿児島県北西部地震の余震と重力異常の空間 分布	地震、第2輯	56	383-386	○	1(2) イ			*	鹿児島県北西部地震の余震域を含む領域を対象に高密度な重力サーベイを 実施し、詳細な重力異常分布を明らかにした。P波速度構造の高速域領域と 高密度領域が対応し、さらに、二つの本震の断層面が、高密度領域を 避けるように分布していることを示した。	鹿児島大 学
宮町宏樹・藤田大介 ・山本明彦・平野舟一郎・八木原寛・後藤 和彦・中尾茂・角田寿喜	2006	鹿児島県奄美大島における重力測定	北海道大学 地球物理学研究 報告	69	51-67		1(2) イ					鹿児島大 学
平貴昭・森谷武男・宮町宏樹・和田直人・ 平野舟一郎・大塚健・松原わか・丸山 保洋	2002	北海道北東部における爆破地震動の観測	東京大学 地震研究所彙報	77	225-230		1(2) イ					鹿児島大 学
Fukuyama, E., Ikeda, R. and Wibberley, C .A. J.	2004	Physics of Active Faults – Theory, Observation and Experiments	Tectonophys.	378	141-142	○	1(2) イ					防災科研
M. Murakami, R. Yamada and T. Tagami	2005	Short-term annealing characteristics of spontaneous fission tracks in zircon: A qualitative description	Chemical Geology	227	214-222	○	1(2) イ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
R. Yamada, M. Murakami and T. Tagami	2003	Zircon Fission Track Annealing: Short-term Heating Experiment Toward the Detection of Frictional Heat along Active Faults	Geochimica et Cosmochimica Acta	67	A548	○	1(2) イ					防災科研
Tatsuo MATSUDA, Kentaro OMURA, Ryuji IKEDA, Takashi ARAI, Kenta KOBAYASHI, Koji SHIMADA, Hidemi TANAKA, Tomoaki TOMITA and Satoshi HIRANO	2004	Fracture-zone conditions on a recently active fault: insights from mineralogical and geochemical analyses of the Hirabayashi NIED drill core on the Nojima fault, southwest Japan, which ruptured in the 1995 Kobe earthquake	Tectonophysics	378	143-163	○	1(2) イ	1(3) ア			1995年兵庫県南部地震の直後に野島断層を貫くドリリングで採取した断層帯コアの断層岩分布、鉱物分布、化学組成分布を解析した。3カ所で破砕帯が認識され、断層活動に伴って鉱物分布、化学成分が母岩から変化していた。粘土鉱物分布、化学成分分布の特徴から、3カ所の中で最浅部の1140m付近の破砕帯が今回の地震で活動した可能性がもっとも高いことが示された。	防災科研
Yamashita, F., E. Fukuyama, and K. Omura	2004	Estimation of Fault Strength: Reconstruction of Stress Before the 1995 Kobe Earthquake	Science	306	261-263	○	1(2) イ			*	1995年兵庫県南部地震直後に野島断層近傍で原位置測定した応力に対して、地震時の断層すべり分布による応力変化を補正し、地震直前に断層面に働いていた応力場を推定できた。地震直前には、断層中央部に大きな剪断応力が作用する一方で、断層の端では地震前から小さな剪断応力が作用していなかったこと、その結果から、断層面上の摩擦係数の下限が中央部で約0.5、端で約0.05となることが定量的に推定された。	防災科研
池田隆司、小村健太郎	2004	地殻応力測定：水圧破壊法と他の方法との併用	月刊地球	26	90-96		1(2) イ					防災科研
山下 太、久保篤規、酒井英男、浦 泰宏、竹内 章、小村健太郎	2005	跡津川断層クリープ域におけるVLF-MT探査	防災科学技術研究所研究報告	68	125-135		1(2) イ					防災科研
小村健太郎、池田隆司、松田達生、千葉昭彦、水落幸広	2004	活断層ドリリングによる断層構造研究－牛伏寺断層近傍の地殻応力、岩盤、比抵抗構造－	月刊地球号外 No.46		127-134		1(2) イ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
小村健太郎、池田隆司、飯尾能久、新井崇史、小林健太、島田耕史、田中秀実、平野 聡、松田達生	2003	断層破砕帯部の物理検層－野島断層平林NIED井の場合－	物理探査	56	401-414	○	1(2) イ	1(4) イ	1(3) ア		1995年兵庫県南部地震直後に掘削された野島断層をつらぬくドリリングにより行われた孔内物理検層について、破砕帯と認められる領域の検層結果から、検層データからみた破砕帯部の特性を明らかにした。これにより検層データから母岩部と破砕帯部明瞭に区分されることがわかった。	防災科研
Fujimoto,K., Y. Ohtani,N. Shigematsu,Y. Miyashita, Y. Tomita, H. Tanaka, K. Kobayashi. Y. Kobayashi	2002	Water rock interaction observed in the brittle-plastic transition zone	Earth, Planets and Space	54	1127-1132	○	1(2) イ					産業技術総合研究所
Imanishi, K., H. Ito, Y.Kuwahara, Y.Mamada, T.Yokokura, N.Kano, K.Yamagichi, and A.Tanaka	2002	Deep structure of the Nagamachi-Rifu fault deduced from small aperture seismic array observations	Earth, Planets and Space	54	1091-1094	○	1(2) イ					産業技術総合研究所
Imanishi, K., M. Takeo, H. Ito, W. Ellsworth, T. Matsuzawa, Y. Kuwahara, Y. Iio, S. Horiuchi, and S. Ohmi	2004	Source parameters and rupture velocities of microearthquakes in Western Nagano, Japan, determined using stopping phases	Bull. Seis. Soc. Am.	94	1762-1780	○	1(2) イ					産業技術総合研究所
Imanishi, K., Y. Kuwahara and Y. Haryu	2006	Off-fault aftershocks of the 2005 WEST OFF Fukuoka Prefecture Earthquake: Reactivation of a structural boundary	Earth Planets Space	58	81-86	○	1(2) イ					産業技術総合研究所
Imanishi, K., Y. Kuwahara and Y. Haryu	2006	The seismicity, fault structures, and stress field in the seismic gap adjacent to the 2004 Mid-Niigata earthquake inferred from seismological observations	Earth Planets Space	58	831-841	○	1(2) イ			*	新潟県中越地震南部の地震空白域として注目される六日町断層周辺で3-5km間隔で13か所の微小地震臨時観測を実施し、六日町断層、十日町断層の3次元深部構造モデルを提案し、応力分布を明らかにした。	産業技術総合研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kuwahara Y., Y. Mamada and H. Ito	2003	Low-velocity zones along subducting oceanic plates – Their implications in the subduction-zone seismogenesis and a method to detect them	Bull. Earthq. Res. Inst	78	197–203	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Kuwahara, Y and Ito, H.,	2002	Fault low velocity zones deduced by trapped waves and their relation to earthquake rupture processes	Earth, Planets and Space	54	1040–1050	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Mamada Y. Y. Kuwahara, H. Ito, and H. Takenaka.	2002	3-D finite-difference simulation of seismic fault zone waves –Application to the fault zone structure of the Mozumi–Sukenobu fault, central Japan–, Earth Planets Space	Earth, Planets and Space	54	1055–1058	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Mamada, Y., Y. Kuwahara, H. Ito and H. Takenaka	2003	Discontinuity of the Mozumi–Sukenobu fault low-velocity zone, central Japan, inferred from 3D finite-difference simulation of fault zone waves excited by explosive sources	Tectonophysics	378	209–222	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Masuda T., Kimura K., Fu B., and Li X.	2004	Validity of the microboudin method for palaeo-stress analysis: application to extraordinarily long sodic amphibole grains in a metachert from Aksu, China	Journal of Structural Geology	26	203–206	○	1(2) イ	1(2) エ				産業技術 総合研究 所
Mizuno T.	2003	The subsurface observation of fault-zone trapped waves: applications to investigations of the deep structure of active faults	Bull. Earthq. Res. Inst	78	91–106	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Mizuno T. and M. Nakai	2005	The development of database of the shear-wave splitting of the crustal earthquakes, OpenSWS	Bull. Earthq. Res. Inst	80	43-52	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Mizuno T., H. Ito, Y. Kuwahara, K. Imabnishi and T. Takeda	2005	Spatial variation of shear-wave splitting across an active fault and its implication for stress accumulation mechanism of inland earthquakes: the Atotsugawa fault case	Geophys. es. Lett	32	L20305	○	1(2) イ			*	跡津川断層近傍の3-5km間隔の微小地震観測データを解析し、S波異方性の解析を行ない、最大圧縮軸の方向は、断層に水平方向に近づくにつれ、断層と45度以上の高角から45度に系統的に近づくように変化していることが分かった。これを指示する断層の応力蓄積モデルとしては、断層深部での定常すべりが適当であることを示した。	産業技術 総合研究 所
Mizuno, T., K. Nishigami, H. Ito, and Y. Kuwahara	2003	Deep structure of the Mozumi-Sukenobu fault, central Japan, estimated from the subsurface array observation of fault zone trapped wave	Geophys. J. Int.	159	622-642	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Ogata Y., Jones,L.M., and Toda, S.	2003	When and Where the Aftershock Activity was Depressed: Contrasting Decay Patterns of the Similar Major M7 Earthquakes in Southern California	Journal of Geophysical Research	108	10.1029/2002JB002009	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Pervukhina M., Y. Kuwahara and H. Ito	2004	Rock microstructure in the deep extension of the Nagamachi-Rifu fault revealed by analysis of collocated seismic and magnetelluric data: implocation of strong deformation	Earth, Planets and Space	56	1357-1368	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Pervukhina M., Y. Kuwahara and H. Ito	2005	Fractal network and mixture models for elastic and electrical properties of porous rock, in Fractal Behavior of the Earth Syatem	in Fractal Behavior of the Earth Syatem		97-118	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Shigematsu N. and Yamagishi H	2002	Quartz microstructures and deformation conditions in the Hatagawa shear zone, north-eastern Japan	The Island Arc	11	45-60	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Shigematsu, N, K. Fujimoto, T. Ohtani, and K. Goto	2004	Ductile fracture of fine-grained plagioclase in the brittle-plastic transition regime: implication for earthquake source nucleation	EPSL	222	1007-1022	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Tanaka A., and Y. Ishikawa	2002	Temperature Distribution and Focal Depth in the Crust of the Northeastern Japan	Earth, Planets and Space	54	1109-1113	○	1(2)イ					産業技術 総合研究 所
Toda S. and Stein R.S.	2002	Response of the San Andreas Fault to the 1983 Coalinga-Nunez Earthquakes: An Application on Interaction-based Probabilities for Parkfield	Journal of Geophysical Research	107	ESE6-1-ESE6-16	○	1(2) イ	1(2) エ				産業技術 総合研究 所
Toda S. and Stein R.S.	2003	Toggling of seismicity by the 1997 Kagoshima earthquake couplet: A demonstration of time-dependent stress transfer	Journal of Geophysical Research	108	doi101029/2003JB0025	○	1(2) イ	1(2) エ				産業技術 総合研究 所
Toda S., Stein, R.S. and King, G.C.	2002	デイスロケーションソフトウェア「Coulomb」の紹介	活断層研究	21	25-32	○	1(2) イ	1(1) イ				産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Toda S., Stein, R.S., and Sagiya T.	2002	Evidence from the AD 2000 Izu islands earthquake swarm that stressing rate governs seismicity	Nature	419	58-61	○	1(2) イ	1(2) エ		*	2000年三宅噴火に伴う群発地震は、マグニチュード3以上の地震7000個という観測史上最大規模のものであった。この群発地震活動は、地下で板状のマグマが地殻を押し広げながら入り込んだ結果、周囲の近くに加わる応力の増加率が大幅に変化したと考えると説明できる。	産業技術 総合研究 所
Tomita Y. Ohtani, N. Shigematsu, H. Tanaka, K. Fujimoto, Y. Kobayashi, Y. Miyashita, K. Kobayashi.	2002	Development of the Hatagawa Fault Zone clarified by geological and geochronological studies	Earth, Planets and Space	54	1207-1210	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
桑原保人, 水野高志, 中井未里	2006	地殻応力場データベース			http://www.aist.go.jp/RIODB/D106/index.html		1(2) イ					産業技術 総合研究 所
重松紀生, 藤本 光一郎, 大谷 具幸, 田中秀実, 宮下 由香里, 富田倫明	2003	内陸の断層帯の脆性-塑性遷移領域における構造 - 畑川破砕帯を例として -	地学雑誌	112	897-914	○	1(2) イ			*	過去の活断層深部露頭である福島県の畑川破砕帯の詳細な地質調査を行い、横ずれ断層における断層深部の実態、とりわけ地震発生域と考えられる脆性-塑性遷移領域の断層岩の特徴や分布、形成環境などを明らかにし、地震の破壊核生成モデルを提案した	産業技術 総合研究 所
遠田晋次	2004	2002年11月3日アラスカ、デナリ断層地震にみられる地震のトリガリング	月刊地球	45号外	40-45		1(2) イ	1(2) エ				産業技術 総合研究 所
遠田晋次	2002	静的応力ステップ、応力速度変化を考慮した地震発生確率予測	地学雑誌	111	233-247	○	1(2) イ	1(2) エ		*	近い将来の地震発生確率を評価ため、断層相互作用・地震連鎖性を考慮した、より現実的な評価を行う必要がある。本報告では、大地震に伴う静的応力変化を取り入れた地震発生確率算出手法を紹介し、2000年に発生した伊豆半島群発地震と鳥取県西部地震を例にその妥当性・適用性を検討した。	産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
桑原保人・木口 努	2006	地殻応力方位測定法-岩盤のクリープ変形を利用した新しい技術開発	検査技術	11	28-33		1(2) イ					産業技術 総合研究 所
小泉 尚嗣, 佃 栄吉, 高橋 誠, 横田裕, 岩田 知孝, 入倉孝次郎, 上砂正一, 高 木清, 長谷川昌志	2002	黄梨断層の地下構造調査	地震 第2輯	55	153-166	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
田中明子, 伊藤久男	2002	長野県西部地域における地殻内地震の下限深度とその 場の温度	地震 第2輯	55	1-10	○	1(2)イ					産業技術 総合研究 所
北川 有一, 小泉 尚嗣, 大谷 竜, 渡辺 邦 彦, 板場智史	2003	山崎断層沿いの産業技術総合研究所安富観測点で観 測された顕著な地殻歪変化	地震 第2輯	56	245-254	○	1(2) イ	2(2) エ				産業技術 総合研究 所
木口努, 伊藤久男, 桑原保人	2003	ハイドロフォンVSPで観測されるチューブ波を用いた野島 断層の透水性評価	物理探査	56	157-170	○	1(2) イ					産業技術 総合研究 所
Hiroshi P. Sato, T. Sekiguchi, R. Koziroi, Y. Suzuki and M. Iida	2004	Overlaying landslides distribution on the earthquake source, geological and topographical data: the Mid Niigata prefecture earthquake in 2004, Japan	Landslides	2-2	143-152	○	1(2)イ	1(3)ア	2(2)エ			国土地理 院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Takuya Nishimura	2003	Rheology of the lithosphere inferred from postseismic uplift following the 1959 Hebgen Lake earthquake (1959年ヘブガンレイク地震後の隆起から推定されたリソスフェアのレオロジー)	Journal of Geophysical Research	108	1-12	○	1(2)イ					国土地理院
Takuya Nishimura, S. Fujiwara, M. Murakami, H. Suito, M. Tobita and H. Yarai	2006	Fault model of the 2005 Fukuoka-ken Seiho-oki earthquake estimated from coseismic deformation observed by GPS and InSAR	Earth, Planets and Space	58	51-56	○	1(2)イ	1(3)ア	2(2)ア	*	GPS連続観測、三角点での復旧測量、ENVISATを用いた干渉SARデータから、2005年3月20日の福岡県西方沖の地震(M7.0)に伴う地殻変動を明らかにし、矩形断層モデルならびに断層面上でのすべり分布を推定した。その結果、この地震では、ほぼ垂直な断層が左横ずれし、滑り量の大きな領域は、震源から南東10kmまでの、深さ0-10kmに位置し、志賀島の南側ではほとんど滑っていない事が明らかになった。	国土地理院
Takuya Nishimura, T. Imakiire, H. Yarai, T. Ozawa, M. Murakami and M. Kaizu	2004	A preliminary fault model of the 2003 July 26, M6.4 northern Miyagi earthquake, northeastern Japan, estimated from joint inversion of GPS, leveling, and InSAR data	Earth, Planets and Space	55	751-757	○	1(2)イ	2(2)エ	3(4)			国土地理院
今給黎哲郎	2004	新潟県中越地震に関連した地殻変動観測結果(速報)	日本地震学会 ニューズレター	16-5	29-33		1(2)イ	2(2)エ				国土地理院
今給黎哲郎	2004	地殻変動観測からみた新潟県中越地震と周辺のテクトニクス	平成16年新潟県 中越地震被害調 査報告会梗概集		1-6		1(2)イ	2(2)エ				国土地理院
今給黎哲郎・西村 卓也	2005	地殻変動観測から見た新潟県中越地震の断層モデル	月刊地球	号外 53	76-81		1(2)イ	1(3)ア	2(2)エ			国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
佐藤 浩・宇根 寛・小荒井 衛	2005	パキスタン北部地震に対するイコノス画像の判読と解釈	写真測量とリモートセンシング誌	44-6	2-3		1(2)イ	1(3)ア	1(4)ア			国土地理院
Aoki, S., M. Nishi, K. Nakamura, T. Hashimoto, S. Yoshikawa, and H. M. Ito	2005	Multi-planar structures in the aftershock distribution of the Mid Niigata prefecture Earthquake in 2004	Earth Planets Space	57	411-416	○	1(2)イ	1(3)ア				気象庁
Hoshiya, M.	2003	Fluctuation of wave amplitude even when assuming convolution of source, path and site factors—effect of rupture directivity	Physics of The Earth and Planetary Interiors	137	45-65	○	1(2)イ	1(3)ア				気象庁
Tanaka, A., Y. Ishikawa	2002	Temperature distribution and focal depth in the crust of the northeastern Japan	Earth, Planet. Space	54	1109-1113	○	1(2)イ					気象庁
Yoshida, Y. and D. Suetsugu	2004	Lithospheric thickness beneath the Pitcairn hot spot trail as inferred from Rayleigh wave dispersion	Phys. Earth Planet. Int.	146	75-85	○	1(2)イ					気象庁
鎌谷紀子・勝間田明男	2004	火山から離れた地域で発生している深部低周波微動・地震 —その分布と発生原因—	地震2	57	11-28	○	1(2)イ	1(2)ウ	2(2)ウ			気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
吉田 明夫・青木 元	2002	大地震の前に日本海沿岸の広域に現れた地震活動の静穏化	地学雑誌	111	212-221	○	1(2) イ					気象庁
青木 元・吉田 明夫	2002	内陸地震活動の統計的性質—活動期と静穏期及び大地震の続発性—	地学雑誌	111	200-211	○	1(2) イ					気象庁
石垣祐三・勝間田明男・鎌谷紀子・中村浩二・小沢慎三郎	2005	低周波地震活動の活動様式及び東海スロースリップとの関連について	駿震時報	68	81-97		1(2) イ	1(2) ウ				気象庁
浜田信生・吉川一光・近藤さや・鎌谷紀子・明田川保・松浦律子・鈴木保典	2004	日本の震源カタログの改善—1923年～1925年部分の新規作成と1926年以降の改善—	駿震時報	68	1-24		1(2) イ	2(3) ア				気象庁
Enomoto,Y., H. Hashimoto, N. Shirai, Y. Murakami, T. Mogi, M. Takada and M. Kasahara	2006	Anomalous geoelectric signals possibly related to the 2000 Mt.Utsu eruption and 2003 Tokachi-oki earthquake	Physics and Chemistry of the Earth	31	319-324	○	1(2) ウ	1(4) ア				北海道大学
Fomenko,E.Y. and T. Mogi	2002	A new computation method for a staggered grid of 3D EM field conservative modeling.	Earth Planets Space,	54	499-509	○	1(2) ウ	1(4) ア				北海道大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
一柳昌義・高橋浩晃・笠原稔・本谷義信・ 平田賢治・三ヶ田均	2004	北海道十勝沖で2001-2002年に発生した地震活動の陸 海地震観測網による震源決定	地震Ⅱ	56	529-536	○	1(2) ウ					北海道大 学
森谷武男, 茂木透, 高田真秀, 笠原稔	2005	地震に先行するVHF(FM放送波)散乱波の観測的研究	北海道大学地球 物理学研究報告	68	161-178		1(2) ウ	1(4) ア				北海道大 学
茂木透, 高田真秀, 森谷武男, 榎本祐 嗣, 橋本寛, 白井信正	2004	地球電磁氣的観測 特集:2003十勝沖地震	号外地球		118-125		1(2) ウ	1(4) ア				北海道大 学
Aizawa, K., Yoshimura, R., Oshiman, N., Yamazaki, K., Uto, T., Ogawa, Y., Tank, S.B., Kanda, W., Sakanaka, S., Furukawa, Y., Hashimoto, T., Uyeshima, M., Ogawa, T., Shiozaki, I. and Hurst, A.W.	2005	Hydrothermal system beneath Mt. Fuji volcano inferred from magnetotellurics and electric self-potential	Earth Planet. Sci. Lett.	235	343-355	○	1(2) ウ	1(2) イ	1(4) イ			東京大学 地震研究 所
Furuya, M., S. Okubo, F. Kimata, R. Miyajima, I. Meilano, W. Sun, Y. Tanaka1, and T. Miyazaki	2003	Mass budget of the magma flow in the 2000 volcano- seismic activity at Izu-islands, Japan	Earth Planets Space	55	375-385	○	1(2)ウ			*	2000年伊豆諸島群発地震活動・三宅島火山活動を、重力変化・地殻変動データから解 析した。マグマの移動を重力変化によって捉えることに成功した。	東京大学 地震研究 所
Furuya, M., S. Okubo, W. Sun, Y. Tanaka, J. Oikawa, H. Watanabe, and T. Maekawa	2003	Spatio-temporal gravity changes at Miyakejima volcano, Japan: Caldera collapse, explosive eruptions and magma movement	J. Geophys. Res.	108	doi:10.1029/200 2JB001989	○	1(2)ウ					東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Okubo, S., W. Sun, T. Yoshino, T. Kondo, J. Amagai, H. Kiuchi, Y. Koyama, R. Ichikawa, and M. Sekido	2002	Far-field deformation due to volcanic activity and earthquake swarm	International Association of Geodesy Symposia	125	518-521	○	1(2)ウ					東京大学 地震研究所
Sun, W., S. Okubo and G. Fu	in press	Green's Function of Co-seismic Strain Changes and Investigation of Effects of Earth's Curvature and Radial Heterogeneity	Geophys. J. Int.			○	1(2)ウ					東京大学 地震研究所
大久保修平	2002	測地・地殻変動の逆問題	月刊地球	24	125-131		1(2)ウ					東京大学 地震研究所
King,C.-Y. and Igarashi,G.	2002	Earthquake-related hydrologic and geochemical changes	Intern. Handbook of earthquake and Engineering Seamol.		637-646		1(2)ウ					東京大学 理学系
Mitropoulos, P., Notsu, K., Delibasis, N., Kakavas, N. and Voudouris, P.	2004	Earthquake prediction in the area of N.Evia on the basis of groundwater radon changes	Bull. Geol.Soc.Greece	36	1356-1361	○	1(2)ウ				ギリシャで行っている地下水中のラドンの連続測定で、地震発生に関連する変化を何例か捉えることに成功した。	東京大学 理学系
Ohno,M., Sato, T., Notsu, K., Wakita, H. and Ozawa, K.	2006	Groundwater-level changes due to pressure gradient induced by nearby earthquakes off Izu Peninsula, 1997	Pure Appl. Geophys.	163	647-655	○	1(2)ウ					東京大学 理学系

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Salazar, J.M.L., (10 authors), Sumino, H. and Notsu, K.	2002	Precursory diffuse carbon dioxide degassing signature related to a 5.1 magnitude earthquake in El Salvador, Central America	Earth Planet. Sci. Lett.	205	81-89	○	1(2) ウ	3(3)	1(4) ア		地殻からの揮発性物質放出を検知する新しい観測手段であるCO2拡散放出量の連続測定で、地震発生に先立つ変化を世界ではじめて捉えた。	東京大学 理学系
五十嵐文二	2003	ラドン濃度の変化と地震との関連を探る	化学	33	20-22		1(2) ウ					東京大学 理学系
五十嵐文二	2003	地下水の水位変化と地震	地震発生と水(東京大学出版会)		281-283		1(2) ウ					東京大学 理学系
野津憲治	2002	地下水観測などで検知された兵庫県南部地震直前の地球化学的異常現象	地震予知連絡会 会報	67	569-575		1(2) ウ	2(2) ア				東京大学 理学系
Honkura Y, Matsushima M, Oshiman N, Tuncer MK, Baris S, Ito A, Iio Y, Isikara AM	2002	Small electric and magnetic signals observed before the arrival of seismic wave	Earth, Planet. Space	54	E9-E12	○	1(2) ウ			*	地震波到達時に観測される電磁場変化を詳細に検討した結果、こうした変化は地震ダイナモ効果(地震波と地球磁場の相互作用から生じる発電作用)によることがわかった。この効果によると、地震波到達前に電磁場変動が観測されるはずであるが、そのような例が、顕著ではないものの、1999年イズミット地震の際に見られた。	東京工業 大学
Honkura Y, Satoh H, Ujihara N	2004	Seismic dynamo effects associated with the M7.1 earthquake of 26 May 2003 off Miyagi Prefecture and the M6.4 earthquake of 26 July 2003 in northern Miyagi Prefecture, NE Japan	Earth, Planet. Space	56	109-114	○	1(2) ウ					東京工業 大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
M. Matsushima, Y. Honkura, N. Oshiman, S. Baris, M. K. Tuncer, S. B. Tank, C. Cerik, F. Takahashi, M. Nakanishi, R. Yoshimura, R. Pektas, T. Komut, E. Tolak, A. Ito, Y. Iio, and A. M. Isikara,	2002	Seismoecromagnetic effect associated with the Izmit earthquake and its aftershocks	Bull. Seismol. Soc. Am.	92	350-360	○	1(2)ウ					東京工業大学
Ujihara, N., Y. Honkura, and Y. Ogawa	2004	Electric and magnetic field variations arising from the seismic dynamo effect for aftershocks of the M7.0 earthquake of 26 May 2003 off Miyagi Prefecture, NE Japan	Earth, Planet. Space	56	115-123	○	1(2)ウ					東京工業大学
氏原直人・坪井裕樹・本蔵義守・小川康雄・松島政貴	2003	地震ダイナモ効果の実証実験	Conductivity anomaly研究会 2002年論文集		162		1(2)ウ					東京工業大学
Sagiya, T.	2002	Searching for silent earthquake with geodetic data	Bull. Geogr. Surv. Inst.	48	25-38		1(2)ウ					名古屋大学
Kawakata, H., Ogasawara, H., Sekiguchi, S., Uyama, S., Mino, K.	2006	Stress change prior to the major events in the 1989 earthquake swarm off the eastern Izu Peninsula, Japan	Earth Planets Space	58	305-314	○	1(2)ウ					京大防災研
Nagai, N., Ando, M., Ogasawara, H., Ohkura, T., Iio, Y., Cho, A. and The Research Group for Semi-controlled experiments in South African Gold mine	2002	Location and temporal variation of shear wave splitting in a South African gold mine	In Seismogenic Process Monitoring (Ogasawara et al. eds.), Balkema		185-198		1(2)ウ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 議論の項目	2番目に 関連の深い 議論の項目	3番目に 関連の深い 議論の項目	主要 成果の 場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Naoi, M., Ogasawara, H., Takeuchi, J., Yamamoto, A., Shimoda, N., Morishita, K., Ishii, H., Nakao, S., van Aswegen, G., Mendecki, A.J., Lenegan, P., Ebrahim-Trollope, R., Iio, Y.	2006	Small slow-strain steps and their forerunners observed in gold mine in South Africa	Geophys. Res. Let.	33	L12304, doi: 10.1029/2006GL026507	○	1(2) ウ			*	金鉱山の地下約2.4kmの地質断層直近の石井式歪計により、100m以内のM2級2回を含む3年間の全活動の25Hz24bit連続記録が得られた。400個の鉱山のカタログ地震に伴う歪ステップの前には歪の加速は見られなかった。しかし、カタログ地震に対応しない多数の歪ステップもあった。中にはカタログ地震のステップに比べて桁違いに遅いものがあり、しかも、非常に遅いステップにのみ、顕著な前駆的歪加速が見られた。	京大防災研
Ogasawara, H. and The Research Group for Semi-controlled experiments in South African Gold mine.	2002	Review of the Semi-Controlled Earthquake Generation Experiments in South African Deep Gold Mines (1992-2001).	In Seismogenic Process Monitoring (Ogasawara et al. eds.), Balkema		119-150		1(2) ウ					京大防災研
Ogasawara, H., Ishii, H., Moriyama, S., Iio, Y., The Research group for Semi-controlled Earthquake Generation Experiment in South African Deep Gold Mines.	2002	A preliminary report on continuous 24-bit 25-Hz strain monitoring on seismogenic faults of M ³ in deep gold mines.	Proc. Internat. Workshop Phys. Active Fault, Tech. Note Nat. Res. Inst. Earth Sci. Disast. Prev.	234	287-293		1(2) ウ					京大防災研
Ogasawara, H., Miwa, T. and Research Group for Earthquake Generation Experiments in South African Deep Gold Mines	2002	Microearthquake scaling relationship using near-source, redundant, wide-dynamic-range accelerograms in a South African deep gold mine.	In Seismogenic Process Monitoring (Ogasawara et al. eds.), Balkema		151-164		1(2) ウ					京大防災研
Ogasawara, H., Sato, S., Nishii, S. and Research Group for Earthquake Generation Experiments in South African Deep Gold Mines	2002	Temporal variation of seismic parameters associated with an Mw ² event monitored at a 100~200 m distance	In Seismogenic Process Monitoring (Ogasawara et al. eds.), Balkema		173-184		1(2) ウ			*	南アフリカ金鉱山の地下約2.6kmに9点の15kHzサンプリングの加速度計アレイを設置し、-2<M<3の2万個を超える地震波形記録を得た。アレイから100m以内で起こったM2に伴う極微小地震の波形解析により、M2の地震の前後における応力変化が検知された。M2の地震の応力降下に対応すると考えられる応力の減少に加えて、M2の発生直前に震源域において、既に応力の低下が始まっていた可能性が示唆された。	京大防災研
Ogasawara, H., Sato, S., Nishii, S., Sumitomo, N., Ishii, H., Iio, Y., Nakao, S., Ando, M., Takano, M., Nagai, N., Ohkura, T., Kawakata, H., Satoh, T., Kusunose, K., Cho, A., Mendecki, A., Cichowicz, A., Green, R.W.E., Kataka, M.O.	2002	Semi-controlled seismogenic experiments in South African deep gold mines	J. South African Inst. Mining Metallurgy	102	243-250	○	1(2) ウ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の 有無	最も関 連の深 い差 違の項 目	2番目 に関 連の深 い差 違の項 目	3番目 に関 連の深 い差 違の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ogasawara, H., Takeuchi, J., Shimoda N., Ishii, H., Nakao, S., van Aswegen, G., Mendecki, A.J., Cichowicz, A. Ebrahim-Tollope, R., Kawakata, H., Iio Y., Ohkura, T., Ando, M and the Research Group for Semi-controlled Earthquake-generation Experiments in South African deep gold mines	2005	High-resolution Strain Monitoring During M ² Events in a South African Deep Gold Mine in Close Proximity to Hypocentres	Proceedings of the 6th International Symposium on Rockburst and Seismicity in Mines		385-391	○	1(2) ウ					京大防災研
Ogasawara, H., Takeuchi, J., Shimoda, N., Nakatani, M., Kato, A, Iio, Y., Kawakata, H., Yamada, T., Yamauchi, T., Ishii, H., Satoh, T., Kusunose, K., Otsuki, K., Kita, S., Nakao, S., Ward, A.K., McGill, R., Murphy, S.K., Mendecki, A.J., van Aswegen, G., and the Research Group for Semi-controlled Earthquake-generation Experiments in South African deep gold mines	2005	Multidisciplinary Monitoring of the Entire Life Span of an Earthquake and its Practical Strategy in South African Gold Mines	Proceedings of the 6th International Symposium on Rockburst and Seismicity in Mines		393-398	○	1(2) ウ					京大防災研
Satoh, T. and The Research Group for Semi-controlled experiments in South African Gold mine	2002	Near source observation of small initial phase generated by earthquakes in a deep gold mine in South Africa	In Seismogenic Process Monitoring (Ogasawara et al. eds.), Balkema		165-171		1(2) ウ					京大防災研
Yamada, T., Mori, J.J., Ide, S., Kawakata, H., Iio, Y., Ogasawara, H.	2005	Radiation efficiency and apparent stress of small earthquakes in a South African gold mine	J. Geophys. Res.	101	1305, doi:10.1029/2004JB003221	○	1(2) ウ			*	南アフリカ金鉱山の地下約2.6kmに設置された、15kHzサンプリングの加速度計アレイから距離150m以内で発生した0.8<M<1.4の地震の破壊過程のインバージョンを行った。これらの微小地震の破壊過程は、大地震同様に複雑であり、破壊伝播速度やエネルギー効率も大地震と変わらないことが明らかになった。	京大防災研
小笠原宏	2004	M4.6地震の震源(南アフリカMatjhabeng金鉱山)	地質ニュース	597	1-2		1(2) ウ					京大防災研
小笠原宏	2005	地下震源の直接観察	平成14-16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))課題番号14403005. 研究成果報告書				1(2) ウ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
小笠原宏・佐藤隆司	2004	M2級地震の震源と応力集中(南アフリカTauTona金鉱山)	地質ニュース	597	3-4		1(2) ウ					京大防災研
小笠原宏・南アフリカ金鉱山半制御地震発生実験国際共同研究グループ	2003	南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験とDAFSAM掘削計画	ICDP News Letter	5	7-7		1(2) ウ					京大防災研
小笠原宏・飯尾能久・中谷正生・南ア金鉱山半制御地震発生実験国際共同研究グループ	2003	南ア金鉱山における半制御地震発生実験(2002-2006)	月刊地球	292 (Vol. 25)	815-817		1(2) ウ					京大防災研
小笠原宏・飯尾能久・南ア金鉱山半制御地震発生実験国際共同研究グループ	2003	南ア金鉱山での震源過程直接観察	地震ジャーナル	35	42-51		1(2) ウ					京大防災研
中谷正生	2006	地震滑りによる摩擦発熱量の直接測定	平成15-17年度 科学研究費補助 金(基盤研究(B)), 課題番号 15340143, 研究成 果報告書				1(2) ウ					京大防災研
直井誠・小笠原宏・竹内淳一・山本覚仁・ 下田直之・森下健・石井統・中尾茂・ A.J.Mendecki・G. van Aswegen・R. Ebrahim-trollope・飯尾能久	2006		地震学会ニュース レター	18,1	表紙とその説 明		1(2) ウ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
飯尾能久	2006	地震の準備過程の解明、一南アフリカ鉱山における地震包囲網の完成—	平成14 —17年度科学研究 費補助金(基盤 研究(A)(1))課題 番号14204040、研 究成果報告書				1(2) ウ					京大防災 研
Ogasawara, H., S. Sato, S. Nishii, N. Sumitomo, H. Ishii, Y. Iio, S. Nakao, M. Ando, M. Takano, N. Nagai, T. Ohkura, H. Kawakata, T. Satoh, K. Kusunose, A. Cho, AJ Mendecki, A. Cichowicz, RWE Green, and MO. Kataka	2002	Semi-controlled seismogenic experiments in South African deep gold mines	Journal of the South African Institute of Mining and Metallurgy	102	243—250	○	1(2) ウ					鹿児島大 学
Horiuchi, S., K. Takai, Y. Iio, and S. Zheng		High sampling frequency seismic array at Ootaki, Nagano prefecture—stress drop distribution and seismic velocity change—	S-6, International workshop on physics of active fault, National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention		26—27		1(2)ウ					防災科研
Horiuchi, S. and Iio, Y.	2002	Stress drop distribution of micro-earthquake at Ootaki, Nagano Prefecture, Japan, obtained from waveform data by borehole stations.	Terra Scientific, Tokyo		383—391		1(2)ウ					防災科研
Horiuchi, S., Takai, K., Iio, Y., Zheng, S.	2002	High sampling frequency seismic array at Ootaki, Nagano Prefecture – stress drop distribution and seismic velocity change –	Technical note of the NIED	234	154—157		1(2)ウ					防災科研
Iio, Y., Horiuchi, S., Yamamoto, K., Kobayashi, Y., Ohmi, S., Ikeda, R., Yamamoto, E., Sato, H., Ito, H.	2002	Three-dimensional P and S wave velocity structures in the aftershock area of the 1984 western Nagano prefecture, Japan Earthquake – Implications for the relationship between structures and earthquake occurrences	Technical note of the NIED	234	152—153		1(2)ウ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Iio, Y., S. Horiuchi, S. Baris, C. Celik, J. Kyomen, B. Ucer, Y. Honkura, and A. M. Isikara	2002	Aftershock distribution in the eastern part of the aftershock region of the 1999 Izmit, Turkey earthquake	Bull. Seism. Soc. Am.	92	411-417		1(2)ウ					防災科研
Iio, Y., S. Horiuchi, K. Yamamoto, Y. Kobayashi, S. Ohmi, R. Ikeda, E. Yamamoto, H. Sato and H. Ito	2002	Three dimensional P and S wave velocity structures in the aftershock area of the 1984 western Nagano Prefecture, Japan Earthquake -Implication for the relationship between structure and earthquake occurrences- , S-5, Internanional workshop on physics of active fault	International Workshop on Physics of Active Fault		26-27		1(2)ウ					防災科研
Imanishi, K., M. Takeo, T. Matsuzawa, H. Ito, Y. Kuwahara, Y. Iio, S. Sekiguchi, S. Horiuchi and S. Ohmi	2002	Source Parameters of Small Earthquakes Estimated from an Inversion Method Using Stopping Phases	International Workshop on Physics of Active Fault		2-8		1(2)ウ					防災科研
Imanishi, Kazutoshi; Takeo, Minoru; Ellsworth, William L.; Ito, Hisao; Matsuzawa, Takanori; Kuwahara, Yasuto; Iio, Yoshihisa; Horiuchi, Shigeki; Ohmi, Shiro	2004	Source Parameters and Rupture Velocities of Microearthquakes in Western Nagano, Japan, Determined Using Stopping Phases	Bull. Seismol. Soc. Am.	94	1762-1780		1(2)ウ					防災科研
Ito, S., H. Ito, S. Horiuchi, Y. Iio,	2004	Local attenuation in Western Nagano, Central Japan estimated by inversion from seismograms recorded in three boreholes	Geophys. Res. Lett.		31		1(2)ウ					防災科研
Rydelek PA, S. Horiuchi, Y. Iio	2002	Spatial and temporal characteristics of low-magnitude seismicity from a dense array in western Nagano Prefecture, Japan	Earth Planets Space	54	81-89		1(2)ウ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Zheng, S., S. Horiuchi, M. Ando	2002	Stress drop of off-fault aftershocks of the 1995 Hyogo-ken Nanbu, Japan earthquake	International Workshop on Physics of Active Fault		2-2		1(2)ウ					防災科研
松澤孝紀, 武尾実, 井出哲, 飯尾能久, 伊藤久男, 今西和俊, 堀内茂木	2003	長野県西部地域における二重スペクトル比によるS波減衰の推定	地震, 第2輯	56	75-88		1(2)ウ					防災科研
榎本祐嗣, 橋本寛, 白井信正, 笠原稔, 古宇田亮一, 村上裕	2002	産業技術総合研究所におけるパルス地電流ネットワーク観測について	電気学会電磁環境研究会資料	EMC-02-11	19-22	○	1(2)ウ					産業技術総合研究所
Satake, K., F. Nanayama, S. Yamaki, Y. Tanioka, and K. Hirata	2005	Variability among tsunami sources in the 17th-21st centuries along the southern Kuril trench	Tsunamis, Advances in Natural and Technological Hazards Research	23	157-170	○	1(2)エ	1(2)ア				北海道大学
Satake, K., K. Hirata, S. Yamaki, and Y. Tanioka	2006	Re-estimation of tsunami source of the 1952 Tokachi-oki earthquake	EPS	58	535-542	○	1(2)エ	1(2)ア				北海道大学
高橋浩晃・笠原稔	2004	十勝沖の地震活動-1952年十勝沖地震以降51年間の地震活動の特徴-	地震Ⅱ	56	393-404	○	1(2)エ					北海道大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
高橋浩晃・笠原稔	2004	2003年十勝沖地震-1952年十勝沖地震からの地震活動・前震・本震・余震・誘発地震-	地震Ⅱ	57	115-130	○	1(2) エ					北海道大学
佐竹健治・平田賢治・谷岡勇市郎・山木滋	2005	1952・2003年の十勝沖地震の津波波源の比較-1952年津波の再検討に基づいて-	月刊地球	号外 49	55-65		1(2) エ	1(2) ア				北海道大学
谷岡勇市郎・平田賢治・日野亮太・金沢敏彦	2004	津波波形から推定した詳細な2003年十勝沖地震のすべり量分布	地震、第2輯	57	75-82	○	1(2) エ	1(2) ア			2003年十勝沖地震の詳細なすべり量分布を津波波形記録から推定した。得られたすべり量分布は地震波形やGPS地殻変動データから推定されたものと同じで、大きくすべった場所は広尾の沖合であった。1952年十勝沖の際には厚岸沖に大きなすべりが津波波形から推定されていることから、津波波形を見る限り1952年十勝沖地震と2003年十勝沖地震は違っていることが明らかになった。	北海道大学
平田賢治・谷岡勇市郎・佐竹健治・山木滋	2005	検潮記録上の津波到達時刻から推定した2003年十勝沖地震の津波波源域と1952年十勝沖地震の関係	月刊地球	号外 49	162-167		1(2) エ	1(2) ア				北海道大学
樋波康子, 佐藤魂夫, 今村文彦	2002	日本海沿岸に発生する地震に伴う津波の波源と伝播-1704年岩館地震、1793年鰐ヶ沢地震、および1804年象潟地震による津波-	地震2	54	431-440	○	1(2) エ					弘前大学
Matsuzawa T., T. Igarashi, and A. Hasegawa	2002	Characteristic small-earthquake sequence off Sanriku, northeastern Honshu, Japan	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2001GL014632	○	1(2) エ	1(2) ア				東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Matsuzawa, T., N. Uchida, T. Igarashi, T. Okada, and A. Hasegawa	2004	Repeating earthquakes and quasi-static slip on the plate boundary east off northern Honshu, Japan	Earth, Planet. Space	56	803-811	○	1(2) エ	1(2) ア		*	三陸沖では群発地震がしばしば発生し、しかもこれらは震源域が移動していくという特徴を持つこと、M6の地震はすべて余効すべりを生じることから、地震性すべりと余効すべりの連鎖反応で三陸沖の群発地震が生じるとする「連鎖反応モデル」を提示した。このモデルは余震域の時間的拡大現象も説明し、さらに地震発生サイクルがアスペリティのまわりのゆっくりとした滑りによって揺らぐことも示している。	東北大学
Uchida, N., T. Matsuzawa, A. Hasegawa, and T. Igarashi	2005	Recurrence intervals of characteristic M4.8+/-0.1 earthquakes off Kamaishi, NE Japan - Comparison with creep rate estimated from small repeating earthquake data	Earth Planet. Sci. Lett.	233	155-165	○	1(2) エ	1(2) ア		*	釜石沖のM4.8±0.1の固有地震的活動を示すクラスターの再来間隔は、1990年と1995年の地震の間が最も短く、1995年と2001年の地震の間が最も長い。相似地震活動から調べたところ、1992年から1994年にかけてこの周囲の準静的滑りが加速していたことがわかった。この準静的すべりの擾乱によって再来間隔が揺らいだものと推定される。	東北大学
Umino, N., T. Kono, T. Okada, J. Nakajima, T. Matsuzawa, N. Uchida, A. Hasegawa, Y. Tamura, and G. Aoki	in press	Revisiting the three M \sim 7 Miyagi-oki earthquakes in the 1930s : Possible seismogenic slip on asperities that were re-ruptured during the 1978 M7.4 Miyagi-oki earthquake	Earth, Planet. Space			○	1(2) エ	2(2) エ	1(3) ア	*	宮城県沖で1930年代に発生した3つのM7級の地震とその余震の震源再決定を行い、1978年宮城県沖地震の余震分布と比較した。その結果、1930年代の地震の余震域はいずれも1978年の宮城県沖地震の余震域の一部に重なる事が明らかになった。このことは、宮城県沖にはM7級の地震に相当するアスペリティが複数あり、1930年代にはこれらが順番に破壊したが、1978年には全体が一度に破壊した事を示している。	東北大学
松澤暢	2003	地震予知研究の動向と可能性	科学	73	991-999		1(2) エ					東北大学
松澤暢, 地震予知研究協議会企画部	2003	地震予知のための新たな観測研究計画: 現状・展望・挑戦	月刊地球	25	738-742		1(2) エ					東北大学
Haraguchi, T., O. Fujiwara, and K. Shimazaki	2005	Subaqueous tsunami deposits from Ohtsuchi Bay of Sanriku coast, North Eastern Japan	EOS, Trans. American Geophysical Union	86(52)	T11A-0350		1(2) エ					東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 近い 査読 の項目	2番目 に近い 査読 の項目	3番目 に近い 査読 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Matsuoka, H., and M. Okamura	2005	Recurrence intervals of Nankai earthquakes: comparison of geological and historical evidence	Eos, Trans. American Geophysical Union	86(52)	T11A-0353		1(2) エ					東京大学 地震研究所
Matsuzawa, T., N. Uchida, T. Igarashi, T. Okada, and A. Hasegawa	2004	Repeating earthquakes and quasi-static slip on the plate boundary east off Honshu, Japan	Earth Planets Space	56	803-811	○	1(2) エ	1(2) ア				東京大学 地震研究所
Shimazaki, K., H. Matsuoka, M. Okamura, and N. Chida	2006	Nankai earthquake sequence: observation and inference	"Earthquakes in Urban Areas", SOEC-ERI Joint Workshop, Program and Abstracts, Oxnard, June 1-3, 2006		14-16		1(2) エ			*	大分県佐伯市における津波堆積物調査から、四国西岸から九州東岸に津波被害をもたらした1707年宝永型南海地震が、過去3500年間に7回発生したことが解明された。1946年や1855年の南海地震では破壊されなかった足摺岬沖のアスペリティの破壊を伴う地震と考えられ、1361年-1498年-1605年の系列と1707年-1854年-1946年の系列との類似性から、次の南海地震は宝永型の可能性がある。	東京大学 地震研究所
Uchida, N., A. Hasegawa, T. Matsuzawa, and T. Igarashi	2004	Pre- and post-seismic slip on the plate boundary off Sanriku, NE Japan associated with three interplate earthquakes as estimated from small repeating earthquake data	Tectonophysics	385	1-15	○	1(2) エ	1(2) ア				東京大学 地震研究所
Uchida, N., T. Matsuzawa, A. Hasegawa, and T. Igarashi	2005	Recurrence intervals of characteristic M4.8+0.1 earthquakes off Kamaishi, NE Japan - Comparison with quasi-static slip rate estimated from small repeating earthquake data	Earth Planet Science Lett.	233	155-165	○	1(2) エ	1(2) ア				東京大学 地震研究所
岡村真・松岡裕美・島崎邦彦・千田昇・中田高・平田和彦	2006	博多湾警固断層の地震履歴	地震予知連会会報	75	555-559		1(2) エ			*	福岡県西方沖の地震後、博多湾で音波探査を行って警固断層の海域延長部を解明し、海底堆積物を採取して地震履歴を調査した結果、30年発生確率が日本の活断層の中でも高いグループに属することがわかった。また、福岡西方沖から警固断層に至る全長50kmの活断層系の存在を提示した。走向が変る志賀島北西部を境に、北部は3月20日西方沖の地震で活動し、南部の北端付近深部が4月20日の最大余震で活動した。	東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 差違 の項目	2番目 に関 連の 深い 差違 の項目	3番目 に関 連の 深い 差違 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
後藤秀昭	2005	中央構造線活断層帯(四国)における最近の研究成果	地理科学	60	194-199	○	1(2) エ					東京大学 地震研究所
後藤秀昭	2006	福島盆地西縁断層帯南部の変位量分布と活動間隔の推定	福島大学地域創造	18	47-57		1(2) エ					東京大学 地震研究所
後藤秀昭・渡辺満久	2006	北上低地西縁断層帯の完新世後期の活動と内陸活断層の相互作用	活断層研究	26	63-70	○	1(2) エ					東京大学 地震研究所
鳥居和樹・原口強・吉永佑一・高田圭太・今泉俊文	2006	東北地方三陸海岸吉里吉里湿地の津波堆積物	北淡シンポジウム 2006 講演要旨集		59-62		1(2) エ					東京大学 地震研究所
原口強・鳥居和樹・藤原治・島崎邦彦・今泉俊文	2006	東北地方三陸海岸大槌湾の津波堆積物	月刊地球	28	539-545		1(2) エ			*	三陸海岸大槌湾の水深10mの内海海底から、過去約6000年間に相当する24mのコア試料を採取し解析した結果、22枚の津波堆積物が認定された。過去約2000年間には約70～150年間隔で、それ以前では約500～800年間隔で津波が認められる。後者は特に大きな津波によるものと推定される。	東京大学 地震研究所
Tadokoro K, Ando M, Baris S, Nishigami K, Nakamura M, Ucer SB, Ito A, Honkura Y, Isikara AM	2002	Monitoring of fault healing after the 1999 Kocaeli, Turkey, earthquake	JOURNAL OF SEISMOLOGY	6	411-417	○	1(2)エ					東京工業 大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sato, T., K. Imanishi, N. Kato, and T. Sagiya	2004	Detection of a slow slip event from small singal in GPS data, Geophys	Res. Lett.	31	L0506, doi:10.1029/2004GL019514	○	1(2) エ					名古屋大学
Tadokoro, K., and M. Ando	2002	Evidence for rapid fault healing derived from temporal changes in S wave splitting	<i>Gephys. Res. Lett.</i>	29	10.1029/2001GL013644	○	1(2) エ	1(2)イ		*	S波偏光異方性の時間変化を観測し、野島断層の固着が3年ほどで完了したことを示した	名古屋大学
Takahashi, H., S. Nakao, N. Okazaki, J. Koyama, T. Sagiya, T. Ito, F. Ohya, K. Sato, Y. Fujita, M. Hashimoto, Y. Hosoi, T. Kato, T. Iinuma, J. Fukuda, T. Matsushima, Y. Kohn, and M. Kasahara	2004	GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (MJMA8.0), off southeastern Hokkaido, Japan	Earth, Planet. Space	56	377-382	○	1(2) エ					名古屋大学
W. Dzwiniel, D.A. Yuen, K. Boryczko, Y. Ben-Zion, S. Yoshioka, and T. Ito	2005	Nonlinear multidimensional scaling and visualization of earthquake clusters over space, time and feature space	Nonlinear Processes in Geophysics	12	117-128	○	1(2) エ					名古屋大学
佐藤魂夫・今西和俊・加藤尚之・鷺谷威	2003	1968年十勝沖地震の北側アスペリティ近傍に発生した地震(2001年8月14日, Mw6.4)の余効すべり	東京大学地震研究所集報	78	227-243	○	1(2) エ					名古屋大学
佐藤魂夫・今西和俊・加藤尚之・鷺谷威	2003	青森県東方沖の地震空白域内に発生した地震(2001年8月14日, M6.2)の破壊過程と地殻変動	東北地域災害科学研究	39	13-19		1(2) エ					名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
浅田照行・重富国宏・梅田康弘・辰巳賢一・木村昌三・川谷和夫・大村誠	2004	高知県佐賀町における地下水のアレー観測	京都大学防災研究所年報	47	721-724		1(2) エ					高知大学
木村昌三・小松勝記・岡村庄造編	2002	南海地震の碑を訪ねて	毎日新聞高知支局	著書	1-159		1(2) エ					高知大学
Fu B. Lin A., Kano K. Maruyama T., and Guo J.	2004	Application of stereoscopic satellite images for studying Quaternary tectonics in arid regions	International Journal of Remote Sensing	25	537-547	○	1(2) エ	1(1) イ				産業技術総合研究所
Fu B., and Lin A.	2003	Spatial distribution of the surface rupture zone associated with 2001 Ms 8.1 Central Kunlun earthquake, northern Tibet, revealed by satellite remote sensing data	International Journal of Remote Sensing	24	2191-2198	○	1(2) エ	1(1) イ				産業技術総合研究所
Fu B., Lin A., Kano K., Maruyama T., and Guo J.	2003	Quaternary folding of the eastern Tian Shan, northwest China	Tectonophysics	369	1-2, 79-101	○	1(2) エ	1(1) イ				産業技術総合研究所
Kitagawa,Y., K.Fujimori and N.Koizumi	2002	Temporal change in permeability of the rock estimated from repeated water injection experiments near the Nojima Fault in Awaji Island, Japan	Geophys. Res. Lett.	29	121-1-121-4	○	1(2)エ	1(2)ウ	1(2)イ	*	地震活動直後の野島断層の物性を調査する目的で行われた1997年と2000年の注水実験に伴って、野島断層近傍での湧水量変化を測定・解析した。その結果、野島断層近傍の岩石の透水性が低下していることを明らかにした。	産業技術総合研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kuscu, I., Okamura M., Matsuoka H., and Awata Y.	2002	Active faults in the Gulf of Izmit on the North Anatolian Fault, NW Turkey: a high-resolution seismic study	Marine Geology	190	1-2,421-443	○	1(2) エ					産業技術 総合研究 所
Lin A., Kikuchi M., and Fu B.	2003	Rupture segmentation and process of the 2001 Mw 7.8 Central Kunlun, China, Earthquake	Bulletin of the Seismological Society of America	93	2477-2492	○	1(2) エ	1(1) イ				産業技術 総合研究 所
Nanayama, F., Satake, K., Furukawa, R., Shimokawa, K., Atwater, B. F., Shigeno, K., and Yamaki, S.	2003	Unusually large earthquakes inferred from tsunami deposits along the Kuril trench	Nature	424	660-663	○	1(2)エ			*	北海道東部太平洋沖では約500年間隔で運動型地震が発生し、巨大津波が発生していることを明らかにした。	産業技術 総合研究 所
Satake, K., Wang, K., Atwater, B.	2003	Fault slip and seismic moment of the 1700 Cascadia earthquake inferred from Japanese	Journal of Geophysical Research	108	2535	○	1(2)エ			*	西暦1700年に北アメリカ西海岸で発生した大地震の規模を、日本に残されている津波記録から解明した。	産業技術 総合研究 所
Sawai, Y	2002	Evidence for 17th-century tsunamis generated on the Kuril-Kamchatka subduction zone, Lake Tokotan, Hokkaido, Japan	Jour. Asian Earth Sci.	20	903-911	○	1(2)エ					産業技術 総合研究 所
重野聖之, 七山 太, 立石雅昭	2002	津波堆積物の堆積相と粒度組成から復元された津波の遡上過程-1993年北海道南西沖地震津波の事例-	月刊地球	24	685-691		1(2)エ					産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
穴倉正展	2003	変動地形からみた相模トラフにおけるプレート間地震サイクル	東京大学地震研究所集報	78	245-254	○	1(2)エ					産業技術総合研究所
谷岡勇市郎, 佐竹健治	2003	津波地震の発生メカニズム	月刊地球	25	347-354		1(2)エ					産業技術総合研究所
遠田晋次	2002	2000年鳥取県西部地震の”地変”についての考察ー境界要素法による表層誘発すべりの可能性の検討ー	活断層研究	21	93-98	○	1(2)エ					産業技術総合研究所
遠田晋次	2004	活断層から発生する地震規模の予測 トルコ北アナトリア断層帯でのトレンチ発掘調査	検査技術	9	45-49		1(2)エ					産業技術総合研究所
遠田晋次, 高田圭太, 奥村晃史, 中田高, 原口 強	2002	サンアンドレアス断層系ヘイワード断層における地層抜き取り調査	活断層研究	21	1-2	○	1(2)エ					産業技術総合研究所
遠田晋次, 堤 浩之, 奥野 充, Duman, T., Emre, O., 原口 強, 近藤久雄, 杉戸信彦, 中村俊夫	2002	トルコ, 北アナトリア断層, 1999年8月イズミット地震に伴う地震断層の掘削調査	活断層研究	21	3-4	○	1(2)エ					産業技術総合研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 項目	2番目 に 関連 の深い 項目	3番目 に 関連 の深い 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
近藤久雄, 遠田晋次, 今泉俊文, 堤 浩之, 高田圭太, 杉下一郎, 中田 高, 奥村晃史, 島崎邦彦, 池田哲哉, 原口 強	2003	丹那断層の過去3,000年間の活動履歴と単位変位量ー田代地区における3Dトレンチ・Geoslicer調査ー	地震 第2輯	55	407-424	○	1(2) エ					産業技術総合研究所
後藤秀昭, 堤 浩之, 遠田晋次	2003	中央構造線活断層系・畑野断層の最新活動時期と変位量	地学雑誌	112	531-543	○	1(2) エ					産業技術総合研究所
高田圭太, 佐竹健治, 寒川 旭, 下川浩一, 熊谷博之, 後藤健一, 原口 強	2002	静岡県西部湖西市における遠州灘沿岸低地の津波堆積物調査	月刊地球	24	736-742		1(2) エ					産業技術総合研究所
Okada, T., A. Hasegawa, J. Suganomata, N. Umino, H. Zhang, and C. Thurber	in press	Imaging the heterogeneous source area of the 2003 M6.4 northern Miyagi earthquake, NE Japan, by double-difference tomography	Tectonophysics			○	1(2) イ					

1(3) 地震破壊過程と強震動(山岡委員)

…査読無しの論文(削除が妥当な論文)

…査読有りの論文のうち、削除が妥当な論文

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連の 深い 距離の 項目	2番目 に 関連の 深い 距離の 項目	3番目 に 関連の 深い 距離の 項目	主要 成果 の 場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Honda, R., S. Aoi, N. Morikawa, H. Sekiguchi, T. Kunugi and H. Fujiwara	2004	Ground motion and rupture process of 2003 Tokachi-oki earthquake obtained from strong motion data of K-NET and KiK-net	Earth Planet Space	56	317-322	○	1(3) ア	1(3) イ		*	2003年十勝沖地震の震源過程を、マルチタイムウィンドウ逆問題により推定した。	防災科研
Huko Sekiguchi, Shin Aoi, Ryou Honda, Nobuyuki Morikawa, Takashi Kunugi, and Hiroyuki Fujiwara	2006	Rupture process of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake obtained from strong motion data of K-NET and KiK-net	Earth Planets Space	58	37-43	○	1(3) ア	1(3) イ			2005年福岡県西方沖地震の震源過程を、マルチタイムウィンドウ逆問題により推定した。	防災科研
R. Honda, S. Aoi, N. Morikawa, H. Sekiguchi, T. Kunugi, and H. Fujiwara	2005	Ground motion and rupture process of the 2004 Mid Niigata Prefecture earthquake obtained from strong motion data of K-NET and KiK-net	Earth Planets Space	57	527-532	○	1(3) ア	1(3) イ			2004年新潟県中越地震の震源過程を、マルチタイムウィンドウ逆問題により推定した。	防災科研
山田知朗、篠原雅尚、金沢敏彦、平田直、金田義行、高波鐵夫、三ヶ田均、末廣 深、酒井慎一、渡辺智毅、植平賢司、村井芳夫、高橋成実、西野 実、望月公廣、佐藤 壮、荒木英一郎、日野亮太、宇平幸一、塩原 肇、清水 洋	2005	稠密海底地震観測による2003年十勝沖地震の余震分布	地震, 第2輯	57	281-290	○	1(3) ア					北海道大学
Okada T., N. Umino, and A. Hasegawa	2003	Rupture process of the July 26 2003 northern Miyagi earthquake sequence, NE Japan, estimated from double-difference hypocenter locations	Earth, Planet. Space	55	741-750	○	1(3) ア	1(2) イ				東北大学
Okada T., T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2003	Comparison of source areas of M4.8+0.1 earthquakes off Kamaishi, NE Japan - Are asperities persistent feature?	Earth Planet. Sci. Lett.	213	361-374	○	1(3) ア	1(2) エ	1(2) ア	*	岩手県釜石市沖においては、M4.8±0.1の地震が約5.3年おきに繰り返し発生している。直近の2001年の地震とその前の1995年の地震について、近地高密度広帯域地震観測網のデータにより、破壊域の広がりを推定した。その結果、破壊開始点は異なるものの、破壊域はほぼ重複しており、アスペリティの繰り返し破壊として説明できることを確認できた。	東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Okada, T., K. Sakoda, T. Matsuzawa, R. Hino, A. Hasegawa, S. Sakai, and T. Kanazawa	2004	Characteristic seismic activity in the subducting plate boundary zone off Kamaishi, northeastern Japan, revealed by precise hypocenter distribution analysis using ocean-bottom seismometers	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2004GL020366	○	1(3) ア	1(2) ア				東北大学
Okada, T., N. Umino, and A. Hasegawa	2004	Source process of M6.4 intermediate-depth earthquake that occurred in the lower plane of the double seismic zone beneath northeastern Japan	J. Seismol	8	453-466	○	1(3) ア	1(3) ア	1(2) ア			東北大学
Okada, T., T. Yaginuma, N. Umino, T. Kono, T. Matsuzawa, S. Kita, and A. Hasegawa	2005	The 2005 M7.2 MIYAGI-OKI earthquake, NE Japan: Possible rerupturing of one of asperities that caused the previous M7.4 earthquake	Geophys. Res. Lett.	32	10.1029/2005GL024613	○	1(3) ア	2(2) エ	1(2) エ	*	2005年8月16日に発生した宮城県沖地震の余震分布、地震時すべり量分布について、1978年宮城県沖地震との比較を行った。その結果、余震分布、地震時すべり量分布とも1978年の地震の南東部分に重複しており、1978年宮城県沖地震のアスペリティ(群)の一部を破壊した可能性を示唆した。	東北大学
Okada, T., T. Yaginuma, N. Umino, T. Matsuzawa, A. Hasegawa, H. Zhang, and C. H. Thurber	2006	Detailed imaging of the fault planes of the 2004 Niigata-Chuetsu, central Japan, earthquake sequence by double-difference tomography	Earth Planet. Sci. Lett.	244	32-43	○	1(3) ア	1(2) イ		*	2004年10月23日に発生した新潟県中越地震について、東北大学が展開した、稠密余震観測データを用いて、ダブルディファレンストモグラフィ法により、余震分布・3次元地震波速度構造を詳細に求めた。その結果、本震、最大余震の断層面はいずれも低速度な上盤と高速度な下盤の速度境界にあたることが分かった。また、本震の地震時すべり量の大きな領域は地震波速度高速度域におよそ対応することが分かった。	東北大学
岡田知己, 海野徳仁, 長谷川昭	2005	ダブルディファレンス法による2003年宮城県北部地震の本震・前震・余震の分布と破壊過程	月刊地球	27	86-91		1(3) ア	1(2) イ				東北大学
岡田知己, 長谷川昭	2005	2003年宮城県沖地震の震源過程と余震の震源分布	月刊地球	27	23-28		1(3) ア	1(2) イ				東北大学
岡田知己, 長谷川昭	2005	DDTモグラフィによる震源断層とアスペリティのイメージングー1995年兵庫県南部地震(M7.3)・2000年鳥取県西部地震(M7.3)・2003年宮城県北部地震(M6.4)の場合ー	地震予連会報	73	624-628		1(3) ア	1(2) イ				東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
岡田知己, 長谷川昭, 菅ノ又淳一, 海野徳仁, Haijiang Zhang, Clifford Thurber	2005	ダブルディファレンストモグラフィー法による震源断層のイメージング	月刊地球	27	132-138		1(3) ア	1(2) イ				東北大学
Afnimar, K. Koketsu and K. Nakagawa	2002	Joint inversion of refraction and gravity data for the three-dimensional topography of a sediment-basement interface	Geophys. J. Int.	151	243-254	○	1(3) ア					東京大学 地震研 究所
Hikima, K. and K. Koketsu	2004	Source processes of the foreshock, mainshock and largest aftershock in the 2003 Miyagi-ken Hokubu, Japan, earthquake sequence	Earth Planets Space	56	87-93	○	1(3) ア					東京大学 地震研 究所
Hikima, K. and K. Koketsu	2005	Rupture processes of the 2004 Chuetsu (mid-Niigata prefecture) earthquake, Japan: A series of events in a complex fault system	Geophys. Res. Lett.	32	10.1029/2005GL023588	○	1(3) ア					東京大学 地震研 究所
Kato, A., S. Sakai, N. Hirata, E. Kurashimo, S. Nagai, T. Iidaka, T. Igarashi, Y. Yamanaka, S. Murotani, T. Kawamura, T. Iwasaki and T. Kanazawa	2005	Short-term spatiotemporal variations in the aftershock sequence of the 2004 mid-Niigata prefecture earthquake	Earth Planets Space	57	191-196	○	1(3) ア					東京大学 地震研 究所
Kobayashi, R. and K. Koketsu	2005	Source process of the 1923 Kanto earthquake inferred from historical geodetic, teleseismic, and strong motion data	Earth Planets Space	57	261-270	○	1(3) ア					東京大学 地震研 究所
Kobayashi, R., S. Miyazaki and K. Koketsu	2006	Source processes of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake and its largest aftershock inferred from strong motion and 1-Hz GPS data	Earth Planets Space	58	57-62	○	1(3) ア					東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Koketsu, K., K. Hikima, S. Miyazaki and S. Ide	2004	Joint inversion of strong motion and geodetic data for the source process of the 2003 Tokachi-oki, Hokkaido, earthquake	Earth Planets Space	56	329-334	○	1(3)ア					東京大学 地震研究 所
Miyake, H., T. Iwata, and K. Irikura	2003	Source characterization for broadband ground-motion simulation: Kinematic heterogeneous source model and strong motion generation area	Bull. Seism. Soc. Am.	93	2531-2545	○	1(3)ア					東京大学 地震研究 所
Miyazaki, S., K. M. Larson, K. Choi, K. Hikima, K. Koketsu, P. Bodin, J. Haase, G. Emore and A. Yamagiwa	2004	Modeling the rupture process of the 2003 September 25 Tokachi-Oki (Hokkaido) earthquake using 1-Hz GPS data.	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2004GL021457	○	1(3)ア			*	1 HzサンプリングGPSデータを用いて世界で初めて震源過程インバージョンに成功. 新たなデータセット開拓による地震破壊過程解析の高精度化の道筋を示した.	東京大学 地震研究 所
Umutlu, N., K. Koketsu and C. Milkereit	2004	The rupture process during the 1999 Duzce, Turkey, earthquake from joint inversion of teleseismic and strong-motion data	Tectonophysics	391	315-324	○	1(3)ア					東京大学 地震研究 所
Yamanaka, Y. and M. Kikuchi	2003	Source process of the recurrent Tokachi-oki earthquake on September 26, 2003, inferred from teleseismic body waves	Earth Planets Space	55	e21-e24	○	1(3)ア					東京大学 地震研究 所
Yamanaka, Y. and M. Kikuchi	2004	Asperity map along the subduction zone in northeastern Japan inferred from regional seismic data	J. Geophys. Res.	109	doi:10.102	○	1(3)ア					東京大学 地震研究 所
引間和人・瀧川一起	2005	強震記録から見た2004年新潟県中越地震本震・余震群の震源過程	月刊地球	53	148-155		1(3)ア					東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
引間和人・瀬織一起	2005	強震波形による2003年宮城県北部地震の本震・最大前震・最大余震の震源過程	月刊地球	27	100-105		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
引間和人・瀬織一起・谷岡勇市郎	2004	強震動・測地・遠地波形・津波データから見た2003年十勝沖地震の震源過程	月刊地球	49	47-55		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
岩田知孝・三宅弘恵	2004	強震動予測レシビに基づくシナリオ地震による強震動シミュレーション-琵琶湖西岸断層系北部を起震断層として-	自然災害科学	23	259-271	○	1(3)ア					東京大学 地震研 究所
岩田知孝・三宅弘恵	2003	シナリオ地震に基づく強震動予測の現状	自然災害科学	22	229-231	○	1(3)ア					東京大学 地震研 究所
佐藤比呂志・平田直・瀬織一起・大都市圏地殻構造研究グループ	2005	東京直下の巨大衝突断層のイメージング	科学	75	965-970		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
三宅弘恵・室谷智子・瀬織一起	2006	プレート境界地震のアスペリティのスケールング則	月刊地球	号外 No.55	86-91		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
山中佳子	2004	1944年東南海地震と1945年三河地震の震源過程	月刊地球	305	739-745		1(3)ア					東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
山中佳子	2004	長周期地震動から見た2003年十勝沖地震の震源モデル	月刊地球	号外 No.49			1(3)ア					東京大学 地震研 究所
山中佳子・菊地正幸	2002	見えてきたアスペリティの特徴	月刊地球	277	526-528		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
中田高, 隈元崇, 熊原康博, 山中佳子	2004	「形態単位モデル」による一括活動型活断層の設定と起震断層の再検討	活断層研究	24	39-48	○	1(3)ア					東京大学 地震研 究所
入倉孝次郎・三宅弘恵	2002	予測のための震源のモデル化	月刊地	号外 37	62-77		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
縷織一起・菊地正幸	2003	地震破壊過程と強震動	月刊地球	25	755-758		1(3)ア					東京大学 地震研 究所
縷織一起・古村孝志	2002	2001年芸予地震の強震動分布と深部地下構造	地震2	55	97-105	○	1(3)ア					東京大学 地震研 究所
Meilano Irwan , Fumiaki Kimata, Kazuro Hirahara, Takeshi Sagiya and Atsushi Yamagiwa	2004	Measuring Ground Deformation with 1-hz GPS Data : the 2003 Tokachi-oki Earthquake (Preliminary Report)	Earth Planets Space			○	1(3)ア			*	2003年十勝沖地震で地理院が観測した1secのGPSデータをキネマティック解析した。その結果、地震波動が発生した1秒前まで、GPS観測網ではプレスリップが検出できていないこと、地震発生から数分後にすでに余効滑りが発生していることを明らかになった。	名古屋大 学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ohta Y., F.Kimata, and T.Sagiya	2004	Reexamination of the interplate coupling in the Tokai region, Central Japan, based on the GPS data in 1997-2002	Geophys.Res.Lett	31	doi:10.1029/2004GL021404	○	1(3)ア			*	地院院GPSデータから、プレート境界を気象庁一元化震源データで推定し、東海地域でのプレートカップリングを1997-2000年、2001-2002年の2期間、定常的なカップリング時期とスロースリップイベント時のフォワード滑りを推定した。2cm/yrの滑り欠損で定常滑りが説明でき、定常時の固着域とスロースリップイベント域とが境界の深さ25kmで棲み分けることが明確になった。	名古屋大学
Yusaku Ohta, Irwan Meilano, Takeshi Sagiya, Fumiaki Kimata, Kazuro Hirahara	2006	Large surface wave of the 2004 Sumatra-Andaman earthquake captured by the very long baseline kinematic analysis of 1-Hz GPS data	Earth Planets and Space, 58, 1-5, 2006	58	1-5	○	1(3)ア				地震破壊過程を解明するうえで重要な意義を有する周期が1時間も越える超長周期波動。それを解明するためにキネマティックGPSから解析を試みる。たしかに波動は検出されるが、衛星配置や大気遅延伝播を考察することの重要性を明らかにする。	名古屋大学
高野和友・木股文昭・安藤雅孝	2003	1944年東南海地震当日の水準測量から推定するプレスリップモデル	東濃地震科学研究所報告書	12	81-90		1(3)ア					名古屋大学
鷺谷威	2002	GPSで見た2000年鳥取県西部地震	月刊地球, 号外	38	194-202		1(3)ア					名古屋大学
鷺谷威・西村卓也・畑中雄樹・福山英一・W. L. Ellsworth	2002	2000年鳥取県西部地震に伴う地殻変動と断層モデル	地震	54	523-534	○	1(3)ア					名古屋大学
太田雄策・木股文昭	2003	GPS観測による上下変動から考察する2001年東海スロースリップ	東濃地震科学研究所報告書	12	77-80		1(3)ア					名古屋大学
木股文昭・伊藤武男・太田雄策・メイラノイルフン・田部井隆雄	印刷中	スマトラの GPS 観測から見えてきた滑り分布 :スマトラアチェでの GPS 観測から見えてきた 2004 年アチェ・アンダマン地震の滑り分布	月刊地球	特集号			1(3)ア					名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
木股文昭・鷺谷 威	2005	水準測量データに基づく1944年東南海地震プレスリップの再検討	地震予知連絡会 会報	162	607-609		1(3)ア			*	1944年東南海地震発生時に実施された水準測量から、前兆滑りに伴う上下変動が推定されている。しかし、水準測量の手簿まで戻り、測量誤差や作業能率から前兆滑りの大きさと時間などを推定した。しかしながら、3日前の前兆滑り、直前の前兆滑りともその客観性は高いことが明らかになった。	名古屋大 学
木股文昭・山内常生	2004	東海地域の光波基線網で観測されていた1980・1988年前後の膨張の地殻変動	東濃地震科学研 究所報告書	14	3-6		1(3)ア					名古屋大 学
Asano, K. and T. Iwata	2006	Source process and near-source ground motions of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake	Earth, Planets and Space	58	93-98	○	1(3) ア	1(3) イ		*	2005年福岡県西方沖の地震の震源モデルを強震記録を用いて推定した。破壊開始後約3秒のうちに主破壊が破壊開始点より陸側で始まった。この影響により福岡市域に強いディレクティブティハルス波が生成された。福岡市域の強震動の定量的評価を、推定した震源モデルと地下構造モデルに基づいて行った。	京大防災 研
Asano, K., T. Iwata, and K. Irikura	2005	Estimation of source rupture process and strong ground motion simulation of the 2002 Denali, Alaska, earthquake	Bull. Seism. Soc. Am.	95	1701-1715	○	1(3) ア	1(3) イ				京大防災 研
Asano, K., T. Iwata, and K. Irikura	2003	Source Characteristics of Shallow Intraslab Earthquakes Derived from Strong-Motion Simulations	Earth, Planets and Space	55	e5-e8	○	1(3) ア					京大防災 研
Iwata, T., H. Sekiguchi, H. Miyake, W. Zhang, and K. Miyakoshi	2004	Dynamic source parameters and characterized source model for strong motion prediction	Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., Vancouver, B.C., Canada		2392		1(3) ア	1(3) イ				京大防災 研
kamae, K.	in press	Source modeling of the 2005 off-shore Miyagi prefecture, Japan, earthquake (MJMA=7.2) using the empirical Green's function method	Earth, Planets and Space			○	1(3) ア					京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kamae, K. and H. Kawabe	2004	Source model composed of asperities for the 2003 Tokachi-oki, Japan, earthquake (MJMA=8.0) estimated by the empirical Green's function method	Earth, Planets and Space	56	323-327	○	1(3) ア			*	2003年十勝沖地震の不均質震源モデルを経験的グリーン関数法を用いて評価し、海溝型巨大地震のための強震動予測のための特性化震源モデルの妥当性、適用性を検証した。その結果、断層面での平均的な応力降下量の推定が重要であり、その適切な設定のためには断層面の深さ依存や地域性についての各種パラメータの蓄積と整理が必要である。	京大防災研
Kamae, K., T. Ikeda, and S. Miwa	2005	Source model composed of asperities for the 2004 Mid Niigata Prefecture, Japan, earthquake (MJMA =6.8) by the forward modeling using the empirical Green's function method	Earth, Planets and Space	57	533-538	○	1(3) ア					京大防災研
Kawasaki, I.	2004	Silent earthquakes occurring in a stable-unstable transition zone and implications for earthquake prediction	Earth Planet Space	56	813-821	○	1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災研
Ling Bai, Zhongliang Wu, Tianzhong Zhang, and Ichiro Kawasaki	2006	The effect of distribution of stations upon location error: Statistical tests based on the double-difference earthquake location algorithm and the bootstrap method	Earth Planets Space	58	e9-e12	○	1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災研
Miyake, H., T. Iwata, and K. Irikura	2003	Source Characterization for Broadband Ground-Motion Simulation: Kinematic Heterogeneous Source Model and Strong Motion Generation Area	Bull. Seism. Soc. Am.	93	2531-2545	○	1(3) ア					京大防災研
Miyazawa, M., J. Mori, Y. Iio, T. Shibutani, S. Matsumoto, H. Katao, S. Ohmi, K. Nishigami	2005	Triggering sequence of large aftershocks of the Mid Niigata prefecture, Japan earthquake in 2004 by static stress changes	Earth, Planets Space	57	1109-1113	○	1(3) ア			*	新潟中越地震の本震と最大余震についてすべり分布を計算し、余震を誘発した静的応力について詳細に考察した。本震と、引き続き起きてきた大きな余震の影響による複雑な応力変化のパターンは、静的応力の変化が4つの主な余震の誘発を説明できることを示している。	京大防災研
Park, S. and J. Mori	2005	2004 Sequence of Triggered Earthquakes Off the Kii Peninsula, Japan	Earth Planets Space	57	315-320	○	1(3) ア					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Park, S. and J. Mori	2005	Source Parameters of the May 29, 2004 South Korea earthquake (ML5.2)	Earth Planets Space	57	471-475	○	1(3) ア					京大防災研
Sato K., J. Mori	2006	Scaling relationship of initiations for moderate to large earthquakes	J. Geophys. Res.	111	B05306, doi:10.1029/2005JB003613	○	1(3) ア					京大防災研
Sato K., J. Mori	2006	Relationship between rupture process complexity and earthquake size	J. Geophys. Res.	111	B05307, doi:10.1029/2005JB003614	○	1(3) ア					京大防災研
Suzuki, W. and T. Iwata	2006	Source model of the 2005 west off Fukuoka prefecture earthquake estimated from the empirical Green's function simulation of broadband strong motions	Earth, Planets and Space	58	99-104	○	1(3) ア					京大防災研
Suzuki, W., T. Iwata, K. Asano, and N. Yamada	2005	Estimation of the source model for the foreshock of the 2004 off the Kii peninsula earthquakes and strong ground motion simulation of the hypothetical Tonankai earthquake using the empirical Green's function method	Earth, Planets and Space	57	345-350	○	1(3) ア					京大防災研
T.Shibutani	2003	RELATIONSHIP BETWEEN SOURCE PROCESS OF THE 2000 WESTERN TOTTORI EARTHQUAKE AND HETEROGENEOUS STRUCTURE ON THE MAINSHOCK FAULT	IUGG2003 Program		SS01/03A/D-018		1(3) ア					京大防災研
T.Shibutani, S.Nakao, R.Nishida, F.Takeuchi, K.Watanabe and Y.Umeda	2002	Swarm-like seismic activity in 1989, 1990 and 1997 preceding the 2000 Western Tottori Earthquake	Earth, Planets and Space	54	831-846	○	1(3) ア					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Zhang, W., T. Iwata, K. Irikura, H. Sekiguchi, and M. Bouchon	2003	Heterogeneous distribution of the dynamic source parameters of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake	J. Geophys. Res.	108	doi:10.1029/2002JB001889		1(3) ア					京大防災研
Zhang, W., T. Iwata, K. Irikura, A. Pitarka, and H. Sekiguchi	2004	Dynamic rupture process of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake	Geophys. Res. Lett.	31	L10605, doi:10.1029/2004GL019827	○	1(3) ア					京大防災研
板場智史	2005	Development of the Quantitative Evaluation Method of Seismic Activity around Active Faults, and Seismicity Cycle	京都大学大学院理学研究科博士学位論文				1(3) ア					京大防災研
京都大学防災研究所 (梅田康弘)	2005	南海地震の前の井戸水の減少について	地震予知連絡会会報	74	615-618		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ	*	昭和南海地震前の井戸水位異常の分布が海岸沿の小三角州に限られていることを明らかにし、そのモデルを提案した。直前のプレスリップを仮定した計算隆起沈降量から井戸水位に2桁ちかい増幅作用が必要となるがこれを海水淡水境界面の挙動で説明し、確認のための水位・界面観測を実施している。また古文書等で安政地震の前にも井水異常があったことを発掘し、来るべき南海地震の前にも起きることを前提に、これに備える観測体制を提唱する。	京大防災研
京都大学防災研究所 (大谷文夫)	2006	近畿北部の地殻活動 ～GPSデータでみる近畿北部のひずみ速度変化～	地震予知連絡会会報	76	532-534		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災研
京都大学防災研究所 (森井 互)	2004	地殻変動連続観測記録に見られる最近約1年間の歪レートの変化と水位変化	地震予知連絡会会報	72	528-529		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災研
橋本学	2006	地震学は兵庫県南部地震にどこまで迫ったか？	月刊地球	28	145-155		1(3) ア	1(2) イ				京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 項目	2番目 に 関連 の深い 項目	3番目 に 関連 の深い 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
平井俊之・釜江克宏・長沼敏彦・伊藤進一郎・西岡勉・入倉孝次郎	印刷中	分岐断層の特性化震源モデルを用いた兵庫県南部地震の強震動シミュレーション	日本地震工学会 論文集			○	1(3) ア					京大防災 研
森井 互・重富国宏・ 尾上謙介・中村佳重郎・ 大谷文夫・細 善信・ 和田安男	2005	近畿地方の最近の地殻変動について	京都大学防災研 究所年報	48B	197-201		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災 研
森井 互・重富国宏・ 尾上謙介・中村佳重郎・ 大谷文夫・細 善信・ 和田安男	2006	1995年兵庫県南部地震に先行した広域地殻歪について	京都大学防災研 究所年報	49B			1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ	*	屯鶴峯・阿武山・天ヶ瀬の3観測所で、1989年終盤から1995年初頭にかけて顕著な地殻歪の変動が記録された。上記3観測所の記録は、何れも1989年終盤から約3年の間南北方向の圧縮が増大したことを示し、1994年半ばからは、逆に南北方向の伸長が急激に増大したことを示している。我々は、当該の地殻歪を紀伊半島下に潜り込むプレートと地殻下部の部分的な固着によって引き起こされた変動と考え、単純なモデル計算を行った結果、観測記録と整合することが分かった。	京大防災 研
森井互・市川信夫・大谷文夫・清水輝夫	2006	地殻変動連続観測に適したデータ・ロガーの開発	測地学会誌	52巻	131-139		1(3) ア	1(2) ア	2(1) ウ			京大防災 研
岩田知孝・関口春子	2002	強震記録に基づく最近の地震の震源インバージョン	月刊地球	号外 37	47-55		1(3) ア					京大防災 研
岩田知孝・関口春子	2002	2000年鳥取県西部地震の震源過程と震源域強震動	第11回日本地震 工学シンポジウム 論文集		125-128	○	1(3) ア	1(3) イ				京大防災 研
宮腰研・Anatoly PETUKHIN・岩田知孝・ 関口春子	2002	1997年鹿児島県北西部地震におけるやや短周期域の震源モデル	第11回日本地震 工学シンポジウム 論文集		129-132	○	1(3) ア					京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
重富国宏・梅田康弘・ 尾上謙介・浅田照行・ 細 善信・近藤和男・ 辰巳賢一	2005	資料・証言にみる南海地震前の井水濁れおよび異常潮位	京都大学防災研 究所年報	48B	191-195		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災 研
川崎一朗	2006	スロー地震とは何か	NHK出版				1(3) ア	1(2) ア				京大防災 研
川崎一朗	2003	スロー・スリップ・イベントの地学的意義	月刊地球	25	75-79		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災 研
川崎一朗	2003	スロー・スリップ・イベントのすべり域と地震アスペリティの空間的棲み分け	月刊地球	25	795-802		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災 研
浅田照行・重富国宏・ 梅田康弘・辰巳賢一・ 木村昌三・川谷和夫・ 大村 誠	2004	高知県佐賀町における地下水のアレー観測	京都大学防災研 究所年報	47B	721-724		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災 研
渡辺邦彦	2004	地殻ブロック境界としての大規模活断層— 地震活動に見られる断層相互の関連 —	月刊地球	号外 46	204-210		1(3) ア					京大防災 研
渡辺邦彦	2004	西日本の地殻ブロック構造と地震活動	月刊地球	47	665-672		1(3) ア					京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
渡辺邦彦	2002	微小地震から見た近畿—中国地方	月刊地球	号外 38	149-156		1(3) ア					京大防災 研
渡辺邦彦	2002	山崎断層の挙動と地震活動	自然と環境	4	2-15		1(3) ア					京大防災 研
尾上謙介・梅田康弘・ 重富国宏・浅田照行・ 細 善信・近藤和男	2005	昭和南海地震前に井水異常が報告された地点での地下 水観測 —データセットの構築—	京都大学防災研 究所年報	48B	185-190		1(3) ア	1(2) ア	2(2) ウ			京大防災 研
北川有一、小泉直嗣、大谷 竜、渡辺邦 彦、板場智史	2003	山崎断層沿いの産業技術総合研究所安富観測点で観 測された顕著な地殻歪変化	地震2	56	245-254	○	1(3) ア					京大防災 研
廣瀬一聖・川崎一朗・竹本修三・田村良 明	2003	歪記録に見られた地震活動に先行した潮汐定数の時間 変化	測地学会誌	49	227-242	○	1(3) ア	1 (2)ア	2(2) ウ			京大防災 研
澁谷拓郎	2004	再決定による震源の精密化とb 値の空間分布のマッピン グ—1. 山崎断層—	2004年地球惑星 科学関連学会合 同学会講演予稿 集		S046-P020		1(3) ア					京大防災 研
澁谷拓郎	2004	山崎断層周辺の最近29年間の地震活動と夢前町付近 の地震(2004年7月12日、Mj=3.9)の意味合い	日本地震学会講 演予稿集2004年 度秋季大会	234	A036		1(3) ア					京大防災 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 建議 の項目	2番目 に関 連の 深い 建議 の項目	3番目 に関 連の 深い 建議 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kobayashi, R. and Koketsu, K.	2005	Source process of the 1923 Kanto earthquake inferred from historical geodetic, teleseismic, and strong motion data	Earth, Planet. Space	57	261-270	○	1(3) ア					鹿児島大学
Kobayashi, R., Miyazaki, S., and Koketsu, K.	2006	Source processes of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake and its largest aftershock inferred from strong motion and 1-Hz GPS data	Earth, Planet. Space	58	57-62	○	1(3) ア			*	2005年福岡県西方沖地震の震源過程を強震動記録と1 Hz サンプリングの GPS データから求めた。	鹿児島大学
Kase Y, Day S.	2006	Spontaneous rupture processes on a bending fault	Geophysical Research Letters	33	L10302	○	1(3) ア	1(2) イ	1(2) エ	*	有限差分法を用いた断層屈曲部での破壊の乗り移りに関する数値実験を行い、屈曲度合いによる法線応力の変化が破壊伝播に強く影響を与えていることを明らかにした。	産業技術総合研究所
Chang, T.-M., K.-L. Wen, T. Furumura and H.-J. Chiang	2002	Surface wave excitation in the western coastal plain of Taiwan during the 1999 Chi-Chi Earthquake	J. Geolog. Soc. China	25	461-467	○	1(3) イ					東京大学 地震研究所
Furumura, T.	2005	Large-scale parallel simulation of seismic wave propagation and strong ground motions for the past and future earthquakes in Japan	Journal of the Earth Simulator	3	29-38	○	1(3) イ					東京大学 地震研究所
Furumura, T. and BLN. Kennett	2005	Subduction zone guided waves and the heterogeneity structure of the subducted plate: Intensity anomalies in northern Japan	J. Geophys. Res.	110	doi:10.1029	○	1(3) イ			*	太平洋プレートで見られる異常震域が、プレート内の不均質性(ラミナ構造)で高周波地震動が全反射することにより起きていることを高密度地震観測データとコンピュータシミュレーションにより説明した。	東京大学 地震研究所
Furumura, T. and L. Chen	2004	Large scale parallel simulation and visualization of 3D seismic wavefield using the Earth Simulator	Computer Modeling of Engineering and Sciences	6	153-168	○	1(3) イ					東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Furumura, T. and L. Chen	2005	Parallel simulation of strong ground motions during recent and historical damaging earthquakes in Tokyo, Japan	Parallel Computing	31	149-165	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所
Furumura, T. and S.K Singh	2002	Regional wave propagation from Mexican subduction zone earthquakes: The attenuation functions for interplate and inslab events	Bull. Seism. Soc. Am.	92	461-467	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所
Furumura, T., B.L.N. Kennett and K. Koketsu	2003	visualization of 3-D wave propagation from the 2000 Tottori-ken Seibu, Japan earthquake: Observation and numerical simulation	Bull. Seism. Soc. Am.	91	667-682	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所
Furumura, T., K. Koketsu and K.-L. Wen	2002	Parallel PSM/FDM hybrid simulation of ground motions from the 1999 Chi-Chi, Taiwan earthquake	Pure Appl. Geophys.	159	2133-2146	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所
Hayakawa, T., T. Furumura and Y. Yamanaka	2005	Simulation of strong ground motions caused by the 2004 off the Kii Peninsula earthquakes	Earth Planets Space	57	191-196	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所
Kennett, B.L.N. and T. Furumura	2002	The influence of 3-D structure on the propagation of seismic waves away from earthquakes	Pure Appl. Geophys.	159	2134-2145	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所
Koketsu, K., H. Fujiwara and Y. Ikegami	2004	Finite-element simulation of seismic ground motion with a voxel mesh	Pure Appl. Geophys.	161	2183-2198	○	1(3) イ					東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Koketsu, K., K. Hatayama, T. Furumura, Y. Ikegami and S. Akiyama	2005	Damaging long-period ground motions from the 2003 Mw 8.3 Tokachi-oki, Japan, earthquake	Seismol. Res. Lett.	76	67-73		1 (3) イ					東京大学 地震研究 所
Miyake, H. and K. Koketsu	2005	Long-period ground motions from a large offshore earthquake: The case of the 2004 off the Kii peninsula earthquake, Japan	Earth Planets Space	57	203-207	○	1 (3) イ					東京大学 地震研究 所
Tsuda, K., R. J. Archuleta and K. Koketsu	2006	Quantifying the spatial distribution of site response by use of the Yokohama high-density strong-motion network	Bull. Seism. Soc. Am.	96	926-942	○	1 (3) イ					東京大学 地震研究 所
Zhao, C.-P., B. L. N. Kennett, T. Furumura	2003	Contrasts in regional seismic wave propagation to station WMQ in central Asia	Geophys. J. Int.	155	44-66	○	1 (3) イ					東京大学 地震研究 所
古村孝志	2003	地球シミュレータによる地震波動伝播の大規模3次元並列シミュレーション	月刊地球	25	703-709		1 (3) イ					東京大学 地震研究 所
古村孝志・早川俊彦・瀬戸一樹・馬場俊孝・中村 操	2006	1944年東南海地震の強震動シミュレーションと関東平野の長周期地震動	月刊地球	55	130-137		1 (3) イ					東京大学 地震研究 所
古村孝志・中村 操	in press	1944年東南海地震記録の復元と関東の長周期地震動	物理探査	59		○	1 (3) イ					東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 建議 の項 目	2番目 に関 連の 深い 建議 の項 目	3番目 に関 連の 深い 建議 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Yamada, N. and T. Iwata	2005	Long-period ground motion simulation in the Kinki area during the MJ 7.1 foreshock of the 2004 off the Kii peninsula earthquakes	Earth, Planets and Space	57	197-202	○	1(3) イ					京大防災研
岩田知孝・三宅弘恵	2003	シナリオ地震に基づく強震動予測の現状	自然災害科学	22	229-231	○	1(3) イ					京大防災研
岩田知孝・三宅弘恵	2004	強震動予測レシビに基づくシナリオ地震による強震動シミュレーション-琵琶湖西岸断層系北部を起震断層として-	自然災害科学	23	259-271	○	1(3) イ					京大防災研
岩田知孝・浅野公之	2005	2004年9月5日紀伊半島沖・東海道沖の地震による地震動	地震第2輯	58	273-279	○	1(3) イ			*	2004年紀伊半島南東沖地震によって生じた堆積盆地における長周期地震動特性を強震観測網記録に基づき分析し、サイト特有の震動特性を示した。この分析は想定東南海地震時の京阪神、中京、関東各地域の長周期地震動特性把握と評価に大きく寄与すると考えられる。ここで得られたデータによって強震動予測に重要な地震波伝播経路モデルの検証や想定東南海地震の強震動予測が行われた。	京大防災研
池田隆明・釜江克宏・三輪滋・入倉孝次郎	2002	経験的グリーン関数法を用いた2000年鳥取県西部地震の震源のモデル化と強震動シミュレーション	日本建築学会構造系論文集	561	37-45	○	1(3) イ					京大防災研
入倉孝次郎・三宅弘恵・岩田知孝・釜江克宏・川辺秀憲	2002	強震動予測のための修正レシビとその検証	第11回日本地震工学シンポジウム論文集		567-572	○	1(3) イ					京大防災研
鈴木亘・岩田知孝	2006	2004年紀伊半島南東沖地震記録を用いた想定東南海地震の強震動シミュレーション	海溝型巨大地震を考える-広帯域強震動の予測2-シンポジウム論文集		75-82		1(3) イ					京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
鈴木亘・岩田知孝	2006	経験的グリーン関数法を用いた2004年紀伊半島南東沖地震前震の震源モデル	月刊地球 号外55 「巨大地震による 長周期地震動とその 対応策—予測 と今後の対応策—」	号外 55	92-97		1(3) イ					京大防災 研
藤井雄士郎・竹中博士 ・宮町宏樹	2005	地震波動シミュレーションのための鹿児島県北西部における3次元速度構造モデル	地震 第2輯	57	365-375	○	1(3) イ			*	鹿児島県北西部地震の地震波動をシミュレーションを三次元速度構造下で計算した。	鹿児島大 学
H.Fujiwara, S.Kawai, S.Aoi, S.Senna, T.Ishii, T.Okumura, Y.Hayakawa	2004	Outline of strong motion evaluation in national seismic hazard mapping project of Japan	日本地震工学会 論文集	4	50-61	○	1(3) イ					防災科研
T.Kanno, A.Narita, N. Morikawa, H. Fujiwara, Y.Fukushima	2006	A new attenuation relation for strong ground motion in Japan based on recorded data	B.S.S.A.	96	879-897	○	1(3) イ					防災科研
青井真、早川俊彦、藤原広行	2004	地震動シミュレータ:GMS	物理探査	57	651-666	○	1(3) イ					防災科研
森川信之、神野達夫、成田章・藤原広 行・福島美光	2006	東北日本の異常震域に対応するための最大速度および応答スペクトルの新たな距離減衰式補正係数	日本地震工学会 論文集	6	23-41	○	1(3) イ					防災科研
神野達夫、先名重樹、森川信之・成田 章・藤原広行	2003	金沢平野における3次元地下構造モデル	物理探査	56	313-326	○	1(3) イ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
藤原広行、藤枝忠臣	2002	3次元動弾性解析のためのボクセル有限要素法	第11回日本地震工学シンポジウム論文集			○	1(3)イ					防災科研
鈴木晴彦、森野道夫、岩本鋼司・劉瑛・藤原広行・早川謙	2005	地震動シミュレーションのための琵琶湖周辺地域の3次元深部地下構造モデル	地震	58	91-106	○	1(3)イ					防災科研
Horikawa, H.	2004	Fault Geometry and Slip Distribution of the 2003 Tokachi-oki Earthquake as Deduced from Teleseismic Body Waves	Earth Planets Space	56	1011-1017	○	1(3)イ			*	2003年十勝沖地震の震源過程を強震動波形記録のインバージョンより求めた。その中で断層面の形状を検討し、浅部で傾斜が小さく深部で傾斜がきつくなる断層面が、単一の面の場合より良く波形を再現することを見出した。	産業技術総合研究所
羊本 英貴、吉見 雅行、国松 直	2005	横ずれ断層運動に伴うせん断帯発達過程に関するDEMシミュレーション	土木学会地震工学論文集		CD-ROM		1(3)イ					産業技術総合研究所
関口 春子、加瀬 祐子、堀川 晴央、吉田 邦一、吉見 雅行	2005	内陸地殻内地震の強震動評価: 上町断層系を例として	第33回地盤震動シンポジウム論文集		25-34		1(3)イ			*	活断層研究センターでは、地形・地質・地球物理の最新情報を融合することにより、地盤の物性や断層破壊過程等の地震動予測結果を左右する要素を精度よく推定する方法を研究し、阪神地域をモデル地域として実践的な地震動予測研究を行ってきた。上町断層系の地震動予測を例として、想定震源の地震シナリオの作成方法、大阪堆積盆地の3次元速度構造モデル、地震動予測計算プロセス、および、地震動予測結果を説明する。	産業技術総合研究所
吉田 邦一、笹谷 努	2005	石狩平野北西部における2003年十勝沖地震時の長周期地震動	地震 第2輯	58	107-113	○	1(3)イ			*	石狩平野北西部における強震観測によって得られた2003年十勝沖地震の本震の記録を解析した結果、石狩平野北部で被災した石油タンク近くの観測点では、周期5秒の長周期地震動の速度応答は非常に大きな振幅であり、その振幅はわずか数kmの範囲で大きく変化していることが明らかになった。	産業技術総合研究所
堀川 晴央、水野 清秀、石山 達也、佐竹 健治、関口 春子、加瀬 祐子、杉山 雄一、横田 裕、末廣 匡基、横倉 隆伸、岩淵 洋、北田 奈緒子、Arben Pitarka	2003	断層による不連続構造を考慮した大阪堆積盆地の3次元地盤構造モデル	活断層・古地震研究報告	3	225-229	○	1(3)イ					産業技術総合研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
鷺谷 威	2004	1944年東南海地震前後の地殻変動再考	月刊地球	26	746-753		1(3)ウ					名古屋大学

1(4)地震発生の素過程(山岡委員)

...査読無しの論文(削除が妥当な論文)

...査読有りの論文のうち、削除が妥当な論文

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 差違の項目	2番目 に関連の深い 差違の項目	3番目 に関連の深い 差違の項目	主要 成果の 場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Arai, S., Takada, S., Michibayashi, K. and Kida, M.	2004	Petrology of peridotite xenoliths from Iraya volcano, Philippines, and implications for mantle wedge processes beneath arcs	J Petrol.	45	369-389	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Forster, C.B., J. P. Evans, H. Tanaka, R. Jeffreys, T. Nohara	2003	Hydrologic properties and structure of the Mozumi Fault, central Japan	GRL	30	8010, doi:10.1029/2002GL014904	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Goto, K. and Otsuki, K.	2004	Size and spatial distributions of fault populations: Empirically synthesized evolution laws for the fractal geometries	Geophys. Res. Lett.	31	doi:10.1029/2003GL018868	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
H. Tanaka, B. Shibasaki, N. Shigematsu, K. Fujimoto, T. Ohtani, Y. Miyashita, T. Tomita, K. Omura, Y. Kobayashi, J. kameda	2002	Growth of plastic shear zone and its duration inferred from theoretical consideration and observation of an ancient shear zone in the granitic crust.	Earth, Planet. Space	54	1207-1210	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Hirono, T., Ikehara, M., Otsuki, K., Mishima, T., Sakaguchi, M., Soh, W., Omori, M., Kin, W., Yeh, E. C., Tanikawa, W., and Wang, C. Y.	2006	Evidence of frictional melting within disk-shaped black materials discovered from the Taiwan Chelungpu fault system	Geophys. Res. Lett.	33	2006GL027329 R	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Hobbs, B. E., H. Tanaka, Y. Iio.,	2002	Acceleration of slip motion in deep extensions of seismogenic faults in and below the seismogenic region	Earth, Planet. Space	54	1195-1205	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Hori, T., H. Sakaguchi, N. Yoshioka, and Y. Kaneda	in press	Shear resistance reduction due to vibration in simulated fault gouge	AGU Monograph, Radiated Energy and the Physics of Earthquake Faulting, American Geophysical Union			○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Iwasa, K. and N. Yoshioka	2004	Observation of transmission waves across a simulated fault in the whole loading process up to a dynamic rupture	Proc. 1st International Workshop on active monitoring in the solid Earth geophysics, Mizunami, Japan		343-346		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Iwasa, K. and N. Yoshioka	2005	Monitoring the contact state of a simulated fault by transmission waves --- a laboratory experiment	Workshop Proc. of Seismic Input Motions Incorporating Recent Geological Studies, OECD/NEA, Tsukuba, Japan		in CD-ROM		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Jun Kameda, Kazuko Saruwatari, Hidemi Tanaka	2003	Hydrogen generation by wet grinding of quartz powders and its dependence on the pH and ionic strength of liquid media	Bull. Chem. Soc. Japan	76	2153-2154	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Jun Kameda, Kazuko Saruwatari, Hidemi Tanaka	2003	H ₂ generation in wet grinding of granite and single crystal powders and implications for H ₂ concentration on active faults	GRL	30	30, 2063, doi:10.1029/2003GL018252	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
K. Fujimoto, T. Ohtani, N. Shigematsu, Y. Miyashita, T. Tomita, H. Tanaka, K. Omura, Y. Kobayashi	2002	Water-rock interaction observed in the brittle-plastic transition zone	Earth, Planet. Space	54	1127-1132	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Kameda, j., K Saruwatari, H. Tanaka	2004	H ₂ generation by dry grinding of kaolinite	J. Colloid. Interface. Sci.	275	225-228	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Kameda, J., K. Saruwatari, H. Tanaka, F. Tsunomori	2004	Mechanisms of hydrogen generation during the mechanochemical treatment of biotite within D2O media	Earth, Planets and Space	56	1241-1245	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Kato, A., A. Sakaguchi, S. Yoshida, H. Mochizuki, and Y. Kaneda	2003	Permeability measurements and precipitation sealing of basalt in an exhumed ancient fault in subduction zone	Bull. Earthq. Res. Inst.	78	83-89	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kato, A., A. Sakaguchi, S. Yoshida, H. Yamaguchi, and Y. Kaneda	2004	Permeability structure around an ancient exhumed subduction-zone fault	Geophys. Res. Lett.	31, L06602	doi:10.1029/2003GL019183	○	1(4)ア	1(4)イ				東京大学 地震研 究所
Kato, A., M. Ohnaka, S. Yoshida, and H. Mochizuki	2003	Effect of strain rate on constitutive properties for the shear failure of intact granite in seismogenic environments,	Geophys. Res. Lett.	30	doi:10.1029/2003GL018372	○	1(4)ア	1(4)イ				東京大学 地震研 究所
Kato, A., S. Yoshida, M. Ohnaka, and H. Mochizuki	2004	The dependence of constitutive properties on temperature and effective normal stress in seismogenic environments	Pure Geophys. Appl.	161	N.9/10	○	1(4)ア	1(4)イ				東京大学 地震研 究所
Kimura, N., Awaji, H., Okamoto, M., Matsumura, Y. and Masuda, T.	in press	Fracture strength of tourmaline and epidote by three-point bending test: application to microboudin method for estimating absolute magnitude of palaeodifferential stress	Journal of Structural Geology			○	1(4)ア	1(4)イ				東京大学 地震研 究所
Koizumi, Y., Otsuki, K., Takeuchi, H., and Nagahama, H.	2004	Frictional melting can terminate seismic slips: Experimental results of stick-slips	Geophys. Res. Lett.	31	doi:10.1029/2004GL020642	○	1(4)ア	1(4)イ				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kuwano, O., M. Nakatani, and S. Yoshida	2006	Effect of the flow state on streaming current	Geophys. Res. Lett	33	doi:10.1029/2006GL027712	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Lin, A., Maruyama, T., Aaron, S., Michibayashi, K., Camacho, A. and Kano, K.	2005	Propagation of seismic slip from brittle to ductile crust: Evidence from pseudotachylite of the Woodroffe thrust, central Australia	Tectonophysics	402	21-35	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Ma, K. F., H. Tanaka, S. R. Song, C. Y. Wang, J. H. Hung, Y. B. Tsai, J. Mori, Y. F. Song, E. C. Yeh, H. Sone, L.W. Kuo, H. Y. Wu	2006	Slip Zone and Energetics of a Large Earthquake: Results from the Taiwan Chelungpu-fault Drilling Project (TCDP)	Nature		in press	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Masago, H., Okamoto, K., Chan, Y., Yui, T., Chu, H., Iizuka, Y., Michibayashi, K. and Harigane, Y.	2005	Fluid accumulation beneath the detachment fault in the Central Range of Taiwan	J. Geol. Soc. Jpn	111	iii-iv	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
Masuda, T. and Kimura, N.	2004	2004. Can Newtonian viscous-matrix model be applied to the microboudinage of columnar mineral grains in quartzose metamorphic tectonites?	Journal of Structural Geology	26	1749-1754	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Masuda, T., Kimura, N., Okamoto, A., Miyake, T., Omori, Y.	in press	Cessation of plastic deformation during exhumation of metamorphic tectonites revealed by microboudinage structures	Journal of Structural Geology			○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研究 所
Masuda, T., Nakayama, S., Kimura, N., Onodera, K. and Okamoto, A.	2204	Triaxial stress state deep in orogenic belts: an example from Turkey	Journal of Structural Geology	26	2203-2209	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研究 所
Matsuda, T., K. Omura, R. Ikeda, T. Arai, K. Kobayashi, K. Shimada, H. Tanaka, T. Tomita and S. Hirano	2004	Fracture-zone conditions on a recently active fault: insights from mineralogical and geochemical analyses of the Hirabayashi NIED drill core on the Nojima fault, southwest Japan, which ruptured in the 1995 Kobe earthquake	Tectonophysics	378	143-163	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研究 所
Michibayashi, K. and Mainprice, D.	2004	The role of pre-existing mechanical anisotropy on shear zone development within oceanic mantle lithosphere: an example from the Oman ophiolite	J Petrol.	45	405-414	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研究 所
Michibayashi, K., Abe, N., Okamoto, A., Satsukawa, T., Michikura, K.	2006	Seismic anisotropy in the uppermost mantle, back-arc region of the northeast Japan arc: petrophysical analyses of Ichinomegata peridotite xenoliths.	Geophys. Res. Lett.	33	10.1029/2006GL025812	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 議論の項目	2番目に 関連の深い 議論の項目	3番目に 関連の深い 議論の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Michibayashi, K., Ina, T. and Kanagawa, K.	2006	The effect of dynamic recrystallization on olivine fabric and seismic anisotropy: Insights from a ductile shear zone in the Oman ophiolite.	Earth Planet. Sci. Lett.	244	695-708	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Michibayashi, K., Okamoto, A., Kawakami, T., Ikeda, T., Masuzawa, T. and Yasuda, H., 2004	2004	Orientation contrast images of garnet from granulite quartzite, Lutzow-Holm Complex, East Antarctica	J. Geol. Soc. Jpn	110	v-vi	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Monzawa, N. and Otsuki, K.,	2003	Comminution and fluidization of granular fault materials: Implications for fault slip behavior	Tectonophysics	367	127-143	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Mukoyoshi, H., Sakaguchi, A., Otsuki, K., Hirono, T., and Soh, W.	2006	Co-seismic frictional melting along an out-of-sequence thrust in the Shimanto accretionary complex: Implications on the tsunamigenic potential of splay faults in modern subduction zones	EPSL	245	330-343	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究所
Nakatani, M. and C. H. Scholz	2004	Frictional healing of quartz gouge under hydrothermal conditions: 1. Experimental evidence for solution transfer healing mechanism	J. Geophys. Res	109	doi:10.1029/2001JB001522	○	1(4) ア	1(4) イ		*	大地震の震源程度の温度で、石英の溶解輸送による摩擦強度の回復を発見した。熱水条件では、従来知られていた固体クリープによる以外の強度回復メカニズムがあるだろうと盛んに予想されていたが、それが初めて実証され、地震発生域の条件で十分な効果を持つことがわかった。さらに、現象の時定数の温度依存性から基礎プロセスの活性化エネルギーが求まった。摩擦の強度回復に対してこのような解析が成功したのは初めてである。	東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Nakatani, M. and C. H. Scholz	2004	Frictional healing of quartz gouge under hydrothermal conditions: 2. Quantitative interpretation with a physical model	J. Geophys. Res	109	doi:10.1029/2003JB002938	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Nakatani, M. and C.H. Scholz	in press	Intrinsic and apparent short-time limits for fault healing: theory, observations, and implications for velocity-dependent friction	J. Geophys. Res.		2005JB004096	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Nishino, S., and Tsutsumi, A.	2004	Porosity and permeability structures of the Shimanto accretionary prism, Kochi prefecture, southwest Japan	Proceedings of the international symposium on "Methane Hydrates and Fluid Flow in Upper Accretionary Prisms"		8-13		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Nohara, T., H. Tanaka, K. Watanabe, N. Furukawa, A. Takami	2006	In-situ hydraulic tests in the Active Fault Survey Tunnel, Kamioka Mine, excavated through the active Mozumi-Sukenobu fault zone and their hydrogeological significance	The Island Arc		in press	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Ogasawara, H., Y. Iio, M. Nakatani et al.	2005	Multidisciplinary Monitoring of the Entire Life Span of an Earthquake and its Practical Strategy in South African Gold Mines	<i>Proc. 6th Internat. Symp. Rockburst and Seismicity in Mines</i>	N/A	393-398	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Okamoto, A. and Michibayashi, K.	2005	Progressive shape evolution of a mineral inclusion under differential stress at high temperature: example of garnet inclusions within a granulite facies from the Lutow-Holm complex, East Antarctica.	J. Geophys. Res.	110	10.1029/2004JB003526	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Okamoto, A. and Michibayashi, K.	2006	Misorientations of garnet aggregate within a vein: Implications for timescale of vein formation during metamorphism.	J. Metamorph. Geol.	24	353-366	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Onishi C. T. and Shimizu, I.	2005	Microcrack networks in granite affected by a fault zone: Visualization by confocal laser microscopy	J. Struct. Geol.	27	2268-2280	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Otsuki, K., and Dilov, T.	2005	Evolution of hierarchical self-similar geometry of experimental fault zones: Implications for seismic nucleation and earthquake size.	J. Geophys. Res.	110	doi:10.1029/2004JB003359	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Otsuki, K., Monzawa, N., and Nagase, T.,	2003	Fluidization and melting of fault gouge during seismic slip: Identification in the Nojima fault zone and implications for focal earthquake mechanisms	Jour. Geophys. Res.	108	doi:10.1029/2001JB001711	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Otsuki, K., T. Uduki, N. Monzawa, H. Tanaka	2005	Fractal size and spatial distributions of fault zones: An investigation into the seismic Chelungpu Fault, Taiwan	The Island Arc	14	12-21	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Otsuki, K., T. Uduki, N. Monzawa, H. Tanaka	2005	Clayey injection veins and pseudotachylite from two boreholes penetrating the Chelungpu Fault, Taiwan: Their implications for the contrastive seismic slip behaviors during the 1999 Chi-Chi earthquake	The Island Arc	14	22-36	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Otsuki, K., Uduki, T., Monzawa, N. and Tanaka, H.	2005	Clayey injection veins and pseudotachylite from two boreholes penetrating the Chelungpu Fault, Taiwan: Their implications for the contrastive seismic slip behaviors during the 1999 Chi-Chi earthquake	The Island Arc	14	22-36.	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Otsuki, K., Uduki, T., Monzawa, N., and Tanaka, H.	2005	Fractal size and spatial distributions of fault zones: An investigation into the seismic Chelungpu Fault, Taiwan	The Island Arc	14	12-21.	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Sakuma, H., Otsuki, K. and Kurihara, K.	2006	Viscosity and lubricity of aqueous NaCl solution confined between mica surfaces studied by shear resonance measurement	Phys. Review Lett.		DOI:10.1103/PhysRevLett.96.046104	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sakuma, H., Tsuchiya, T., Kawamura, K., and Otsuki, K.	2003	Large self-diffusion of water on brucite surface by ab initio potential energy surface and molecular dynamics simulations	Surface Science	536	L396-L402	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Sakuma, H., Tsuchiya, T., Kawamura, K. and Otsuki, K.,	2004	Local behavior of water molecules on brucite, talc, and halite surfaces: A molecular dynamics study	Molecular Simulation	30	Doi:10.1080/08927020412331299350	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Sakuma, H., Tsuchiya, T., Kawamura, K., and Otsuki, K.	2004	Density profile and self-diffusion of water molecules on brucite and talc surfaces by molecular dynamics simulations	Physicochemistry of Thin Film Water		87-100.	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Saruwatari, K., J. Kameda, H. Tanaka	2004	Generation of hydrogen ions and hydrogen gas at quartz-water crushing experiments: an example of chemical processes in active faults	Physics and Chemistry of Minerals	31	176-182	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Shibazaki, B., H. Tanaka, H. Horikawa, Y. Iio	2002	Modeling slip processes at the deeper part of the seismogenic zone using a constitutive law combining friction and flow laws	Earth, Planet. Space	54	1211-1218	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Shibazaki, B., N. Shigematsu, H. Tanaka	2004	Modeling slips and nucleation processes at the deeper part of the seismogenic zone	Earth, Planets and Space	56	1087-1093	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Shimada, K., H. Tanaka, T. Toyoshima, T. Obara, T. Niizato	2004	Occurrence of mylonite zones and pseudotachylite veins around the base of the upper crust: An example from the southern Hidaka metamorphic belt, Samani area, Hokkaido, Japan	Earth, Planets and Space	56	1217-1223	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Shimizu, I. and Takei, Y.	2005	Thermodynamics of interfacial energy in binary metallic systems: Influence of adsorption on dihedral angles	Acta Material.	53	811-821	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Shimizu, I. and Takei, Y.	2005	Temperature and compositional dependence of solid-liquid interfacial energy: Application of the Cahn-Hilliard theory	Physica B	362	169-179	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Shimizu, I. and Yoshida, S.	2003	Strain geometries in the Sanbagawa metamorphic belt inferred from deformation structures in metabasite	Island Arc	13	95-109	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sone, H., Hirose, T., Uehara, S., Noda, H., Aizawa, Y., Mizoguchi, K., Tanikawa, W., Tsutsumi, A. and Shimamoto, T.	2006	Rock deformation apparatuses at Kyoto university	構造地質	49	v-viii		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Suzuki, T. and T. Yamashita	2006	Non-linear thermo-poroelastic effects on dynamic earthquake ruptures	J. Geophys. Res.	111	10.1029/2005J B003810	○	1(4) ア	2(1) ウ		*	熱・多孔性媒質を考慮し、断層の動的すべり、流体圧変化、温度変化の間の非線形動的相互作用を考察した。非線形性のため小地震ほど応力降下量が小さくなることが分かった。さらに、この非線形性のため滑り弱化がおきることを示し、その数学的表現を求めた。	東京大学 地震研究 所
Takei, Y. and Shimizu, I.	2003	The effects of liquid composition, temperature, and pressure on the equilibrium dihedral angles of binary solid-liquid systems inferred from a lattice-like model.	Phys. Earth Planet Inter.	139	225-242	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Tanaka, H., K. Shimada, T. Toyoshima, T. Obara, T. Niizato	2004	Heterogeneous material distribution, an important reason for generation of strain-localized mylonite and frictional slip zones in the Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, Japan	Earth, Planets and Space	56	1225-1232	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
Tanaka, H., K. Omura, T. Matsuda, R. Ikeda, K. Kobayashi, M. Murakami, K. Shimada	2006	Architectural evolution of the Nojima fault and identification of the activated slip layer by Kobe earthquake	JGR		in press	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Tanaka, H., T. Ito, T. Nohara, M	2006	Descriptions of meso- and microscopic structures of fault zone rocks obtained from penetrating tunnel across the Mozumi-Sukenobu fault, central Japan	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, TERRAPUB		in press	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Tanaka, H., W. M. Chen, C. Y. Wang, K. F. Ma, N. Urata, J. Mori, and M. Ando,	2006	Frictional Heat from Faulting of the 1999 Chi-Chi, Taiwan Earthquake	GRL		in press	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Tomita, T., T. Ohtani, N. Shigematsu, H. Tanaka, K. Fujimoto, Y. Kobayashi, Y. Miyashita, K. Omura	2002	Development of the Hatagawa fault zone clarified by geological and geochronological studies.	Earth, Planet. Space	54	1095-1102	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Toyoshima, T., T. Obara, T. Niizato, H. Tanaka, K. Shimada, M. Komatsu, Y. Wada, T. Koyasu	2004	Pseudotachylytes, related fault rocks, asperities, and crustal structures in the Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, northern Japan	Earth, Planets and Space	56	1209-1215	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Tsutsumi, A., Nishino, S., Mizoguchi, K., Hirose, T., Uehara, S., Sato, K., Tanikawa, W. and Shimamoto, T	2004	Principal fault zone width and permeability of the active Neodani fault, Nobi fault system, Southwest Japan	Tectonophysics	379	93-108	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 深い 議論 の項 目	2番 目 に 関 連 の 深 い 議 論 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 議 論 の 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Yoshida, S. and N. Kato	2003	Episodic aseismic slip in a two-degree-of-freedom block model	Geophys. Res. Lett.		30 doi:10.1029/2003GL017439	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Yoshida, S. and T. Ogawa	2004	Electromagnetic emissions from dry and wet granite associated with acoustic emissions	J. Geophys. Res.		109 doi:10.1029/2004JB003092	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Yoshida, S., A. Kato, N. Kato, and M. Nakatani	2004	Interpretation of various slip modes on a plate boundary based on laboratory and numerical experiments	Earth Space Planets		56 795-801	○	1 (4) ア	1 (4) イ				東京大学 地震研 究所
Yoshioka, N.	2003	A sandpile experiment and its implications for self-organized criticality and characteristic earthquake	Earth, Planet. Space		55 283-289	○	1 (4) ア	1 (4) イ		*	砂山崩しの実験を、実際の砂を用いて行い、砂の粒径dと、その上に砂山を形成する受け皿の直径Dとの比が、砂山の崩れ方に著しい違いをもたらすことを確認した。すなわちd/Dが比較的大きい(>0.01)時には、砂山のナダレの大きさの頻度分布はグーテンベルグ・リヒター則に従い、自己組織化臨界現象の典型例となるが、d/Dが0.01以下になると、大きなナダレがほぼ周期的に起こるようになり、固有地震的な特徴を示すようになる。この原因は砂山内部の応力鎖の構造にあると想像されるが今後の課題である	東京大学 地震研 究所
Yoshioka, N. and H. Sakaguchi,	2005	An experimental trial to detect nucleation processes by transmission waves across a simulated faults with a gouge layer	Advances in Geosciences		1 105-116	○	1 (4) ア	1 (4) イ		*	ガウジ層を挟む模擬断層に対して、波動透過実験を行い、応力の増加とともに透過波動がどのように変化するかを観察した。模擬断層は最終的に激しいスティックスリップをおこなすが、それに至る過程で前兆的なゆっくりにしたすべりと、ガウジ層の膨張が引き起こされ、これにともなって透過波動に著しい減衰がおこることが観察された。離散要素法によるシミュレーションはこれらの特徴をよく再現し、実験によって観察された事実は、ガウジ層内部の応力鎖の変化で説明されることが明らかとなった。	東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Yoshioka, N. and K. Iwasa	2006	A laboratory experiment to monitor the contact state of a fault by transmission waves	Tectonophysics	413	221-238	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
重松紀夫, 藤本光一郎, 太谷具幸, 田中秀実, 宮下由香里, 富田倫明	2003	脆性-塑性漸移帯の構造 - 畑川破碎帯の例 -	地学雑誌	112	897-914	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
嶋本利彦・堤 昭人・廣瀬文洋・相澤泰隆・菅根大貴・上原真一・谷川 亘・野田博之・溝口一生	2006	京都大学の摩擦・変形・透水試験機	構造地質	49	49-71		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
吉田真吾	2003	地震発生の素過程	月刊地球	25	759-766		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
吉岡直人	2003	砂山くずしの実験—SOCと固有地震	地震ジャーナル	35	36-41		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の 有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
吉田真吾・加藤尚之	2005	前駆すべりと地震の最終的サイズとの関係	地震	58	231-246	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
橋本 善孝・池原(大森) 琴絵・清水 以知子)	2004	レーザー偏光顕微鏡によるビトリナイト反射率の定量化	地質学雑誌	110	771-778	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
熊澤峰夫・清水以知子	2006	日本における固体圧変形実験装置の開発と研究の系譜	構造地質	49	5~14	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
小笠原宏・飯尾能久・中谷正生・南ア金 鉱山半制御地震発生実験国際共同研究 グループ	2003	南ア金鉱山における半制御地震発生実験(2002-2006)	月刊地球	25	815-817		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
小笠原宏・飯尾能久・中谷正生・南ア金 鉱山半制御地震発生実験国際共同研究 グループ	2004	2003年の南アフリカ金鉱山の地震発生・制御・防災と予知	月刊地球	号外 No.4 6	68-74		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
大西セリア智恵美・清水 以知子	2003	走査型レーザー顕微鏡による花崗岩中の割れ目の可視化	地質学雑誌	109	XIX-XX	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
大西セリア智恵美・清水以知子	2003	蛍光法による断層破砕帯の割れ目の可視化:走査型レーザー顕微鏡の応用	地質学雑誌	109	607-610	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
中谷正生	2006	地震滑りによる摩擦発熱量の直接測定(課題番号15340143)	平成17-15年度科研費研究成果報告書	N/A	175pp.		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
中谷正生	2003	摩擦強度の時間的回復の物理化学-素過程と絶対速度論にもとづいた定量的解釈-	地学雑誌	112	961-969	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所
堤 昭人・嶋本利彦	2005	変形・透水試験機設計入門	日本地質学会第112年大会見学旅行案内書		153-160		1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
堤 昭人・廣瀬文洋・溝口一生・佐藤慶治・嶋本利彦	2003	ガス圧式三軸変形試験機を用いた岩石の浸透率測定— 掛川層群の浸透率構造解析例—	資源と素材	119	514-518	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
内田良始・大槻憲四郎	2006	臨界点近傍での地殻流体P-V-T連続測定装置の開発	構造地質	49	41-48	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
牧謙一郎・高野忠・相馬央令子・石井健太郎・吉田真吾・中谷正生	2006	岩石圧縮破壊に伴うマイクロ波放射の観測	地震	58	375-384	○	1(4) ア	1(4) イ				東京大学 地震研究 所
加納靖之・柳谷俊	2004	地殻の応力センサーとしてのポアホール井戸—1軸的な 載荷に対する間隙水圧の応答—	月刊地球	26	103-108		1(4) ア					京大防災 研
Fukuchi, T., K. Mizoguchi and T. Shimamoto	2005	Ferrimagnetic resonance signal produced by frictional heating: A new indicator of paleoseismicity	J. Geophys. Res.		B12404- doi:10.1029/200 4JB003485	○	1(4) ア					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Lei X.-L.	2006	Typical phases of pre-failure damage in granitic rocks under differential compression	Geological Society Special Publication	261	11-29	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Lei X.-L., K. Kusunose, T. Satoh, O. Nishizawa	2003	The hierarchical rupture process of a fault: an experimental study	PEPI	137	213-228	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ	*	不均質構造を持つ岩石試料の破壊過程を調べ、微小破壊の時空間分布から断層形成過程が静→準静→準動→動のような段階性と階層性を持つことが分かった。動的な破壊に前駆する準静的な破壊核形成過程ある一方、その準静過程にはさらに小さいスケールの動的な破壊が含まれる。	産業技術 総合研究 所
Lei X.-L., O. Nishizawa, A. Moura, T. Satoh	2005	Hierarchical fracture process in brittle rocks by means of high-speed monitoring of AE hypocenter	J. Acoustic Emission	23	102-112	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Lei X.-L., T. Satoh	2006	Indicators of critical point behavior prior to rock failure inferred from pre-failure damage	Tectonophysics		doi:10.1016/j.tecto.2006.04.023	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Lei X.-L., T. Satoh, O. Nishizawa	2005	Three-stage fracturing model for granitic rocks under triaxial compression —role of microcrack density and stress rate on fault formation	Seismology	26	436-449	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Lei X.-L., T. Satoh, O. Nishizawa, K. Kusunose, M.V.M.S. Rao	2005	Modeling Damage Creation in Stressed Brittle Rocks by Means of Acoustic Emission	6th International Symposium on Rockbursts and Seismicity in Mines Proceeding (RsSim6), Australia		327-334	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Lei, X.-L	2003	How do asperities fracture? An experimental study of unbroken asperities	EPSL	213	345-357	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ	*	岩石試料内のcmオーダーのアスペリティの破壊は地震断層上のkm級の大きなアスペリティの破壊と同様な前震—本震—余震系列を示す。微小破壊に規模—頻度分布を示すb値は前震段階で1から0.5まで減少し、余震段階で1まで回復する。更に、余震頻度の減衰はOmori則に従う。	産業技術 総合研究 所
Lei, X.-L., K. Masuda, O. Nishizawa, L. Jouniaux, L. Liu, W. Ma, T. Satoh, K. Kusunose	2004	Detailed analysis of acoustic emission activity during catastrophic fracture of faults in rocks	Jou. Struct. Geol.	26	247-258	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Moura A., X.-L. Lei, O. Nishisawa	2006	Self-similarity in rock cracking and related complex critical exponents	Journal of the Mechanics and Physics of Solids	54	2544-2553	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Moura A., X.-L. Lei, O. Nishisawa	2005	Prediction scheme for the catastrophic failure of highly loaded brittle materials or rocks	Journal of the Mechanics and Physics of Solids	53	2435-2455	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Q. Li & Z. Wu, Y. Murakami, T. Satoh & X-L. Lei	2005	Hydraulic and geomechanical simulation of fractured porous media under geo-sequestration of carbon dioxide	Poromechanics – Biot Centennial (1905–2005) – Abousleiman, Cheng & Ulm (eds)		669–674	○	1(4) ア	1(4) イ				産業技術 総合研究 所
Rao M.V.M.S., K. Shivakumar, X. Lei, K. Kusunose, T. Satoh, O. Nishizawa	2002	Fault nucleation and its growth in intact and jointed rocks of Kolar Mines: an overview of observations from recent laboratory investigations	ISRM Regional Symposium – Advancing Rock Mechanics Frontiers to meet the Challenges of 21st Century	II	75–78	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Satoh, T. and the research group for semi-controlled earthquake generation experiments in South Africa deep gold mines	2002	Near source observation of small initial phase generated by earthquakes in a deep gold mine in South Africa	Seismogenic Process Monitoring – Mining and Experimental Seismology, (eds H Ogasawara, T Yanagidani and M Ando)		165–171	○	1(4) ア	1(3) ア				産業技術 総合研究 所
Tsutsumi, A., S. Tanaka, N. Shirai and Y. Enomoto	2003	Electric Signals Accompanying Fracture of Granite	JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS	42	5208–5212	○	1(4) ア	1(4) イ	1(2) ウ			産業技術 総合研究 所
Yabe Y.	2003	Frictional property of plate interface east off NE Japan inferred from spatial variation in b-value	Bull. Earthq. Res. Inst.	78	107–111		1(4) イ	1(2) ア				東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 深い 項目	2番 目 に 関 連 の 深 い 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Yabe Y., N. Kato, K. Yamamoto, and T. Hirasawa	2003	Effect of Sliding Rate on the Activity of Acoustic Emission During Stable Sliding	Pure Appl. Geophys.	160	1163-1189	○	1(4) イ	1(4) ア		*	室内岩石実験で、巨視的な定常安定すべりに伴う活発なAE活動を観測した。AEの震源は、巨視的断層面上に求められ、P波初動の押し引き分布から推定した発震機構解の節面の一つは巨視的断層面と一致していた。これらのことから、安定すべりに伴うAEは、巨視的には定常安定すべりに伴っている断層面上で発生した局所的な不安定すべりであり、プレート境界で発生する微小地震は類似した現象であると言える。	東北大学
Yabe, Y.	2002	Rate dependence of AE activity during frictional sliding	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2001GL014369	○	1(4) イ	1(4) ア		*	室内すべり実験により、摩擦すべりに伴う微小破壊振動(AE)の統計的性質を詳細に調べた。その結果、AEの規模分布を特徴付けるIshimoto-Iidaのm値が断層の累積すべり量とすべり速度に依存することを見出した。また、断層の摩擦強度のすべり速度依存性(いわゆる(a-b)とm値との間には一定の関係があることを見出した。後者の結果は、微小地震活動の時空間変動から断層の摩擦特性を推定しうることを示している。	東北大学
Yamamoto, K., N. Sato, and Y. Yabe	2002	Elastic property of damaged zone inferred from in-situ stresses and its role on the shear strength of faults	Earth, Planet. Space	54	1181-1194	○	1(4) イ	1(4) ア				東北大学
矢部康男	2004	地震活動の時空間変動に対する新たな解釈の提案と東北日本太平洋下プレート境界面への適用	地震、第2輯	56	485-495	○	1(4) イ	1(2) ア		*	東北日本太平洋下のプレート境界で発生する地震活動や準静的すべりの時空間変化にYabe (2002)の結果を適用して、プレート境界面上の摩擦特性(摩擦強度のすべり速度依存性)の空間分布を推定した。推定された摩擦特性分布は、過去70年間に発生した大地震のすべり域の分布やバックスリップの分布と矛盾しないものであった。	東北大学
矢部康男	2006	異方性を有する断層破砕帯における「弱い断層」と「最適なすべり面」に関する考察	地震、第2輯	58	407-409	○	1(4) イ	1(2) イ				東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の 有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
ABE, J., N. HIRANO, and N. TSUCHIYA	in press	Natural and experimental evidences of low-pressure and high-temperature fracturing under sub and supercritical hydrothermal conditions	Geothermal Resources Council Transactions	30		○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
ABE, J., N. HIRANO, and N. TSUCHIYA	2005	Experimental Apparatus for Measurement of IR and Raman Spectrumat High Temperatures and Pressures	WATER DYANMICS: 3rd International Workshop on Water Dynamics, AIP Conf. Proc.	833	129-132	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
de Meer, S., C. J. Spiers, C. J. Peach, and T. Watanabe	2002	Diffusive properties of fluid-filled grain boundaries measured electrically during active pressure solution	Earth Planet. Sci. Lett.	200	147-157	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Hirano, N., J. Abe , G. Bignall, and N. Tsuchiya	2003	Hydrothermally derived fracturing of quartz in granitic rocks in low pressure and high pressure regime of a geothermal field	Geothermal Resources Council Transactions	27	303-306	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Ito, K., H. Sato, H. Kanazawa, N. Kawame, O. Tamada, K. Miyazaki, S. Uehara, Y. Iio, H. Takei, T. Kitazawa, M. Koike, Y. Matsushita and Y. Ito	2003	First synthesis of olivine single crystal as large as 250 carats	J. Crystal Growth	253	557-561	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ito, K., H. Sato, H. Kanazawa, O. Tamada, T. Kitazawa, M. Koike and H. Takei	2004	Simple practical processing of a large single crystal from a large amount of a complete stoichiometric mixture in two-component system	J. Crystal Growth	271	398-402	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研 究所
Ito, K., H. Sato, H. Takei, O. Tamada and T. Kitazawa	2003	Synthesis of large high-quality forsterite single crystals to 200 mm length, and its significance	Geochem. Geophys. Geosyst.	4	10.1029/2001G C000273	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研 究所
Kanazawa, H., K. Ito, H. Sato, M. Kumatoriya, K. Miyazaki, S. Uehara, H. Tsuda, K. Kuzawa, N. Kawame, T. Kitazawa, O. Tamada and H. Takei	in press	Synthesis of large homogeneous single crystals of forsterite doped with manganese	J. Crystal Growth		in press	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研 究所
Nemoto, K., H. Moriya, and H. Niitsuma	2004	Hydraulically Induced Slip Due to Fluid Injection and Pore Fluid Flow Associated with The Slip	Geothermal Resources Council Transactions	28	299-302	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研 究所
Nemoto, K., H. Moriya, and H. Niitsuma	2005	Fault Slip Induced by Injection of Water and Pore Fluid Flow	WATER DYANMICS. 3rd International Workshop on Water Dynamics, AIP Conf. Proc.	833	182-184		1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Nemoto, K., H. Oka, N. Watanabe, N. Hirano, and N. Tsuchiya	2005	Measurement of Hydraulically Ineffective Area on a Fracture Under Normal Stress Condition	Geothermal Resources Council Transactions	29	413-417	○	1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研 究所
NEMOTO, K., H. OKA, N. WATANABE, N. HIRANO, and N. TSUCHIYA	2005	Evaluation of Fluid Flow Path in a Single Fracture Undergoing Normal Stress and Shear Offset	WATER DYNAMICS: 3rd International Workshop on Water Dynamics, AIP Conf. Proc.	833	156-161		1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研 究所
Sato, H.	2005	Rock anelasticity studies at high pressure and temperature	Journal of Geography	114	1022-1031	○	1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研 究所
Sato, H. and K. Ito	2002	Olivine-pyroxene-H ₂ O system as a practical analogue for estimating the elastic properties of fluid-bearing mantle rocks at high pressures and temperatures	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/ 2001GL014212	○	1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研 究所
Sato, H., K. Ito and Y. Aizawa	2004	Simultaneous velocity and attenuation measurements applicable to various solids at high pressures and temperatures to 1200°C	Meas. Sci. Technol.	15	1787-1793	○	1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Sato, H., K. Muro and A. Hasegawa	2002	Animated three-dimensional structure of the Earth's interior for research and education	Mathematica Journal	8	574-585	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Sato, H., K. Muro, A. Hasegawa and D. Zhao	2003	Mathematica as a powerful and practical tool for displaying animated three-dimensional structures of the Earth's interior	Geochem. Geophys. Geosyst.	4	10.1029/2001GC 000303	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Sekine, K., G. Bignall, and N. Tsuchiya	2003	Experimental approach to understanding the initiation of fractures in a cooling granite intrusion	Geothermal Resources Council Transactions	27	369-373	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Tsuchiya, N.	2005	Hydrothermal Experiments for Understanding Chemical Reaction Diversity of Water / Rock Interaction under Sub and Supercritical States	WATER DYANMICS: 3rd International Workshop on Water Dynamics, AIP Conf. Proc.	833	003-008	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Watanabe, N., and N. Tsuchiya	2003	Experimental and Numerical Analysis of Hydrothermal Channel Flow Through a Tensile Fracture in Granite	Geothermal Resources Council Transactions	27	743-746	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合 、* 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
WATANABE, N., N. HIRANO, and N. TSUCHIYA	in press	Experimental evaluation of fluid flow through artificial shear fracture in granite	Geothermal Resources Council Transactions	30		○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Watanabe, N., N. Hirano, and N. Tsuchiya	2004	Permeability measurement for Large Rock Fracture using Rubber-Confining Pressure Vessel	Proceedings of 26th Annual NZ Geothermal Workshop		CD-ROM	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Watanabe, N., N. Hirano, T. Tamagawa, K. Tezuka, and N. Tsuchiya	2005	Numerical Estimation of Aperture Structure and Flow Wetted Field in Rock Fracture	Geothermal Resources Council Transactions	29	431-436	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
WATANABE, N., N. HIRANO, T. TAMAGAWA, K. TEZUKA, and N. TSUCHIYA	2005	High Resolution Modeling of Aperture Structure and Flow Path in Rock Fracture	WATER DYANMICS: 3rd International Workshop on Water Dynamics, AIP Conf. Proc.	833	173-176		1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所
Watanabe, T. and C. J. Peach	2002	Electrical impedance measurement of plastically deforming halite rocks at 125C and 50 MPa	J. Geophys. Res.	107	10.1029/2001JB000204	○	1 (4) イ	1 (4) ア				東京大学 地震研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Watanabe, T. and Y. Katagishi	2006	Deviation of linear relation between streaming potential and pore fluid pressure difference in granular material at relatively high Reynolds numbers	Earth, Planets and Space	58	1045-1051	○	1(4) イ	1(4) ア		*	蛇紋岩は、クリソタイル、リザーダイトを含む低温型、アンチゴライトを含む高温型に分けられる。地震波トモグラフィによる蛇紋岩の検出が試みられてきたが、それらはすべて低温型蛇紋岩のデータに基づいてきた。しかし、温度構造を考えると、高温型のデータを考慮すべきである。われわれは、蛇紋岩の弾性波速度を室温、封圧200MPaの条件で測定し、高温型蛇紋岩が低温型に比べて有意に高い速度をもつことを明らかにした。これは、低温型、高温型蛇紋石の結晶構造からも支持される。	東京大学 地震研究所
渡辺 了	2005	サイレント地震発生場の総合的研究	京都大学防災研究所一般共同研究報告書				1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所
渡辺 了	2005	岩石の電気物性—レビュー	地学雑誌	114	837-861	○	1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所
渡辺 了	2005	東海スロースリップ発生域の物質科学—高ポアソン比の原因は何か？—	月刊地球	27	467-471		1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所
佐藤博樹	2003	岩石のマイクロテクトニクスの精密定量解析と異方性に関する研究	基盤研究(C)(2) 研究成果報告書		161pp		1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の 有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
佐藤博樹	2006	大容量シリンダーを用いた高温高压下における岩石-水系の速度とQ値の精密測定	基盤研究(C)(2) 研究成果報告書		163pp		1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所
佐藤博樹	2002	高温高压岩石物性	地球環境調査計測事典、竹内均監修、及川武久・喜田大三・須藤隆一・竹内睦雄・中杉修身・永塚鎮男・成瀬藤二・長谷川洋作・鷺田伸明編集、フジ・テクノシステム、東京		pp.663-671		1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所
平野伸夫、渡邊則昭、土屋範芳	2005	ゴムを圧力媒体とした封圧発生装置の開発および透水試験	資源と素材	121	484-488	○	1(4) イ	1(4) ア				東京大学 地震研究所
Toda, S., R. Stein and T. Sagiya	2002	Evidence from the AD 2000 Izu islands earthquake swarm that stressing rate governs seismicity	Nature	419	58-61	○	1(4) イ					名古屋大学
鷺谷威・大園真子・西脇周平・太田雄策・佐々木雅子・山室友生・木股文昭	2005	2004年新潟県中越地震の震源域南部周辺における余効変動	地震	58	359-369	○	1(4) イ					名古屋大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 の深い 項目	2番目 に 関連 の深い 項目	3番目 に 関連 の深い 項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
山田 功夫	2005	カムチャッカにおける広帯域地震観測	月刊地球	27	777-780		1(4) イ					名古屋大学
Sato, H., Hirata, N., Koketsu, K., Okaya, D., Abe, S., Kobayashi, R., Matsubara, M., Iwasaki, T., Ito, T., Ikawa, T., Kawanaka, T., Kasahara, K., and Harder, S.	2005	Earthquake source fault beneath Tokyo	Science	309	462-464	○	1(4) イ	1(3) ア				鹿児島大学
Kentaro OMURA	2004	Anisotropies of electrical conductivities and P wave velocities of cataclastic and mylonites under ambient conditions: Laboratory measurements of Hatagawa fault zones samples	Report of the National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention	66	147-152		1(4) イ					防災科研
Ito S., H. Ito, S., Horiuchi and Y. Iio	2004	Local attenuation in Western Nagano, central Japan estimated from seismograms recorded in three boreholes	Geophysical Research Letters	31	L20604	○	1(4) イ					産業技術総合研究所
Masuda K., Fujimoto, K., and Arai, T	2002	A new gas-medium, high-pressure and high-temperature deformation apparatus at AIST, Japan	Earth Planets Space	54	1091-1094	○	1(4) イ	1(4) ア		*	地震発生帯における岩石変形過程を調べるため、水の存在下で高温高圧実験が可能なガス圧式高温高圧変形実験装置を設計製作した。最大圧力200MPa最高温度800度C、最大間隙圧(水あるいは不活性ガス)200MPaの環境下での物性測定、変形破壊実験、摩擦実験が可能で、これはこの種の実験設備としては現在国内最高性能である。断層帯の高温高圧下での変形実験を行い、水の変形過程に対する影響を明らかにした。	産業技術総合研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Schubnel, A., Nishizawa, O., Masuda, K., Lei, X.J., Xue, Z., and Gueguen, Y.	2002	Velocity measurements and crack density determination during wet triaxial experiments on Oshima and Toki granites	Pure and Applied Geophysics	160	869-887	○	1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
増田幸治	2006	ガス圧式高温高圧実験装置用内熱炉の開発	構造地質	49	73-76	○	1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
増田幸治	2004	実験室で探る断層深部のすべりと変形	産総研シリーズ 「活断層と地震— 過去から学び、将 来を予測する—」		146-154		1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
増田幸治, 新井崇史	2004	ガス圧式高温高圧変形実験装置を用いた破壊—摩擦実験	構造地質	48	25-30	○	1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
増田幸治, 新井崇史	2003	断層深部の環境下での破壊—摩擦実験	地学雑誌	112	953-960	○	1(4) イ	1(4) ア		*	内陸部で発生する大地震の震源震度での環境下を再現するガス圧式高温高圧変形実験装置を使って、熱水条件下(高温高圧で水のある状況)での破壊実験と摩擦実験を行った。その結果、花崗岩質地殻の構成物質である石英カウジについて、水のある状態での摩擦すべり特性を明らかにした。	産業技術 総合研究 所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
増田幸治, 新井崇史, 高橋美紀, 重松紀生	2004	高温高压実験による地震発生の素過程の解明	地質ニュース	597	21-25		1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
増田幸治, 新井崇史, 高橋美紀, 重松紀 生, 藤本光一郎, 北村圭吾	2005	高温高压実験による断層深部のすべり機構の研究	月刊地球	号外 50	50-55		1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
藤本 光一郎, 重松紀生, 大谷具幸, 増 田 幸治, 新井崇史, 田中秀実, 島田耕 史, 亀田純, 猿渡和子, 豊島剛志, 小村 健太郎, 富田倫明, 小林洋二	2005	内陸地震の理解のための物質科学的調査について	月刊地球	号外 50	12-15		1(4) イ	1(4) ア				産業技術 総合研究 所
北村圭吾, 増田幸治	2005	高温高压条件下での岩石の弾性波速度測定とその地質 学的意義	地学雑誌	114	963-974	○	1(4) イ	1(4) ア		*	近年の岩石の弾性波速度測定による研究の動向と、新たな実験成果に ついてまとめた。実験室での弾性波速度の測定結果は地殻構造調査の 解釈に用いることができる。野外調査と並行して行なわれる実験室での 研究の意義をまとめた。	産業技術 総合研究 所

2(1)地殻活動予測シミュレーションモデルの構築(平田委員)

…査読無しの論文のうち本文と関連しない論文

…査読有りの論文のうちレビュー本文と関係しない論文、本項目で取り上げることが適切でない論文

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い差離の項目	2番目に関連の深い差離の項目	3番目に関連の深い差離の項目	主要成果の場合、*印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Katsumata, K., M. Kasahara, S. Ozawa and A. Ivashchenko	2002	A five years super-slow aseismic precursor model for the 1994 M8.3 Hokkaido-Toho-Oki lithospheric earthquake based on tide gauge data	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2002GL014982	○	2(1)ア				1994年10月4日に発生した北海道東方沖地震(Mw=8.3)の約5年前から震源域付近で非地震性のゆっくりとしたすべりが開始していたことが駿潮記録の解析から明らかとなった。震源から50~150km離れた根室市花咲港と色丹島では5年間に数cmの沈降を記録した。一方150km以上離れた国後島と釧路港ではこのような沈降は観測されなかった。これらの観測事実は本震と同じstriki.dip.slipを持つ断層が34cm/yで5年間変位したと仮定するとうまく説明できる。	北海道大学
Fukahata, Y., A. Nishitani, and M. Matsu'ura	2004	Geodetic data inversion using ABIC to estimate slip history during one earthquake cycle with viscoelastic slip-response functions	Geophys. J. Int.	156	140-153	○	2(1)ア	2(1)イ		*	地殻変動データの新しいインバージョン解析手法を定式化し、それを四国地域の水準データに適用することで、1946年南海地震を含む地震サイクル間のプレート境界面でのすべり履歴を復元することに成功した。	東京大学理学系
Fukahata, Y., and M. Matsu'ura	2005	General expressions for internal deformation fields due to a dislocation source in a multilayered elastic half-space	Geophys. J. Int.	161	507-521	○	2(1)ア	2(1)ウ		*	一般化伝達行列を導入し、多層構造半無限弾性体中の任意の点食い違い源による内部変形場を数値不安定無しに計算できる一般的定式化を行った。	東京大学理学系
Fukahata, Y., and M. Matsu'ura	2006	Quasi-static internal deformation due to a dislocation source in a multilayered elastic/viscoelastic half-space and an equivalence theorem	Geophys. J. Int.	166	418-434	○	2(1)ア	2(1)ウ		*	線形粘弾性の対応原理を適用して、弾性/粘弾性多層構造媒質中の任意の点食い違い源による内部変形場を数値不安定無しに計算できる一般的定式化を行った。	東京大学理学系
Hashimoto, C., and M. Matsu'ura	2006	3-D simulation of tectonic loading at convergent plate boundary zones: Internal stress fields in northeast Japan	Pure and Appl. Geophys.	163	1803-1817	○	2(1)ア	2(1)イ		*	部分衝突の概念を導入してプレート収束境界での地殻内応力蓄積過程のシミュレーションを行い、東北日本弧の東西圧縮応力場は10%の部分衝突で説明できることを示した。	東京大学理学系
Hashimoto, C., K. Fukui, and M. Matsu'ura	2004	3-D modelling of plate interfaces and numerical simulation of long-term crustal deformation in and around Japan	Pure Appl. Geophys.	161	2053-2068	○	2(1)ア			*	地殻活動シミュレーション・システムの基盤となる日本列島域の3次元プレート境界形状モデルを開発し、太平洋プレート及びフィリピン海プレートの沈み込みに伴う日本列島域の長期的地殻変形運動を計算した。	東京大学理学系
Matsu'ura, M.	2005	Quest for predictability of geodynamic processes through computer simulation	Computing in Science & Engineering		743-50	○	2(1)ア					東京大学理学系

加野 直巳, 横倉 隆伸, 山口 和雄	2003	P-S converted wave survey in Quaternary plains with severe Statics problems	EXPLORATION GEOPHYSICS	34	151-157	○	2(1)ア					産業技術総合研究所
勝俣啓・笠原稔	2004	北海道大学の地震カタログに見られるb値変化	地震	56	537-540	○	2(1)イ					北海道大学
Hori, T.	2006	Mechanisms of separation of rupture area and variation in time interval and size of great earthquakes along the Nankai Trough, southwest Japan	J. Earth Simulator		58-19		2(1)イ					東京大学地震研究所
Hori, T., N. Kato, K. Hirahara, T. Baba, and Y. Kaneda	2004	A numerical simulation of earthquake cycles along the Nankai trough, southwest Japan: Lateral variation in frictional property due to the slab geometry controls the nucleation position	Earth Planet. Sci. Lett.	218	215-226	○	2(1)イ					東京大学地震研究所
Kato, N.	2003	Repeating slip events at a circular asperity: Numerical simulation with a rate- and state-dependent friction law	Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo	78	151-166		2(1)イ					東京大学地震研究所
Kato, N.	2003	A possible model for large preseismic slip on a deeper extension of a seismic rupture plane	Earth Planet. Sci. Lett.	216	17-25	○	2(1)イ			*	地震発生層最下部付近で、高速度で速度強化、低速度で速度弱化的摩擦特性を仮定することにより、この領域でエピソード的な非地震性すべり(スロー地震)や大地震発生に先行する前駆的すべりの発生を説明するモデルを構築した。沈み込み域の2次元モデルを用いたシミュレーションにより1944年東南海地震に先行する異常地殻変動に似た現象を再現することができた。	東京大学地震研究所
Kato, N.	2004	A possible effect of an intermediate depth intraslab earthquake on seismic cycles of interplate earthquakes at a subduction zone	Earth Planet. Space	56	553-561	○	2(1)イ					東京大学地震研究所
Kato, N.	2002	Seismic cycle on a strike-slip fault with rate- and state-dependent strength in an elastic layer overlying a viscoelastic half-space	Earth Planet. Space.	54	1077-1083	○	2(1)イ					東京大学地震研究所

Kato, N.	in press	Expansion of aftershock areas caused by propagating postseismic sliding	Geophys. J. Int.				○	2(1) イ									東京大学 地震研 究所
Kato, N.	2004	Interaction of slip on asperities: Numerical simulation of seismic cycles on a two-dimensional planar fault with nonuniform frictional property	J. Geophys. Res.	109	doi: 10.1029/2004J B003001		○	2(1) イ					*	2次元平面断層面上に摩擦パラメータの不均一がある場合の地震サイクルを数値シミュレーションにより調べた。すべり速度弱体化域の面積が摩擦パラメータから定まる臨界値にほぼ等しいときには、非地震性のエピソードすべり(スロー地震)が発生する。また、すべり速度強化域では、非地震性すべりが伝播し、これがすべり速度弱体化域に到達すると、ここで地震をトリガーする場合がある。これにより、遅れ破壊が説明できる。		東京大学 地震研 究所	
Kato, N.	2005	Numerical simulation of recurrence of asperity rupture in the Sanriku region, northeastern Japan	Proc. 2nd. Int. Workshop Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas		57-62			2(1) イ									東京大学 地震研 究所
Kato, N. and T. E. Tullis	2003	Numerical simulation of seismic cycles with a composite rate- and state-dependent friction law	Bull. Seismol. Soc. Am.	93	841-853		○	2(1) イ									東京大学 地震研 究所
Kato, N. and T. Seno	2003	Hypocenter depths of large interplate earthquakes and their relation to seismic coupling	Earth Planet. Sci. Lett.	210	53-63		○	2(1) イ									東京大学 地震研 究所
Kato, N., X. Lei, and X. Wen	in press	A synthetic seismicity model for the Xianshuihe fault, southwestern China: simulation using a rate- and state-dependent friction law	Geophys. J. Int.				○	2(1) イ									東京大学 地震研 究所
加藤尚之	2003	アスペリティの相互作用に関する数値シミュレーション	月刊地球	25	699-703			2(1) イ									東京大学 地震研 究所
加藤尚之	2003	プレート境界面の摩擦パラメータの推定について -三陸沖のアスペリティを例として-	地学雑誌	112	857-868		○	2(1) イ					*	すべり速度・状態依存摩擦法則を利用して、1968年十勝沖地震と1994年三陸はるか沖地震の震源域を含む東北地方北部のプレート境界における地震サイクルシミュレーションを行った。摩擦構成則パラメータの空間分布を不均一にすることにより、2つのアスペリティが連動して破壊する地震と1つのアスペリティのみが破壊する地震とが交互に発生するようになり、現実を説明するモデルが構築できた。		東京大学 地震研 究所	

吉田真吾・加藤尚之	2005	前駆すべりと地震の最終サイズとの関係	地震, 第2輯	58	231-246	○	2(1) イ						東京大学 地震研究所
Hirose, H. and K. Hirahara	2004	A 3-D quasi-static model for a variety of slip behaviors on a subduction fault	Pure Appl. Geophys	161	2417-2431	○	2(1) イ						名古屋大学
Hyodo, M. and K. Hirahara	2003	A viscoelastic model of interseismic strain accumulation in Niigata-Kobe Tectonic Zone of central Japan	Earth Planets Space	55	667-675	○	2(1) イ						名古屋大学
Hyodo, M. and K. Hirahara	2004	GeoFEM kinematic earthquake cycle simulation in southwest Jaan	Pure Appl. Geophys	161	2069-2090	○	2(1) イ						名古屋大学
Mitsui, N. and K. Hirahara	2004	Simple spring-mass model simulation of earthquake cycle along the Nankai trough, southwest Japan	Pure Appl. Geophys	161	2433-2450	○	2(1) イ						名古屋大学
Mitsui, N. and K. Hirahara	2006	Slow slip events controlled by the slab dip and its lateral change along a trench	Earth Planet. Sci. Lett.	245	344-358	○	2(1) イ						名古屋大学
堀 高峰・兵藤 守・平原和朗	2004	3次元不均質粘弾性媒質中の断層系における大規模サイクルシミュレーション実現に向けて	物理探査	57	639-649	○	2(1) イ						名古屋大学
Ando,R., T.Tada and T.Yamashita	2004	Dynamic formation of fault system due to interactions between fault segments	J. Geophys. Res.	109	10.1029/2003JB002665	○	2(1) ウ	1(4) ア					東京大学 地震研究所

Fukuda, J.,	2006	Geodetic inversion for space-time distribution of fault slip based on a hierarchical Bayesian time series model	D.Sc. Dissertation		1-124		2(1)ウ						東京大学地震研究所
Fukuda, J., T. Higuchi, S. Miyazaki and T. Kato	2004	A new approach to time-dependent inversion of geodetic data using a Monte Carlo mixture Kalman filter	Geophys. J. Int.	159	17-39		○ 2(1)ウ	2.(2)ア		*	従来の時間依存インバージョン手法を改良し、モンテカルロ混合カルマンフィルターを導入することにより断層面上のすべり経過をよりよく推定することに成功した。		東京大学地震研究所
Hori, M., and K. Oguni	2004	On new numerical analysis method of fracture problem	Proc. 2nd Int. PFC Sympo., Numerical Modeling in Micromechanics via Particle Methods		116-122		○ 2(1)ウ						東京大学地震研究所
Hori, M., K. Oguni, and H. Sakaguchi	2004	Proposal of FEM implemented with particle discretization for analysis of failure phenomena	J. Mech. Phys. Solids	53	681-703		○ 2(1)ウ			*	亀裂では変位が不連続となる他、亀裂先端で歪が発散するため、滑らかな関数を想定した数値解析手法を適用することが本質的に難しい。この点を考慮し、いたるところ不連続な規程関数群を使った離散化手法を開発し、有限要素法に組み込んだ。いくつかの数値実験を行い、提案された手法が、数値計算の精度を落とすことなく、亀裂周辺で滑らかでなくなる関数を効率良く計算できることを示している。		東京大学地震研究所
Jin, H.	2003	Estimation of fault slip using a new inversion method based on spectral decomposition of Green's function	D.Sc. Dissertation		1-86		2(1)ウ	1.(2)ア		*	測地データインバージョンに従来と異なるグリーン関数をスペクトル分解する手法を導入した。これによってより厳密にインバージョンが行える。この手法を西南日本に適用して固着分布を明らかにした。		東京大学地震研究所
Kame,N. and T.Yamashita	2003	Dynamic branching, arresting of rupture and seismic wave in self-chosen crack path modeling	Geophys. J. Int.	155	1042-1050		○ 2(1)ウ	1(4)ア					東京大学地震研究所
Miyazaki S., P. Segall, J. Fukuda and T. Kato	2004	Space time distribution of afterslip following the 2003 Tokachi-oki earthquake: Implications for variations in fault zone frictional properties	Geophys. Res. Lett.	31	L06623, doi:10.1029/2003GL019410		○ 2(1)ウ	1.(2)ア		*	2003年十勝沖地震の余効変動データを用いてインバージョン解析を行い、余効すべりが地震時断層の周辺で起きていることを明らかにした。また、各点における応力と滑り速度の関係からその場の摩擦特性を推定した。		東京大学地震研究所
Miyazaki, S., P. Segall, J. J. McGuire, T. Kato and Y. Hatanaka	2006	Spatial and temporal evolution of stress and slip rate during the 2000 Tokai slow earthquake	J. Geophys. Res.	111	B03409, doi:10.1029/2004JB003426		○ 2(1)ウ	2.(2)イ	1.(2)ア				東京大学地震研究所

Miyazaki, S., P. Segall, J. McGuire, T. Kato, and Y. Hatanaka	2006	Spatial and temporal evolution of stress and slip-rate during the 2000 Tokai slow earthquake	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2004JB003426	○	2(1) ウ						東京大学 地震研究 所
Rybicki, K.R., and T. Yamashita	2002	On faulting in inhomogeneous media	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2002GL014672	○	2(1) ウ	1(4) ア					東京大学 地震研究 所
Shibazaki, B.	2005	Nucleation process with dilatant hardening on a fluid-infiltrated strike-slip fault model using a rate- and state-dependent friction law	J. Geophys. Res.	110	doi:10.1029/2005JB003741	○	2(1) ウ						東京大学 地震研究 所
Suzuki, T. and T. Yamashita	2006	Nonlinear thermoporoelastic effects on dynamic earthquake rupture	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005JB003810	○	2(1) ウ				*	動的地震破壊に対する熱的・水力学効果を理論的に検討した。まず、支配方程式系を導出し、それに基づき数値計算を実行した。これにより、流体圧変化、温度変化および滑り変化の間の非線形フィードバックが、地震破壊の動力学に重要な役割を果たしていることがわかった。例えば、温度上昇に伴う流体圧上昇により滑り弱화가生じる。また、小さな地震ほど小さな応力降下量を持つこともわかったが、これは地震観測と調和的である。	東京大学 地震研究 所
Tada, T.	2006	Stress Green's functions for a constant slip-rate on a triangular fault	Geophys. J. Int.	164	653-669	○	2(1) ウ						東京大学 地震研究 所
Yamashita, T.	2003	Regularity and complexity of aftershock occurrence due to mechanical interactions between fault slip and fluid flow	Geophys. J. Int.	1	20-33	○	2(1) ウ	1(4) ア			*	大森公式、GR式、2次余震、余震域の時間的拡大など一見多様とみえる余震に関連した現象を、高圧流体の移動により、統一的に説明した	東京大学 地震研究 所
安藤亮輔・山下輝夫	2003	断層間の動力学的相互作用と断層形状の生成	地震、第2輯	56	1-10	○	2(1) ウ	1(4) ア					東京大学 地震研究 所
勝俣紀幸・安藤亮輔・多田卓・篠崎祐三	2004	境界積分方程式法による亀裂力学の数値シミュレーションにおける誤差の評価 — 2次元自己相似面外亀裂問題 —	地震、第2輯	57	237-243	○	2(1) ウ						東京大学 地震研究 所

勝俣紀幸・安藤亮輔・多田 卓・篠崎祐三	2005	境界積分方程式法による亀裂動力学の数値シミュレーションにおける誤差の評価(その2)― 2次元自己相似面内亀裂問題―	地震, 第2輯	58	77-81	○	2(1)ウ						東京大学 地震研究所
小国健二・堀宗朗・阪口秀	2004	破壊現象の解析に適した有限要素法の提案	土木学会論文集	766	I-68, 203-217	○	2(1)ウ						東京大学 地震研究所
和賀俊治・橋本学	2003	ダイクの貫入活動と断層運動の相互作用:有限要素法による数値シミュレーション	火山	48	1-10	○	2(1)ウ						京大防災研
小沢慎三郎, 村上亮	2002	不連続体解析手法FESMプログラムによる地殻変動解析	国土地理院時報	99	63-74		2(1)ウ	2(1)イ					国土地理院
鷺谷威, 吳智深, 寺川寿子, 井神正真, 本間高弘, 安藤知明	2002	DFEMIによる地殻変動解析	国土地理院時報	99	53-62		2(1)ウ	2(1)イ					国土地理院

2(2)地殻活動モニタリングシステムの高度化(今給黎委員、干場委員、堀委員、渡辺委員)

……査読無し論文のうち削除が妥当な論文
 ……査読無し論文のうち重要性を考慮し削除しない論文
 ……2(2)イから2(2)エへ移動した論文

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	2番目に関連の深い建議の項目	3番目に関連の深い建議の項目	主要成果の場合、*印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Furuya, M and J. Wahr	2005	Water level changes at an ice-dammed lake in west Greenland inferred from InSAR data	Geophys. Res. Lett.	32	10.1029/2005GL023458	○	2(2)ア	1(2)イ				東京大学地震研究所
Gerasimenko, N. V. Shestakov, and T. Kato	2000	On optimal geodetic network design for fault-mechanics studies	Earth, Planets and Space	52	985-987	○	2(2)ア					東京大学地震研究所
Li, J., K. Miyashita, T. Kato and S. Miyazaki	2000	GPS time series modeling by autoregressive moving average method: Application to the crustal deformation in central Japan	Earth, Planets and Space	52	155-162	○	2(2)ア					東京大学地震研究所
加藤照之	2001	最近のGPS観測網整備について	自然災害科学	19	402-406		2(2)ア					東京大学地震研究所
Kano, Y., J. Mori, R. Fujio, H. Ito., T. Yanagidani, S. Nakao and Ma, K.-F.	in press	Heat Signature on the Chelungpu Fault Associated with the 1999 Chi-Chi, Taiwan Earthquake	Geophys. Res. Lett.			○	2(2)ア	1(4)ア		*	台湾車籠埔断層において、断層を貫くボアホールを利用し、地下1100 mで断層をまたぐ精密温度測定をおこなった。コアから推定される断層を中心に、0.06度の温度異常が観測された。これを、1999年集集地震時の断層のすべり(5 m)による摩擦発熱の痕跡と考え、1次元熱伝導を仮定して解析すると、地震時のせん断応力は、1 MPaと非常に小さいことがわかった。	京大防災研
Ohmi, S. and Obara, K.	2002	Deep Low-Frequency Earthquakes beneath the Focal Region of the Mw 6.7 2000 Western Tottori Earthquake	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2001GL014469	○	2(2)ア	1(2)イ		*	本論文では、鳥取県西部地震を発生させた活断層において、地震発生前から深部低周波地震が発生しており、本震後に活動が活発化したことを報告した。また、本震直前にも低周波地震が発生していたことを見出し、その発生メカニズムの考察を行ったところ、流体の移動を示唆するような結果が得られた。	京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い建 議の項 目	2番目 に関 連の深 い建 議の項 目	3番目 に関 連の深 い建 議の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Ohmi, S., Hirose, I., and Mori, J.	2004	Deep low-frequency earthquakes near the downward extension of the seismogenic fault of the 2000 Western Tottori earthquake.	Earth, Planet. Space	56	1185-1189	○	2(2) ア	1(2) イ		*	本論文では、鳥取県西部地震の震源断層で発生する深部低周波地震の考察を深め、地殻変動データとの対比や、応力降下量の見積もり等を行った。このうち、内陸活断層の地震は、その下部地殻部分の流動性に起因する応力集中が重要な要素であるという仮説が提唱されている。活断層深部に流体が存在することの証拠とも考えられる低周波地震はこの仮説の検証にも有効な観測事実であると考えられる。	京大防災研
大見士朗・Honn Kao	in press	Source-Scanning Algorithm による深部低周波地震震源域のイメージング - 鳥取県西部地域を例として -	京都大学防災研究所年報	49	269-275		2(2) ア	1(2) イ				京大防災研
Ito, Y., Matsumoto, T., Kimura, H., Matsubayashi, H., Obara, K., and Sekiguchi, S.	2005	Spatial distribution of centroid moment tensor solutions for the 2004 off Kikpeninsula earthquake	Earth Planes and Space	57	351-356	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
Ito, Y., Obara, K., Takeda, T., Shiomi, K., Matsumoto, T., Sekiguchi, S., and Hori, S.	2006	Initial-rupture fault main-shock fault and aftershock faults: Fault geometry and bends inferred from centroid moment tensor inversion of the 2005 west off Fukuoka prefecture earthquake	Earth Planes and Space	58	69-74	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
Matsubara, M., Yagi, Y., and Obara, K.	2005	Plate boundary slip associated with the 2003 Off-Tokachi earthquake based on small repeating earthquake data	geophys Res Lett	32	L08316 doi:10.1029/2007GL022310	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
Matsumoto, T., Ito, Y., Matsubayashi, H., and Sekiguchi, S.	2006	Spatial distribution of F-net moment tensors for the 2005 West Fukuoka Prefecture earthquake determined by the extended method of the NIED f-net routine	Earth Planes and Space	58	63-67	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
Nakamura, T., Suzuki, S., Sadedhi, H., Aghda, S. M. F., Matsushima, T., Ito, Y., Hosseini, S. K., Gandomi, A. J., and Maleki, M.	2005	Source fault structure of the 2003 Bam earthquake, southeastern Iran, inferred from the aftershock distribution and its relation to the heavily damaged area: existence of the Arg-e-Bam fault proposed	Geophys.Res.Lett	32	doi:10.1029/2005GL22631	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Obara, K., Y.Haryu, Y.Ito and K.Shiomi	2004	Low frequency events occurred during the sequence of aftershock activity of the 2003 Tokachi-Oki earthquake; a dynamic process of the tectonic erosion by subducted seamount	Earth Planes and Space	56	347-351	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
Okada, Y., Kasahara, K., Hori, S., Obara, K., Sekiguchi, S., Fujiwara, H., and Yamamoto, A.	2004	Recent progress of seismic observation networks in Japan-Hi-net, F-net, K-NET, and KiK-net, Earth Planets Space	Earth Planet Space	56	xv-xxv iii	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
青井真・神野達夫・藤原広行	2002	KiK-netで観測される大阪平野におけるSP変換波	第11回日本地震工学シンポジウム論文集		227-280		2(2) ア	2(3) ア				防災科研
林広樹・笠原敬司・木村尚紀・川中卓・太田陽一	2005	茨城県大洋村におけるパイプロソイス反射法一棚倉構造線南方延長に関して一	地震	58	29-40	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
堀貞喜	2002	P波初動押し引きによる発震機構解と波形解析によるモーメントテンソル解の比較	地震、第2輯	55	275-284	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
松村稔・伊藤喜宏・木村尚紀・小原一成・関口渉次・堀貞喜・笠原敬司	2006	高精度即時震源パラメータ解析システム(AQUA)の開発	地震、第2輯		(印刷中)	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研
松本拓己・伊藤喜宏・松林智弘	2006	2004年10月23日新潟県中越地震のF-net モーメントテンソル解の空間分布	地震	58	427-443	○	2(2) ア	2(3) ア				防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
大滝壽樹, 伊藤忍, 加野直巳, 横倉 伸, 山口和雄	2006	広帯域地震計にて得られた人工地震と反射法用測線にて観測された自然地震	地質調査研究報告	57	51-55	○	2(2)ア					産業技術総合研究所
H.Shirai, A.Suzuki	2005	Geomagnetic Survey by Geographical Survey in Japan	XIth IAGA workshop		p256-260		2(2)ア					国土地理院
Tetsuro Imakiire, Y. Hatanaka, Y. Kumaki and A. Yamagiwa	2004	GPS EARTH OBSERVATION NETWORK(GEONET)OF JAPAN	The Asian GIS Monthiy	8	24-26		2(2)ア	4(1)				国土地理院
X.ji, H.Shirai, A. Suzuki, J.He, M.Utsugi	2005	Three components(X,Y,Z) Regional Model of geomagnetic Field Changes in Japan with the continuous observation Data	XIth IAGA workshop		p290-295		2(2)ア					国土地理院
国土地理院	2002	磁気図2000.0年値の作成	国土地理院時報	99	1, 8		2(2)ア					国土地理院
国土地理院	2002	地球磁気観測報告	国土地理院技術資料	B4-21			2(2)ア					国土地理院
国土地理院	2005	地球磁気観測報告	国土地理院技術資料	B4-No.25			2(2)ア					国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
紀小麗・白井宏樹・鈴木啓・何金蘭・宇津木充	2005	球面調和解析による日本標準磁場モデル	第118回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会		A31-P001		2(2)ア					国土地理院
Hosono Koji, Yoshida Akio	2002	Do large aftershocks decrease similarly to smaller ones	Geophysical Research Letters	29	120-1-4	○	2(2)ア					気象庁
Masaki Nakamura	2002	Determination of focal mechanism solution using initial motion polarity of P and S waves	Physics of the Earth and Planetary Interiors	130	17-29	○	2(2)ア					気象庁
Nakamura, M.	2004	Automatic determination of focal mechanism solutions using initial motion polarities of P and S waves	Physics of the Earth and Planetary Interiors	146	531-549	○	2(2)ア					気象庁
Nakamura, M., Y. Yoshida, et.al	2003	Three dimensional P- and S-wave velocity structures beneath the Ryukyu arc	Tectonophysics	369	121-143	○	2(2)ア					気象庁
勝間田明男	2004	気象庁変位マグニチュードの改訂	験震時報	67	1-10		2(2)ア	2(2)イ		*	津波地震早期検知網の整備に合った変位マグニチュード式を確定した。	気象庁
気象庁	2002～ 2004		潮汐観測				2(2)ア				(平成13年～平成16年の潮位の観測値(年毎))	気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
気象庁地磁気観測所	2003～ 2005		地磁気観測所報告				2(2) ア				(平成13年から平成16年の柿岡、女満別、鹿屋、父島の地球磁気・地球電気データ(年毎に発行))	気象庁
地震予知情報課 データ処理係	2004	気象庁マグニチュードの改訂に関する比較調査	験震時報	67	21-35		2(2) ア	2(2) イ				気象庁
地震予知情報課発震機構係・EPOSオブ ライン担当	2004	EPOS3におけるモーメントマグニチュード(Mw)の算出	験震時報	68	77-80		2(2) ア					気象庁
高山博之、吉田明夫	2002	2000年三宅島・神津島・新島付近の群発地震活動におけるb値の空間分布と時間変化	地震第2輯	55	295-300	○	2(2) ア					気象庁
中村浩二・青木重樹・吉田康弘	2003	気象庁広帯域地震観測網によるCMT解析	験震時報	66	1-15		2(2) ア					気象庁
中村雅樹	2002	P波初動を用いた発震機構の自動決定	気象研究所研究 報告	52	81-94		2(2) ア					気象庁
中村雅樹、吉田康宏、他	2002	中部日本の3次元速度構造	気象研究所研究 報告	53	1-28		2(2) ア					気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い議論の項目	2番目に関連の深い議論の項目	3番目に関連の深い議論の項目	主要成果の場合、*印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
舟崎 淳	2004	気象庁速度マグニチュードの改訂について	験震時報	67	11-20		2(2)ア	2(2)イ				気象庁
吉田明夫、細野耕司	2002	火山フロントと稍深発地震活動(第2報) -関東および北海道-	火山	47	727-738	○	2(2)ア					気象庁
高山博之・吉田明夫	2005	クラスター活動の中で続いてさらに大きな地震が発生する現象を用いたM5以上の地震の発生予測	地震第2輯	57	409-418	○	2(2)ア					気象庁
菅沼一成	2003	地磁気観測所報告CD-ROM版について	地磁気観測所テクニカルレポート	1	11-23		2(2)ア			*	気象庁地磁気観測所の観測成果である地磁気観測所報告(年報)は、2001年版からCD-ROMによる刊行になった。CD-ROM版は、印刷版に掲載してきたデータに加えて、1分値データ、観測状況に関する詳細情報、収録データの可視化するソフトウェアも収録している。また、新しく採用したデータフォーマットは、国際的な標準フォーマットに準拠している。これらの改良を通じて、大幅に地球電磁気データの利便性が向上した。	気象庁
小野寺健英 他	2003	重力・地磁気異常から推定される福徳岡ノ場付近の地殻構造	海洋情報部研究報告	39	23-33	○	2(2)ア			*	火山活動の予測の基礎となるデータの整備等を目的とする「海域火山基礎情報図」作成等のため、福徳岡ノ場周辺の重力、地磁気に関する調査及び解析結果について報告。ブーゲー重力異常は福徳岡ノ場周辺が低重力異常域であり、重力基盤深度分布は、福徳岡ノ場の北約2kmを中心とする半径約5kmの範囲がすり鉢状の形態を示す。また、磁化強度分布によれば、基盤の低磁化強度域が福徳岡ノ場からその北西域にかけて存在している。	海上保安庁
海上保安庁海洋情報部	2005	紀伊半島南東沖地震による津波の観測記録	地震予知連絡会会報	73	541-542		2(2)ア	2(2)エ				海上保安庁
海上保安庁海洋情報部	2005	房総半島南東沖地震による津波観測	地震予知連絡会会報	74	169-170		2(2)ア	2(2)エ				海上保安庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 建議の項目	2番目に 関連の深い 建議の項目	3番目に 関連の深い 建議の項目	主要成果の場合、* 印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
海上保安庁海洋情報部	2005	スマトラ島沖地震及びスマトラ島付近地震による津波観測	地震予知連絡会会報	74	589-590		2(2) ア	2(2) エ		*	平成16年12月26日、インドネシアのスマトラ島沖で発生した地震による津波が約12時間後、8、900km離れた南極の昭和基地において観測された。	海上保安庁
海上保安庁海洋情報部	2006	宮城県沖の地震による潮位変化	地震予知連絡会会報	75	156		2(2) ア	2(2) エ				海上保安庁
河合晃司 他	2002	三宅島及び神津島におけるGPSを利用した地殻変動監視観測	海洋情報部技報	20	11-13		2(2) ア					海上保安庁
佐藤まりこ 他	2002	2000年伊豆諸島の群発地震による地殻変動を説明するソースモデル	海洋情報部研究報告	38	71-83	○	2(2) ア			*	2000年6月末以降の三宅島の火山活動とそれに伴う伊豆諸島の群発地震による地殻変動を説明するソースモデル推定のため、GPS観測データのインバージョン解析を行った。開口割れ目に加えて地震に伴う横ずれ断層を加えることで観測結果を良く説明できた。推定の結果、三宅島-神津島間ではダイクの貫入により、北東-南西方向に7~8mの開口があったと考えられる。	海上保安庁
淵之上紘和 他	2005	海上保安庁のGPS連続観測～データ収録・解析システムの更新とその評価～	海洋情報部技報	23	61-65		2(2) ア					海上保安庁
Cervelli, P., M. H. Murray, P. Segall, Y. Aoki, and T. Kato	2001	Estimating source parameters from deformation data, with an application to the March 1997 earthquake swarm off the Izu Peninsula, Japan	J. Geophys. Res.	106	11217-11237	○	2(2) イ					東京大学地震研究所
Ei-Fiky, G. S., and T. Kato	2000	Study of periodic vertical crustal movement in the Omaezaki peninsula, Central Japan, and its tectonics	Earth, Planets and Space	52	25-35	○	2(2) イ			*	東海地方のおよそ十年間の水準測量データを用いてインバージョン解析を行い、固着域がほぼ御前崎直下の地域であることを明らかにした。	東京大学地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
加藤照之・宮崎真一・畑中雄樹	2003	東海地震をめぐる最近の研究について―地殻変動の立場から―	月刊地球	号外 No. 41	14-19		2(2) イ					東京大学 地震研究 所
Tsunomori, F., Kawai, K. and Igarashi, G.	2003	Tidal variation of gas composition in groundwater	Geochim. Cosmochim. Acta	67	A495		2(2) イ					東京大学 理学系
Ozawa, S., M. Murakami, M. Kaidzu, T. Tada, T. Sagiya, H. Yurai, and T. Nishimura	2002	Detection and monitoring of ongoing aseismic slip in the Tokai region, central Japan	Science	298	1009-1012	○	2(2) イ	1(2) ア				名古屋大 学
小沢慎三郎・村上亮・海津優・多田堯・鷺谷威・畑中雄樹・矢来博司・西村卓也	2003	東海地方における非地震性滑りの検出とその現状	月刊地球	25	70-74		2(2) イ					名古屋大 学
中尾茂・平田安廣・渡辺茂	2005	ボードマイコンを用いた光波観測テレメタ装置	測地学会誌	51	159-164	○	2(2) イ					鹿児島大 学
E. Yamamoto, S. Matsumura & T. Ohkubo	2005	A slow slip event in the Tokai area detected by tilt and seismic observation and its possible recurrences	Earthq Planets Space	57	917-923	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研
M. Wyss & S. Matsumura	2002	Most likely locations of large earthquakes in the Kanto and Tokai area, Japan, based on the local recurrence times	Phys. Earth Planet. Inter.	131	173-184	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も 関連 深い 建議 の項目	2番目 に 関連 深い 建議 の項目	3番目 に 関連 深い 建議 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
M. Wyss & S. Matsumura	2006	Verification of our previous definition of preferred earthquakes nucleation areas in Kanto-Tokai	Tectonophysics	417	81-84	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研
S. Matsumura	2006	Seismic activity changes progressing simultaneously with slow-slip in the Tokai area	Tectonophysics	417	5- 15	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア	*	2000年以降、東海地震想定震源域の縁辺部では、数年にわたってプレート境界のスロースリップが進行している。期を同一にして想定震源域内では、地震活動の変化が検出された。本論文は、両者に力学的な因果関係があることを推定し、その推定に基づいて想定震源域内の本質的な固着域(アスペリティ)がどこにあるかを考察したものである。	防災科研
S. Shimada and T. Kazakami	2005	Time evolution of the eastern part of the ongoing Tokai slow event	防災科学技術研究所研究報告	68	1-7		2(2) イ	3(4)				防災科研
S. Tanaka, H. Sato, S. Matsumura & M. Ohtake	2006	Tidal triggering of earthquakes in the subducting Philippine Sea plate beneath the locked zone of the plate interface in the Tokai region, Japan	Tectonophysics	417	69-80	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア		大地震発生の間にバックグラウンドとして発生する地震活動は、普段、特に脈絡なく起きているが、大地震の直前、応力蓄積が臨界に近づいた場合、潮汐依存性が現れることをつきとめた。月の引力は、起震応力のパーセント程度でしかないが、臨界状況では、地震発生のトリガーになりうるものと推察される。	防災科研
S. Toda & S. Matsumura	2006	Spatio-temporal stress states estimated from seismicity rate changes in the Tokai region, central Japan	Tectonophysics	417	53-68	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研
S. Wiemer, A. Yoshida, K. Hosono, S. Noguchi & H. Takayama	2005	Correlation seismicity parameters and subsidence in the Tokai region, central Japan	J. Geophys. Res.	110	B10303.doi10.1029/2003JB002732	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研
松村正三	2002	東海の推定固着域における1990年代後半の地震活動変化	地震2	54	449-463	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
松村正三	2002	東海の推定固着域における1990年代後半の地震活動変化(その2:発震機構解の変化)	地震2	55	435-439	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研
松村正三	2005	浜名湖直下の地震活動とその変化(東海地域の地震活動変化:その3)	地震2	58	55-65	○	2(2) イ	2(3) ア	1(2) ア			防災科研
Matsumoto,N. and E.Roeloffs	2003	Hydrologic Response to Earthquakes in the Haibara well, Central Japan: II. Possible Mechanism Inferred from Time-varying Hydraulic Properties	Geophys.J.Int.	155	899-914	○	2(2) イ	3(2)		*	地震に関して敏感に地下水位を変化させる産総研榎原観測井戸の水位変化メカニズムについて考察した。	産業技術 総合研究 所
Matsumoto,N,E.Roeloffs and G.Kitagawa	2003	Hydrologic response to earthquakes in the Haibara well, central Japan: I. Groundwater-level changes revealed using state space decomposition of atmospheric pressure, rainfall and tidal responses	Geophys.J.Int.	155	885-898	○	2(2) イ					産業技術 総合研究 所
小泉 尚嗣, 高橋 誠, 松本 則夫, 佐藤 努, 大谷 竜, 北川 有一	2005	水文学的手法による地震予知研究-地下水変化から地震前の地殻変動を検出する試み-	地震 第2輯	58	247-258	○	2(2) イ	2(2) ウ		*	地震前の地下水変化を地殻変動(歪変化や比高変化)を反映するという観点から、地下水変化による地震予知手法について説明し、東海・東南海・南海地震や伊東沖群発地震に対する適用例を示すと同時に課題も示した。	産業技術 総合研究 所
松本 則夫,北川 有一	2005	想定東海地震震源域付近の観測井の地下水位の歪感度とノイズレベル	測地学会誌	51	131-145	○	2(2) イ					産業技術 総合研究 所
Shinzaburo Ozawa, M. Murakami, M. Kaizu(JACIC) and Y. Hatanaka	2005	Transient crustal deformation in Tokai region, central Japan, until May 2004	Earth, Planets and Space	57	909-915	○	2(2)イ	1(2)ア	1(2)ア		2001年頃から明瞭になりだした、東海地方の遷移的な地殻変動は、東海地方西部のプレート境界面で浜名湖付近を中心として、ゆっくり地震が発生したためと考えられている。この仮説の下でプレート境界面での滑りの時空間変化を調べると、2001年頃から始まり、2002年には滑り速度が小さくなったが、2003年には2001年頃のスピードに戻り、2004年5月まで続いているという結果が得られている。	国土地理 院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 建議の項目	2番目に 関連の深い 建議の項目	3番目に 関連の深い 建議の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Shinzaburo Ozawa, M. Murakami, M. Kaizu, T. Tada, Y. Hatanaka, T. Sagiya, H. Yarai and T. Nishimura	2002	Detection and monitoring of an ongoing silent thrust event in the Tokai region, Central Japan	Science	298	1009-1012	○	2(2)イ	1(2)ア		*	国土地理院のGPS観測網により、地震空白域である東海地方で遷移的な地殻変動が発生していることがわかった。観測された地殻変動はプレート境界でのゆっくり地震を示唆している。地殻変動データからプレート境界のゆっくり地震の時空間的な変化を推定すると、東海地方浜名湖付近、地震空白域の西端の境界近くにおいて、地下の陸側プレートが海側プレートに対して滑っており、時間と共に北西に滑り域が広がっている事が示された。	国土地理院
今給黎哲郎	2003	御前崎地域水準測量にみられる年周変化の区間別特性について	月刊地球	41	56-62		2(2)イ					国土地理院
小沢慎三郎、鷲谷 威(名古屋大学) 村上 亮、海津 優、 畑中雄樹、今給黎哲郎	2003	東海地方における非地震性滑りの最近の状況と房総沖における太平洋プレートとフィリピン海プレート間のカップリング変化の可能性	月刊地球	41	118-125		2(2)イ	1(2)ア	2(2)ア			国土地理院
Iidaka, T., T. Iwasaki, T. Takeda, T. Moriya, I. Kumakawa, E. Kurashimo, T. Kawamura, F. Yamazaki, K. Koike, and G. Aoki	2003	Configuration of subducting Philippine Sea plate and crustal structure in the central Japan region	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2002GL016517	○	2(2)イ					気象庁
Kasahara, J., K. Tsuruga, Y. Hasada, K. Yamaoka, N. Fujii, Y. Yoshida, T. Kunitomo and M. Kumazawa	2004	A proposal of imaging of the plate boundary using the active monitoring method	Proceedings of 1st international workshop on active monitoring in the solid earth geophysics		44-48		2(2)イ	3(3)				気象庁
Katsumata, A., N. Kamaya	2003	Low-frequency continuous tremor around the Moho discontinuity away from volcanoes in the southwest Japan	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2002GL015981	○	2(2)イ	1(2)ウ	2(2)ウ	*	東海地域から西日本のフィリピン海プレートの沈み込み帯で起きている非火山性の低周波地震・微動について調査から、発生場所がマントル・ウェッジより海溝よりであることを明らかにすると共に、低周波地震・微動の原因として考えられている水の存在が岩石の脱水反応に起因する可能性を示した。	気象庁
Kobayashi, A., A. Yoshida, T. Yamamoto, and H. Takayama	2005	Slow slip in the focal region of the anticipated Tokai earthquake following the seismo-volcanic event in the northern Izu Islands in 2000	Earth Planets Space	57	507-513	○	2(2)イ					気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の 有無	最も 関連の 深い 議論の 項目	2番 目 に 関 連 の 深 い 論 議 の 項 目	3番 目 に 関 連 の 深 い 論 議 の 項 目	主要 成 果 の 場 合 、 * 印 を 記 入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kuroki, H., H.M. Ito, and A. Yoshida	2003	Strain and stress changes in the Tokai region of central Japan expected from a 3D subduction model	Phys. Earth Planet. Inter.	135	231-252	○	2(2) イ	2(1) イ				気象庁
Kuroki, H., H.M. Ito, and A. Yoshida	2002	A 3-D simulation of crustal deformation accompanied by subduction in the Tokai region, central Japan	Phys. Earth Planets. Inter.	132	39-58	○	2(2) イ	2(1) イ		*	岩石の摩擦法則(すべり速度/状態依存摩擦法則)をフィリピン海プレートの境界面上に適用した三次元数値モデルによって地震発生のシミュレーションを行い、地震直前の歪変化量の二次元モデルとの差を明らかにするとともにスロースリップの発生条件を見いだした。	気象庁
Takayama, H. and A. Yoshida	2002	Temporal change of the vertical crustal movement on the western coast of Suruga Bay, central Japan	Physics of the Earth and Planetary Interiors	132	21-38	○	2(2) イ					気象庁
Wiemer, S., A. Yoshida, K. Hosono, S. Noguchi, and H. Takayama	2005	Correlating seismicity parameters and subsidence in the Tokai region, central Japan	J. Geophys. Res.	110	B10303	○	2(2) イ					気象庁
Yamamoto, J., H. Kagi, Y. Kawakami, N. Hirano, M. Nakamura	in press	Paleo-Moho depth determined from the pressure of CO2 fluid inclusions: Raman spectroscopic barometry of mantle- and crust-derived rocks.	Earth Planet. Sci. Lett.			○	2(2) イ					気象庁
Yoshida, Y., H. Ueno, Y. Ishikawa, T. Kunitomo and M. Kumazawa	2004	The observation and analysis of ACROSS signals by seismic networks - Determination of the transfer function -	Proceedings of 1st international workshop on active monitoring in the solid earth geophysics		258-261		2(2) イ	3(3)				気象庁
笠原順三・鶴我佳代子・羽佐田葉子・山岡耕春・藤井直之・吉田康宏・國友孝洋・熊澤峰夫	2004	アクティブ・モニタリングによるプレート沈み込みのプレート境界イメージングの提案	月刊地球号外 No.47		141-147		2(2) イ	3(3)				気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
吉川澄夫	2004	GPSデータで見られる東海スロースリップに伴う歪の時間変化	地震研究所彙報	78	255-267		2(2) イ					気象庁
吉田明夫・小林昭夫・塚越利光	2006	富士山直下の低周波地震活動は2000年秋になぜ活発化したか？	地震第2輯	58	401-406	○	2(2) イ	1(2) ア				気象庁
小林昭夫	2005	GPS東海地域3時間解析値の面的監視	験震時報	68	99-104		2(2) イ					気象庁
小林昭夫	in press	GPS東海地域6時間解析値の面的監視	験震時報	70			2(2) イ					気象庁
小林昭夫・吉田明夫	2004	舞阪の潮位変化から推定される東海スロースリップの繰り返し発生	測地学会誌	50	209-212	○	2(2) イ					気象庁
小林昭夫・吉田明夫・真砂礼宏	2003	潮位記録から推定される1946年南海地震時およびその後の地殻変動	測地学会誌	48	259-270	○	2(2) イ	2(2) ウ		*	潮位データを用いて1946年南海地震前後の地殻上下変動を調べ、地震直前の前兆すべりを示す可能性のある潮位変化と共に、地震後の地域ごとに時定数の異なる余効変動を見出した	気象庁
小林昭夫・山本剛靖・高山寛美・吉田明夫	2003	2000年伊豆諸島北部の地震・火山活動時およびその後の中部・関東地域の地殻変動	測地学会誌	49	121-133	○	2(2) イ					気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
小林昭夫・山本剛靖・中村浩二・木村一洋	2006	歪計により観測された東海地域の短期的スロースリップ (1984～2005年)	地震第2輯	59	19-27	○	2(2) イ					気象庁
小林昭夫・山本剛靖・畑中雄樹・丸山一司・竹中潤・緒方誠	2002	GPS東海地域3時間解析値のグループ化と補正	気象研究所研究報告	53	75-84		2(2) イ					気象庁
青木元・吉田康宏・原田智史・山崎明・石川有三・中村雅基・田中昌之・松田慎一郎・中村浩二・緒方誠・白坂光行	2003	自己浮上式海底地震計観測による駿河・南海トラフ沿いの地震活動 - 気象庁一元化震源との比較 -	地震、第2輯	55	429-434	○	2(2) イ					気象庁
中村雅基・吉田康宏・趙大鵬・吉川一光・高山博之・青木元・黒木英州・山崎貴之・笠原順三・金沢敏彦・佐藤利典・塩原肇・島村英紀・仲西理子	2002	中部日本の3次元速度構造	気象研究所研究報告	53	1-18		2(2) イ					気象庁
Davis,E.E., K. Becker and K. Wang, K. Obara, Y. Ito, M. Kinoshita	2005	A discrete episode of seismic and aseismic deformation of the Nankai trough subduction zone accretionary prism and incoming Philippine Sea plate	Earth and Planetary Science Letters	242	73-84	○	2(2) ウ	2(2) ア	2(3) ア			防災科研
Ito,Y., and K.Obara	2006	Dynamic deformation of the accretionary prism excites very-low-frequency earthquakes	Geophysical Research Letters	33	doi:10.1029/2005GL025270	○	2(2) ウ	2(2) ア	2(3) ア			防災科研
Ito,Y., and K.Obara	2006	Very low frequency earthquakes within accretionary prisms are very low stress-drop earthquakes	Geophysical Research Letters	33	doi:10.1029/2006GL025883	○	2(2) ウ	2(2) ア	2(3) ア			防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 議論の項目	2番目に 関連の深い 議論の項目	3番目に 関連の深い 議論の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Obara, K., and Ito, Y.	2005	Very low frequency earthquakes excited by the 2004 off the Kii peninsula earthquakes:A dynamic deformation process in the large accretionary prism	Earth Planets and Space	57	321-326	○	2(2)ウ	2(2)ア	2(3)ア	*	南海トラフに沿って、約10秒に卓越する地震波動を励起する超低周波地震が発生していることが明らかになった。これらの地震は実体波成分をほとんど伴わないことから、通常のイベントリガーでは検知されない。発生場所はトラフ陸側の付加体内部で逆断層のメカニズムを示し、クラスター的に活動する。特に、2004年9月の紀伊半島南東沖の地震の直後から、同地域において超低周波地震が活発化した。	防災科研
Kasaya, T., T. Goto, H. Mikada, K. Baba, K. Suyehiro, and H. Utada	2005	Resistivity image of the Philippine Sea Plate around the 1944 Tonankai earthquake deduced by Marine and Land MT surveys	Earth Planets and Space	57	209-213	○	2(2)ウ					海洋機構
Tetsuro Imakiire, S. Ozawa, H. Yurai, T. Nishimura and H. Suito	2005	Crustal deformation by the Southeast-off Kii Peninsula Earthquake	国土地理院報告	53	51-56		2(2)ウ	2(2)イ				国土地理院
小林昭夫・吉田明夫	2004	潮位記録から見た1946年南海地震後の広域地殻変動	測地学会誌	50	39-42	○	2(2)ウ					気象庁
Hino, R., Y. Yamamoto, A. Kuwano, M. Nishino, T. Kanazawa, T. Yamada, K. Nakahigashi, K. Mochizuki, M. Shinohara, K. Minato, G. Aoki, N. Okawara, M. Tanaka, M. Abe, E. Araki, S. Kodaira, G. Fujie, and Y. Kaneda	in press	Hypocenter distribution of the main- and aftershocks of the 2005 Off Miyagi Prefecture Earthquake located by ocean bottom seismographic data	Earth, Planet. Space			○	2(2)エ	1(2)ア		*	2005年8月16日に宮城県沖で発生した地震(M7.2)およびその余震を海底地震計により観測し、その詳細な震源分布を明らかにした。本震時のすべり量分布との比較から、本震の破壊域はプレート境界面に対応する非常に薄い余震分布で特徴づけられる一方、その上端は構造探査によりプレート境界面の傾斜が変化する位置と良い一致を示す。さらに、破壊域上端に沿って活発な上盤プレート内の地震活動の存在が示唆される。	東北大学
Ito A., G. Fujie, S. Miura, S. Kodaira, R. Hino and Y. Kaneda	2005	Bending of the subducting oceanic plate and its implication for rupture propagation of large interplate earthquakes off Miyagi, Japan, in the Japan trench subduction zone	Geophys. Res. Lett.	32	doi:10.1029/2004GL022307	○	2(2)エ	1(2)ア				東北大学
Yamamoto, Y., R. Hino, M. Nishino, T. Yamada, T. Kanazawa, T. Hashimoto, and G. Aoki	2006	Three-dimensional seismic velocity structure around the focal area of the 1978 Miyagi-Oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2005GL025619	○	2(2)エ	1(2)ア		*	宮城県沖において繰り返し行われた海底地震観測網のデータを陸上観測点データと併合処理し、1978年宮城県沖地震の破壊域周辺の3次元地震波速度構造を推定した。その結果、沈み込む海洋性地殻とその上に位置するマントルウェッジのイメージングに成功し、ほとんどの地震がプレート境界で発生していることが明らかになった。また、1978年の宮城県沖地震の破壊域の広がり、マントルウェッジの高速領域と対応していることがわかった。	東北大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 議論の項目	2番目 に関連の深い 議論の項目	3番目 に関連の深い 議論の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
三浦哲, 油井智史, 長谷川昭, 佐藤俊也, 立花憲司	2005	宮城県沖およびその周辺における最近の地震活動と地殻変動	月刊地球	27	126-131		2(2) エ	1(2) ア		*	1978年の宮城県沖地震のアスベリティ周辺では、2002年10月以降M5以上の中規模地震が発生している。この中で最大の2002年11月の地震(M6.3)発生後には約2ヶ月間にわたって余効すべりが発生しており、福島県沖でも2001年から2002年末にかけてスローイベントが観測されことから、同アスベリティ周辺ではプレート間の固着が弱まっている可能性が考えられる。	東北大学
Umeda, Y., N.Oshiman, M.Hashimoto, K.Ito, J. Mori, K.Watanabe, S. Ohmi, and T. Shibutani	2004	A comprehensive and effective earthquake information system: contributions to earthquake hazard mitigation for a local government	京都大学防災研究所年報	47C	71-75		2(2) エ					京大防災研
Takahashi et al.	2004	K-Ar ages of the Shogunzawa and Okuda Tuff beds in the Miocene marine sequence in the Iwadono Hills, central Japan.	石油技術協会誌	69	284-290	○	2(2) エ					防災科研
笠原敬司他	2003	2.大規模ボーリング調査	大都市大震災軽減化特別プロジェクト I 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」(平成14年度)成果報告書		165-244		2(2) エ			*	大都市大震災軽減化特別プロジェクト I 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」の「大規模ボーリング調査」において、主に平成14年度に実施された千葉県鴨川掘削点における孔内検層、コア解析等により、周辺の地震波速度構造、地質構造が明らかになった。	防災科研
笠原敬司他	2004	3.2.大規模ボーリング調査	大都市大震災軽減化特別プロジェクト I 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」(平成15年度)成果報告書		240-368		2(2) エ				大都市大震災軽減化特別プロジェクト I 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」の「大規模ボーリング調査」において、主に平成15年度に実施された神奈川県山北掘削点における孔内検層、コア解析等により、周辺の地震波速度構造、地質構造が明らかになった。	防災科研
高木秀雄・高橋雅紀	2006	松伏SK-1坑井基盤岩試料からみた関東平野の中央構造線	地質学雑誌	112	65-71	○	2(2) エ					防災科研
高木秀雄他	2006	関東平野岩槻観測井の基盤岩類の帰属と中央構造線の位置	地質学雑誌	112	53-64	○	2(2) エ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
高橋雅紀・柳沢幸夫	2004	埼玉県比企丘陵に分布する中新統の層序-複合年代層序に基づく岩相層序の総括-	地質学雑誌	110	290-308	○	2(2) エ					防災科研
高橋雅紀	2006	日本海拡大時の東北日本弧と西南日本弧の境界	地質学雑誌	112	14-32	○	2(2) エ					防災科研
高橋雅紀他	2006	関東平野西縁の地震波探査記録の地質学的解釈-とくに吉見変成岩の露出と利根川構造線の西方延長-	地質学雑誌	112	33-52	○	2(2) エ					防災科研
林広樹・高橋雅紀	2004	栃木県烏山地域に分布する中新統荒川層群上部の浮遊性有孔虫層序	地質学雑誌	110	85-92	○	2(2) エ					防災科研
林広樹他	2006(in press)	神奈川県西部、山北南高感度地震観測井の掘削および孔内検層	防災科学技術研究所研究資料	298			2(2) エ					防災科研
林広樹他	2004	千葉県南部鴨川中深層観測井の坑井地質と地質年代	防災科学技術研究所研究報告	65	99-120		2(2) エ					防災科研
林広樹他	2004	浮遊性有孔虫および貝類化石に基づく宇都宮丘陵地域に分布する海成中新統の年代対比	石油技術協会誌	69	361-373	○	2(2) エ					防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
林広樹他	2004	関東平野の地下における新第三系の層序と対比	石油技術協会誌	69	402-416	○	2(2) エ					防災科研
林広樹他	2004	関東平野の地下における新第三系の分布	石油技術協会誌	69	574-586	○	2(2) エ					防災科研
林広樹他	2006	関東平野の地下に分布する新第三系基盤岩類	地質学雑誌	112	2 13	○	2(2) エ					防災科研
高橋雅紀・林広樹	2004	群馬県富岡地域に分布する中新統の地質と複合年代層序	地質学雑誌	110	175-194	○	2(2) エ					防災科研
Hirata, K., Y. Tanioka, K. Satake, S. Yamaki, and E.L. Geist	2004	The tsunami source area of the 2003 Tokachi-oki earthquake estimated from tsunami travel times and its relationship to the 1952 Tokachi-oki earthquake	Earth Planets Space	56	367-372	○	2(2) エ	3(1)				海洋機構
Mikada, H., K. Mitsuizawa, H. Sugioka, T. Baba, K. Hirata, H. Matsumoto, S. Morita, R. Otsuka, T. Watanabe, E. Araki, and K. Suyehiro	in press	, New discoveries in dynamics of an M8 earthquake – Phenomena and their implications at the 2003 Tokachi Earthquake using a long term monitoring cabled observatory-	Tectonophysics			○	2(2)エ			*	2003年十勝沖地震に伴う海底地殻変動を1999年に設置された釧路・十勝沖海底地震総合観測システムの津波計、先端観測装置のデータを用いて解析した。本解析から得られた海底地殻変動量はGPS観測と調和的な結果が得られた。本震から2時間後に泥流が発生し、層厚100m速度10cm/sのbenthic stormとして先端観測装置のCTD, ADCPに記録された。海底地殻変動観測では前兆現象は認められなかった。	海洋機構
Watanabe, T., H. Matsumoto, H. Sugioka, H. Mikada, K. Suyehiro, R. Otsuka,	2004	Offshore monitoring system records recent earthquake off Japan's northernmost island	EOS Trans	85	14	○	2(2)エ			*	1999年に釧路・十勝沖に設置された海底地震総合観測システムは3台の三成分海底地震計と2台の津波計を有し、気象庁や国内の機関へリアルタイムで配信されている。2003年十勝沖地震は沈み込み帯に発生した巨大地震であったが、最も震央に近い、わずか28.6km離れた海底地震観測点で、本震波形を飽和することなく得ることに初めて成功した。津波計で求めた地殻変動量はそれぞれ0.4m, 0.1mの隆起であった。	海洋機構

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 建議 の項目	2番目 に関 連の 深い 建議 の項目	3番目 に関 連の 深い 建議 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Watanabe, T., H. Takahashi, M. Ichianagi, M. Okayama, M. Takada, R. Otsuka, K. Hirata, S. Morita, M. M. Kasahara, and H. Mikada,	in press	Seismological monitoring on the 2003 Tokachi-oki earthquake, derived from Off-Kushiro permanent cabled OBSs and land-based observations	Tectonophys			○	2(2)エ			*	1999年7月に北海道釧路・十勝沖に設置した海底地震総合観測システム2号機内の地震計について、大学微小地震観測網と併合処理を行い、検知性能の評価を行った。その結果、ケーブルシステム周辺の地震をM ^{1.5} 程度まで検知できることが確認され、検知能力の向上が認められた。また、2003年十勝沖地震前後の地震活動を精査し、本震発生の10日前から本震域でM>3の地震活動が静穏であったことが分かった。	海洋機構
Akita, F. and N.Matsumoto	2004	Hydrological responses induced by the Tokachi-oki Earthquake in 2003 at hot spring wells in Hokkaido, Japan	Geophys.Res.Lett.	31	10.1029/2004GL020433	○	2(2)エ					産業技術総合研究所
Kitagawa,Y., N. Koizumi, M. Takahashi, N. Matsumoto, and T. Sato	2006	Detection of aseismic slip on an inland fault by crustal movement and groundwater observations: A case study on the Yamasaki fault, Japan	Pure and Applied Geophys.	163	10.1007/s00024-006-0048-8	○	2(2)エ	1(2)イ		*	山崎断層直上の産総研観測点において検出された地殻歪変化を、地下水・GPS・伸縮計・ボアホール歪計データを比較検討し、山崎断層で間欠的な非地震性すべりが生じている可能性を示した。	産業技術総合研究所
Kitagawa,Y., N. Koizumi, R.Ohtani,K.Watanabe and S.Itaba	2006	Changes in groundwater levels or pressures associated with 2004 off the west coast of northern Sumatra Earthquake (M9.0)	Earth, Planet. Space	58	173-179	○	2(2)エ	2(2)イ		*	2004年スマトラ島西方沖地震の地震動(主に表面波)に伴う日本での地下水位・水圧等変化について、地殻変動観測データや広帯域地震計データと比較し、地下水位・水圧の地殻歪への応答特性を推定した。	産業技術総合研究所
Koizumi,N., Y.Kitagawa, N.Matsumoto,M.Takahashi, T.Sato, O.Kamigaichi and K.Nakamura	2004	Pre-seismic groundwater level changes induced by crustal deformations related to earthquake swarms off the east coast of Izu Peninsula, Japan	Geophys.Res.Lett.	31	10.1029/2004GL019557	○	2(2)エ			*	伊豆半島東方沖群発地震活動前に、産総研の伊東市での観測井戸で地震前に地下水位が変化すること、それが、群発地震を引き起こすマグマの貫入による地殻変動(体積歪変化)によって定量的に説明できることを示した。	産業技術総合研究所
Koizumi,N,Wen-Chi Lai,Y.Kitagawa and N.Matsumoto	2004	Comments on " Coseismic hydrological changes associated with dislocation of the September 21, 1999 Chichi earthquake, Taiwan" by Min Lee, Tsung-Kwei Liu, Kuo-Fong Ma and Yen-Ming Chang	Geophys.Res.Lett.	31	10.1029/2004GL019897	○	2(2)エ					産業技術総合研究所
Sato,T., N.Matsumoto,Y.Kitagawa,N.Koizumi,M.Takahashi,Y.Kuwahara,H.Ito,A.Cho,T.Satoh,K.Ozawa and S.Tasaka	2004	Changes in groundwater level and flow rate associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake	Earth, Planet. Space	56	395-400	○	2(2)エ					産業技術総合研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 建議 の項目	2番目 に関 連の 深い 建議 の項目	3番目 に関 連の 深い 建議 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Wen-Chi Lai,N.Koizumi,N.Matsumoto,Y.Kitagawa,C hing-Wee Lin,Chjeng-Lun Shieh and Youe-Ping Lee	2004	The effect of the seismic ground motion and geological setting on the coseismic groundwater level changes caused by the 1999 Chi-Chi Earthquake, Taiwan	Earth, Planet. Space	56	873-880	○	2(2) エ					産業技術 総合研究 所
高橋 誠, 小泉 尚嗣, 佐藤 努, 松本 則 夫, 伊藤 久男, 桑原 保人, 長 秋雄, 佐 藤 隆司	2002	2000年鳥取県西部地震前後の近畿地域およびその周 辺地域における地下水位・地殻歪変化	地震 第2輯	55	75-82	○	2(2) エ					産業技術 総合研究 所
小泉 尚嗣, 高橋 誠, 佐藤 努, 松本 則 夫, 伊藤 久男, 桑原 保人, 長 秋雄, 佐 藤 隆司	2002	2001年芸予地震前後の近畿地方およびその周辺におけ る地下水・地殻歪変化	地震 第2輯	55	119-127	○	2(2) エ					産業技術 総合研究 所
北川 有一, 小泉 尚嗣, 高橋 誠, 松本 則 夫, 佐藤 努, 桑原 保人, 伊藤 久男, 長 秋雄, 佐 藤 隆司, 佃 栄吉	2004	近畿地方およびその周辺における産業技術総合研究所 地下水観測点での地下水位の大気圧応答	地質調査研究報 告	55	129-152	○	2(2) エ					産業技術 総合研究 所
Hiroshi Mune Kane, M. Tobita and K. Takashima	2004	Groundwater-induced vertical movements observed in Tsukuba, Japan	Geophysical Research Letters	31	10.1029/2004G L020158	○	2(2)エ	3(3)				国土地理 院
Hiroshi Yurai, T. Ozawa, T. Nishimura, M. Tobita and T. Imakiire	2004	Crustal deformation associated with the northern Miyagi earthquake detected by RADARSAT-1 and ENVISAT SAR interferometer	Earth, Planets and Space	56	103-107	○	2(2)エ					国土地理 院
Shinzaburo Ozawa, M. Kaizu, M. Murakami, T. Imakiire and Y. Hatanaka	2004	Coseismic and postseismic crustal deformation after the Mw8 Tokachi-oki earthquake in Japan	Earth, Planets and Space	56	675-680	○	2(2)エ	1(2)ア		*	国土地理院のGPS観測網により2003年十勝沖地震時・後の地殻変動が観測された。地震時に伴う地殻変動から、十勝沖合でのプレート型地震の断層モデルが推定された。地震後の地殻変動は、地震時のプレート間滑り領域の周りで主にプレート間滑りが発生している事が示された。特にプレート境界深部においても地震後のプレート間滑りの発生が推定されている。	国土地理 院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Shinzaburo Ozawa, S. Miyazaki (ERI), Y. Hatanaka, T. Imakiire, M. Kaizu and M. Murakami	2003	Characteristic silent earthquakes in the eastern part of the Boso peninsula, Central Japan (2002年に発生した房総半島ゆっくり地震の解析の論文)	Geophysical Research Letter	30	doi:10.1029/2003GL016665,	○	2(2)エ	1(2)ア		*	国土地理院のGPS観測網によって1996年、2002年によく似た遷移的な地殻変動が房総半島付近でとらえられた。遷移変動は南東方向の動きを示しており、陸側プレートがフィリピン海プレートに対して房総半島沖合でゆっくりと跳ね上がった事を示唆している。1996年、2002年のスリップ分布の時空間変化は、北から破壊が始まり、南に移動していった事が推定された。発生場所、破壊過程が類似している事から房総半島沖合で固有のゆっくり地震が繰り返し発生している可能性が言及された。	国土地理院
Shinzaburo Ozawa, Y. Hatanaka, M. Kaizu, M. Murakami, T. Imakiire and Y. Ishigaki (JMA)	2004	Aseismic slip and low frequency earthquakes in the Bungo channel, southwestern Japan.	Geophysical Research Letter	31	doi:10.1029/2003GL019381,	○	2(2)エ	1(2)ア		*	GPS観測網によって1997年、2003年の各期間において、豊後水道付近で長期的な遷移地殻変動が観測された。2つの遷移変動は非常によく似ており、どちらも地下で陸側プレートがフィリピン海プレートに対してゆっくりと跳ね上がった事を示唆する。2003年の時には低周波微動が長期的な遷移変動の加速にあわせて発生し、短期的なゆっくり地震と長期的なゆっくり地震の低周波微動に及ぼす影響の違いが示された。	国土地理院
Tadashi Sagiya, T. Nishimura, Y. Iio(ERI) and T. Tada	2002	Crustal deformation around the northern and central Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line (糸魚川-静岡構造線中北部における地殻変動)	Earth, Planets and Space	54	1059-1063	○	2(2)エ	1(2)イ				国土地理院
今給黎哲郎	2004	GEONET観測データから見た十勝沖地震の断層モデルと余効変動	SEISMO	86	10-11		2(2)エ	1(2)ア				国土地理院
鷺谷 威	2002	GPSで見た2000年鳥取県西部地震	月刊地球	号外38	194-202		2(2)エ	(2)イ				国土地理院
西村 卓也・小沢慎三郎・今給黎哲郎・矢来博司・村上亮・海津優	2004	GPS・水準測量・InSARデータに基づく2003年宮城県北部地震の断層モデル	月刊地球	27-2	110-115		2(2)エ	1(2)イ				国土地理院
Umino, N. et al.	in press	Revisiting the three M ⁷ Miyagi-oki earthquakes in the 1930s : Possible seismogenic slip on asperities that were re-ruptured during the 1978 M7.4 Miyagi-oki earthquake	Earth Planets Space	58		○	2(2)エ					気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
気象庁仙台管区气象台	2005	1. 宮城県沖の地震活動の履歴に関する調査 (1) 観測データに基づく過去の宮城県沖地震の震源再調査	糸魚川-静岡構造線断層帯及び宮城県沖地震に関するパイロット的な重点的観測(平成14~16年度)成果報告書		135-139		2(2) エ					気象庁
東京大学地震研究所 気象庁仙台管区气象台	2005	2. 地震観測による地殻活動モニタリング 2. 2. 1 海底地震観測	糸魚川-静岡構造線断層帯及び宮城県沖地震に関するパイロット的な重点的観測(平成14~16年度)成果報告書		181-190		2(2) エ					気象庁
Yamamoto, Y. et.al.	2006	Three-dimensional seismic velocity structure around the focal area of the 1978 Miyagi-Oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	33	L10308	○	2(2) エ					気象庁
Hino, R. et.al.	in press	Hypocenter distribution of the main- and aftershocks of the 2005 Off Miyagi Prefecture Earthquake located by ocean bottom seismographic data	Earth Planets Space	58		○	2(2) エ					気象庁

2(3)地殻活動情報総合データベースの開発(平田委員)

…査読無しの論文のうち本文と関連しない論文

…査読有りの論文のうちレビュー本文と関係しない論文、本項目で取り上げることが適切でない論文

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関連 の深い 査読の項目	2番目 に 関連の 深い 査読の項目	3番目 に 関連の 深い 査読の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Kamiyama, H., A. Yamamoto, T. Hasegawa, T. Kajiwara and T. Mogi	2005	Gravity and density variations of the tilted Tottabetzu plutonic complex, Hokkaido, Northern Japan: implications for subsurface intrusive structure and pluton development.	Earth Planets Space,	57	e21-e24	○	2(3)ア					北海道大学
秋教昇・朴昌業・都司嘉宣	2005	韓半島で発生した最大級の地震	歴史地震	20	169-182	○	2(3)ア					東京大学地震研究所
伊藤純一	2005	文化五年十月十七日(1808.12.4)四国・紀伊半島で記録された小津波	歴史地震	20	65-74	○	2(3)ア					東京大学地震研究所
伊藤純一・都司嘉宣・行谷佑一	2005	慶長九年十二月十六日(1605/2/3)の津波の房総における被害の検証	歴史地震	20	133-144	○	2(3)ア					東京大学地震研究所
都司嘉宣	2004	熊野海岸の過去の津波と防災対策について	月間海洋	409	488-503		2(3)ア					東京大学地震研究所
都司嘉宣	2004	安政東海地震(1854)の顕著余震、特に文久元年(1861)三河自身について	月刊地球	305	759-772		2(3)ア	2(1)イ				東京大学地震研究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
都司嘉宣	2004	元禄地震(1703)とその津波による千葉県内各集落での詳細震度分布	歴史地震	19	8 16	○	2(3) ア	1(2) エ				東京大学 地震研 究所
都司嘉宣	2006	小笠原諸島の津波史	歴史地震	21	65-80	○	2(3) ア					東京大学 地震研 究所
都司嘉宣・上田和恵・伊藤純一	2005	京都での有感、及び被害地震のデータベースの作成とその有用性	月刊地球	317	868-874		2(3) ア	2(1) イ	1(2) ウ			東京大学 地震研 究所
都司嘉宣・上田和枝・行谷祐一・伊藤純一	2006	元禄十六年十一月二十三日(1703/12/31)南関東地震による東京都の詳細震度分布	歴史地震	21	1 18	○	2(3) ア					東京大学 地震研 究所
行谷祐一・都司嘉宣	2005	宝永(1707)・安政東海(1854)地震津波の三重県における詳細津波浸水高分布	歴史地震	20	33-56	○	2(3) ア					東京大学 地震研 究所
行谷祐一・都司嘉宣	2006	寺院の被害記録から見た安政東海地震(1854)の静岡県内の震度分布	歴史地震	21	201-218	○	2(3) ア					東京大学 地震研 究所

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
行谷佑一・都司嘉宣・上田和枝	2004	寛政五年(1793)宮城県沖に発生した地震の詳細震度分布と津波の状況	歴史地震	19	80-99	○	2(3)ア	1(1)ア				東京大学 地震研究所
Aoi, S., Kunugi, T., and Fujiwara, H.	2004	Strong-motion seismograph network operated by NIED:K-NET and KIK-net	Journal of Japan Association for Earthquake Engineering	4	65-74		2(3)ア	2(2)ア				防災科研
井元政二郎	2002	前震活動に基づく中規模地震の発生確率—関東の地震について	地震2	55	223-227	○	2(3)ア	1(2)ア				防災科研
汐見勝彦・小原一成・青井真・笠原敬司	2003	Hi-net/KIK-net観測点における地中地震計設置方位の推定	地震、第2輯	56	99-110	○	2(3)ア	2(3)ア				防災科研
汐見勝彦・小原一成・笠原敬司	2006	防災科研 Hi-net 地震計の飽和とその簡易判定	地震	57	451-461	○	2(3)ア	2(2)ア				防災科研
堀貞喜	2005	高感度地震観測網	精密工学会誌	71	1353-1355		2(3)ア	2(2)ア				防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
堀貞喜	2005	K-NET,KiK-net,Hi-net,F-net	土と基礎		平成17年10月 号		2(3) ア	2(2) ア				防災科研
責任者:吉岡敏和 システム設計・開発担当者:伏島祐一郎 宮本富士香・三輪敦志・佐々木達哉・中 川 泰	2005年第1 次版公開	活断層データベース			http://www.aist .go.jp/RIODB/a ctivefault/		2(3) ア			*	全国の主要活断層について、個々の地点ごとの断層変位に関する既存の文献等の情報を収録するとともに、各活動セグメントごとのパラメータを整理し、含嗽ごとに検索可能とした。	産業技術 総合研究 所
松本則夫・小泉尚詞・高橋誠	2006	地震に関連する地下水観測データベース(Well Web):			http://www.aist .go.jp/RIODB/g xwell/GSJ/inde x.shtml		2(3) ア			*	地震に関連した地下水変化のデータベース	産業技術 総合研究 所
吉岡敏和・栗田泰夫・下川浩一・杉山雄 一・伏島祐一郎	2005	全国主要活断層活動確率地図	構造図	14	1-127		2(3) ア			*	活断層データベースで収集したデータに基づき、全国の主要活断層を活動セグメントに区分し、そのそれぞれについて活動度や活動時期、将来活動確率等のパラメータを計算した。	産業技術 総合研究 所
Ishii Y., Y. Ikoma, T. Koide and T. Toya	2005	Information about Historical Geomagnetic Instruments as "Meta" Data in Kakioka Magnetic Observatory	XIth IAGA Workshop on Geomagnetic Observatory Instruments, Data Acquisition and Processing, Proceedings		212-212		2(3) ア					気象庁
Koide T., T. Toya and A. Yoshida	2005	Correction of the Tokyo Geomagnetic Data in the Meiji era	XIth IAGA Workshop on Geomagnetic Observatory Instruments, Data Acquisition and Processing, Proceedings		211-211		2(3) ア					気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
気象庁	2002 ～2006		地震・火山月報 (カタログ編)				2(3) ア			*	平成13年12月～平成18年3月分の気象庁一元化震源カタログ	気象庁
気象庁	2002 ～2005		地震年報				2(3) ア			*	平成13年分～平成16年分の気象庁一元化震源カタログ	気象庁
外谷健、小出孝、吉田明夫	2004	明治時代の東京地磁気観測データの校訂	地磁気観測所テク ニカルレポート	2	1-50		2(3) ア			*	中央気象台による東京での地磁気観測は1897年から1912年までの16年間に及ぶ。この 度、地磁気観測所では、全16年間の1時間値データをデジタル化してホームページ上で 公開した。公開にあたって調べたところ、かなりの数の明瞭な間違いが混入していること がわかり、明治時代における貴重な地磁気観測データを一層使いやすくするために、全 面的なデータの校訂を行った。	気象庁
藤井郁子	2006	時間変化する地磁気成分の解析について	Conductivity Anomaly研究会 2006年論文集		37-50		2(3) ア					気象庁
鷺谷威	2003	地殻活動予測のための地殻変動データ同化	月刊地球	25	687-693		2(3) イ					名古屋大 学
鷺谷威・西村卓也・村上亮・今給黎哲郎・ 赤坂望	2003	地殻活動観測データ総合解析システムの開発	国土地理院時報	101	33-43		2(3) イ					名古屋大 学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
鷲谷成, 西村卓也, 村上亮, 今給黎哲 郎, 赤坂望	2003	地殻活動総合解析システムの開発	国土地理院時報	101	33-43		2(3)イ					国土地理 院

4. 計画推進のための体制の整備(山岡委員、干場委員、今給黎委員)

... 査読無しと判断した論文
... 重複により削除が妥当と思われる論文
... 他の項目へ移動した方が良いと思われる論文

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない場合はDOI)	査読の有無	最も関連の深い 2項目 の項目	2番目に 関連の深い 2項目 の項目	3番目に 関連の深い 2項目 の項目	主要成果の場合、*印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
Hirata, N.	2004	Past, current and future of Japanese national program for earthquake prediction research,	Earth Planets Space	58	xliii-l	○	4(1)	4(2)	4(7)			東京大学 地震研究所
国土地理院 GEONETグループ	2003	GPS連続観測システム"GEONET"とその展望	測地学会誌	50-2	53-65	○	2(2) ア					国土地理院
小島秀基、小清水寛、米溪武次、根本盛行、岩田昭雄、湯通堂亨、雨貝知美、矢萩智裕	2005	平成16年(2004年)新潟県中越地震に伴うGEONETの緊急対応と地殻変動	国土地理院時報	107	71-77		4(1)					国土地理院
畑中雄樹	2006	地球センサーとしてのGPS連続観測網の高度化—GPS観測量に含まれるシグナルとノイズの分離—	測地学会誌	52-1	1-19	○	3(4)					国土地理院
畑中雄樹、山際敦史、湯通堂亨、宮原伐折羅	2005	GEONETのルーチン解の精度評価	国土地理院時報	108	49-56		4(1)					国土地理院
松村正一、畑中雄樹、雨宮秀雄、都筑三千男、菅富美男、呉新華	2004	電子基準点を利用した仮想基準点方式によるRTK-GPS	電子情報通信学会論文誌 A	J87-A	66-77	○	3(4)					国土地理院
松村正一、畑中雄樹、雨宮秀雄、都筑三千男、菅富美男、呉新華	2004	電子基準点を利用した仮想基準点方式によるRTK-GPS	電子情報通信学会論文誌 A	J87-A	66-77	○	4(1)					国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の深 い議論 の項目	2番目 に関 連の深 い議論 の項目	3番目 に関 連の深 い議論 の項目	主要 成果の 場合、* 印を記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
矢萩智裕、湯通堂亨、小島秀基、畑中雄樹	2005	GEONETにおける緊急解析の現状	国土地理院時報	108	29-37	○	4(1)					国土地理院
湯通堂亨、岩田昭雄、雨貝知美、小島秀基、矢萩智裕、宮原伐折羅、畑中雄樹	2005	電子基準点の高さについて	国土地理院時報	106	21-30	○	4(1)					国土地理院
Iwashita S., H. Takahashi, N. Okazaki, J. Miyamura, M. Ichiyonagi, M. Kasahara, R. Takahashi and M. Nakagawa	2005	Volcanic inflation of Hokkaido-Komagatake, Japan, determined from a dense GPS array	Geophys. Res. Lett.	32	L20304	○	4(5)					北海道大学
Okazaki, N., H. Takahashi, K. Nogami, H. Oshima, H. Okada and M. Kasahara	In press	Preliminary study on magnetic structure and geothermal activity of Tyatya volcano, southwestern Kuril Islands	AGU Monograph on Volcanism and Tectonics of the Kamchatka Peninsula and Adjacent Arcs			○	4(5)					北海道大学
Tsutsui, T. and Y. Sudo	2004	Seismic reflectors beneath the central cones of Aso volcano, Kyushu, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	131	33-58	○	4(5)					秋田大学
Yamawaki, T., S. Tanaka, S. Ueki, H. Hamaguchi, T. Tsutsui, 他9名	2004	Three-dimensional P-wave velocity structure of Bandai volcano in northeastern Japan inferred from active seismic survey	J. Volcanol. Geotherm. Res.	138	267-282		4(5)					秋田大学
鬼澤真也・森健彦・筒井智樹・他5名	2005	人工地震探査より推定した草津白根火山白根火砕丘表層のP波速度構造	火山	50	9月16日	○	4(5)					秋田大学
及川純・鍵山恒臣・田中聡・宮町宏樹・筒井智樹・他8名	2004	人工地震を用いた富士山における構造探査	月刊地球	48	23-26		4(5)					秋田大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項目	主要 成 果 の 場 合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
筒井智樹・松島健・清水洋	2004	雲仙火山の浅部構造に対する擬似反射記録法の適用の試み	火山	49	143-151		4(5)					秋田大学
Furuya, M	2005	Quasi-static thermoelastic deformation in an elastic half space: theory and application to InSAR observations at Izu-Oshima volcano, Japan	Geophys. J. Int.	161	230-242	○	4(5)	2(2)ア	1(2)イ			東京大学 地震研 究所
Furuya, M	2004	Localized deformation at Miyakejima volcano based on JERS-1 radar interferometry: 1992-1998	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2003GL019364	○	4(5)	2(2)ア	1(2)イ	*	ふよう1号のデータをスタッキングすることにより、1992年から1998年の間に三宅島で起きていた局所的な地殻変動を抽出した。年間1cm以下の振幅の小さな変動でも、スタッキングによって大気ノイズが軽減されることが実証された。	東京大学 地震研 究所
古屋正人(分担)	2003	マグマダイナミクスと火山噴火(4.5 干涉SAR)	朝倉書店		141-155		4(5)	2(2)ア、 エ	1(2)イ			東京大学 地震研 究所
F. Yamazaki	2002	Gravity Survey in and around the Valley Fault System and the Taal Volcano	GEOCON2002				4(6)					名古屋大 学
植平賢司・清水 洋	2005	福岡県西方沖地震の驚き・教訓	科学	75	795-797		4(7)	1(2) イ				九州大学
宇根寛・奥山祥司・根本寿男	2004	平成16年(2004年)新潟県中越地震に関する地理情報の緊急提供について	地図	43-2	1-10	○	4(7)	1(2)イ				国土地理 院
宇根寛・奥山祥司・根本寿男	2005	平成16年(2004年)新潟中越地震に関する地理情報の緊急提供について	地図	43-2	1-10		4(7)					国土地理 院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ (ページがない 場合はDOI)	査読 の有無	最も関 連の 深い 議論 の項 目	2番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	3番目 に関 連の 深い 議論 の項 目	主要 成果 の場合、* 印を 記入	主要成果の場合は概要を日本語で200字以内で記入してください	機関名
宇根寛・熊木洋太	2004	特集 新潟県中越地震 「災害地理情報の緊急提供」	月刊地理	50-6	74-78		4(7)	1(2)イ				国土地理院